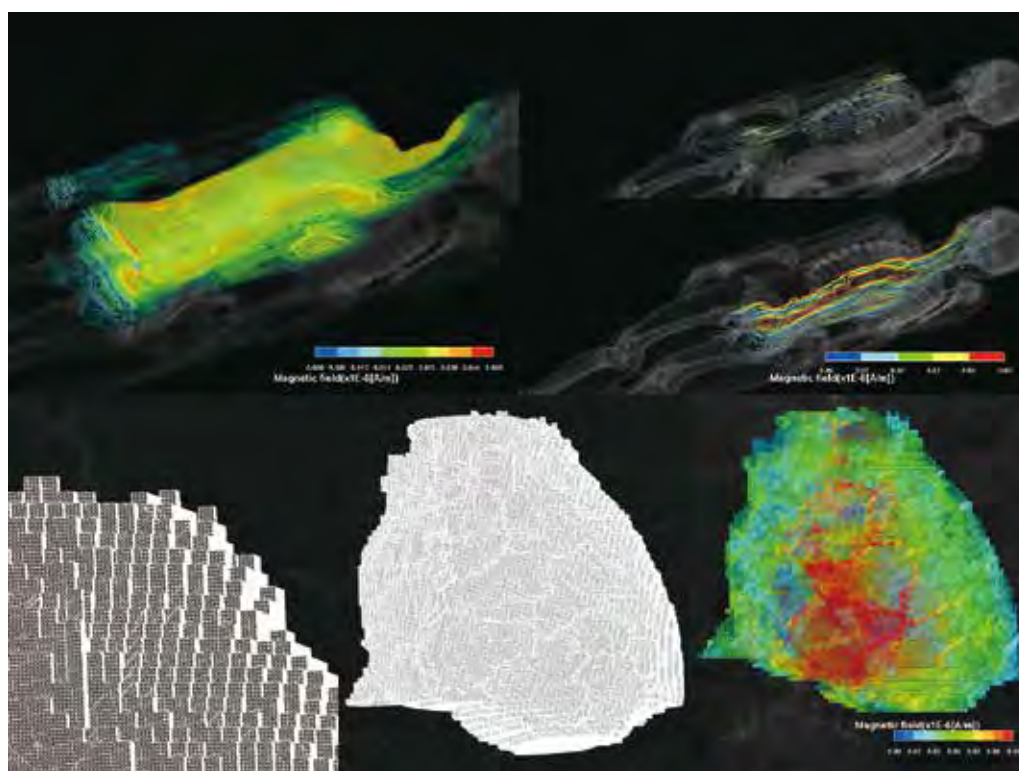


2019 年度

学 生 要 覧



八 戸 工 業 大 学

「表紙写真説明」

高周波誘電加温による癌の温熱療法の治療効果を高精度かつ定量的に評価するため、スーパーコンピュータでの数値人体モデルの大規模並列解析、およびその可視化について研究している。東京大学情報基盤センターのスーパーコンピュータ Oakleaf-FX のフルノードをお借りし、階層型領域分割法という並列解析手法を用いて、160 億自由度数値人体モデルの解析を約 10 分で行うことに成功した。この解析によって得られた膨大な解析データから治療効果の検討という観点で可視化に必要な情報を選別し、適切なファイル形式に変換することで、100 億自由度を超える規模の解析結果でも適切に可視化して活用できることを示した。

左上：右上半身の磁場を等値面で表した図 右上：上半身の磁場を等高線で表した図
左・中下：心臓のメッシュ 右下：心臓表面の磁場

（工学部 機械工学科 杉本振一郎）

※ 一般社団法人 日本計算工学会 第 23 回計算工学講演会 グラフィクスアワード 特別賞 受賞作

学校法人 八戸工業大学 建学の精神

「正己以格物」

本法人は、その経営指針と基本的な教育方針として、人格、徳性の涵養並びに知性の練磨を象徴的に表す『正^{せい}己^き以^い格物^{かくぶつ}』（己を正し以て物に格る）を不易の綱領と定め、建学の精神としています。

この言葉は、儒教の根本精神を表した四書五経の一つ「大学」に拠るもので、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割が如何なるものかを、深く認識し、高い倫理性をもって行動することの重要性を説いているものです。

本法人は、この建学の精神に基づき、社会の負託と時代の要請に応えることを要諦とし、創造的、個性的な自己思考能力を有する有為の人材を養成しています。

教育理念

「良き技術は、良き人格から生まれる」

本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念をもっています。この理念は、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。



使命・目的

学術の拠点として、広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与する。

大学のディプロマ・ポリシー

八戸工業大学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢

大学のカリキュラム・ポリシー

本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させ、専門への関心を誘導するための「導入転換科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、大学教育に必要な知識・学力を修得する「リメディアル科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」(工学部のみ)、各分野における基礎原理、実践的な应用能力を養う「専門科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育の実施

総合教養科目においては、その分野を人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野、および総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開します。また導入転換科目においては、キャリアデザイン科目を配置し、社会と接点のある教育を実施します。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

各学部、各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的に配置します。自ら考えて纏めたことを発表、表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開します。また身につけた専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」、または「卒業制作・論文」を全学必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育の実施

地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成します。

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力に基づいて明確化した複数の修得因子によって評価し、学生が自ら確認できるよう配慮しています。

大学のアドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」(己を正し以て物に格る)に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ技術者の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ志願者を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」)を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性等を判断するため、試験種別ごとに個別学力検査、大学入試センター試験、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

目 次

■ 建学の精神	1
■ 教育理念・使命・目的	2
■ ポリシー	2
■ 学長メッセージ	6
■ 沿革小史	7
■ 学年暦	8
■ 校歌	9

第1章 新入生のために

1. 1	学生要覧	12
1. 2	ガイダンス	12
1. 3	組織	12
1. 4	掲示	13
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	13
1. 6	電話と郵便	14
1. 7	手続きと期限	14
1. 8	担任	14
1. 9	学生証	14
1. 10	学籍番号	15
1. 11	通学と交通事故	15
1. 12	大学施設	15
1. 13	オリエンテーション	16
1. 14	学費の納入	16
1. 15	大学のルール・マナー	16
1. 16	休学・退学など	16
1. 17	教科書や教材の購入	17
1. 18	大学院	17
1. 19	悩み・相談	17
1. 20	キャンパス・校舎案内図	17

第2章 学修について

2. 1	はじめに	36
2. 2	授業時間	37
2. 3	履修計画と履修手続き	37
2. 4	出席・欠席	38
2. 5	試験	38
2. 6	成績発表	38
2. 7	標準修得単位数	39
2. 8	進級要件	39
2. 9	卒業	40
2. 10	G P A	41
2. 11	八戸工業大学の教育	42
2. 12	工学部の教育目標・教育課程	43
2. 13	感性デザイン学部 of 教育目標・教育課程	170

第3章 学生生活について

3. 1	健康管理	192
3. 2	学生保険	192
3. 3	学生相談室・学修支援室・学生支援センター	193
3. 4	通学	193
3. 5	学生旅客運賃割引証（学割）	194
3. 6	奨学制度	194
3. 7	アルバイト	194
3. 8	下宿	194
3. 9	学友会	195
3. 10	課外活動	195

第4章 進路・資格について

4. 1	就職	200
4. 2	進学	200
4. 3	資格	200
4. 4	同窓会	216

第5章 施設の利用について

5. 1	図書館	218
5. 2	メディアセンター	219
5. 3	スポーツ施設	220

第6章 願い・届け・証明書の手続き

6. 1	休学願	222
6. 2	復学願	222
6. 3	退学願	222
6. 4	転学願	222
6. 5	転学科願	222
6. 6	欠席届	223
6. 7	忌引届	223
6. 8	特別欠席願	223
6. 9	変更届	223
6. 10	学生残留・出校届	223

第7章 諸規程

7. 1	八戸工業大学学則（抄）	226
	別表第1 教育課程表、教職課程表	
	別表第2 学費、入学検定料	
7. 2	八戸工業大学学位規程	250
7. 3	八戸工業大学学費納入規程	255
7. 4	八戸工業大学学生心得	256
7. 5	八戸工業大学履修規程	258
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程	269
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程	280
7. 8	八戸工業大学GPA取り扱い要項	281
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程	283
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程	285
7. 11	学生の諸活動に関する規程	286
7. 12	学友会館使用規程	288
7. 13	施設・設備・備品等管理規程	289
7. 14	残留・出校者心得	290
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程	290
7. 16	八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程	292
7. 17	学友会会則	293
7. 18	学友会の選挙に関する規程	295
7. 19	学友会会費規程	296

■索引	297
-----	-----

■学長メッセージ

学長 長谷川 明



皆さん、入学おめでとうございます。
教職員一同、皆さんの入学を歓迎し、これからの皆さんの成長を支援していきます。

本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与する」ことを使命・目的としています。

大学の役割には、大きく教育と研究があり、本学は、これらの活動を通して地域に貢献しています。教育は、諸君の成長を手助けし、社会の有用な担い手としての人材を育成することです。本学を卒業・修了した先輩は、1万8千人を超え、社会でそれぞれの役割を果たすべく活躍し、地域を担う人材となっています。一方、研究は、社会の課題を解決するための活動で、例えば、2011年東日本大震災などの災害の発生から復興に関わる多くの研究や、人口減少社会におけるインフラ老朽化の課題を乗り越え自立するための研究などが行われています。本学は、この教育と研究の2つの活動を通して、地域社会、広くは国際社会に貢献しています。その中心となっているのが学生諸君です。学生諸君は、教職員とともに、これらの活動を通して自分自身の成長を目指してください。

人間としての成長は、学力や技術力を向上させることだけではありません。人間としての適正な人格を形成し、技術力とともに、技術が人類の幸福に結びつくように、適切に活用されなければならないからです。人間力の向上には、大学のカリキュラムに基づく勉強のほかに、部活動、サークル活動、あるいは下宿先などでの友人との交流も大きな成長の力となります。人は、いつも順調に成長するわけではありません。努力をしても成果が生まれなかったり、思うような自分になれなかったりし、悩みを抱えることがあります。この悩みを乗り越えるためには、悩みを共有する友人、支え合う人の存在が大きな力となります。人との交流を大切にしてほしいと思います。人との交流には、人への感謝とやさしさが必要です。本当のやさしさを生み出すためには、自分自身がたくましくなければできません。

諸君は、夢を持っていると思います。その夢を成し遂げるための可能性も持っています。これまで、家族や友人など周辺の人から支えて頂いて成長してきました。その成長を継続するために、八戸工業大学も皆さんを力強くサポートします。周囲の力も大切ですが、最も大切なのは自分自身が自分を成長させようとする心です。

多くの力を養って、八戸工業大学で成長してください。

■沿革小史

- 昭和47年(1972)：開学、工学部機械工学科、産業機械工学科、電気工学科開設
- 昭和51年(1976)：工学部土木工学科、建築工学科開設
- 昭和57年(1982)：工学部エネルギー工学科開設
- 昭和61年(1986)：産業機械工学科廃止
- 昭和63年(1988)：食品工学研究所、情報システム工学研究所設置
- 平成5年(1993)：構造工学研究所設置
- 平成7年(1995)：大学院工学研究科修士課程設置、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
- 平成9年(1997)：大学院工学研究科博士後期課程設置、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻開設
- 平成11年(1999)：大学院工学研究科修士課程、建築工学専攻開設
：工学部システム情報工学科開設
：工学部電気電子工学科に名称変更（旧名称：電気工学科）
- 平成13年(2001)：大学院工学研究科博士後期課程、建築工学専攻開設
：工学部機械情報技術学科に名称変更（旧名称：機械工学科）
：工学部環境建設工学科に名称変更（旧名称：土木工学科）
- 平成14年(2002)：工学部生物環境化学工学科開設、異分野融合科学研究所設置
- 平成15年(2003)：工学部電子知能システム学科に名称変更（旧名称：電気電子工学科）
- 平成17年(2005)：工学部エネルギー工学科廃止
：感性デザイン学部感性デザイン学科開設
- 平成19年(2007)：工学研究科機械・生物化学工学専攻に名称変更（旧名称：機械システム工学専攻）
：工学研究科電子電気・情報工学専攻に名称変更（旧名称：電気電子工学専攻）
- 平成21年(2009)：工学部土木建築工学科開設
：工学部バイオ環境工学科に名称変更（旧名称：生物環境化学工学科）
- 平成22年(2010)：工学部電気電子システム学科に名称変更（旧名称：電子知能システム学科）
：エネルギー環境システム研究所に名称変更（旧名称：異分野融合科学研究所）
- 平成25年(2013)：工学部環境建設工学科廃止
- 平成27年(2015)：工学部建築工学科廃止
：工学研究科社会基盤工学専攻に名称変更（旧名称：土木工学専攻）
：地域産業総合研究所に名称変更（旧名称：エネルギー環境システム研究所）
- 平成28年(2016)：工学研究科建築工学専攻廃止
- 平成30年(2018)：工学部機械工学科に名称変更（旧名称：機械情報技術学科）
：工学部電気電子工学科に名称変更（旧名称：電気電子システム学科）
：工学部生命環境科学学科に名称変更（旧名称：バイオ環境工学科）
：感性デザイン学部創生デザイン学科に名称変更（旧名称：感性デザイン学科）

学 年 暦

- 4 月 1 日：学年開始、前期開始
- 4 月初旬：入学式
- 4 月上旬：授業時間割発表
 - 2、3、4 年生前年度成績発表、ガイダンス
 - 2、3、4 年生授業開始
- 4 月上旬：新入学生ガイダンス、授業開始
- 4 月上旬～4 月下旬
 - ：定期健康診断
- 4 月中旬：履修登録
- 5 月上旬：新入学生オリエンテーション
- 6 月上旬：体育祭
- 7 月下旬：前期定期試験
- 8 月上旬：夏季休業開始
- 9 月上旬：前期補習・再試験
- 9 月15日：前期終了、夏季休業終了
- 9 月16日：後期開始
- 10月中旬：学園祭
- 11月初旬：彩才祭
- 12月下旬：冬季休業開始
- 1 月上旬：冬季休業終了
- 1 月下旬：後期定期試験
- 1 月29日：開学記念日（授業日）
- 2 月上旬：後期補習・再試験
- 3 月中旬：学位記授与式
- 3 月31日：後期終了、学年終了



校歌

八戸工業大学校歌

作詩 佐藤信三
下斗米謹一
法師浜桜白
作曲 渡辺岳夫

Allegro risoluto alla marcia (♩ = 120)

1. そう
きゅうのひかりさんさんとみち
のくここにかがやけり
わこうどわれら きぼうにつどい くおんのちせい みがきゆく あ
1.2
あ はちこう だい みらいをひらく
3.

一、蒼穹の光りさんさんと
みちのくここに輝やけり
若人われら希望に集い
久遠の知性みがきゆく
ああ八工大 未来を拓く

二、白亜の塔はそびえたち
遠く潮はとどろけり
若人われら希望に集い
久遠の理想かざしゆく
ああ八工大 未来を創る

三、青雲はるかにいだきつつ
いのち豊けく秀でたり
若人われら希望に集い
久遠の真理きわめゆく
ああ八工大 未来を築く

第1章

新入生のために

1. 1	学生要覧	12
1. 2	ガイダンス	12
1. 3	組織	12
1. 4	掲示	13
1. 5	情報ネットワーク施設の利用	13
1. 6	電話と郵便	14
1. 7	手続きと期限	14
1. 8	担任	14
1. 9	学生証	14
1. 10	学籍番号	15
1. 11	通学と交通事故	15
1. 12	大学施設	15
1. 13	オリエンテーション	16
1. 14	学費の納入	16
1. 15	大学のルール・マナー	16
1. 16	休学・退学など	16
1. 17	教科書や教材の購入	17
1. 18	大学院	17
1. 19	悩み・相談	17
1. 20	キャンパス・校舎案内図	17

1.1 学生要覧

学生要覧を新入生に配付します。

この本には、みなさんが八戸工業大学で有意義で実りある学生生活を送るために必要な情報が記載されていて大いに役立つものと思います。もちろん卒業後にも役立ちます。再配付できませんから大切にしてください。

大学は自ら学ぶ場です。この学生要覧をよく読んで理解し活用することによって、本学での充実した学生生活を送ることを望みます。

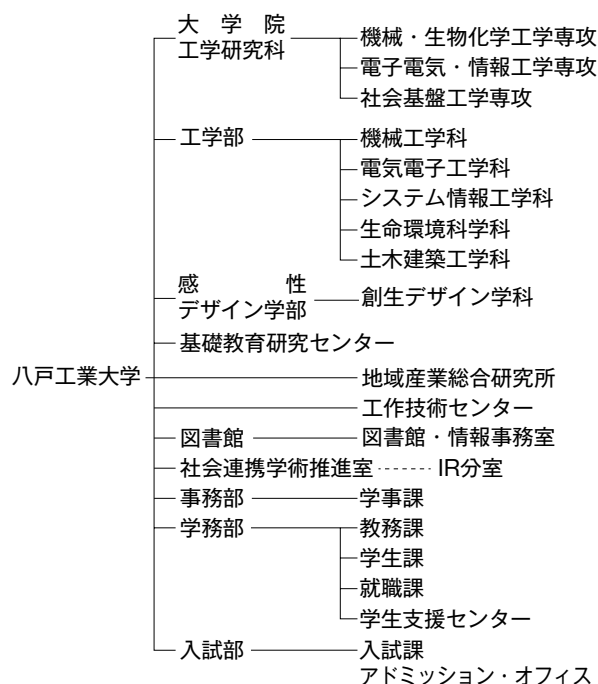
1.2 ガイダンス

毎年、学年のはじめに、その年度の学修、生活あるいは進路に関わる大切な情報を伝えるガイダンスが、担任と担当課の説明により実施されます。ガイダンスを欠席すると大切な説明を聴けないばかりか、学修や学生生活に参考となる資料を受け取ることができません。必ず出席してください。



1.3 組織

本学は、教育や研究を行うために図のような組織で構成されています。



■学部・学科

各学部・学科では具体的な教育と研究が行われます。学部・学科を次のように英文字で示すことがあります。

工 学 部	英字では	数字では
機械工学科 Department of Mechanical Engineering	M	1
電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering	E	2
システム情報工学科 Department of System and Information Engineering	I	6
生命環境科学科 Department of Life and Environmental Science	L	5
土木建築工学科 Department of Civil Engineering and Architecture	D	9
感性デザイン学部	英字では	数字では
創生デザイン学科 Department of Creative Design	K	8

■基礎教育研究センター

教養教育とその基礎、教職、および専門教育の基礎に係る教育課程の企画および円滑な実施を図るとともに、基礎教育に関する研究開発ならびに学修支援を行うことを目的とする機関です。

■地域産業総合研究所

エネルギーと環境およびそれらに関わる種々

のシステムの研究を推進するために、学科や大学院、地元の産業界と連携しながら、さまざまな研究テーマに取り組んでいます。

■工作技術センター

学生の機械工作に関する教育を担当すると同時に、教員の研究に必要な器具や装置を製作する日本有数の広さと設備それにスタッフを有する機関です。教職課程の機械工作実習もここで行われます。また、学生の技能士（機械加工、機械保全）国家資格取得を支援しています。

■図書館

教育研究活動に必要な図書、雑誌および視聴覚資料などを通じた情報のサービスを行う機関です。詳しい利用方法については5.1を見てください。

■社会連携学術推進室

大学の組織及び教育研究を点検評価し、必要な改革・改善を実施。また、教育研究補助金等の申請と受入れ。さらには、産学官連携による共同研究、社会貢献及び知的財産の創出について検討・実施する機関です。

■事務部

事務部には、入学式など式典の実施、学生の残留届などの事務手続、保護者後援会の事務を担当する学事課があります。

■学務部

学務部には、「履修、試験、単位修得、進級および卒業などの教務を担当する教務課」と、「健康管理、住居、奨学金、学生相談および課外活動などの学生生活を担当する学生課」と、「求人開拓、斡旋および情報の提供などを含めた就職指導を担当する就職課」があります。

また、様々な理由で学習や研究、人間関係などにおいて困難を感じている学生に対してサポートを行う「学生支援センター」があります。

学務部の窓口の受付時間は次のようになっています。

授業・試験期間：平日 8:40～17:50
学生休業期間：平日 8:40～17:10

■入試部

入試部には、入学試験を担当する入試課があります。

1.4 掲示

本学では、みなさんへの連絡は掲示によって行われます。教室の変更、授業の休講・補講、呼出しなど全ての連絡は掲示によって行われます。登下校の際には掲示を必ず見る習慣をつけてください。掲示を見なかったことによって不利益を受けることがないように注意してください。病気などで休んでしまったときは、友達をとおして確認してください。

学生間の連絡に掲示板を利用することができます。学生課に問い合わせてください。

学内放送の利用は、教育研究活動に支障をきたしますので緊急の場合を除いて遠慮してください。

■ユニバーサルパスポート

履修登録、成績照会、授業評価、呼出し、アンケート回答など大学からの重要な情報連絡ネットワークシステムです。インターネットに接続可能なパソコン等からアクセスできます。

URL <https://gak.hi-tech.ac.jp> (PC用)

URL <https://gak.hi-tech.ac.jp/m> (スマートフォン用)

■k HIT

k HIT では、休講・補講、時間割変更、集中講義日程などの授業情報を掲載しています。携帯電話やスマートフォン、インターネットに接続可能な環境から閲覧できます。

URL <https://khithi-tech.ac.jp>

1.5 情報ネットワーク施設の利用

本学では、学内全体にキャンパスネットワークが整備されており、教育や研究、授業、履修登録、就職活動など、様々な活動に利用されて

います。

全学生は、入学時に利用者 ID とパスワード、電子メールアドレスが付与され、利用規程や関連諸法規に違反しない限り、自由にキャンパスネットワークを使用することができます。

利用者 ID やパスワードは重要な個人情報です。キャンパスネットワークの安全性を確保し、不正利用などに悪用されないためにも、管理の徹底をお願いします。

なお、キャンパスネットワークの詳しい利用方法については、ガイダンス等で説明があります。

学内には無線 LAN アクセスポイントを、図書館には利用可能なパソコンを設置しています。是非ご利用ください。



1.6 電話と郵便

緊急以外の電話は間違いを生じたり、業務上の支障となることがありますので取り次ぎすることはできません。学生団体への郵便物は、学生課の郵便受け箱に保管しておきますので、各団体の責任者は随時確認してください。学生個人への郵便物は混乱が生ずることがあるので避けてください。

本学からの郵便の発送には、教養棟玄関前に

設置されている郵便ポストを利用することができます。

1.7 手続きと期限

授業を受けたり、書類を申し込んだりするためには、**手続き**をする必要があります。手続きには作業を合理的に進めるため、必ず**期限**があります。これが守られないときは他の多くの学生に迷惑をかけてしまったり、自分自身が不利な扱いを受けることがあります。期限は必ず守ってください。

1.8 担任

本学には**担任**制度があります。ガイダンスを行ったり、学修や学生生活に関する相談に応じています。成績の状況についても指導を受けることができます。困ったことがあったり、調べてもわからないことがあったときは各学科・学年担当の担任を気軽に訪ねてください。

1.9 学生証

学生証は、学生の身分を証明するものですから常に携帯し、必要上提示を求められたときは、提示できるようにしてください。

特に、定期試験等を受けるとき、各種証明書等を願い出るとき、図書館を利用するとき、さらに授業の出席確認のときは携帯していなければなりません。

学生証の有効期間は、原則発効の日から4年間です。

学生証を紛失、破損したときは、学生課で再交付の手続きを受けてください。再交付手数料は1,500円です。

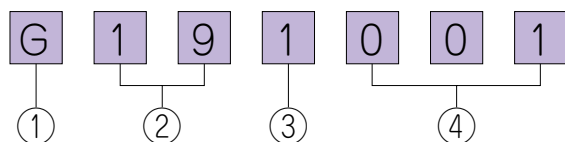
紛失等した学生証が見つかったときは、学生課に返却してください。また、退学あるいは除

籍等により学籍を離れるときは、直ちに教務課に返却してください。



1.10 学籍番号

本学での事務作業を円滑に行うため、一人一人に固有の学籍番号が用意されています。試験の時、手続きの時など名前と一緒に記入しなければならないときが頻繁にあります。正確に覚えてください。学籍番号は1桁の英字と6桁の数字からできています。



①G：全ての入学生

②入学年（西暦下2桁）

③学科

1：機械工学科

2：電気電子工学科

6：システム情報工学科

5：生命環境科学科

9：土木建築工学科

8：創生デザイン学科

④通し番号

001から：学部入学生

201から：再入学生

301から：編入学生

401から：転入学生

501から：転学科生

1.11 通学と交通事故

通学には、自転車、自動二輪車、四輪車を使用することができますが、できるだけ徒歩またはバスを利用するようにしてください。

自動二輪車、四輪車で通学する場合は大学の許可が必要です。許可については、第3章3.4通学及び第7章7.15「八戸工業大学車両通学に関する規程」を読んでください。

通学する際には、交通事故に遭わないよう、特に、四輪車等を使用するときは交通ルールを良く守り、スピードの出し過ぎ、違反駐車等をしないよう安全運転を心がけてください。



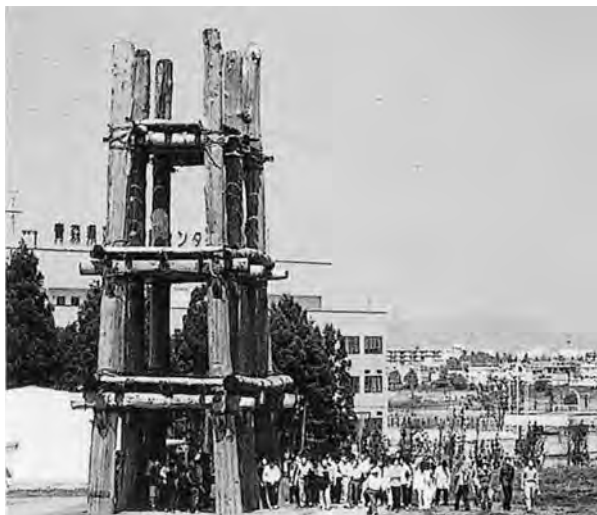
1.12 大学施設

本学には、図書館、多目的ホール、メディアセンター、体育館、学友会館、尚志館、室内練習場、テニスコート、プール、運動公園などが設置されています。それぞれの利用方法に従って利用してください。詳しくは第5章を読んでください。

また、食堂、売店、および銀行・郵便局のATMなどがありますのでご利用ください。

1.13 オリエンテーション

入学式直後のガイダンスに加え、5月上旬には学生生活をより有意義にするために各学科が計画するオリエンテーションが行われます。このオリエンテーションは、これから過ごす学生生活に必要な知識と方向づけを説明し指導するもので、本学の重要な行事として行われるものです。



1.14 学費の納入

学費は所定の期日までに納入しなければなりません。納入されない場合は除籍になってしまい、学生の資格を失います。もし、所定の期日までに納入できない場合は願い出によって延納を許可することがあります。（詳細は、第7章の八戸工業大学学費納入規程を読んでください。）

1.15 大学のルール・マナー

本学には、**学則**をはじめとするいくつかのルールがあります。これらのルールは、本学での教育や研究の活動を活発でしかも有効的に実施できる環境を整えるために定められています。第7章にはそのルールを掲載していますのでよく読んでください。なお、主なルールについては、第2章から順に説明します。

なお、学内において無断で、①物品を販売すること、②火気を使用すること、③ポスターなどの掲示をすることは禁じられています。必要なときは学生課へ相談してください。

また、学内においては次のマナーを守ってください。

■携帯電話について

- ・授業中の講義室、図書館では電源を切ること。
- ・研究室、事務室内では使用しないこと。

■喫煙について

- ・喫煙は、屋外の灰皿のある場所以外ではしないこと。
- ・歩行喫煙はしないこと。
- ・タバコのポイ捨てはしない。必ず、灰皿に捨てること。

■ゴミについて

- ・ゴミはゴミ箱へ捨てること。
- ・燃えるゴミ、燃えないゴミは分けて捨てること。

■車両通学について

- ・車両通学を希望する学生は、「八戸工業大学車両通学に関する規程」により車両通学の許可を受け駐車場を利用すること。不当駐車は絶対にしないこと。

1.16 休学・退学など

これらの相談は、担任と教務課が行っています。手続きは教務課で行います。

■休学

病気その他の理由で3カ月以上修学できない場合は、願い出て休学することができます。休学期間が満了したときは、復学となります。また、休学期間の授業料は免除されます。詳細は第6章の手続き、第7章の学費納入規程を読んでください。

■復学

休学期間の途中で休学の理由がなくなり復学したいときは、願い出によって復学することができます。詳細は第6章の手続きを読んでください。

■退学

病気その他の理由で退学しようとするときは、担任に相談の上、教務課に申し出てください。

■転学、転学科については第6章の手続きを読んでください。

1.17 教科書や教材の購入

自分の授業を受ける計画（履修計画）が決まったら、それぞれの授業に必要な教科書や教材を購入し授業に備えなければなりません。ほとんどの教科書や教材は販売店が本学に来るため学内で購入が可能です。なかには学外で購入したり、教員から配布される場合もあります。

1.18 大学院

本学には、大学（学部）において学んできた知識をさらに深めるために大学院（前期課程・後期課程）があります。大学院は、3専攻から構成されています。機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻です。大学院に進学するためには入学試験がありますので、入学試験に合わせた履修計画を立て十分な学力を養っておく必要があります。詳細は、第4章の進路・資格についてを読んでください。

1.20 キャンパス・校舎案内図

キャンパス・校舎案内図をP18～P33に示します。

1.19 悩み・相談

大学生活でどうしたらよいか困ってしまう問題が起きた！
こんな時一人で悩まずすぐに担任か学生課に相談してください。

■担任

担任は各学科・各学年ごとにより、皆さんのいろいろな相談に応じています。

■学生相談室・学生支援センター （カウンセリングルーム）【本館3F（P.21）】

カウンセラーやアドバイザーが相談に応じています。気軽に相談にきてください。

- ・学生生活に悩んでいる
- ・大学の勉強についていけない
- ・友人とのこと・迷惑行為等

■学修支援室

【本館2F（P.20）】

相談員・先輩学生が学生生活や勉強について相談に乗ったり、アドバイスしています。気軽に相談に来て下さい。

その他事務手続き等に関する相談

■教務課【本館1F（P.20）】

- ・病気やけがで長く休まなければならない
- ・学費のこと
- ・休学、退学、復学の手続きのこと
- ・成績発表の内容に疑問な点がある

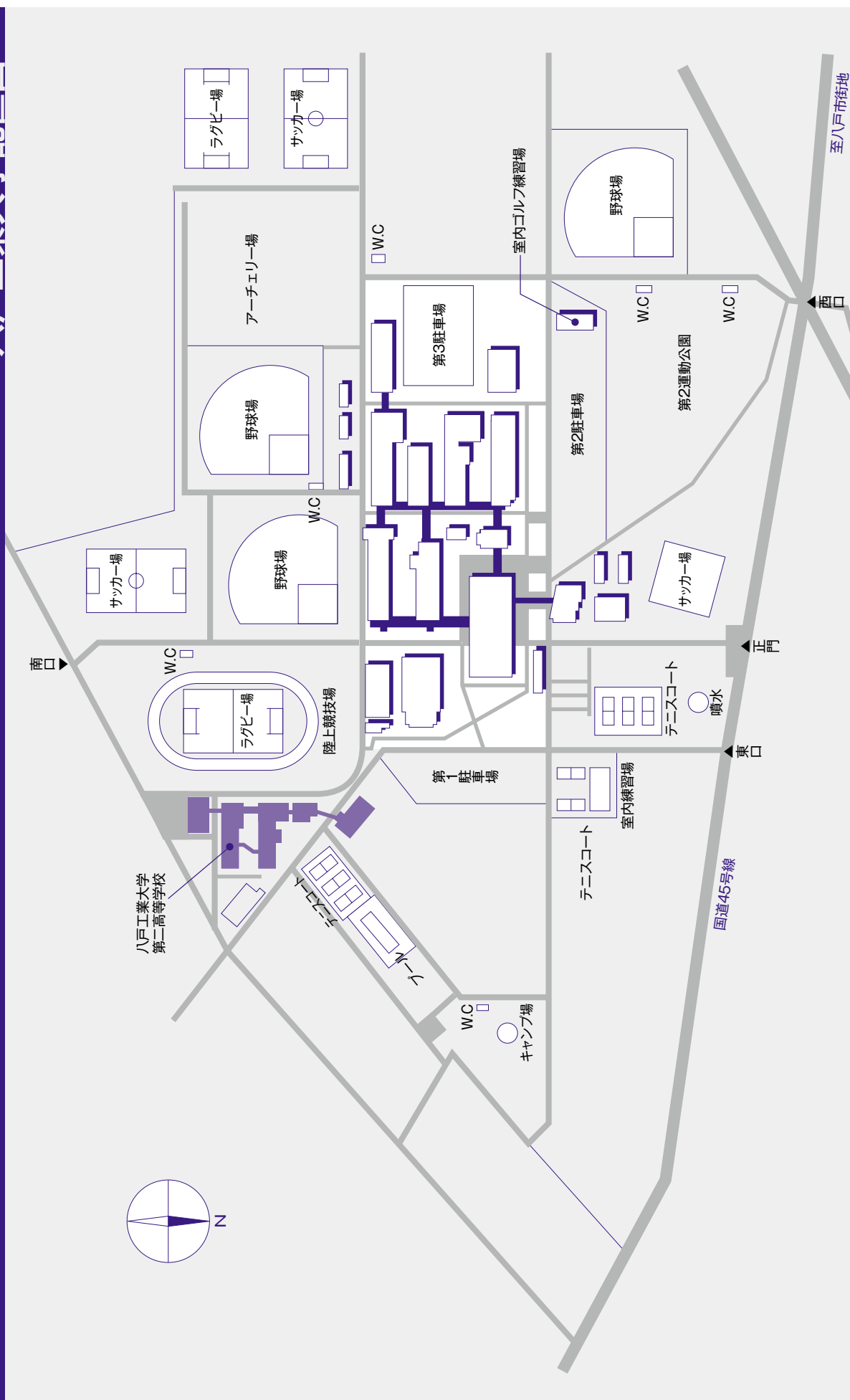
■学生課【本館1F（P.20）】

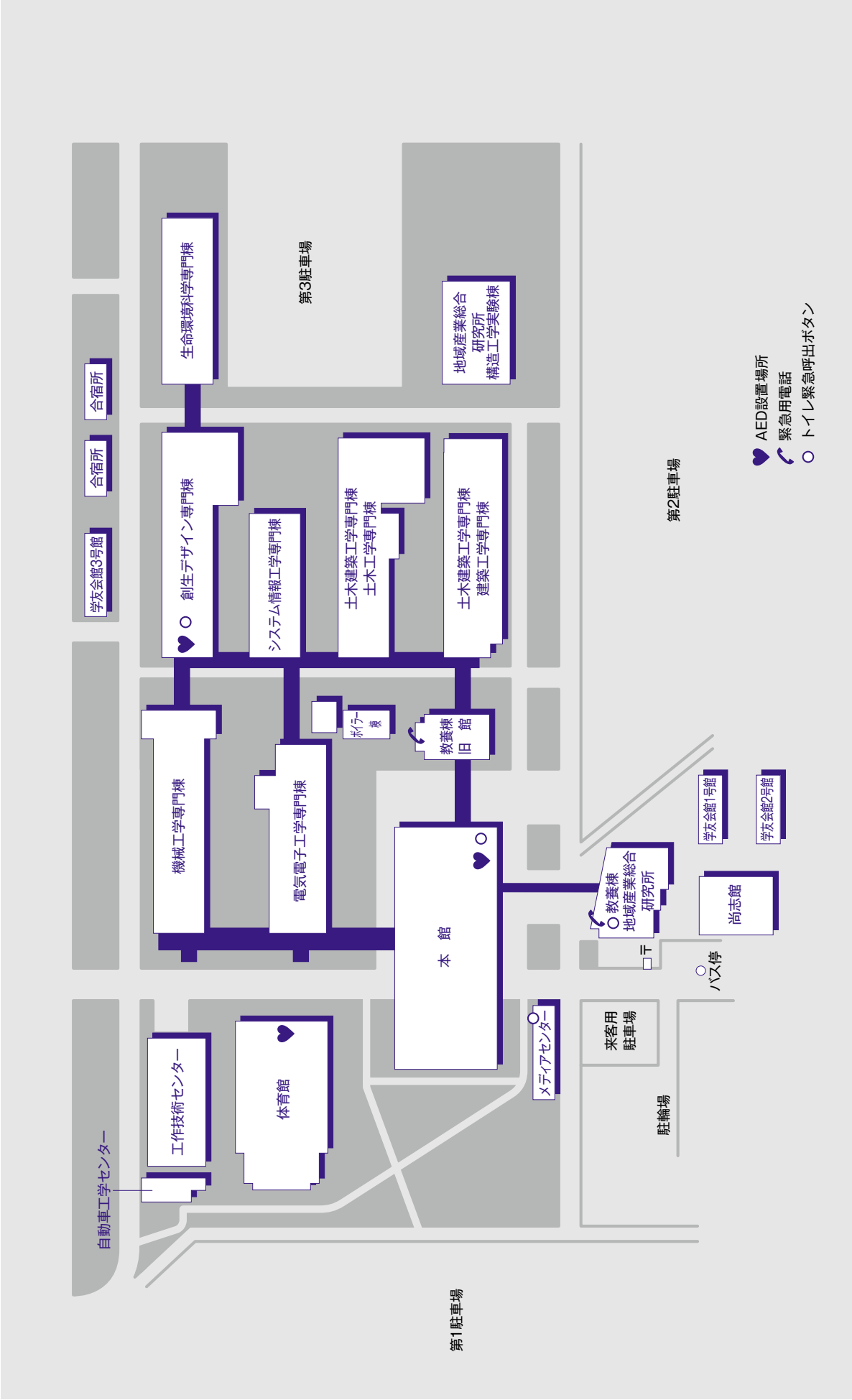
- ・忘れ物をした・学生証をなくした
- ・下宿のこと・奨学金のこと
- ・部活動や愛好会のこと
- ・交通事故を起こした
- ・体調が悪くなった

■就職課【本館1F（P.20）】

- ・企業の紹介
- ・就職に関する書類の書き方（履歴書等）
- ・応募に必要な書類

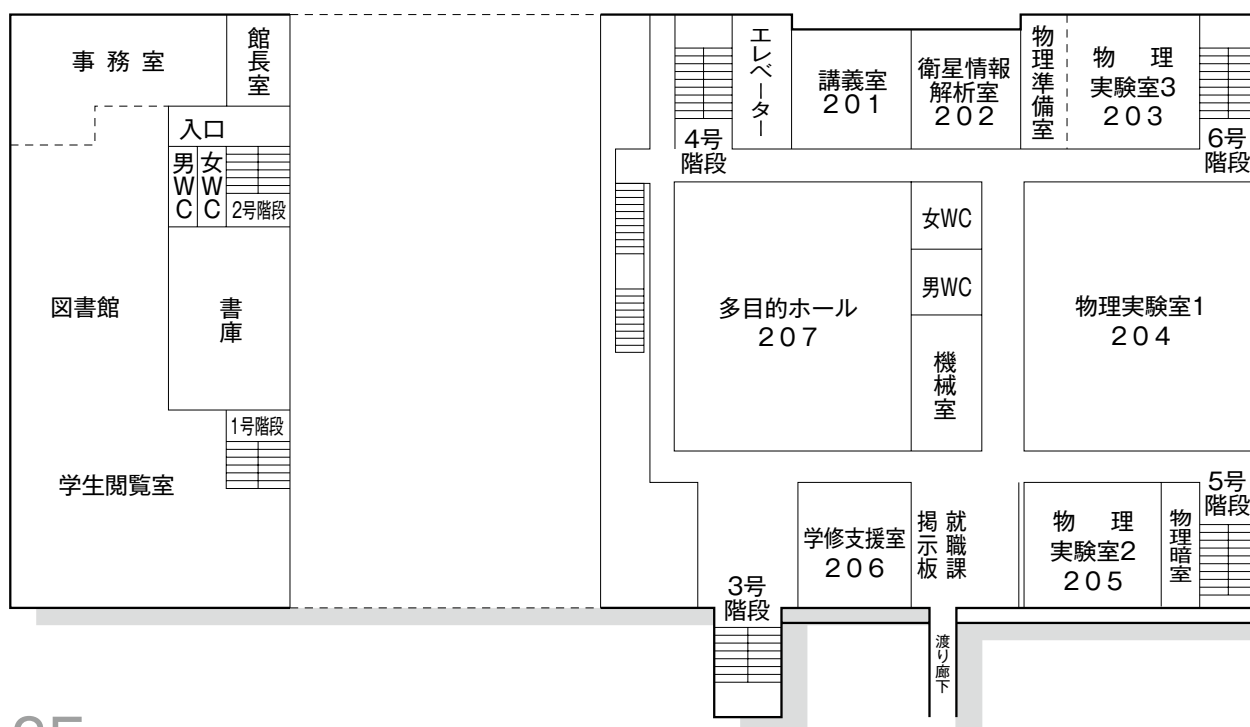
八戸工業大学配置図



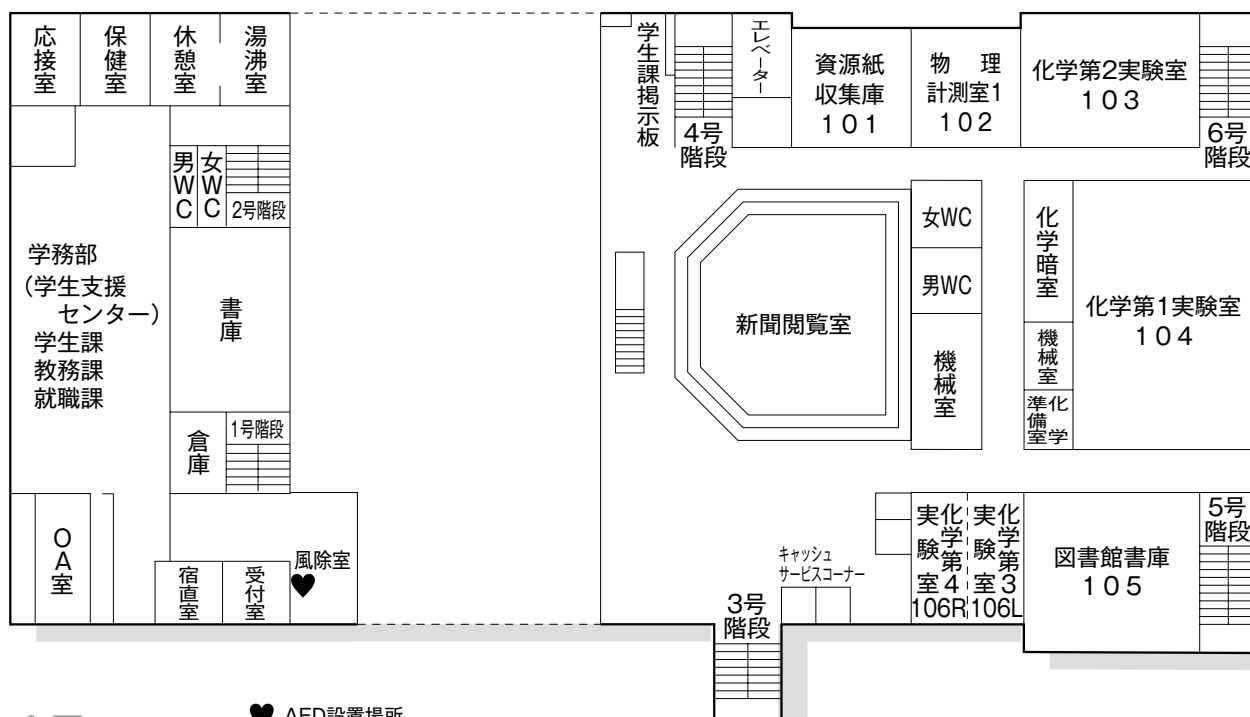


建物配置図

本 館



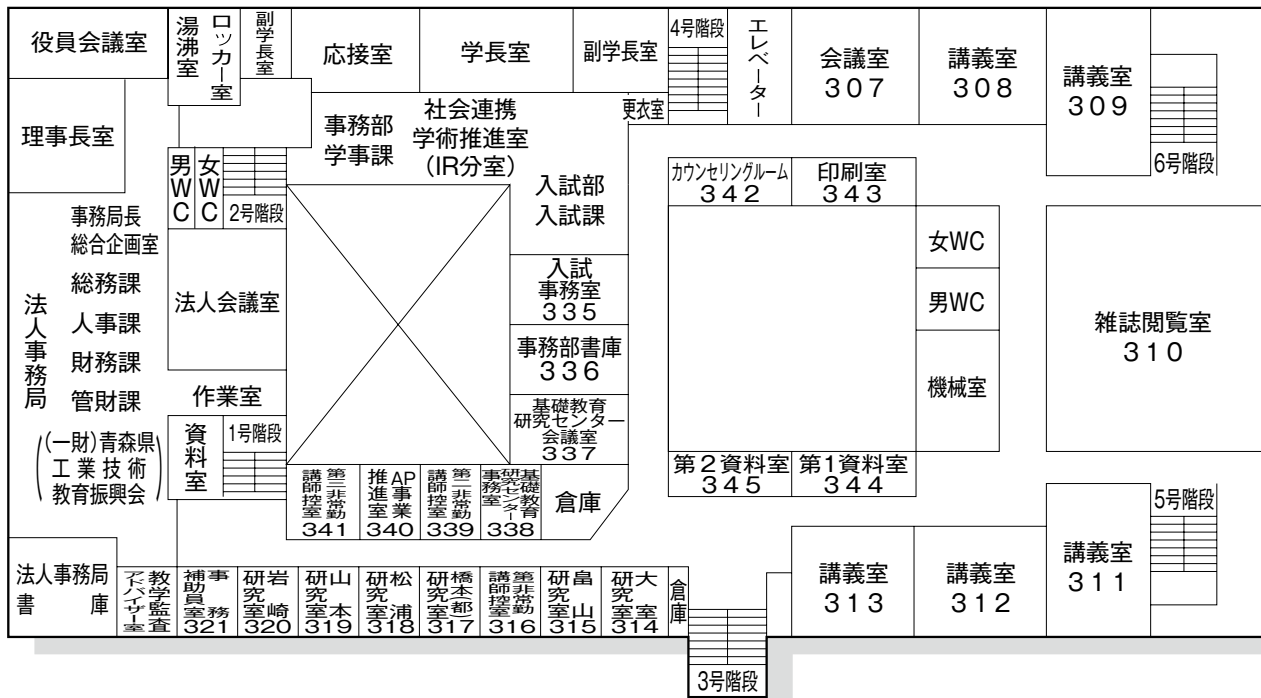
2F



1F

♥ AED設置場所

本 館

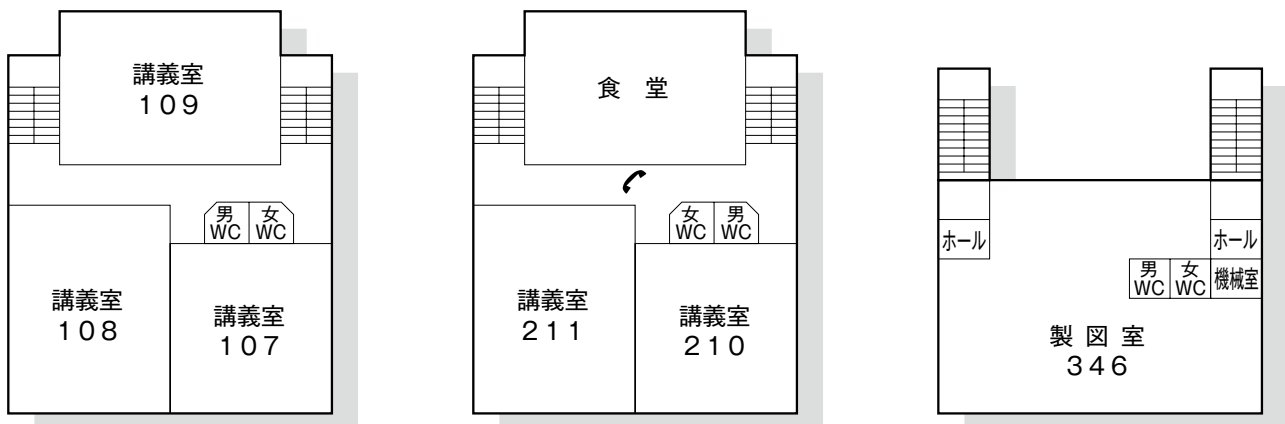


3F

第1章

教養棟旧館

緊急用電話

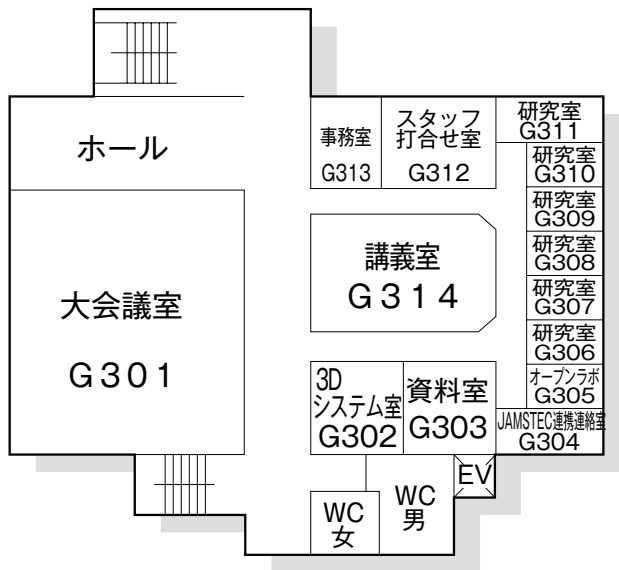


1F

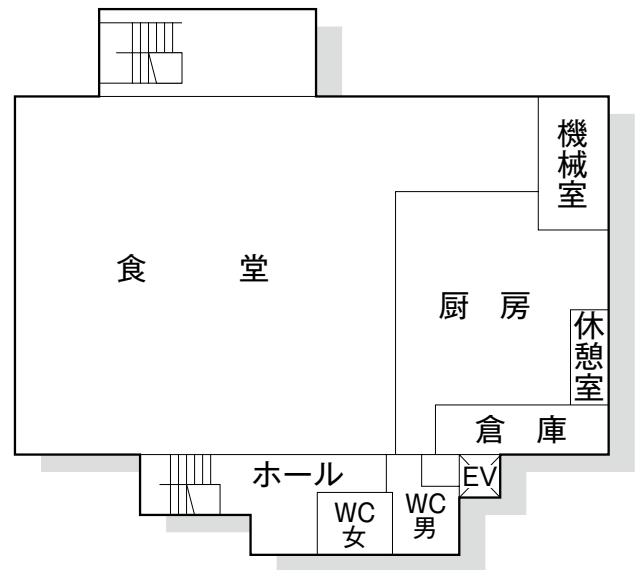
2F

3F

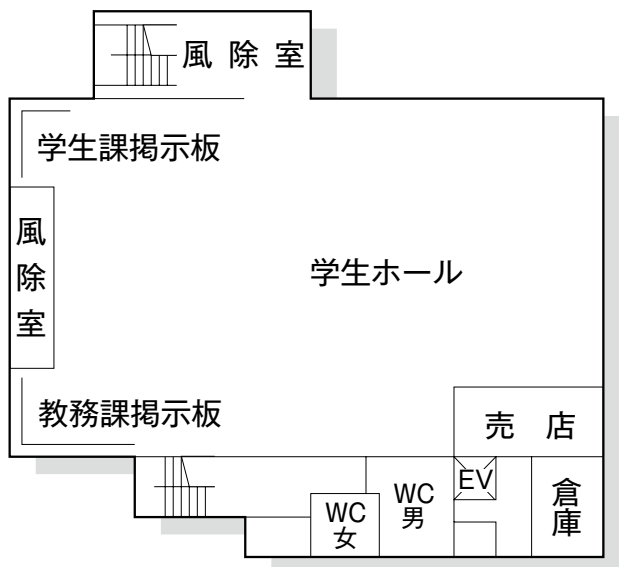
教養棟・地域産業総合研究所



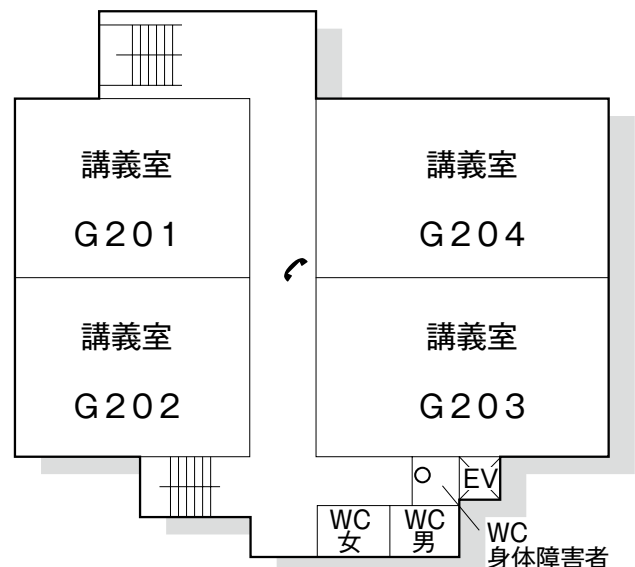
3F



4F



1F



2F

☎ 緊急用電話
○ トイレ緊急呼出ボタン

機械工学専門棟

WC 男	学生居室 M315	大黒研究室 M314	学生居室 M313	研究 佐藤 室 M312	研究 鈴木 (寛) 室 M311	研究 野田 室 M310	研究 工藤 (祐) 室 M309	大学院 演習室 M308	資料 室 M308 (S)	実験室 M307(S)	製図室 M307
	教材準備室 M301	学生居室 M302	実験室 M303R	学生 居室 M303L	学生居室 M304	講義室 M305				実験室 M306	

3F

WC 男	応接室 M216	事務室 M215	講師 控室 M214	研究 武藤 室 M213	ITルーム (A)	ITルーム (B) M212	ITルーム (C)	研 浅 川 室 M211	研 四 室 M210	講師 控室 M209	研究 室 M208	太田 研究室 M207	杉本 研究室 M206
	会議室 M201	学生居室 M202		講義室 M203				学生居室 M204		講義室 M205			

2F

WC 女	自動車教材室 M117	伝熱工学 実験室 M116	実習指導員室 M115	実験室 M114	計測室 M113	次世代 冷凍機 開発室	エンジン 実験室 M112	熱工学 実験室2 M111	熱工学 実験室1 M110	超音波 実験室 M109	精密機械 測定室 M108
	エンジン 実習室 M101	実験室 M102	学生 実験室	原子力工学 実験室 M103	レーザー工学 実験室 M104		実験室 M105	実験室 M106	講義室 M107		

1F

電気電子工学専門棟



研究室 E402	
研究室 E401B	情報通信システム 研究室 E401A 

A

2F

1F

— 24 —

システム情報工学専門棟

ハイビジョン
シアター
I401

4F

ウェブ システム 研究室 I317		小久保 研究室 I316	小 玉 研究室 I315	藤 岡 研究室 I314	伊 藤 研究室 I313	武 山 研究室 I312	小坂谷 研究室 I311	研究室 I310		笹 原 研究室 I309	嶋 脇 研究室 I308	清 水 研究室 I307
WC 女	WC 男	セキュリティ システム 研 究 室 I301	シ ス テ ム シミュレーション 研 究 室 I302	コンピュータシステム 研 究 室 I303	コンピュータ グラフィックス 研 究 室 I304	電子ビジョン 研 究 室 I305	ヒューマン インターフェイス 研 究 室 I306					

3F

メディア ラボ I214		コピー室 I213	事務室 I212	会議室 I211	非常勤 講師室 I210	実習室 I209	大学院 講義室 I208		キャリア プランニング I207	LSI 開発室 I206	山 口 研究室 I205
WC 女	WC 男	準備 室 I201	情 報 工 学 基礎実験室 I202	情報工学応用実験室 I203			講 義 室 I204				

2F

機械室 I113			資料室 I112			開発室 I111	研究室 I110	メディア スタジオ I109	研究室 I108	ネットワーク 研 究 室 I106			工作室 I105
			デバッグ 室 I101	計算機室 I102	講義室 I103				サイバーラボラトリー I104				
W C 女	W C 男	資料 室											

1F

生命環境科学専門棟

	遺伝子操作 実 験 室
	L401
	第1 第2 動 物 室

4F

第2環境工学 実験室 L317	WC男	WC女	学生居室 L316	第2 セミナー 室 L315	学生居室 L314	田中(義幸) 研究室 L313	小林(正) 研究室 L312	高橋(晋) 研究室 L311	環境プロセス実験室 L310	学生居室 L309	藤田(敏) 研究室 L308	ドラフト 室 L307	学生居室 L306
			第1講義室 L301		多目的実験・実習室 L302				第2講義室 L303		第1会議室 (資料室) L304		遺伝子工学 実 験 室 L305

3F

複写室 L220	WC女	事務室 L219	第2 会議室 L218	第1 セミナー 室 L217	鶴田 研究室 L216	星野 研究室 L215	片山 研究室 L214	研究室 L213	本研究 室 L212	鮎川 研究室 L211	学生居室 L210	暗室 L209	殺菌室 L208	無菌室 L207	植物生態学 実 験 室 L206
		栄養生命科学 実 験 室 L201			機能性材料化学 実 験 室 L202			機 器 分 析 室 L203		食品生体機能 実 験 室 L204			微生物工学 実 験 室 L205		

2F

コミュニケーション ルーム L109	WC男	WC女	顕微鏡 室 L108	電子 実験室 L107	生命科学 第3基礎 実験室 L106	就 職 情報室 L105	技術職員室 L104	生命環境科学 第2基礎実験室 L103
			生命環境科学 第1基礎実験室 L101				生命環境科学 ITルーム L102	生命環境プロセス 実習室 L103

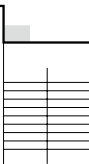
1F

土木建築工学専門棟・土木工学専門棟

ペ ラ ン ダ														ペ ラ ン ダ				
WC 男	複写室	事務室	研究室	高瀬研究室	迫井研究室	長谷川研究室	金子研究室	佐々木研究室	福室研究室	竹内研究室	阿波研究室	研究室	鈴木(拓)研究室	非常勤講師研究室	コンクリート工学研究室Ⅱ	計画学研究室	大学院生演習室	
WC 女	C328	C327	C326	C325	C324	C323	C322	C321	C320	C319	C318	C317	C316	C315	C314	C313	C312	C311
湯沸室																		
資料室		応接室	会議室	研究室	研究室	水工学研究室Ⅱ	環境工学研究室Ⅱ	大学院講義室						コンクリート工学研究室Ⅰ	研究室Ⅱ	第3講義室		
C301			C302	C303	C304	C305	C306	C307						C308	C309			
C310																		

3F

3F

WC 男		構造工学 研究室Ⅰ	ITカフェ 学生自習室	ITルーム	地盤工学 研 究 室	水 工 学 研究室Ⅰ	コンクリート 工 学 実験室Ⅲ		第2講義室
WC 女		C213	C212	C211	C210	C209	C208		C207
湯沸室									

	環境工学 実験室Ⅰ	環境工学 研究室	環境工学実験室Ⅱ		研究室Ⅰ	学 生 自習室		第1講義室
	C201	C202	C203		C204	C205		
								C206

2F

2F

WC 男	実験準備室	地盤工学実験室Ⅱ				水工学実験室Ⅱ				実験準備室	地盤工学実験室Ⅰ				器材室	測量
物置	C112	C111								C110	C109					C108
		実験準備室	コンクリート工学実験室Ⅰ		構造工学実験室				寒冷地材料試験室	凍結融解試験室	コンクリート工学実験室Ⅱ				水工学実験室Ⅰ	
		C101	C102		C103				C104	C105						
		恒温室														
		1F														
														C106	C107	

1F

土木建築工学専門棟・建築工学専門棟

W C 男	会議室 A333	学務室 A332	事務室 A331	研小 研究室 A330	研究 室 A329	研月 研究室 A328	研究 室 A327	研西 研究室 A326	研究 室 A325	研究 室 A324	講師 非常勤 室 A323	印刷室 A322 複写室 A321	設計・計画 研究室 A320	建築デザイン 研究室 A319	建 築 図書室2 A317 歴史意匠 資料室 A318	建 築 図書室1 A316 環 境 デザイン 資料室 A315
W C 女 湯沸室	研究室 A301	研土 研究室 A302	研滝 研究室 A303	研究 室 A304	研橋 研究室 A305	研橋 研究室 A306	防災・構造工学 研究室 A307	建築計画 研究室 A308	設計・情報 研究室 A309	研究室 A310	計算機 室 A311	都市計画 研究室 A312	構造力学 研究室 A313	模 型 制作室 A314		

3F

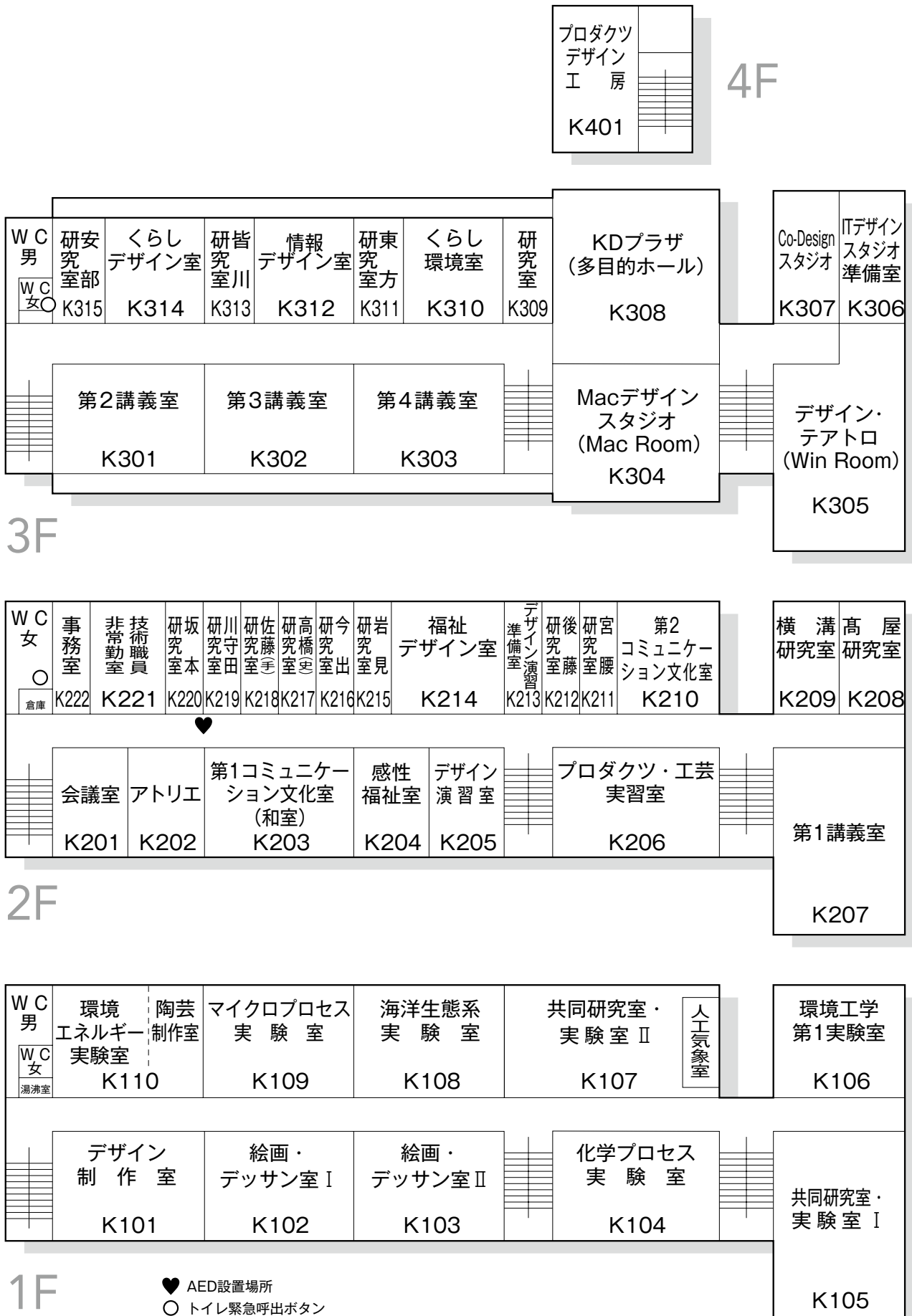
W C 男	学 科 事務室 A210	設 計 室 A209				I T ルーム A208		第2講義室 A207
W C 女	A210	A209				A208		A207
	A-カフェ A201	Aギャ ラリー A202	コモン ルーム A202	アトリエ A203	エスキス・ プロジェクト ルーム A204	大学院自習室 A205		大学院講義室 A206

2F

W C 男 物置				材料・構法 実 験 室	材料実験 準備室	実 験 管理室				養生室 A114	恒低温 室 A113	恒常温 室 A112	材料・施工 実験室Ⅱ	材料・施工 実験室Ⅰ		第1講義室 A109	
				A117	A116	A115					A111			A110			
				工作室 A101	耐雪耐寒工法 実験室 A102	実 験 室 A103			化学 実験室 A104	防災・構造 実験準備室 A105			都市・住居 資 料 室 A106			材料・施工 研究室Ⅰ A107	材料・施工 研究室Ⅱ A108

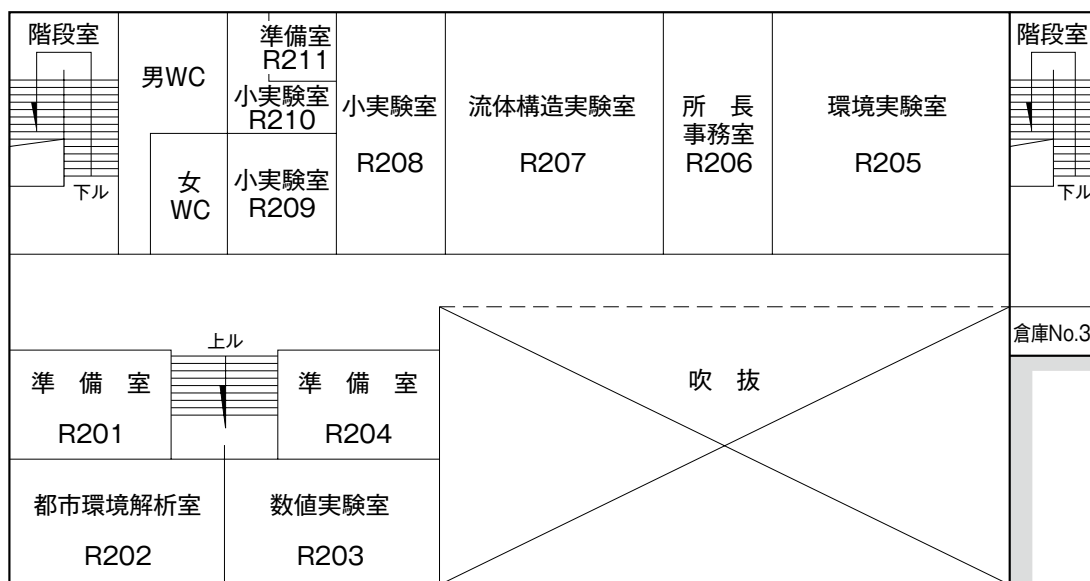
1F

創生デザイン専門棟

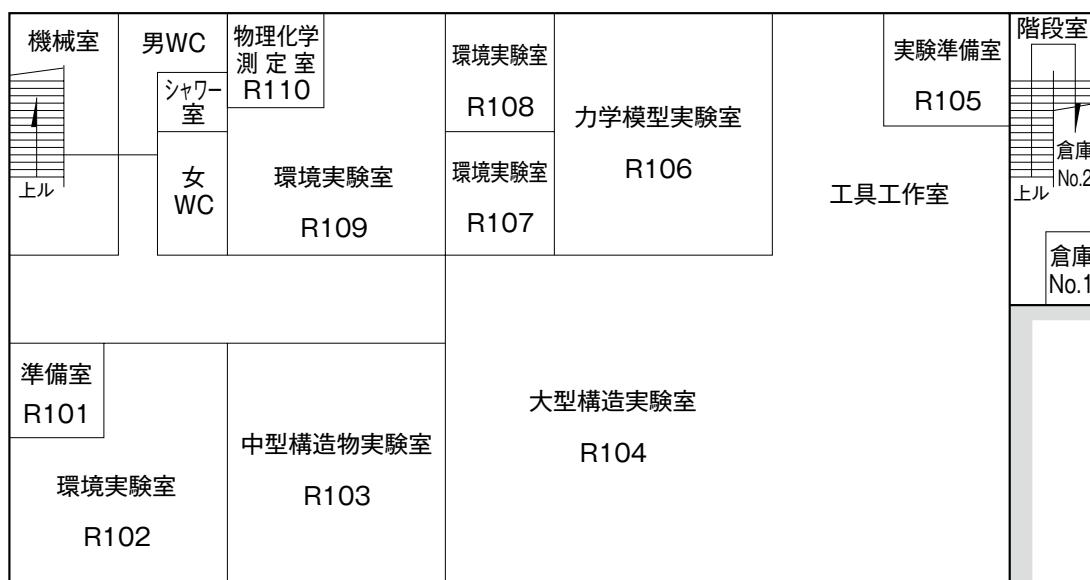


地域産業総合研究所・構造工学実験棟

2F

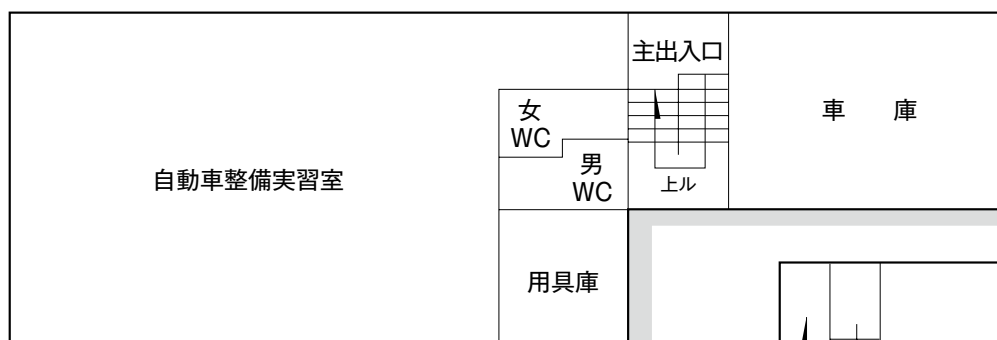


1F



自動車工学センター

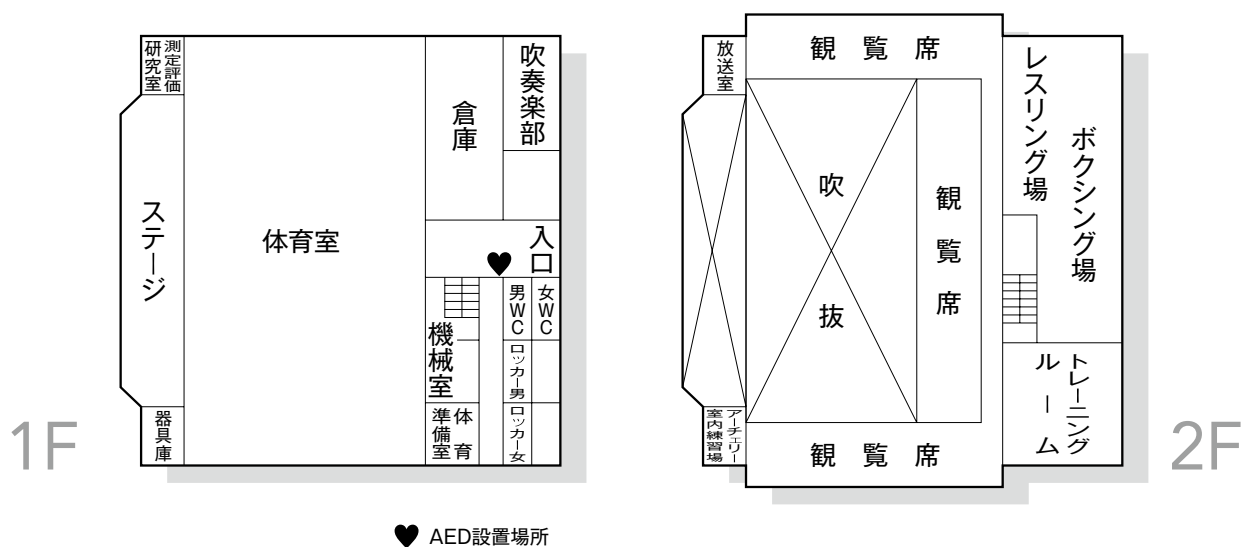
1F



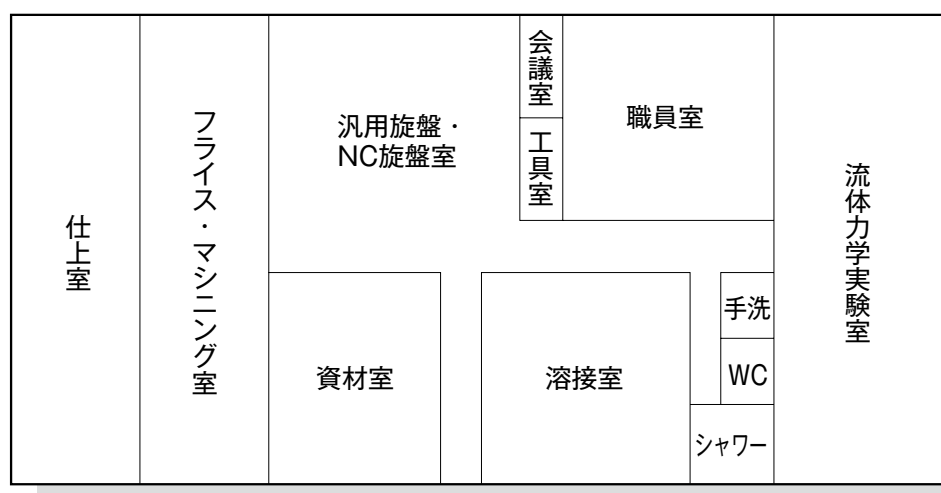
2F



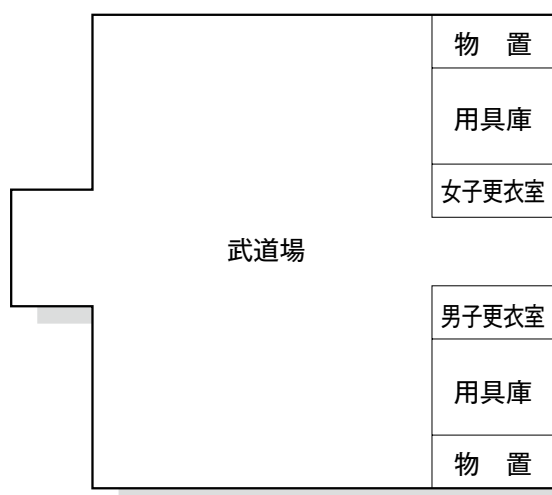
体育館



工作技術センター

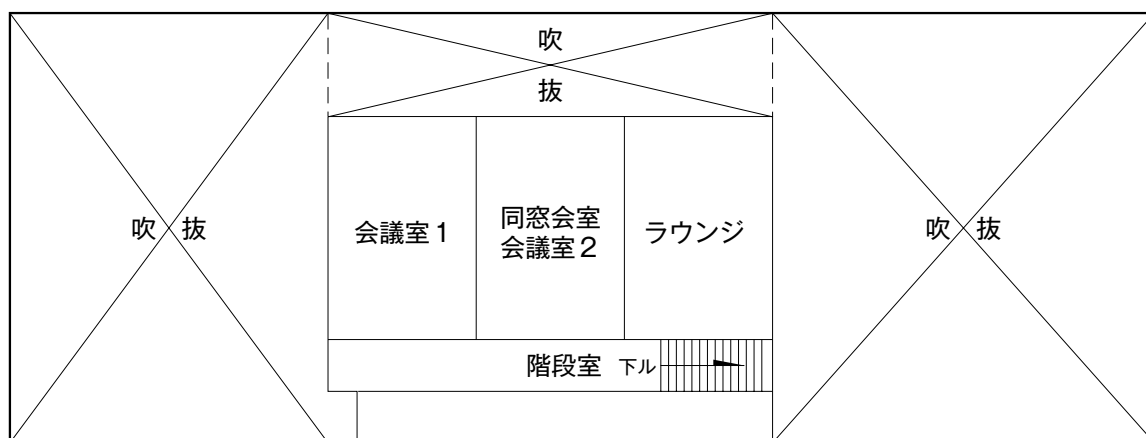


尚志館

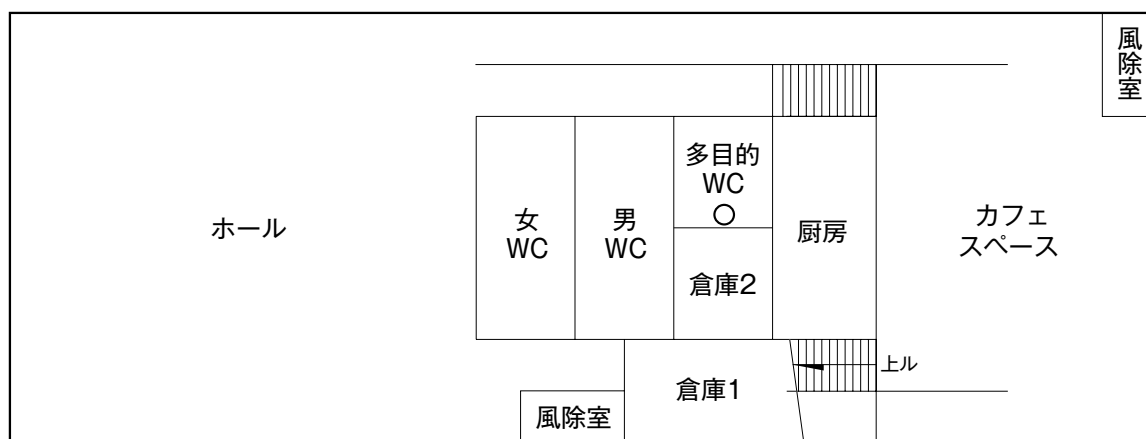


メディアセンター

2F



1F



○ トイレ緊急呼出ボタン

学友会館

学友会館 1号館(1F)

男子WC	男子シャワー室	倉庫	学友会室	体育会室	文化会室
女子シャワー室	女子WC	出入口	学友会倉庫	会議室A-1	会議室A-2

1号館(2F)

主務室 1-1	食 品 研 究 会 1-2	レスリング部 1-3	サンボ部 1-4	ボクシング部 1-5	ソフトテニス部 1-6	アイススケート部 1-7	ダーツ愛好会 1-8
	弓道部 1-17	卓球部 1-15	柔道部 1-14	男子硬式庭球部 1-13	女子硬式庭球部 1-12	少林寺拳法部 1-11	サッカー部 1-10
							1-9

学友会館 2号館(1F)

男子WC	出入口	会議室B-1	会議室B-2	学友会倉庫 2-1	ゲーム研究部 2-2	ビリヤード部 2-3	学友会 パネル置場 2-4
女子WC	倉庫	プラモデル研究会 2-9	電創部 2-8	電創部 2-7	アーツテック研究部 2-6	アーツテック研究部 2-5	

2号館(2F)

将棋部② 2-10	軟式野球部 2-11	サイクリング同好会 2-12	映像研究部 2-13	映像研究部 2-14	美術研究部 2-15	男子バスケットボール部 2-16	合唱部 2-17
将棋部① 2-24		情報科学研究部 2-23	文芸愛好会 2-22	サイエンス愛好会 2-21	バレエボール部 2-20	ストリートダンス愛好会 2-19	English研究会 2-18

学友会館3号館(グランド側)

美術研究部 3-16	動力研究部 3-15	山岳部 3-14	文化会倉庫 3-13	陸上競技部 3-12	物 置 3-11	物 置 3-10	音楽研究部 3-8	物 置 3-9
動力研究部 3-1	硬式野球部 3-2	アーチェリー部 3-3	学友会倉庫 3-4	自動車部 3-5	ソフトボール部 3-6	ラグビー部 3-7		

(生命環境科学専門棟側)

第2章

学修について

2. 1	はじめに	36
2. 2	授業時間	37
2. 3	履修計画と履修手続き	37
2. 4	出席・欠席	38
2. 5	試験	38
2. 6	成績発表	38
2. 7	標準修得単位数	39
2. 8	進級要件	39
2. 9	卒業	40
2. 10	GPA	41
2. 11	八戸工業大学の教育	42
2. 11.1	八戸工業大学の人材育成像と教育の質保証	42
2. 11.2	20の修得因子	42
2. 11.3	ラーニング・ポートフォリオI (LP I)・システム	42
2. 12	工学部の教育目標・教育課程	43
2. 12.1	機械工学科の学習・教育到達目標と教育課程	44
2. 12.2	電気電子工学科の学習・教育到達目標と教育課程	66
2. 12.3	システム情報工学科の学習・教育到達目標と教育課程	90
2. 12.4	生命環境科学学科の学習・教育到達目標と教育課程	116
2. 12.5	土木建築工学科の学習・教育到達目標と教育課程	140
2. 13	感性デザイン学部の教育目標・教育課程	170
2. 13.1	創生デザイン学科の学習・教育到達目標と教育課程	171

2.1 はじめに

この章では、本学でどのようにして学びたい授業を受け、進級し、そして卒業できるかについて述べています。

■履修から単位修得まで

授業を受けることを履修するといいます。それぞれの授業科目には、授業時間数に応じて単位数が定められています。履修登録をして、授業を受け、試験に合格することを単位を修得したといいます。修得した単位数の合計を修得単位数といいます。（第7章学則参照）

■必修科目と選択科目

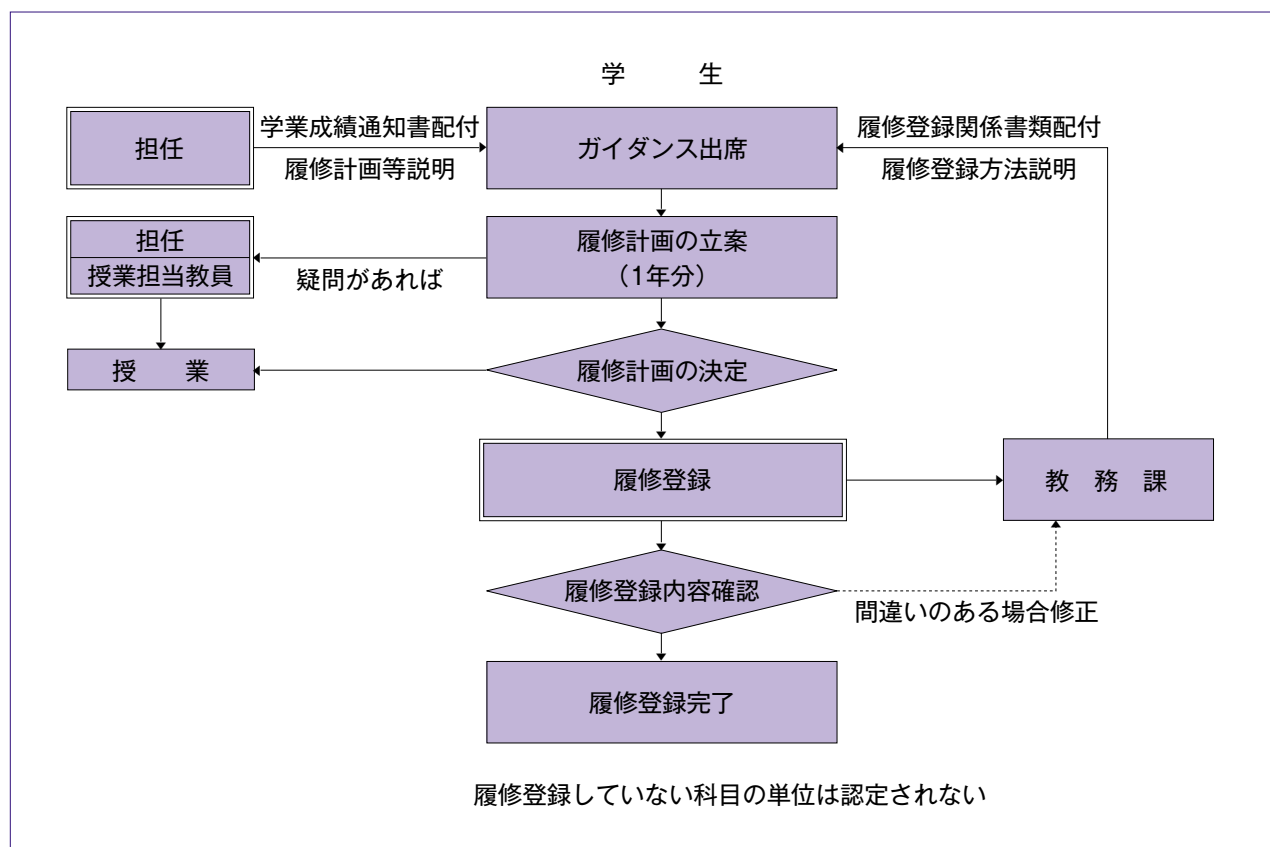
授業科目には、必ず修得しなければならない必修科目と選んで履修できる選択科目があります。選択科目には、各学科課程表に示された範

囲から一定以上の単位数を修得しなければならない条件付きの選択必修と呼ばれる科目があります。

■学期と開講時期

本学の学期は、4月1日から9月15日までの前期と、9月16日から3月31日までの後期に分かれています。

それぞれの授業科目は、前期開講、後期開講、1年間を通しての通年開講と3種類の期間で授業が行われます。また、特定の期間に集中して授業を行う集中講義と呼ばれるものがあります。



2.2 授業時間

授業時間は次の通りです。

第1校時	8:50-10:20
第2校時	10:30-12:00
第3校時	12:50-14:20
第4校時	14:30-16:00
第5校時	16:10-17:40

2.3 履修計画と履修手続き

■履修計画

学年はじめに、この1年間どのような授業科目を履修するかを授業時間割表をもとに、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップ、シラバス、学生要覧等を参照し、自分で計画をたてる必要があります。これを履修計画といいます。

履修計画の相談には担任があたっていますので、気軽に相談してください。なお、前年度までの修得単位数が2.7で示す標準修得単位数に達していないときは、担任の指導を受けなければなりません。

■履修手続き

履修計画ができたら、その計画を所定の期日に履修登録を行うことが必要です。履修登録は、あらかじめ履修計画表に記入した科目をユニバーサルパスポートにより登録をしてもらいます。履修登録された結果は、「受講者名簿」となって各科目担当教員に周知されます。つまり、この名簿に記載された者だけがその科目を履修できることになりますので、履修手続きには十分な注意を要します。

■他学部・他学科科目の履修

所属学科以外の科目（講義科目）を20単位を限度として進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所属学科長、担任、科目担当教員の承認を受ける必要があります。教務課まで申し出てください。

■単位互換科目の履修

八戸学院大学の科目を進級要件・卒業要件の選択科目の単位として修得することができます。受講を希望するときは、所定の手続きをとる必要があります。ただし、1学年は履修できません。

■実験、実習、製図および体育科目

これらの科目は、開講されている学年で履修することを原則としていますので、その年に単位を修得できない場合には以後の履修科目に制限を受けることがあります。

■リメディアル科目

<英語基礎Ⅰ・Ⅱ><数学基礎Ⅰ・Ⅱ>

リメディアル科目は、大学での学習を進めるうえで、身につけておきたい知識の基礎となる科目です。進級・卒業単位には含まれませんが、履修することで、英語や数学だけではなく関連する科目の学習がスムーズにできるようになります。

■再履修

一度履修し不合格となった科目をもう一度履修することを再履修といいます。再履修の方法は基本的には最初に履修したときと同じ方法で履修しなければなりません。科目によって履修方法に違いがありますから担当教員の指導に従って履修してください。

2.4 出席・欠席

出席時数が授業時数の3分の2に満たない場合は、試験を受けられません。なお、体育科目はその性質上5分の4以上の出席時数がなければなりません。続けて3日以上欠席する場合は教務課に欠席届を提出しなければなりません。忌引きによる欠席は、忌引届を教務課に、部活動などによる欠席は特別欠席願を学生課にそれぞれ提出してください。また、3カ月以上の欠席をするときは休学願を教務課に提出し、休学することができます。休学などについては第6章を参照してください。

2.5 試験

単位を修得するためには、試験を受け合格しなければなりません。実験、実習、演習および実技の科目では平常の成績で評価されることがあります。評価はS、A、B、C、Dで行われ、S、A、B、Cは合格、Dは不合格です。

試験には、定期試験、追試験および再試験があります。(第7章7.5を参照)

■定期試験

前期および後期の決められた期間に行われます。

■追試験

病気・けがなどやむを得ない理由により定期試験を受けられなかった学生が受けるものです。担当教員に申し出てください。受験手続きは自動発行機を利用してください。

■再試験

定期試験や追試験に合格できなかった学生に対して実施します。自動発行機で受験手続きをしてください。

■受験資格

定期試験を受けるためには次の受験資格が必要です。

- ①学年はじめに履修登録をしている。
- ②出席時数が授業時数の3分の2以上である。
ただし、考慮すべき事情のある学生については出席時数がこれを満足しなくとも担当教員への届出により認める場合がある。
- ③教授会において特に失格条件がないことを認めている。

■受験上の注意

試験は成績評価の一手段として行われるものです。不正があると、正しい評価ができません。このため不正行為を行った学生は学則第57条によって懲戒処分が行われ、その学期に受験した科目はすべて零点となってしまいます。

受験の際は次の注意を守ってください。

- ①学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた場合は、学生課に申し出て受験票の交付を受け机上に提示してください。
- ②追試験、再試験の場合には、それぞれの受験票を机上に提示してください。
- ③特別な事情がない限り試験開始から20分後の入場、試験開始から30分間は退場できません。
- ④筆記用具などを共有してはいけません。
- ⑤答案用紙を持ち帰ってはいけません。
- ⑥受験中は監督者の指示に従ってください。
不正があったと認めた場合は、監督者は直ちに退場を命じることがあります。

2.6 成績発表

履修登録した科目の成績は、指定日にユニバーサルパスポートで開示します。また、前期、後期のそれぞれの終了後に担任を通し全科目の成績が学業成績通知書として通知されます。学

業成績通知書を受けとったら内容を確認してください。

2.7 標準修得単位数

順調に単位修得が行われているかの目標値として、つぎの標準修得単位数が定められています。この単位数が修得できなかった学生は、担任から履修上の指導を受けなければなりません。なお、各学年に開講されている必修科目は全て修得していなければなりません。

(数字は単位数)

工 学 部	1 学 年	2 学 年	3 学 年
機 械 工 学 科	35	75	115
電 気 電 子 工 学 科	38	78	118
システム情報工学科	35	70	110
生 命 環 境 科 学 科	35	75	115
土 木 建 築 工 学 科	35	75	115

感性デザイン学部	1 学 年	2 学 年	3 学 年
創生デザイン学科	38	78	118

2.8 進級要件

本学では、履修を円滑にすすめてもらうために、各学年に次のような進級要件を定めています。この進級要件を満足しないような場合は、同じ学年に留年となり、卒業までにもう一年要することになってしまいます。なお、学科や履修のコースによっては表に示した以上の要件を設けている場合があるので、履修規程とあわせて各学科の教育目標・教育課程も確認して下さい。

工学部

学科	学年	修得単位数	必修単位数	その他要件
機械工学科	1 学年	25	7	
	2 学年	60	22	
	3 学年	95	40	
電気電子工学科	1 学年	28	12	
	2 学年	60	34	
	3 学年	97	50	・電気電子工学入門と電気電子工学概論を修得のこと ・物理学実験と化学実験のいずれかを修得のこと ・基幹科目16単位中12単位以上修得のこと 基幹科目 電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ ・創造工学実験と電気電子基礎実験を修得のこと
システム情報工学科	1 学年	25	10	
	2 学年	60	25	
	3 学年	100	35	・情報工学基礎実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと
生命環境科学科	1 学年	25	12	
	2 学年	60	30	
	3 学年	100	47	・生命環境科学基礎実験、生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと
土木建築工学科	1 学年	25	10	
	2 学年	60	20	
	3 学年	100	30	

感性デザイン学部

学科	学年	修得単位数	必修単位数	その他要件
創生デザイン学科	1 学年	28	12	
	2 学年	60	12	
	3 学年	98	14	

2.9 卒業

工学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ① 4年以上修業する（休学した期間は含まない）。
- ② 各学科教育課程表の導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③ 総計124単位以上修得する。

以上の単位修得条件を、各学科についてまとめたのが次の表です。

(数字は単位数)

学 科	導入転換科目	総合教養科目	工学基礎科目	専門科目	区分なし	卒業要件
機 械 工 学 科	3	24	14	70	13	124
電 気 電 子 工 学 科	4	20	14	70	16	124
システム情報工学科	6	20	16	70	12	124
生命環境科学科	4	20	4	70	26	124
土木建築工学科	4	26	22	72	0	124

注1 学科や履修のコースによっては上記の区分以外の卒業要件を設けている場合もあるので、各学科の教育目標・教育課程や第7章諸規程に掲載されている教育課程表などを参考に確認すること。

注2 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・導入転換科目
- ・総合教養科目
- ・工学基礎科目
- ・専門科目
- ・特別専攻科目（特別養成コース学生のみ）
- ・他学部・他学科科目
- ・単位互換科目

注3 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

- ・教育職員免許状取得に関する科目や、資格取得に関する科目など、各学科教育課程表（学則別表第1）に含まれていない科目

感性デザイン学部の卒業のための要件は、次の通りです。

- ① 4年以上修業する（休学した期間は含まない）。
- ② 学科の教育課程表の導入転換科目、総合教養科目、専門科目の各区分から、次に定める単位数以上を修得する。
- ③ 総計124単位以上修得する。

※次表参照のこと

(数字は単位数)

学 科	導入転換科目	総合教養科目	専門科目	区分なし	卒業要件
創生デザイン学科	2	32	80	10	124

注1 区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・導入転換科目
- ・総合教養科目
- ・専門科目
- ・特別専攻科目（特別養成コース学生のみ）
- ・他学部・他学科科目
- ・単位互換科目

注2 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

- ・教育職員免許状取得に関する科目で、各学科教育課程表（学則別表第1）に含まれていない科目

2.10 GPA

本学では、平成23年度入学生からを対象に、学修成果を計る基準としてGPA制度を導入しています。GPAとは、「Grade Point Average」の略称で、履修した1単位当たりの評価平均値を求めたものです。GPAを算出することにより学修の到達度が明確になることから、皆さんの学修意欲向上につながることをねらいの一つとしています。

GPAは学期ごとに学業成績通知書に記載して配布しますので、自分自身の学修状況を確認するとともに、GPAがより高い値となるように学修されることを期待します。なお、GPAの詳細については、第7章諸規程の「八戸工業大学GPA取り扱い要項」を参照してください。

■成績評価とグレードポイント (GP)

評価毎のグレードポイント (GP) は下記の通りで、評価がN (認定) の科目、卒業要件に含まれない科目および八戸大学との単位互換科目は、GPA算出の対象外とします。

合 否	評 価	評価基準	G P
合格	S	90～100	4
	A	80～89	3
	B	70～79	2
	C	60～69	1
	N	認定	—
不合格	D	59以下	0

■GPAの計算方法

本学では、右記の通り「学期GPA」、「年度GPA」、「累積GPA」の3種類のGPAを計算します。(小数点第2位まで表示し、小数点第3位以下は切り捨て)

$$\begin{aligned} \text{学期 GPA} &= \frac{\text{当該学期における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}} \\ \text{年度 GPA} &= \frac{\text{当該年度における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}} \\ \text{累積 GPA} &= \frac{\text{入学以降に（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}} \end{aligned}$$

GPAの計算で特に注意すべき点は、不合格科目 (D評価: GP = 0) も評価を受けた科目として単位数に算入されることです。GPの計は増えずに分母が大きくなるということですから、不合格科目が増えるとGPAの値が低くなることとなります。なお、不合格科目には文字通り試験等に不合格だった場合以外にも、授業を途中であきらめたりした場合 (通称「放棄」といいます) も含めます。十分に注意してください。

履修計画を立てる際には、進級要件や卒業要件を充足することはもちろんですが、履修登録した科目は途中であきらめることなく確実に単位を修得すること、また、全てを高い評価で合格するよう努力することが重要です。

2.11 八戸工業大学の教育

2.11.1 八戸工業大学の人材育成像と教育の質保証

本学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）の3ポリシーを掲げ、人材育成像とその教育の実施方法等を明確にしています。

また、大学のディプロマ・ポリシーに掲げる教育到達目標を2.11.2で示す「20の修得因子」として細分化し、これを全学共通の人材育成指標として掲げています。その教育の質保証を実現する手段の一つとして、教員側と学生側の教育・学修改善サイクル（PDCA サイクル）を回しています。学生側のPDCAサイクルの要となるのがラーニング・ポートフォリオI（LP I）・システムです。学生はこのシステムを利用し、学修活動・学修成果に関する自己省察（リフレクション）を通じて、自己の成長を自ら作り出す姿勢を身につけることができます。変化の激しい実社会においても、「自立して生き抜く力」を身につけることが大切です。

2.11.2 20の修得因子

「20の修得因子」は、①寛容な心、②感動する心、③主体性、④人間環境の理解力、⑤自己管理能力・ストレスコントロール力、⑥倫理観・規律性、⑦日本語コミュニケーション・スキル、⑧外国語コミュニケーション・スキル、⑨チームワーク力、⑩リーダーシップ力、⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力、⑫数量的スキル、⑬情報リテラシー力、⑭論理的思考力、⑮問題解決力、⑯専門基礎原理の理解力、⑰専門基礎原理の高度応用展開力、⑱継続的学習力、⑳市民としての社会的責任感、㉑異文化理解力、

で成り立っています。

これは「学士力（文部科学省）」、「社会人基礎力（経済産業省）」、「JABEE 共通基準（日本技術者教育認定機構）」などの実社会で求められる力、並びに高校までの教育で育成されてきた「生きる力（文部科学省）」と強く結びついた指標となっています。つまり汎用性が高い知識・能力・態度を学修成果の指標として用いています。これらの指標の達成度は、各学年の前期、後期終了時のアンケート形式による達成度評価などにより実施します。次の表は、大学のディプロマ・ポリシーと20の修得因子との関係を並べて示したものです。

八戸工業大学 教育目標	修得因子
豊かな人間性と創造的発展力	①寛容な心 ②感動する心 ③主体性 ④人間環境理解力 ⑤自己管理能力・ストレスコントロール力 ⑥倫理観・規律性 ⑦日本語コミュニケーション・スキル ⑧外国語コミュニケーション・スキル ⑨チームワーク力 ⑩リーダーシップ力 ⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力 ⑫数量的スキル ⑬情報リテラシー力 ⑭論理的思考力 ⑮問題解決力 ⑯専門基礎原理の理解力 ⑰専門基礎原理の高度応用展開力 ⑱継続的学習力 ⑳市民としての社会的責任感 ㉑異文化理解力

2.11.3 ラーニング・ポートフォリオI（LP I）・システム

■本学のラーニング・ポートフォリオI・システムは、学生自らが成長を実感するとともに、具体的な学修目標設定に基づく学修の実施と自己省察（リフレクション）により、学修時間の向上、計画的学習能力及び自己管理能力を向上させること、並びに、将来の進路設計を具体化する際の自己アピール基礎資料として利用できることなどを目的としています。つまり、自律的な学修の促進支援機能、教員との情報交換機能、自

己の活動記録機能を持っています。

■ LP I・システムにおけるPDCA 学修改善サイクル

- ◇学修計画の検討・立案 (Plan)：学修計画を検討・立案し、ユニバーサルパスポート内にあるLP I・システムにおいて、将来の進路や夢、生活（課外活動、趣味、特技他）、学修目標等を記述します。この記述に対して、教員から適宜にコメント、アドバイス等の書き込みがあります。
- ◇学修 (Do)：計画に基づいて学修活動を実施します。
- ◇学修成果の確認 (Check)：学修の到達状況の確認、生活や学修スタイルの点検、キャリアプランの検討など、定期的に自己省察を行います。
- ◇学修行動の改善 (Act)：次学期に向けて取り組むべき課題をみつけるなど、自らの学修行動を改善し、ステップアップを図っていきます。この一連のサイクルを回すことで自己の成長に繋がります。



2.12 工学部の教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、工学部では以下の教育目標を掲げます。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった人材を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材を育成する

3) 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力をもった人材を育成する

4) 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる人材を育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

工学部では、教育目標に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、学科を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。また導入転換科目においては、社会と接点のある教育を実施し、キャリアデザイン科目を充実させます。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、PBL、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

工学の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、自然科学分野の基礎を幅広く養います。また、工学部各学科の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開で

きる力をもたせる教育を実施します

高度な応用展開力を養うために、実践的な科目や実験・演習・実習科目を重点的に配置します。授業の中では、論理的な思考を通じて自ら考え纏めたことを発表、表現する授業を展開します。また身につけた複数の専門知識やスキルを統合し、問題の解決力と継続的に学習する力やプロジェクトマネジメント力を育成するために、「卒業研究」を必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します

地域社会が抱える課題の解決のために、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を展開します。これにより、地域社会への関心をもって物事を考えることができる能力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

学科を問わない総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

各学科の教育目標・教育課程を次以降で説明します。

2.12.1 機械工学科の学習・教育到達目標と教育課程

■機械工学科の教育目的

機械工学に関する幅広い知識、技術者倫理、デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や社会で活躍できる技術者を育成することを目的とします。

機械工学科には3つのコースを設けています。機械工学コース、機械工学総合コース、自動車工学コースです。

機械工学コースは、機械工学に関する幅広い

知識、技術者倫理、デザイン能力、情報技術およびコミュニケーション能力と国際的視野を有し、多様化した社会ニーズに対応して地域や社会で活躍できる技術者を育成するコースです。JABEE（日本技術者教育認定機構）対応コースです。

機械工学総合コースは、幅広い機械工学分野の中の特定分野に秀でた技術者を育成するコースです。

自動車工学コースは、国土交通省認定の自動車工学関連科目を履修します。卒業直後に二級自動車整備士試験が受験可能となるコースです。

■機械工学科の学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

機械工学科が育成する技術者の学習・教育到達目標を次のように定め、教育を行います。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けていること。
 - (A-1) 自然、環境、社会、人間など、幅広い分野に基礎知識と関心を持つ。
 - (A-2) 技術者としての活動が社会、衛生、安全、法及び文化に及ぼす影響について、知識と責任感を持つ。
 - (A-3) 地域社会へ関心を持つとともに、国際的な視野を持ち、社会に貢献できる。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できること。
 - (B-1) 数学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
 - (B-2) 物理学の基礎知識を持ち、それを機械工学に応用できる。
 - (B-3) 情報技術の基礎知識を持ち、それを機械技術者の実務に応用できる。
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けていること。

- (C-1) 複合的なエンジニアリング活動に関して、技術文書の作成に必要な日本語による記述力と、専門分野の異なる相手に対して技術的な説明をした際、理解を得られるプレゼンテーション能力を持つ。
- (C-2) 英語の文書を機械技術者の実務に利用するための基礎的素養を持つ。
- (D) エンジニアリング問題解決に応用するための機械工学の知識を持っていること。
- (D-1) 材料力学と機械力学の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
- (D-2) 熱および流体力学の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
- (D-3) 計測と制御の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
- (D-4) 材料、工作法、製図法および機械設計の知識を持ち、それを問題解決に応用できる。
- (E) 複合的なエンジニアリング問題を解決する実務遂行能力の素養を身に付けていること。
- (E-1) 機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる。
- (E-2) 機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的素養を持つ。(デザイン能力)
- (E-3) 機械の設計、開発において情報技術を有効に利用できる。
- (E-4) 最新技術情報を収集、分析でき、技術の変化に対応し、生涯にわたって自主的に学習する必要性を認識し、取り組むことができる。
- (E-5) チームのメンバー又はリーダーとして、スケジュール、資料、資材などのリソースを管理して、課題を完遂する姿勢を持つ。
- (E-6) 多様性のあるチームのメンバー又はリーダーとして、問題の解決やプロジェクトの中での自らの役割と責任を理解できる。

自動車工学コースでは、さらに次の学習・教育到達目標も加え、教育を行います。

- (F) 自動車整備士としての実務遂行能力の素養を身に付けていること。
- (F-1) 二級ガソリン自動車整備士としての自動車の構造および整備に関する知識を持ち、自動車整備の実務を遂行できる。
- (F-2) 高度化する自動車技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる。

■機械工学科のカリキュラム編成方針・教育方法 (カリキュラム・ポリシー)

機械工学科の皆さんが学習・教育到達目標を達成できるよう以下のカリキュラムを編成します。

対応する学習・教育到達目標を記号番号で示します。

- ・「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および人間科学分野の選択科目を履修し、自然、環境、社会に関心を持ち、考察する態度を深めます。(A-1)
- ・国際コミュニケーション分野の選択科目を履修し、社会、他国の文化、人間などについての知識と関心の幅を広げます。(A-1)
- ・「職業倫理」および「機械工学通論」を履修し、地球・地域の環境と資源の保護、製造物責任、知的財産権、情報公開などの概念と技術者との関わりを理解します。(A-2)
- ・「機械工学通論」、「キャリアデザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「職業倫理」を履修し、技術と地域社会のかかわりについての知見を習得します。(A-3)
- ・「微分」、「積分」、「線形代数」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための数学の基礎能力を身につけます。(B-1)
- ・「基礎物理学Ⅰ」、「基礎物理学Ⅱ」を履修し、機械工学の専門科目を理解し、実務に応用するための物理学の基礎能力を身につけます。(B-2)

- ・「基礎機械情報工学」、「基礎情報科学」を履修し、コンピュータリテラシと基礎的なプログラミング法を習得します。(B-3)
- ・「機械工学実験Ⅰ、Ⅱ」を履修し、技術者としての実務的な報告書作成法を習得します。また、「機械工作実習」を履修し、技術的な発表と質疑応答を体得します。(C-1)
- ・「キャリアデザインⅢ」を履修し、就職指導を通じて、社会人として必要な基礎知識の再学習や、記述、口頭両面での自己表現、コミュニケーション能力を身につけます。(C-1)
- ・「卒業研究」を履修し、技術的な論文作成と口頭発表の仕方を習得します。(C-1)
- ・「現代英語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、基本的な英語の読解力を身に付けます。(C-2)
- ・「材料力学」、「材料力学 A」を履修し、材料力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ(材料力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-1)
- ・「機械力学」、「機械力学 A」を履修し、機械力学に関する基礎事項を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ(機械力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-1)
- ・「熱力学」、「熱力学 A」を履修し、熱力学に関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅰ(熱力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-2)
- ・「伝熱工学」を履修し、熱移動に関する基礎知識を習得します。(D-2)
- ・「流れ学」、「流れ学 A」を履修し、流れに関する基礎知識を習得するとともに、「機械工学演習Ⅱ(流体力学分野)」を履修し、問題解決能力を身につけます。(D-2)
- ・「計測工学」を履修し、計測工学の基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「制御工学」を履修し、制御システム設計の基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「メカトロニクス基礎」、「プロジェクト実習」

- を履修し、メカトロニクスシステムの構成に関する基礎事項を習得します。(D-3)
- ・「機械材料工学」を履修し、機械材料に関する基礎事項を習得します。(D-4)
- ・「エンジン解剖実習」を履修し、実用機械の構成や組み立て法を体験的に学習し、機械システムの設計・製造の基礎知識を習得します。(D-4)
- ・「工作学」、「機械加工学」を履修し、加工法の基礎事項を習得するとともに、「機械工作実習」を履修し、機械加工の作業を通じて機械装置製作に応用できる能力を身につけます。(D-4)
- ・「基礎設計工学」、「応用設計工学」、「基礎設計製図」、「CAD 設計製図」、「機械設計技法」を履修し、機械設計に必要な基礎知識と製図法を修得するとともに、「プロジェクト実習」を履修し、設計・製作した製作物の動作、機能を評価し設計や製法が機械の性能に及ぼす影響を体得します。(D-4)
- ・「エンジン解剖実習」、「プロジェクト実習」を履修し、機械システムの仕組みと振る舞いの因果関係を体得するとともに、「プロジェクトⅠ」を履修し、問題解決にあたって機械システムの振る舞いを観察し、考察、評価できる能力を身につけます。(E-1)
- ・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」を履修し、実験や研究で扱う装置・システムの動作、実験データを分析、考察、評価する能力を身につけます。(E-1)
- ・「プロジェクトⅠ」を履修し、機械装置と製造工程の開発・管理において必要となる、問題を明確にし、与えられた条件の下で最適な解決ができる方法を習得します。(E-2)
- ・「CAD 設計製図」を履修し、機械装置と製造工程の開発、設計、管理を行う基礎的教養を身につけるとともに、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」を履修し、実際の機械装置の

設計・製作から完成にいたるプロセスを体験し、機械装置の開発に必要な基礎能力を身につけます。(E-2)

・「卒業研究」において、それぞれの課題の目標を理解し、目標の達成に必要なプロセスやシステムの改善、問題の解決のために調査、分析、創意工夫する姿勢を身につけます。(E-2)

・「CAD 設計製図」を履修し、機械設計における CAD の利用法を習得します。(E-3)

・「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」でコンピュータを用いたデータの集計・分析、レポートの作成など機械技術者の実務に利用できる能力を身につけます。(E-3)

・「プロジェクトⅡ・Ⅲ」、「卒業研究」において、調査、資料・データ整理、報告書作成、プレゼンテーションなどでのコンピュータ利用技術を総合的に身につけます。(E-3)

・「機械工学通論」を履修し、本学での学習、研究についての見通し、卒業後の機械技術者としてのイメージを形成します。(E-4)

・「プロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「卒業研究」を履修し、書籍、文献、インターネットなどでの情報収集を実践することにより、最新技術情報を収集できる能力を身につけます。(E-4)

・「基礎設計製図」、「CAD 設計製図」、「機械設計技法」「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」を履修することにより、期限までに課題や報告書を提出する態度を身につけます。(E-5)

・「プロジェクトⅠ」「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、小グループに分かれて問題解決に当たり、与えられた期限内に課題を完遂する姿勢を身につけます。(E-5)

・「卒業研究」において、課題の目標を理解し、目標を達成するために必要なリソースを管理し、主体的に課題を推し進める能力を身につけます。(E-5)

・「エンジン解剖実習」を履修し、実習におけ

るグループワークの中で自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。(E-6)

・「プロジェクトⅠ」、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「機械工作実習」、「プロジェクト実習」において、与えられた問題や課題の解決にチームであり、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。(E-6)

・「卒業研究」において、研究グループに分かれて与えられた課題の目標を理解し、自らの役割と責任を理解できる能力を身につけます。(E-6)

・自動車工学分野のコース必修科目を履修し、2 級ガソリン自動車整備士相当の自動車の構造と整備に関する知識を習得します。(F-1)

・「自動車工学」、「カーエレクトロニクス」、「自動車構造Ⅰ・Ⅱ」を履修し、高度化する自動車の技術の進展に対応し、自動車整備の実務に応用できる能力を身につけます。(F-2)

機械工学科開講学年別授業科目表

(2019年度入学生用)

第 1 学 年			第 2 学 年			第 3 学 年			第 4 学 年		
授 業 科 目	単 位 前 後		授 業 科 目	単 位 前 後		授 業 科 目	単 位 前 後		授 業 科 目	単 位 前 後	
キャリアデザインⅠ	1		キャリアデザインⅡ	1		キャリアデザインⅢ	2		異文化コミュニケーション	2	
エンジン解剖実習①			心 理 学	2		職 業 倫 理②			機 械 設 計 技 法②		
機 械 工 学 通 論	②		哲 学	2		日 本 国 憲 法	2		自 動 車 構 造 Ⅰ	2	
歴 史	2		日 本 文 学	2		英 語 特 別 演 習	2		自 動 車 構 造 Ⅱ	2	
経 済 学	2		海 外 文 学	2		機 械 力 学②			自 動 車 法 規	2	
地 域 学	2		実 践 日 本 語 表 現	2		機 械 力 学 A	2		自 動 車 工 学	2	
日 本 語 表 現 法	2		英 語 コミュニケーションⅠ	2		流 れ 学②			カーエレクトロニクス	2	
現 代 英 語 Ⅰ②			英 語 コミュニケーションⅡ	2		流 れ 学 A	2		自 動 車 検 査	2	
現 代 英 語 Ⅱ②			中 国 語 Ⅲ	2		伝 熱 工 学②			自 動 車 整 備 実 習	6	
中 国 語 Ⅰ	2		ス ポ ー ツ 健 康 学	1		メカトロニクス基礎	2		技 術 マネジメント概論	2	
中 国 語 Ⅱ	2		主 題 別 ゼミナールⅡ	2		制 御 工 学	2		プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ②		
体 育 学	1		主 題 別 ゼミナールⅢ	2		機 械 材 料 工 学②			卒 業 研 究	⑥	
スポーツ特別演習	1		線 形 代 数②			機 械 工 作 実 習①			原子燃料サイクル・安全工学	2	
主 題 別 ゼミナールⅠ	2		確 率 ・ 統 計	2		潤 滑 工 学	2				
海 外 研 修	1		現 代 物 理 学 概 論	2		自 動 車 エンジン	2				
微 分②			応 用 物 理 学 概 論	2		自 動 車 測 定 検 査 概 論	2				
積 分②			生 命 科 学	2		機 械 工 学 実 験 Ⅰ①					
物 理 学 概 論	2		材 料 力 学②			機 械 工 学 実 験 Ⅱ①					
基 礎 物 理 学 Ⅰ	2		材 料 力 学 A	2		機 械 工 学 演 習 Ⅱ②					
基 礎 物 理 学 Ⅱ	2		熱 力 学②			プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ②					
物 理 学 実 験	2		熱 力 学 A	2		機 械 工 学 統 合 演 習	2				
基 礎 化 学 Ⅰ	2		応 用 機 械 情 報 工 学	2		プ ロ ジ ェ ク ト 実 習①					
基 礎 化 学 Ⅱ	2		計 測 工 学②			学 外 研 修	1				
化 学 実 験	2		電 気 電 子 工 学 通 論	2		原 子 力 体 感 研 修	2				
基 礎 情 報 科 学	2		機 械 加 工 学	2		特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	2				
基 礎 機 械 情 報 工 学	②		基 礎 設 計 工 学②			特 別 専 攻 ゼミナールⅡ	2				
工 作 学②			応 用 設 計 工 学	2		特 別 専 攻 ゼミナールⅢ	2				
原子力エネルギー	2		基 礎 設 計 製 図②								
解 析 Ⅰ	2		CAD 設 計 製 図②								
特別専攻プロジェクトⅠ	2		基 礎 自 動 車 工 学	2							
			電 気 電 子 工 学 概 論	2							
			電 子 回 路 工 学	2							
			機 械 工 学 演 習 Ⅰ②								
			プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ②								
			放 射 線 の 利 用	2							
			解 析 Ⅱ	2							
			解 析 Ⅲ	2							
			特別専攻プロジェクトⅡ	2							
			特別専攻ゼミナールⅠ	2							

注 1：○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注 2：この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

機械工学科単位集計表

(2019年度入学生)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	5	10	15	15	10	8	18	33	12	6	18	51	4	6	10	61
	選択	15	25	40	40	29	29	58	98	9	22	31	129	8	16	24	153
	計	20	35	55	55	39	37	76	131	21	28	49	180	12	22	34	214
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 7単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 22単位以上				修得単位数 95単位以上 必修の修得単位数 40単位以上				必修科目の全て 61単位 人間科学分野科目から必修を含み8単位以上 国際コミュニケーション分野から必修を含み8単位以上 総合教養科目区分から必修を含み24単位以上 工学基礎科目区分から必修を含み14単位以上 専門科目区分から必修を含み70単位以上 ・上記の科目を含め124単位以上を修得すること。			

注 1. この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

機械工学科カリキュラム

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入・転換 科目	キャリアデザイン	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	1				
	工学への関心	エンジン解剖実習	1	機 械 工 学 通 論	2				
総合教養 科目	人 間 科 学	歴 史	2	経 済 学	2	心 理 学	2	哲 学	2
				地 域 学	2	日 本 文 学	2		
	国 際 コミュニケーション			日 本 語 表 現 法	2	実 践 日 本 語 表 現	2	英 語 コミュニケーションⅡ	2
		現 代 英 語 I	2	現 代 英 語 II	2	英 語 コミュニケーションⅠ	2		
	中 国 語 I	2	中 国 語 II	2	中 国 語 III	2			
	体 育 科 学	体 育 学	1	ス ポー ツ 特 別 演 習	1	ス ポー ツ 健 康 学	1		
	総 合 学 際			主 題 別 ゼ ミ ナー ル I	2	主 題 別 ゼ ミ ナー ル II	2	主 題 別 ゼ ミ ナー ル III	2
			海 外 研 修	1					
工学基礎 科目	工 学 基 礎	微 分	2	積 分	2	線 形 代 数	2	確 率 ・ 統 計	2
		物 理 学 概 論	2	基 礎 物 理 学 II	2	現 代 物 理 学 概 論	2	応 用 物 理 学 概 論	2
		基 礎 物 理 学 I	2	物 理 学 実 験	2			生 命 科 学	2
		基 礎 化 学 I	2	基 礎 化 学 II	2				
		化 学 実 験	2						
		基 礎 情 報 科 学	2						
専門科目	材料力学・機械力学					材 料 力 学	2	材 料 力 学 A	2
	熱 ・ 流 体					熱 力 学	2	熱 力 学 A	2
	情 報 ・ 制 御			基 礎 機 械 情 報 工 学	2	応 用 機 械 情 報 工 学	2	計 測 工 学	2
						電 気 電 子 工 学 通 論	2		
	材料・設計・ 加工			工 作 学	2	機 械 加 工 学	2	応 用 設 計 工 学	2
						基 礎 設 計 工 学	2	CAD 設 計 製 図	2
					基 礎 設 計 製 図	2			
	自 動 車 工 学					電 気 電 子 工 学 概 論	2	基 礎 自 動 車 工 学	2
								電 子 回 路 工 学	2
	総 合 工 学							機 械 工 学 演 習 I	2
							プ ロ ジ ェ ク ト I	2	
特別専攻 科目	特 別 専 攻			解 析 I	2	解 析 II	2	解 析 III	
				特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	2			特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II	
								特 別 専 攻 ゼ ミ ナー ル I	2
		進級要件 総計25単位以上（必修7単位以上）				進級要件 総計60単位以上（必修22単位以上）			
		修得単位数				修得単位数			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。

注2. 総合教養科目から必修を含めて24単位以上修得すること。

は必修科目

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位		
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科 目
職 業 倫 理	2	日 本 国 憲 法	2					人 間 科 学	総合教養 科 目
英 語 特 別 演 習	2			異文化コミュニケーション	2			国 際 コミュニケーション	
								体 育 科 学	
								総 合 学 際	
								工 学 基 礎	工学基礎 科 目
機 械 力 学	2	機 械 力 学 A	2					材料力学・機械力学	専門科目
流 れ 学	2	流 れ 学 A	2					熱 ・ 流 体	
伝 熱 工 学	2							情 報 ・ 制 御	
メカトロニクス基礎	2	制 御 工 学	2						
機 械 材 料 工 学	2			機 械 設 計 技 法	2			材 料 ・ 設 計 ・ 加 工	
機 械 工 作 実 習	1								
潤 滑 工 学	2	自動車エンジン	2	自動車構造Ⅰ	2	自動車構造Ⅱ	2	自 動 車 工 学	
		自動車測定検査概論	2	カーエレクトロニクス	2	自 動 車 法 規	2		
				自 動 車 検 査	2	自 動 車 工 学	2		
				自 動 車 整 備 実 習	6				
機械工学実験Ⅰ	1	機械工学実験Ⅱ	1	プロジェクトⅢ	2	技術マネジメント概論	2	総 合 工 学	
学 外 研 修	1	機械工学演習Ⅱ	2	卒 業 研 究			6		
		プロジェクトⅡ	2						
		機械工学統合演習	2						
		プロジェクト実習	1						
		原子力体感研修	2			原子燃料サイクル・安全工学	2	原 子 力 工 学	
特別専攻ゼミナールⅡ	2	特別専攻プロジェクトⅢ	2					特 別 専 攻 科 目	特別専攻 科 目
		特別専攻ゼミナールⅢ	2						
進級要件 総計95単位以上（必修40単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修61単位を含む）					
修得単位数				修得単位数					

注 3. 工学基礎科目から必修を含めて14単位以上修得すること。

注 4. 専門科目から必修を含めて70単位以上修得すること。

機械工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心		地 域 学 海 外 研 修		
②感動する心	* エンジン解剖実習	海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学	* プロジェクトⅠ
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 歴 史 体 育 学 化 学 実 験	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 特別専攻プロジェクトⅠ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学	特別専攻プロジェクトⅡ
④人間環境理解力		経 済 学 地 域 学 原子力エネルギー	心 理 学 海 外 文 学 放 射 線 の 利 用	哲 学 生 命 科 学
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ 体 育 学	* 機 械 工 学 通 論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑦日本語コミュニケーション・スキル	歴 史 * 現 代 英 語 Ⅰ	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 Ⅱ	実 践 日 本 語 表 現 英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ
⑧外国語コミュニケーション・スキル	* 現 代 英 語 Ⅰ 中 国 語 Ⅰ	* 現 代 英 語 Ⅱ 中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	英語コミュニケーションⅠ 中 国 語 Ⅲ	英語コミュニケーションⅡ
⑨チームワーク力	* エンジン解剖実習 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 特別専攻プロジェクトⅠ	ス ポ ー ツ 健 康 学	特別専攻プロジェクトⅡ
⑩リーダーシップ力	* エンジン解剖実習	特別専攻プロジェクトⅠ		特別専攻プロジェクトⅡ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	* エンジン解剖実習 歴 史 中 国 語 Ⅰ * 微 分	経 済 学 地 域 学 中 国 語 Ⅱ * 積 分 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 中 国 語 Ⅲ * 線 形 代 数	確 率 ・ 統 計 生 命 科 学 * C A D 設 計 製 図 * プロジェクトⅠ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑫数量的スキル	* 微 分 物 理 学 概 論 基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ 化 学 実 験	経 済 学 * 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅱ 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 Ⅱ * 基礎機械情報工学 解 析 Ⅰ	* 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 解 析 Ⅱ	確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 解 析 Ⅲ
⑬情報リテラシー力	* 現 代 英 語 Ⅰ 基 礎 情 報 科 学	* 機 械 工 学 通 論 * 現 代 英 語 Ⅱ * 基礎機械情報工学	英語コミュニケーションⅠ 応 用 機 械 情 報 工 学 電 気 電 子 工 学 通 論 * 基 礎 設 計 工 学 * 基 礎 設 計 製 図	英語コミュニケーションⅡ 材 料 力 学 A * C A D 設 計 製 図

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
	日 本 国 憲 法			①寛容な心
* 機 械 工 学 実 験 I 学 外 研 修	* 機 械 工 学 実 験 II * プロジェクト実習	* 卒 業 研 究		②感動する心
キ ャ リ ア デ ザ イ ン III				③主体性
学 外 研 修	特別専攻プロジェクトIII			
	日 本 国 憲 法 原 子 力 体 感 研 修		原子燃料サイクル・安全工学	④人間環境理解力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン III				⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
学 外 研 修				
キ ャ リ ア デ ザ イ ン III			原子燃料サイクル・安全工学	⑥倫理観・規律性
* 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法			
英 語 特 別 演 習 * 機 械 工 作 実 習 * 機 械 工 学 実 験 I 学 外 研 修	* 機 械 工 学 実 験 II 原 子 力 体 感 研 修	* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション * プロジェクトIII		⑦日本語コミュニケーション・スキル
英 語 特 別 演 習		異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル
* 機 械 工 作 実 習 * 機 械 工 学 実 験 I 学 外 研 修	* プロジェクト実習 特別専攻プロジェクトIII	* 卒 業 研 究		⑨チームワーク力
* 機 械 工 作 実 習 * 機 械 工 学 実 験 I 学 外 研 修	* プロジェクト実習 特別専攻プロジェクトIII	* 卒 業 研 究		⑩リーダーシップ力
* 機 械 工 作 実 習	* プロジェクト実習 特別専攻プロジェクトIII	* 卒 業 研 究		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
				⑫数量的スキル
英 語 特 別 演 習 メカトロニクス基礎 * 機 械 工 学 実 験 I	流 れ 学 A * 機 械 工 学 実 験 II * プロジェクトII * プロジェクト実習 原 子 力 体 感 研 修	* 卒 業 研 究 * プロジェクトIII		⑬情報リテラシー力

機械工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑭論理的思考力	＊エンジン解剖実習 歴 史 ＊ 微 分 物 理 学 概 論 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 化 学 実 験	日 本 語 表 現 法 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 II ＊ 工 作 学 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 ＊ 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 ＊ 材 料 力 学 ＊ 熱 力 学 応 用 機 械 情 報 工 学 機 械 加 工 学 ＊ 基 礎 設 計 工 学 ＊ 基 礎 設 計 製 図	哲 学 確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 材 料 力 学 A 熱 力 学 A ＊ 計 測 工 学 応 用 設 計 工 学 ＊ C A D 設 計 製 図 基 礎 自 動 車 工 学 電 気 電 子 工 学 概 論 ＊ 機 械 工 学 演 習 I ＊ プロジェクト I 特別専攻プロジェクト II
⑮問題解決力	＊エンジン解剖実習 ＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 化 学 実 験	経 済 学 海 外 研 修 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II ＊ 工 作 学 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II ＊ 線 形 代 数 ＊ 材 料 力 学 ＊ 熱 力 学 応 用 機 械 情 報 工 学 機 械 加 工 学 ＊ 基 礎 設 計 工 学 ＊ 基 礎 設 計 製 図	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 確 率 ・ 統 計 材 料 力 学 A 熱 力 学 A ＊ 計 測 工 学 応 用 設 計 工 学 ＊ C A D 設 計 製 図 基 礎 自 動 車 工 学 電 気 電 子 工 学 概 論 ＊ 機 械 工 学 演 習 ＊ プロジェクト I 特別専攻プロジェクト II
⑯専門基礎原理の理解力	＊エンジン解剖実習 物 理 学 概 論 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 化 学 実 験	基 礎 物 理 学 II 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 II ＊ 工 作 学	現 代 物 理 学 概 論 ＊ 材 料 力 学 ＊ 熱 力 学 応 用 機 械 情 報 工 学 電 気 電 子 工 学 通 論 機 械 加 工 学 ＊ 基 礎 設 計 工 学 ＊ 基 礎 設 計 製 図	応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学 材 料 力 学 A 熱 力 学 A ＊ 計 測 工 学 応 用 設 計 工 学 ＊ C A D 設 計 製 図 基 礎 自 動 車 工 学 電 気 電 子 工 学 概 論 ＊ 機 械 工 学 演 習 I ＊ プロジェクト I 特別専攻ゼミナール I
⑰専門基礎原理の高度 応用展開力	＊エンジン解剖実習	＊ 工 作 学	現 代 物 理 学 概 論 ＊ 材 料 力 学 ＊ 熱 力 学 応 用 機 械 情 報 工 学 電 気 電 子 工 学 通 論 機 械 加 工 学 ＊ 基 礎 設 計 工 学 ＊ 基 礎 設 計 製 図 電 気 電 子 工 学 概 論	応 用 物 理 学 概 論 材 料 力 学 A 熱 力 学 A ＊ 計 測 工 学 応 用 設 計 工 学 ＊ C A D 設 計 製 図 基 礎 自 動 車 工 学 電 子 回 路 工 学 ＊ 機 械 工 学 演 習 I ＊ プロジェクト I 特別専攻ゼミナール I
⑱継続的学習経験	＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I ＊ 微 分 物 理 学 概 論 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 化 学 実 験	日 本 語 表 現 法 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 物 理 学 実 験 基 礎 化 学 II	海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II ＊ 線 形 代 数 ＊ 基 礎 設 計 工 学 ＊ 基 礎 設 計 製 図	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 確 率 ・ 統 計 生 命 科 学
⑲市民としての社会的 責任感	歴 史			
⑳異文化理解力	＊エンジン解剖実習 ＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I 物 理 学 概 論	経 済 学 地 域 学 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
* 機 械 力 学 * 流 れ 学 * 伝 熱 工 学 メカトロニクス基礎 * 機 械 材 料 工 学 * 機 械 工 作 実 習 潤 滑 工 学 電 子 回 路 工 学 * 機 械 工 学 実 験 Ⅰ	機 械 力 学 A 流 れ 学 A 制 御 工 学 自 動 車 エ ン ジ ン 自動車測定検査概論 * 機 械 工 学 実 験 Ⅱ * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習 * プロジェクト実習 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究 自 動 車 整 備 実 習 * 機 械 設 計 技 法 自 動 車 構 造 Ⅰ カーエレクトロニクス 自 動 車 検 査	自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 法 規 自 動 車 工 学 技術マネジメント概論	⑭論理的思考力
* 機 械 力 学 * 流 れ 学 * 伝 熱 工 学 メカトロニクス基礎 * 機 械 材 料 工 学 * 機 械 工 作 実 習 潤 滑 工 学 電 子 回 路 工 学 * 機 械 工 学 実 験 Ⅰ	日 本 国 憲 法 機 械 力 学 A 流 れ 学 A 制 御 工 学 自 動 車 エ ン ジ ン 自動車測定検査概論 * 機 械 工 学 実 験 Ⅱ * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習 * プロジェクト実習 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究 自 動 車 整 備 実 習 * 機 械 設 計 技 法 自 動 車 構 造 Ⅰ カーエレクトロニクス 自 動 車 検 査	自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 法 規 自 動 車 工 学 技術マネジメント概論	⑮問題解決力
* 機 械 力 学 * 流 れ 学 * 伝 熱 工 学 メカトロニクス基礎 * 機 械 材 料 工 学 * 機 械 工 作 実 習 潤 滑 工 学 電 子 回 路 工 学 * 機 械 工 学 実 験 Ⅰ 特別専攻ゼミナールⅡ	機 械 力 学 A 流 れ 学 A 制 御 工 学 自 動 車 エ ン ジ ン 自動車測定検査概論 * 機 械 工 学 実 験 Ⅱ * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習 * プロジェクト実習 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒 業 研 究 自 動 車 整 備 実 習 * 機 械 設 計 技 法 自 動 車 構 造 Ⅰ カーエレクトロニクス 自 動 車 検 査	自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 法 規 自 動 車 工 学 技術マネジメント概論	⑯専門基礎原理の理解力
* 機 械 力 学 * 流 れ 学 * 伝 熱 工 学 メカトロニクス基礎 * 機 械 材 料 工 学 * 機 械 工 作 実 習 潤 滑 工 学 * 機 械 工 学 実 験 Ⅰ 特別専攻ゼミナールⅡ	機 械 力 学 A 流 れ 学 A 制 御 工 学 自 動 車 エ ン ジ ン 自動車測定検査概論 * 機 械 工 学 実 験 Ⅱ * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習 * プロジェクト実習 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒 業 研 究 自 動 車 整 備 実 習 * 機 械 設 計 技 法 自 動 車 構 造 Ⅰ カーエレクトロニクス 自 動 車 検 査	自 動 車 構 造 Ⅱ 自 動 車 法 規 自 動 車 工 学 技術マネジメント概論	⑰専門基礎原理の高度 応用展開力
英 語 特 別 演 習	* プロジェクトⅡ 原子力体感研修	* 卒 業 研 究 * プロジェクトⅢ		⑱継続的学習経験
* 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法			⑲市民としての社会的 責任感
英 語 特 別 演 習 * 機 械 工 作 実 習 学 外 研 修	* プロジェクト実習	* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション		⑳異文化理解力

機械工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ 歴史 中国語Ⅰ 体育学 化学実験	経済学 中国語Ⅱ スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ 原子力エネルギー	キャリアデザインⅡ 心理学 中国語Ⅲ スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ 放射線の利用	哲学 主題別ゼミナールⅢ
	A-2		＊機械工学通論	日本文学 海外文学	
	A-3	キャリアデザインⅠ	＊機械工学通論 地域学 海外研修 原子力エネルギー 特別専攻プロジェクトⅠ	キャリアデザインⅡ 放射線の利用	特別専攻プロジェクトⅡ
目標 B	B-1	＊微分 基礎情報科学	＊積分 解析Ⅰ	＊線形代数 解析Ⅱ	確率・統計 解析Ⅲ
	B-2	物理学概論 基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ 物理学実験	現代物理学概論 電気電子工学通論	応用物理学概論
	B-3		＊基礎機械情報工学		
目標 C	C-1	体育学	日本語表現法 スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ	実践日本語表現 スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ	主題別ゼミナールⅢ
	C-2	＊現代英語Ⅰ	＊現代英語Ⅱ 海外研修	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ
目標 D	D-1			＊材料力学	材料力学 A ＊機械工学演習Ⅰ
	D-2			＊熱力学	熱力学 A ＊機械工学演習Ⅰ
	D-3			応用機械情報工学	＊計測工学
	D-4	＊エンジン解剖実習	＊工作学	機械加工学 ＊基礎設計製図	＊C A D 設計製図

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	原 子 力 体 感 研 修	異文化コミュニケーション	原子燃料サイクル・安全工学	A-1
* 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法		原子燃料サイクル・安全工学	A-2
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		A-3
学 外 研 修	原 子 力 体 感 研 修 特別専攻プロジェクトⅢ		原子燃料サイクル・安全工学	
				目 標 A
				B-1
				B-2
		* 卒 業 研 究		B-3
				目 標 B
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		C-1
* 機 械 工 作 実 習 * 機 械 工 学 実 験 Ⅰ	* 機 械 工 学 実 験 Ⅱ 原 子 力 体 感 研 修			C-2
英 語 特 別 演 習		異文化コミュニケーション		
				目 標 C
* 機 械 力 学	機 械 力 学 A * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習			D-1
* 流 れ 学 * 伝 熱 工 学	流 れ 学 A * 機 械 工 学 演 習 Ⅱ 機 械 工 学 統 合 演 習			D-2
メカトロニクス基礎	制 御 工 学 機 械 工 学 統 合 演 習 * プロジェクト実習			D-3
* 機 械 材 料 工 学 * 機 械 工 作 実 習	機 械 工 学 統 合 演 習	* 機 械 設 計 技 法		D-4
				目 標 D

機械工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 E	E-1	* エンジン解剖実習		* 基礎設計工学	応用設計工学 * プロジェクト I
	E-2				* プロジェクト I
	E-3			応用機械情報工学	* C A D 設計製図
	E-4		* 機械工学通論 特別専攻プロジェクト I	* 基礎設計製図	特別専攻プロジェクト II 特別専攻ゼミナール I * プロジェクト I
	E-5		特別専攻プロジェクト I	* 基礎設計製図	* C A D 設計製図 * プロジェクト I 特別専攻プロジェクト II
	E-6	* エンジン解剖実習	特別専攻プロジェクト I		* プロジェクト I 特別専攻プロジェクト II
目 標 F	F-1			電気電子工学概論	基礎自動車工学 電子回路工学
	F-2				

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標	
* 機械工学実験Ⅰ	* 機械工学実験Ⅱ * プロジェクト実習	* 卒業研究		E-1	目標 E
* 機械工作実習	* プロジェクト実習	* 卒業研究	技術マネジメント概論	E-2	
* 機械工学実験Ⅰ	* 機械工学実験Ⅱ * プロジェクトⅡ	* プロジェクトⅢ		E-3	
特別専攻ゼミナールⅡ	* プロジェクトⅡ 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒業研究		E-4	
* 機械工作実習 * 機械工学実験Ⅰ 学外研修	* 機械工学実験Ⅱ * プロジェクト実習 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究	* 機械設計技法	E-5	
* 機械工作実習 * 機械工学実験Ⅰ 学外研修	* 機械工学実験Ⅱ * プロジェクト実習 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究		E-6	
潤滑工学	自動車エンジン 自動車測定検査概論	自動車整備実習		F-1	目標 F
		自動車構造Ⅰ カーエレクトロニクス 自動車検査	自動車構造Ⅱ 自動車法規 自動車工学	F-2	

機械工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○														
エンジン解剖実習	第1学年前期	必修		○							○	○	◎			○	○	◎	○			○
機械工学通論	第1学年後期	必修						◎							○							
心理学	第2学年前期	選択				○	○						○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○										◎						
職業倫理	第3学年前期	必修						◎												◎		
日本文学	第2学年前期	選択		○									◎			○						◎
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○							○			○				○		◎
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○									○				◎	
歴史	第1学年前期	選択			○				○				○			◎					○	
経済学	第1学年後期	選択				○							◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○							◎									◎
日本語表現法	第1学年後期	選択						◎								○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択						◎								○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修							○	◎					○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択							○	◎					○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択						○	◎						○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択								◎			○							○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択							○	○												◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ特別演習	第1学年後期	選択			○		○	○			○											
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○			○											
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択																		○		
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択															○			○		
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択															○			○		
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○						○					◎
微分	第1学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
積分	第1学年後期	必修											○	◎		○	○			○		
線形代数	第2学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
確率・統計	第2学年後期	選択											○	◎		○	○			○		
物理学概論	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		○

機械工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
現代物理学概論	第2学年前期	選択												○		○		◎	○			
応用物理学概論	第2学年後期	選択												○		○		◎	○			
物理学実験	第1学年後期	選択												○		○		◎		○		
基礎化学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎化学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
化学実験	第1学年前期	選択			○									○		○	○	◎		○		
生命科学	第2学年前期	選択				○							○					◎		○		
基礎情報科学	第1学年前期	選択													◎							
材料力学	第2学年前期	必修														○	○	◎	○			
材料力学 A	第2学年後期	選択													○	○	○	◎	○			
機械力学	第3学年前期	必修														○	○	◎	○			
機械力学 A	第3学年後期	選択														○	○	◎	○			
熱力学	第2学年前期	必修														○	○	◎	○			
熱力学 A	第2学年後期	選択														○	○	◎	○			
流れ学	第3学年前期	必修														○	○	◎	○			
流れ学 A	第3学年後期	選択													○	○	○	◎	○			
伝熱工学	第3学年前期	必修														○	○	◎	○			
基礎機械情報工学	第1学年後期	必修												○	◎							
応用機械情報工学	第2学年前期	選択													◎	○	○	◎	○			
計測工学	第2学年後期	必修														○	○	◎	○			
メカトロニクス基礎	第3学年前期	選択													◎	○	○	◎	○			
電気電子工学通論	第2学年前期	選択													○			◎	○			
制御工学	第3学年後期	選択														○	○	◎	○			
機械材料工学	第3学年前期	必修														○	○	◎	○			
工作学	第1学年後期	必修														○	○	◎	○			
機械加工学	第2学年前期	選択														○	○	◎	○			
機械工作実習	第3学年前期	必修							◎		○	○	◎			○	○	◎	○			○
基礎設計工学	第2学年前期	必修													○	○	○	◎	○	◎		
応用設計工学	第2学年後期	選択														○	○	◎	○			
基礎設計製図	第2学年前期	必修													○	○	○	◎	○	◎		
CAD 設計製図	第2学年後期	必修											◎		○	○	○	◎	○			
機械設計技法	第4学年前期	必修														○	○	◎	○			
基礎自動車工学	第2学年後期	選択														○	○	◎	○			
潤滑工学	第3学年前期	選択														○	○	◎	○			
自動車エンジン	第3学年後期	選択														○	○	◎	○			

機械工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
自動車測定検査概論	第3学年後期	選択														○	○	◎	○			
自動車構造Ⅰ	第4学年前期	選択														○	○	◎	○			
自動車構造Ⅱ	第4学年後期	選択														○	○	◎	○			
自動車法規	第4学年後期	選択														○	○	◎	○			
自動車工学	第4学年後期	選択														○	○	◎	○			
電気電子工学概論	第2学年前期	選択														○	○	◎	○			
電子回路工学	第2学年後期	選択														○	○	◎	○			
カーエレクトロニクス	第4学年前期	選択														○	○	◎	○			
自動車検査	第4学年前期	選択														○	○	◎	○			
自動車整備実習	第4学年通年	選択														○	○	◎	○			
機械工学実験Ⅰ	第3学年前期	必修		○					◎		○	○			◎	○	○	○	○			
機械工学実験Ⅱ	第3学年後期	必修		○					◎						◎	○	○	○	○			
機械工学演習Ⅰ	第2学年後期	必修														○	○	◎	○			
機械工学演習Ⅱ	第3学年後期	必修														○	○	◎	○			
技術マネジメント概論	第4学年後期	選択														○	○	◎	○			
プロジェクトⅠ	第2学年後期	必修		○									◎			○	○	○	○			
プロジェクトⅡ	第3学年後期	必修													◎					◎		
プロジェクトⅢ	第4学年前期	必修							◎						○					◎		
機械工学統合演習	第3学年後期	選択														○	○	◎	○			
プロジェクト実習	第3学年後期	必修		○							○	○	◎		○	○	○	◎	○			○
学外研修	第3学年前期	選択		○	○		○		○		○	○										○
卒業研究	第4学年通年	必修		○					◎		○	○	◎		◎	○	○	○	○	◎		○
原子力エネルギー	第1学年後期	選択				◎																
放射線の利用	第2学年前期	選択				◎																
原子力体感研修	第3学年後期	選択				◎			◎						○					◎		
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期	選択				◎		◎														
解析Ⅰ	第1学年後期	選択												◎								
解析Ⅱ	第2学年前期	選択												◎								
解析Ⅲ	第2学年後期	選択												◎								
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	◎			

2.12.2 電気電子工学科の学習・教育到達目標と教育課程

■学習・教育目的

未来の産業構造と社会変革に対応するため、電気電子工学科（以下、学科と記す）では、電気電子工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに論理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野を持った技術者を育成することを目的としています。

学科のカリキュラムは、上記の目的を達成するために構成されています。ただし、電気電子技術分野の内容は非常に幅広いので専門性に準じて「電気エネルギーシステム系」、「情報・通信・メディア系」、「電子デバイス・システム制御系」の3つの分野に分類しています。

学科の カリキュラム	電気エネルギーシステム系
	情報・通信・メディア系
	電子デバイス・システム制御系

■コース制について

学生が希望する学習内容が多様化しているため、学科ではカリキュラムの中に「電気エネルギーコース」と「電子通信制御コース」の2つのコースを設置しています。どちらのコースに進んでも、前述の3つの系を学習できます。

●電気エネルギーコース

電気の特徴は電気エネルギーを遠隔地へ大量に送り出せること。発電から始まり電気を消費者に届けるまでシステム的に扱える技術者を育成することを目的としたコースです。教育の内容は、電力の発生・送電・配電から始まりパワーエレクトロニクスなどの応用分野に至る**電気エネルギーシステム系**を中心とした科目で構成されています。本学科は電気主任技術者（一種・二種・三種）の国家資格認定校のため、本コー

スで示した科目の単位を修得し、卒業後実務経験を経て、免状交付申請資格が得られます。また、本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合に、第二種電気工事士の筆記試験が免除となります。

●電子通信制御コース

電気信号はいつでも・どこでも・だれとでも情報を交換できる現代の主役。それを使いこなす発展の担い手となる技術者を育成します。教育の内容は、半導体、電子回路、情報通信など**情報・通信・メディア系**および**電子デバイス・システム制御系**を中心とした科目で構成されています。本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合、電気通信主任技術者の一部試験が免除となる利点があります。また、本コースで示した科目の単位を修得して卒業した場合、申請により第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の資格が与えられます。

■学科で育成する技術者像

学科では、学習・教育目的で挙げたように次に示す育成すべき技術者像を定めています。

未来の産業構造と社会変革に対応するため、電気電子工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに論理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野を持った技術者

■学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

学科では、学習・教育到達目標を以下の様に設定しています。

(A)	社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心を持つとともに、地球的視野を身につけた人材
(A-1)	社会観、経済観、歴史観、健康管理意識など、技術者としての教養と思考力を備え、地球的視野に立って行動できる。
(A-2)	技術者としての良識および倫理観を備え、自立した技術者として責任ある判断と行動ができる。
(A-3)	地域の産業に関心を持ち、地域社会が抱える技術課題の解決に向けた取り組みができる。
(B)	専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる人材
(B-1)	電気電子工学分野における技術者として必要な基礎数学力を身につけ応用できる。
(B-2)	基礎的な物理法則や化学法則を理解しており、自然科学的な知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
(B-3)	情報技術に関する基礎知識を身につけ、社会活動において必要なワードプロセッサの操作能力、表計算処理能力さらにはプレゼンテーション資料の作成能力などコンピュータ情報機器の基本的な操作ができる。
(C)	コミュニケーション能力と、国際人としての素養を身につけた人材
(C-1)	社会的および技術的に通用する技術報告書、業務日誌などの日本語文書を作成できる。また、与えられた課題について議論を行え、さらに課題解決・提案・報告などのプレゼンテーションができる。
(C-2)	英語による基礎的なコミュニケーション能力を有し、かつ英語による製品仕様書、機器取扱説明書あるいは技術資料などの読解ができる。また、その語学力を基盤として、国際交流・協調に活かすことができる。
(C-3)	電気電子工学分野に関わる国内外の動向に関心を持ち、また、国際的視野に立って技術課題の解決に向けた取り組みができる。
(D)	専門分野における知識を身につけ、課題の解決に向け応用できる人材
(D-1)	電気電子工学分野における技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
(D-2)	電気電子工学に関連する専門知識を有し、課題の解決に向け応用できる。
(E)	課題を発見し、業務を計画・遂行できる能力を身につけた人材
(E-1)	業務デザイン能力を備え、与えられた課題あるいは社会の要求に対して業務を計画・遂行し、課題の解決に向け応用できる。また、複数の技術者とチームを組んで積極的に協議し、リーダーもしくはメンバーとしての役割分担を通して、協働の中で役割を果たして問題解決を図ることができる。
(E-2)	取り組む技術課題に対して常に自主的、継続的に学習し、問題点を見つけ、改善を図るための一連の行動ができる。
(E-3)	与えられた制約の下で、計画的に仕事を遂行することができる。

■カリキュラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

学科では、学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1)	教育課程の骨格カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。
2)	総合的な人間力を養成する教育を実施します。導入転換科目では、「工学への関心」の科目を通して電気電子工学分野への興味を喚起します。また、「キャリアデザイン」の科目を通して、大学生活から卒業後の生涯に亘り、自分の目標を達成させるための手段や方法を身に付ける教育を実施します。総合教養科目では「人間科学」、「国際コミュニケーション」、「体育科学」、「総合学際」の科目群からなる幅広い教養科目を通して、社会人としての一般教養と技術者としての倫理観を養います。
3)	専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します。工学基礎科目では、数学、物理学、化学、実験を含む「工学基礎」の科目群を通して、専門科目の学習に必要な工学の基礎力を養います。
4)	専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します。高度な応用展開能力を養うため、「専門基礎」の科目を根幹とし、「電気エネルギーシステム系」、「情報・通信・メディア系」、「電子デバイス・システム制御系」の3つの系に分類して構成された科目群を、講義、演習、実験・実習および研修・研究を通して養成します。さらに各学年に配置した実験科目、さらには卒業研究によって編成される一連の実験・実習プログラムによってデザイン能力を修得させる教育を実施します。また、「原子力工学」の科目を通して、原子力に関する知識と技術を養います。
5)	地域社会とのつながりを重視した教育を実施します。先端技術工学、インターンシップあるいは学外研修を通じて、最新の科学技術や地域の地域課題について考える力を養います。
6)	グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します。総合教養科目を中心に、専門科目においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開します。これにより、グローバルな視野で物事を考えることができる素養を養成します。

■学習・教育方法

次の方法により教育を行います。

- 1) 各科目群におけるきめ細かい履修指導
- 2) もの造り、実験、演習などにより、実践力を養う体験型教育
- 3) コンピュータネットワークおよび情報メディア機器を用いたわかりやすい教育
- 4) 対話を重視したきめ細やかな教育
- 5) 総合的な教育の場として卒業研究を重視し、地域に根ざした研究や先端的研究を遂行
- 6) 資格取得支援科目による教育
- 7) 学生による「授業評価」制度で、授業方法や内容など教育に関する要望を検討・実現

電気電子工学科開講学年別授業科目表

(2019年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	■異文化コミュニケーション	2
電気電子工学入門②		□心 理 学	2	□職 業 倫 理②		★電気利用工学	2
電気電子工学概論	②	□哲 学	2	□日 本 国 憲 法	2	★機 械 工 学 概 論	2
□歴 史	2	□日 本 文 学	2	■英 語 特 別 演 習	2	★電気法規と電気施設管理	2
□経 済 学	2	□海 外 文 学	2	★電気電子工学総論Ⅱ	1	★電 磁 波 工 学	2
□地 域 学	2	■実践日本語表現	2	★電力輸送工学	2	★情報通信法規	2
■日 本 語 表 現 法	2	■英語コミュニケーションⅠ	2	★電気機器工学	2	★電気電子設計製図	2
■現 代 英 語 Ⅰ	②	■英語コミュニケーションⅡ	2	★高 電 界 工 学	2	卒 業 研 究	⑥
■現 代 英 語 Ⅱ	②	■中 国 語 Ⅲ	2	★パワーエレクトロニクス	2	★原子燃料サイクル・安全工学	2
■中 国 語 Ⅰ	2	▽スポーツ健康学	1	★電 子 回 路 Ⅱ	2		
■中 国 語 Ⅱ	2	▽主題別ゼミナールⅡ	2	★センサー応用工学	2		
▽体 育 学	1	▽主題別ゼミナールⅢ	2	★電気電子材料工学	2		
▽スポーツ特別演習	1	線 形 代 数②		★半 導 体 工 学	2		
▽主題別ゼミナールⅠ	2	確 率・統 計	2	★制 御 工 学 Ⅰ	2		
▽海 外 研 修	1	現代物理学概論	2	★制 御 工 学 Ⅱ	2		
微 分②		応用物理学概論	2	★情報メディア工学	2		
積 分②		環境とエネルギー②		★情報通信工学Ⅰ	2		
物 理 学 概 論	2	生 命 科 学	2	★情報通信工学Ⅱ	2		
基礎物理学Ⅰ②		電気電子数学Ⅰ②		★通信ネットワーク工学	2		
基礎物理学Ⅱ②		★電気電子数学Ⅱ	2	★リモートセンシング概論	1		
基礎化学Ⅰ	2	電 磁 気 学 Ⅰ②		◆電気エネルギーシステム実験	2		
基礎化学Ⅱ	2	電 磁 気 学 Ⅱ②		◆電子情報システム実験	2		
◇物理学実験	2	電磁気学演習Ⅰ②		★機 械 工 作 実 習	1		
◇化学実験	2	電磁気学演習Ⅱ②		△インターンシップ	1		
基礎情報科学②		電 気 回 路 Ⅰ②		△学 外 研 修	1		
電気回路入門②		電 気 回 路 Ⅱ②		先 端 技 術 工 学	①		
★原子力エネルギー	2	電 気 回 路 演 習 Ⅰ②		★原子力体感研修	2		
☆解 析 Ⅰ	2	電 気 回 路 演 習 Ⅱ②		☆特別専攻プロジェクトⅢ	2		
☆特別専攻プロジェクトⅠ	2	★電気電子工学総論Ⅰ	1	☆特別専攻ゼミナールⅡ	2		
		★電力発生工学	2	☆特別専攻ゼミナールⅢ	2		
		電 子 回 路 Ⅰ②					
		電 気 電 子 計 測②					
		★コンピュータプログラミング	0 2				
		★デジタル回路	2				
		創 造 工 学 実 験②					
		電 気 電 子 基 礎 実 験②					
		★放 射 線 の 利 用	2				
		☆解 析 Ⅱ	2				
		☆解 析 Ⅲ	2				
		☆特別専攻プロジェクトⅡ	2				
		☆特別専攻ゼミナールⅠ	2				

注 1. ○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注 2. この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注 3. □■▽は総合教養の選択科目、▲は工学基礎の選択科目、★は専門の選択科目、◆◇△は選択必修科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（右ページの卒業要件を参照のこと）。

注 4. ☆は特別専攻科目で、特別専攻コースの学生のみ履修できる。

電気電子工学科単位集計表

(2019年度入学生)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	10	10	20	20	16	14	30	50	2	1	3	53	0	6	6	59
	選択	12	22	34	34	21	28	49	83	22	29	51	134	14	2	16	150
	計	22	32	54	54	37	42	79	133	24	30	54	187	14	8	22	209
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 38単位以上				修得単位数 78単位以上				修得単位数 118単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 34単位以上				修得単位数 97単位以上 必修の修得単位数 50単位以上 ・電気電子工学入門と 電気電子工学概論を 修得のこと。 ・物理学実験と化学実 験のいずれかを修得 のこと。 ・下記16単位中12単 位上修得のこと。 電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ ・創造工学実験と電気 電子基礎実験を修得 のこと。				修得単位数 124単位以上 必修科目の全て 59単位 ・□印の科目から6単 位以上 ・■印の科目から4単 位以上 ・□、■、▽印の科目 の合計が14単位以 上 ・◇印の科目から2単 位以上 ・◆印の科目から2単 位以上 ・△印の科目から1単 位以上 ・★◆△印の科目から 33単位以上			

注1. この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2. 卒業要件の欄において、必修科目（62単位）、□、■、▽印（12単位）、△印（2単位）、◇印（2単位）、◆印（2単位）、★、◆印（32単位）の合計は110単位である。

電気電子工学科カリキュラム

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入転換 科 目	キャリアデザイン	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	1				
	工学への関心	電気電子工学入門②		電気電子工学概論②					
総合教養 科 目	人 間 科 学	□歴 史	2	□経 済 学	2	□心 理 学	2	□哲 学	2
				□地 域 学	2	□日 本 文 学	2		
	国 際 コミュニケーション			■日本語表現法	2	■実践日本語表現	2		
		■現代英語Ⅰ②		■現代英語Ⅱ②		■英語コミュニケーションⅠ	2	■英語コミュニケーションⅡ	2
	体 育 科 学	▽体 育 学	1	▽スポーツ特別演習	1	▽スポーツ健康学	1		
	総 合 学 際	▽海 外 研 修	1	▽主題別ゼミナールⅠ	2	▽主題別ゼミナールⅡ	2	▽主題別ゼミナールⅢ	2
工学基礎 科 目	工 学 基 礎	微 分	②	積 分	②	線 形 代 数	②	確 率 ・ 統 計	2
		物 理 学 概 論	2						
		基礎物理学Ⅰ②		基礎物理学Ⅱ②		現代物理学概論	2	応用物理学概論	2
		基礎化学Ⅰ	2	基礎化学Ⅱ	2	環境とエネルギー②		生 命 科 学	2
		◇物 理 学 実 験	2	◇化 学 実 験	2				
専門科目	専 門 基 礎	基礎情報科学②		電気回路入門②		電気電子数学Ⅰ②		★電気電子数学Ⅱ	2
						電 磁 気 学 Ⅰ②		電 磁 気 学 Ⅱ②	
						電磁気学演習Ⅰ②		電磁気学演習Ⅱ②	
						電 気 回 路 Ⅰ②		電 気 回 路 Ⅱ②	
						電気回路演習Ⅰ②		電気回路演習Ⅱ②	
	電気エネルギー システム系							★電気電子工学総論Ⅰ	1
								★電力発生工学	2
	電子デバイス・ システム制御系							電 子 回 路 Ⅰ②	
								電 気 電 子 計 測②	
	情報・通信・ メディア系							★コンピュータプログラミング	2
							★デジタル回路	2	
実験・製図・ 研修・研究						創造工学実験②		電気電子基礎実験②	
特別専攻 科 目	特 別 専 攻			☆解 析 Ⅰ	2	☆解 析 Ⅱ	2	☆解 析 Ⅲ	2
				☆特別専攻プロジェクトⅠ	2			☆特別専攻プロジェクトⅡ	2
								☆特別専攻ゼミナールⅠ	2
		進級要件 総計28単位以上（必修12単位以上）				進級要件 総計60単位以上（必修34単位以上）			
		修得単位数				修得単位数			

注 1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。○は必修科目、その他は選択科目を意味する。

■ は必修科目

□ は選択必修科目、その他は選択科目を意味する

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位		
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科 目
□職業倫理②		□日本国憲法	2					人 間 科 学	総合教養 科 目
■英語特別演習	2			■異文化コミュニケーション	2			国 際 コミュニケーション	
								体 育 科 学	
								総 合 学 際	
								工 学 基 礎	工学基礎 科 目
								専 門 基 礎	専門科目
★電気電子工学総論Ⅱ	1								
★電力輸送工学	2	★電気機器工学	2	★電気利用工学	2			電気エネルギー システム系	
★高電界工学	2	★パワーエレクトロニクス	2	★機械工学概論	2				
				★電気法規と電気施設管理	2				
★電子回路Ⅱ	2	★センサー応用工学	2					電子デバイス・ システム制御系	
★電気電子材料工学	2	★半導体工学	2						
★制御工学Ⅰ	2	★制御工学Ⅱ	2					情報・通信・ メディア系	
★情報メディア工学	2	★リモートセンシング概論	1						
★情報通信工学Ⅰ	2	★情報通信工学Ⅱ	2	★電磁波工学	2			情報・通信・ メディア系	
		★通信ネットワーク工学	2	★情報通信法規	2				
◆電気エネルギーシステム実験	2	◆電子情報システム実験	2	★電気電子設計製図	2			実験・製図・ 研修・研究	
★機械工作実習	1	★インターンシップ	1	卒 業 研 究	6				
		★学 外 研 修	1					実験・製図・ 研修・研究	
		先端技術工学①							
		★原子力体感研修	2			★原子燃料サイクル・安全工学	2	原 子 力 工 学	
		☆特別専攻プロジェクトⅢ	2					特 別 専 攻 科 目	
☆特別専攻ゼミナールⅡ	2	☆特別専攻ゼミナールⅢ	2						
進級要件 総計97単位以上（必修50単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修59単位以上）					
修得単位数				修得単位数					

電気電子工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心	* 電気電子工学入門	地 域 学 海 外 研 修	* 創 造 工 学 実 験	* 電気電子基礎実験
②感動する心		* 電気電子工学概論 海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学	
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I * 電気電子工学入門 歴 史 体 育 学	* 電気電子工学概論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 化 学 実 験 特別専攻プロジェクト I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 創 造 工 学 実 験	* 電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクト II
④人間環境理解力		* 電気電子工学概論 経 済 学 地 域 学	心 理 学 海 外 文 学	哲 学 生 命 科 学
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I * 電気電子工学入門 体 育 学	* 電気電子工学概論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 創 造 工 学 実 験	* 電気電子基礎実験
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I * 電気電子工学入門 体 育 学	* 電気電子工学概論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ス ポ ー ツ 健 康 学 * 環 境 と エ ネ ル ギ ー * 創 造 工 学 実 験	* 電気電子基礎実験
⑦日本語コミュニケーション・スキル	* 電気電子工学入門 歴 史 * 現 代 英 語 I * 基 礎 情 報 科 学	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 II	実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I * 創 造 工 学 実 験	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II * 電気電子基礎実験
⑧外国語コミュニケーション・スキル	* 現 代 英 語 I 中 国 語 I * 基 礎 情 報 科 学	* 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
⑨チームワーク力	* 電気電子工学入門 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 特別専攻プロジェクト I	ス ポ ー ツ 健 康 学 * 創 造 工 学 実 験	* 電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクト II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
電気エネルギーシステム実験	日本国憲法 電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 原子力体感研修	* 卒業研究		①寛容な心
	インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修	* 卒業研究		②感動する心
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		③主体性
電気エネルギーシステム実験 機械工作実習	電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ			
	日本国憲法 インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修	* 卒業研究		④人間環境理解力
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修			
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		⑥倫理観・規律性
* 職業倫理 電気エネルギーシステム実験	日本国憲法 電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修	電気法規と電気施設管理 情報通信法規		
英語特別演習 電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 原子力体感研修	* 卒業研究		⑦日本語コミュニケーション・スキル
		異文化コミュニケーション		
英語特別演習		* 卒業研究		⑧外国語コミュニケーション・スキル
		異文化コミュニケーション		
電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究		⑨チームワーク力

電気電子工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑩リーダーシップ力	＊電気電子工学入門	特別専攻プロジェクトⅠ	＊創造工学実験	＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	＊電気電子工学入門 歴史 中国語Ⅰ ＊微分	＊電気電子工学概論 経済学 地域学 中国語Ⅱ ＊積分 特別専攻プロジェクトⅠ	心理学 日本文学 海外文学 中国語Ⅲ ＊線形代数 ＊創造工学実験	確率・統計 生命科学 ＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ
⑫数量的スキル	＊微分 物理学概論 ＊基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	経済学 ＊積分 ＊基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験Ⅱ ＊電気回路入門 解析Ⅰ	＊線形代数 現代物理学概論 ＊電気電子数学Ⅰ ＊電磁気学Ⅰ ＊電磁気学演習Ⅰ ＊電気回路Ⅰ ＊電気回路演習Ⅰ 解析Ⅱ	確率・統計 応用物理学概論 電気電子数学Ⅱ ＊電磁気学Ⅱ ＊電気学演習Ⅱ ＊電気回路Ⅱ ＊電気回路演習Ⅱ 電気電子工学総論Ⅰ 解析Ⅲ
⑬情報リテラシー力	＊現代英語Ⅰ ＊基礎情報科学	＊現代英語Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ コンピュータプログラミング
⑭論理的思考力	歴史 ＊微分 物理学概論 ＊基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	日本語表現法 ＊積分 ＊基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 特別専攻プロジェクトⅠ	心理学 日本文学 海外文学 実践日本語表現 ＊線形代数 現代物理学概論 ＊環境とエネルギー	哲学 確率・統計 応用物理学概論 デジタル回路 特別専攻プロジェクトⅡ
⑮問題解決力	＊電気電子工学入門 ＊微分 ＊基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ ＊基礎情報科学	＊電気電子工学概論 経済学 ＊積分 ＊基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 原子力エネルギー 特別専攻プロジェクトⅠ	心理学 主題別ゼミナールⅡ ＊線形代数 ＊環境とエネルギー ＊電磁気学Ⅰ ＊電磁気学演習Ⅰ ＊電気回路Ⅰ ＊電気回路演習Ⅰ ＊創造工学実験 放射線の利用	主題別ゼミナールⅢ 確率・統計 ＊電磁気学Ⅱ ＊電磁気学演習Ⅱ ＊電気回路Ⅱ ＊電気回路演習Ⅱ 電気電子工学総論Ⅰ 電力発生工学 ＊電子回路Ⅰ ＊電気電子計測 コンピュータプログラミング デジタル回路 ＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ
⑯専門基礎原理の理解力	＊電気電子工学入門 物理学概論 ＊基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	＊基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 ＊電気回路入門	現代物理学概論 ＊環境とエネルギー ＊電気電子数学Ⅰ ＊電磁気学Ⅰ ＊電磁気学演習Ⅰ ＊電気回路Ⅰ ＊電気回路演習Ⅰ ＊創造工学実験	応用物理学概論 生命科学 電気電子数学Ⅱ ＊電磁気学Ⅱ ＊電磁気学演習Ⅱ ＊電気回路Ⅱ ＊電気回路演習Ⅱ 電気電子工学総論Ⅰ ＊電気電子基礎実験 特別専攻ゼミナールⅠ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
電気エネルギーシステム実験	電気情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑩リーダーシップ力
電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 * 先 端 技 術 工 学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
電気電子工学総論Ⅱ	リモートセンシング概論	* 卒 業 研 究 電気電子設計製図		⑫数量的スキル
英語特別演習 情報メディア工学		* 卒 業 研 究		⑬情報リテラシー力
制御工学Ⅰ 情報通信工学Ⅰ	制御工学Ⅱ 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑭論理的思考力
電気電子工学総論Ⅱ 電力輸送工学 高電界工学 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 制御工学Ⅰ 情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ 電気エネルギーシステム実験 機械工作実習	日本国憲法 電気機器工学 パワーエレクトロニクス センサー応用工学 半導体工学 制御工学Ⅱ 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 リモートセンシング概論 電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 * 先 端 技 術 工 学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究 電気利用工学 機械工学概論 電気法規と電気施設管理 電磁波工学 情報通信法規 電気電子設計製図	原子燃料サイクル・安全工学	⑮問題解決力
電気電子工学総論Ⅱ 電気エネルギーシステム実験 機械工作実習 特別専攻ゼミナールⅡ	リモートセンシング概論 電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒 業 研 究		⑯専門基礎原理の理解力

電気電子工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑰専門基礎原理の高度 応用展開力	＊電気電子工学入門 ＊基礎情報科学	＊電気電子工学概論 原子力エネルギー	現代物理学概論 ＊創造工学実験 放射線の利用	応用物理学概論 電力発生工学 ＊電子回路Ⅰ ＊電気電子計測 コンピュータプログラミング デジタル回路 ＊電気電子基礎実験 特別専攻ゼミナールⅠ
⑱継続的学習経験	＊電気電子工学入門 ＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ ＊微分 物理学概論 ＊基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	＊電気電子工学概論 日本語表現法 ＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ ＊積分 ＊基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験	海外文学 実践日本語表現 英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ 主題別ゼミナールⅡ ＊線形代数 ＊創造工学実験	英語コミュニケーションⅡ 主題別ゼミナールⅢ 確率・統計 生命科学 電気電子工学総論Ⅰ ＊電気電子基礎実験
⑲市民としての社会的 責任感	＊電気電子工学入門 歴史 ＊基礎情報科学	＊電気電子工学概論	＊創造工学実験	＊電気電子基礎実験
⑳異文化理解力	＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ 物理学概論	＊電気電子工学概論 経済学 地域学 ＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ 海外研修	日本文学 海外文学 英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ	英語コミュニケーションⅡ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
電力輸送工学 高電界工学 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 制御工学 情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ 電気エネルギーシステム実験 特別専攻ゼミナールⅡ	電気機器工学 パワーエレクトロニクス センサー応用工学 半導体工学 制御工学Ⅱ 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 リモートセンシング概論 電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 *先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻ゼミナールⅢ	*卒業研究 電気利用工学 機械工学概論 電気法規と電気施設管理 電磁波工学 情報通信法規 電気電子設計製図	原子燃料サイクル・安全工学	⑰専門基礎原理の高度 応用展開力
英語特別演習 電気電子工学総論Ⅱ 電気エネルギーシステム実験	電気情報システム実験 インターンシップ 学外研修 *先端技術工学 原子力体感研修	*卒業研究		⑱継続的学習経験
*職業倫理 電気エネルギーシステム実験	日本国憲法 電子情報システム実験 インターンシップ 学外研修 *先端技術工学 原子力体感研修	*卒業研究 電気法規と電気施設管理 情報通信法規		⑲市民としての社会的 責任感
英語特別演習	インターンシップ 学外研修 *先端技術工学 原子力体感研修	*卒業研究 異文化コミュニケーション		⑳異文化理解力

電気電子工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 A	A-1	歴 史 ＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I 体 育 学	経 済 学 地 域 学 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I 海 外 研 修 化 学 実 験	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 英語コミュニケーション I 中 国 語 III ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II ＊ 環 境 と エ ネ ル ギ ー	哲 学 英語コミュニケーション II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III
	A-2		＊ 電 気 電 子 工 学 概 論	心 理 学	哲 学
	A-3	歴 史	＊ 電 気 電 子 工 学 概 論 経 済 学 地 域 学 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I		特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II
目標 B	B-1	＊ 微 分	＊ 積 分 ＊ 電 気 回 路 入 門 解 析 I	＊ 線 形 代 数 ＊ 電 気 電 子 数 学 I 解 析 II	確 率 ・ 統 計 電 気 電 子 数 学 II 解 析 III
	B-2	物 理 学 概 論 ＊ 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 物 理 学 実 験	＊ 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 化 学 実 験	心 理 学 現 代 物 理 学 概 論 ＊ 環 境 と エ ネ ル ギ ー	応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学
	B-3	＊ 現 代 英 語 I ＊ 基 礎 情 報 科 学	＊ 現 代 英 語 II	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション II
目標 C	C-1	歴 史	日 本 語 表 現 法 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I	実 践 日 本 語 表 現 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III
	C-2	＊ 現 代 英 語 I	＊ 現 代 英 語 II 海 外 研 修	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション II
	C-3	中 国 語 I 体 育 学	＊ 電 気 電 子 工 学 概 論 中 国 語 II ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修	中 国 語 III ス ポ ー ツ 健 康 学	
目標 D	D-1			＊ 電 磁 気 学 I ＊ 電 磁 気 学 演 習 I ＊ 電 気 回 路 I ＊ 電 気 回 路 演 習 I	＊ 電 磁 気 学 II ＊ 電 磁 気 学 演 習 II ＊ 電 気 回 路 II ＊ 電 気 回 路 演 習 II 電 気 電 子 工 学 総 論 I
	D-2	＊ 電 気 電 子 工 学 入 門	＊ 電 気 電 子 工 学 概 論 原 子 力 エ ネ ル ギ ー	＊ 創 造 工 学 実 験 放 射 線 の 利 用	電 力 発 生 工 学 ＊ 電 子 回 路 I ＊ 電 気 電 子 計 測 コ ン ピ ュ ー タ プ ロ グ ラ ミ ン グ デ ィ ジ タ ル 回 路 ＊ 電 気 電 子 基 礎 実 験

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
* 職業倫理 英語特別演習	日本国憲法	異文化コミュニケーション		A-1
* 職業倫理	日本国憲法	* 卒業研究	A-2	目標 A
インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ		* 卒業研究	A-3	
			B-1	目標 B
* 職業倫理		* 卒業研究	B-2	
英語特別演習		* 卒業研究	B-3	
		* 卒業研究	C-1	目標 C
英語特別演習		* 卒業研究	C-2	
インターンシップ 学外研修 * 先端技術工学 原子力体感研修		* 卒業研究 異文化コミュニケーション	C-3	
電気電子工学総論Ⅱ			D-1	目標 D
電力輸送工学 高電界工学 電子回路Ⅱ 電気電子材料工学 制御工学Ⅰ 情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ 電気エネルギーシステム実験 機械工作実習	電気機器工学 パワーエレクトロニクス センサー応用工学 半導体工学 制御工学Ⅱ 情報通信工学Ⅱ 通信ネットワーク工学 リモートセンシング概論 電子情報システム実験 * 先端技術工学	電気利用工学 機械工学概論 電気法規と電気施設管理 電磁波工学 情報通信法規 電気電子設計製図	原子燃料サイクル・安全工学 D-2	

電気電子工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 E	E－1	＊電気電子工学入門	特別専攻プロジェクトⅠ	＊創造工学実験	＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ
	E－2	キャリアデザインⅠ ＊電気電子工学入門	＊電気電子工学概論 特別専攻プロジェクトⅠ	キャリアデザインⅡ ＊創造工学実験	＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅠ
	E－3	＊電気電子工学入門	＊電気電子工学概論 特別専攻プロジェクトⅠ	＊創造工学実験	＊電気電子基礎実験 特別専攻プロジェクトⅡ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		E-1
キャリアデザインⅢ		* 卒 業 研 究		E-2
電気エネルギーシステム実験 特別専攻ゼミナールⅡ	電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 * 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ 特別専攻ゼミナールⅢ			E-3
電気エネルギーシステム実験	電子情報システム実験 インターンシップ 学 外 研 修 * 先端技術工学 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		E-3

目 標 E

電気電子工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○														
電気電子工学入門	第1学年前期	必修	○		◎		◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
電気電子工学概論	第1学年後期	必修		○	◎	○	◎	◎					◎				◎		◎	◎	◎	○
心理学	第2学年前期	選択				○	○						○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○										◎						
職業倫理	第3学年前期	必修						◎												◎		
日本文学	第2学年前期	選択		○									◎			○						◎
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○							○			○				○		◎
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○									○			◎		
歴史	第1学年前期	選択			○				○				○			◎				○		
経済学	第1学年後期	選択				○							◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○							◎									◎
日本語表現法	第1学年後期	選択							◎							○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択							◎							○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修							○	◎					○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択							○	◎					○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択							○	◎					○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択								◎			○							○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択							○	○												◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ特別演習	第1学年後期	選択			○		○	○			○											
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択																		○		
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択															○			○		
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択															○			○		
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○											◎
微分	第1学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
積分	第1学年後期	必修											○	◎		○	○			○		
線形代数	第2学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
確率・統計	第2学年後期	選択											○	◎		○	○			○		
物理学概論	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		○

学習・到達目標												
目標 A			目標 B			目標 C			目標 D		目標 E	
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心を持つとともに、地球的視野を身につけた人材			専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる人材			コミュニケーション能力と、国際人としての素養を身につけた人材			専門分野における知識を身につけ、課題の解決に向け応用できる人材		課題を発見し、業務を計画・遂行できる能力を身につけた人材	
A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	E-1	E-2
社会観、経済観、歴史観、健康管理意識など、技術者としての教養と思考力を備え、地球視野に立つて行動できる	技術者としての良識および倫理観を備え、自立した技術者としての責任ある判断と行動ができる	地域の産業に関心を持ち、地域社会が抱える技術課題の解決に向けた取り組みができる	電気電子工学分野における技術者として必要な基礎数学力を身につけ応用できる	基礎的な物理法則あるいは化学法則を理解しており、自然科学的な知識を有し、課題の解決に向け応用できる	情報技術に関する基礎知識を身につけ、社会活動において必要なワイドプロセッサの操作能力、表計算処理能力さらにはプレゼンテーション資料の作成能力などコンピュータ情報機器の基本的な操作ができる	社会のおよび技術的に通用する技術報告書、業務日誌などの日本語文書を作成できる。また、与えられた課題について議論を行え、さらに課題解決・提案、報告などのプレゼンテーションができる	英語による基礎的なコミュニケーション能力を有し、かつ英語による製品仕様書・機器取扱説明書あるいは技術資料などの読解ができる。また、その語学力を基盤として、国際交流・協調に活かすことができる	電気電子工学分野に関わる国内外の動向に関心を持ち、また、国際的視野に立つて技術課題の解決に向けた取り組みができる	電気電子工学技術者として備えるべき基礎知識を有し、課題の解決に向け応用できる	電気電子工学に関連する専門知識を有し、課題の解決に向け応用できる	業務デザイン能力を備え、与えられた課題あるいは社会の要求に対して業務を計画・遂行し、課題の解決に向け応用できる。また、複数の技術者とチームを組んで積極的に協議し、リーダーもしくはメンバーとしての役割分担を通して、協働の中で役割を果たして問題解決を図ることができる	取り組む技術課題に対して常に自主的、継続的に学習し、問題点を見つけ、改善を図るための一連の行動ができる
												◎
												◎
												◎
										◎	○	○
◎	○	○		○				○		◎		○
○	○			○								
○	○			○								
○												
○	○											
◎		○				○						
◎		○										
○		◎				◎						
						◎						
○					○		◎					
○					○		◎					
○					○		◎					
○					○		◎					
○								○				
○								○				
○								○				
○								○				
○								○				
○						○						
○						○						
○						○						
○							○	○				
			◎									
			◎									
			◎									
			◎									
				◎								

電気電子工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期	必修												○		○	○	◎		○		
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期	必修												○		○	○	◎		○		
現代物理学概論	第2学年前期	選択												○		○		◎	○			
応用物理学概論	第2学年後期	選択												○		○		◎	○			
基礎化学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎化学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
環境とエネルギー	第2学年前期	必修						○								○	○	◎				
生命科学	第2学年後期	選択				○							○					◎		○		
物理学実験	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		
化学実験	第1学年後期	選択			○									○		○	○	◎		○		
基礎情報科学	第1学年前期	必修							○	○					◎		○		◎		○	
電気回路入門	第1学年後期	必修												◎				◎				
電気電子数学Ⅰ	第2学年前期	必修												◎				◎				
電気電子数学Ⅱ	第2学年後期	選択												◎				◎				
電磁気学Ⅰ	第2学年前期	必修												○			○	◎				
電磁気学Ⅱ	第2学年後期	必修												○			○	◎				
電磁気学演習Ⅰ	第2学年前期	必修												○			○	◎				
電磁気学演習Ⅱ	第2学年後期	必修												○			○	◎				
電気回路Ⅰ	第2学年前期	必修												○			○	◎				
電気回路Ⅱ	第2学年後期	必修												○			○	◎				
電気回路演習Ⅰ	第2学年前期	必修												○			○	◎				
電気回路演習Ⅱ	第2学年後期	必修												○			○	◎				
電気電子工学総論Ⅰ	第2学年後期	選択												○			○	◎		○		
電気電子工学総論Ⅱ	第3学年前期	選択												○			○	◎		○		
電力発生工学	第2学年後期	選択															○		◎			
電力輸送工学	第3学年前期	選択															○		◎			
電気機器工学	第3学年後期	選択															○		◎			
電気利用工学	第4学年前期	選択															○		◎			
高電界工学	第3学年前期	選択															○		◎			
パワーエレクトロニクス	第3学年後期	選択															○		◎			
機械工学概論	第4学年前期	選択															○		◎			
電気法規と電気施設管理	第4学年前期	選択						○									○		◎		○	
電子回路Ⅰ	第2学年後期	必修															○		◎			
電子回路Ⅱ	第3学年前期	選択															○		◎			
電気電子計測	第2学年後期	必修															○		◎			
センサー応用工学	第3学年後期	選択															○		◎			
電気電子材料工学	第3学年前期	選択															○		◎			

電気電子工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
半導体工学	第3学年後期	選択															○		◎			
制御工学Ⅰ	第3学年前期	選択														○	○		◎			
制御工学Ⅱ	第3学年後期	選択														○	○		◎			
コンピュータプログラミング	第2学年後期	選択													○		○		◎			
情報メディア工学	第3学年前期	選択													○		○		◎			
デジタル回路	第2学年後期	選択														○	○		◎			
情報通信工学Ⅰ	第3学年前期	選択														○	○		◎			
情報通信工学Ⅱ	第3学年後期	選択														○	○		◎			
通信ネットワーク工学	第3学年後期	選択														○	○		◎			
電磁波工学	第4学年前期	選択															○		◎			
情報通信法規	第4学年前期	選択						○									○		◎		○	
リモートセンシング概論	第3学年後期	選択												○			○	◎	◎			
創造工学実験	第2学年前期	必修	○		◎		◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
電気電子基礎実験	第2学年後期	必修	○		◎		◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
電気エネルギーシステム実験	第3学年前期	選択	○		◎		◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
電子情報システム実験	第3学年後期	選択	○		◎		◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
電気電子設計製図	第4学年前期	選択												○			○		◎			
機械工作実習	第3学年前期	選択			◎												○	◎				
インターンシップ	第3学年後期	選択	○	○	◎	○	◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	○
学外研修	第3学年後期	選択	○	○	◎	○	◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	○
先端技術工学	第3学年後期	必修		○	◎	○	◎	◎					◎				◎	◎	◎	◎	◎	○
卒業研究	第4学年通年	必修	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
原子力エネルギー	第1学年後期	選択															○		◎			
放射線の利用	第2学年前期	選択															○		◎			
原子力体感研修	第3学年後期	選択	○	○	◎	○	◎	◎	○		◎	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	○
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期	選択															○		◎			
解析Ⅰ	第1学年後期	選択												◎								
解析Ⅱ	第2学年前期	選択												◎								
解析Ⅲ	第2学年後期	選択												◎								
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	◎			

學習・到達目標

2.12.3 システム情報工学科の学習・教育到達目標と教育課程

■教育目的

情報通信技術（ICT）は、地球規模で進歩しており、日本においても地域を問わず人々が豊かな生活を送る上で、必須の基盤技術となっています。情報技術は学際的、複合的な技術であるため、マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システムなどの情報分野および情報関連分野の他に、人間科学、国際コミュニケーションなど幅広いカリキュラムで教育する必要があります。情報通信技術の分野で地域産業の活性化と発展をはかるため、科学と工学の基礎知識、情報技術の専門知識、国際的視野に立った幅広い教養と倫理観などを備え、時代の変化に対応できる能力をもった技術者を養成することを本学科の教育目的としています。

□コースについて

本学科では、専門分野に偏らない広い視野をもてるよう、フレキシブルに科目を履修できる制度を整えています。卒業後の進路に合わせたコースを選択し、専門的な知識・技術を学びます。また、他コースの科目も履修でき、目標に向けた専門知識を養えます。

・メディア情報コース

CG（コンピュータグラフィクス）、Web、映像など多彩なメディアの基礎技術と情報表現力を修得します。CG やウェブコンテンツの創作など次世代メディア社会のエンジニアやクリエイタを育成します。

・ネットワーク・セキュリティコース

サーバを含むネットワークやクラウドの設計・構築・管理・運用および情報セキュリティに関わる技術を修得します。ネットワーク社会の基盤を支えるネットワークエンジニアや情報セキュリティスペシャリストを育成します。

・応用情報コース

情報システムの設計・構築・管理・運用や

コンピューティングに関わる技術を幅広く修得します。情報社会の基盤を支えるプログラムやシステムエンジニアを育成します。

■システム情報工学科の学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

学習・教育到達目標に基づく所定の教育課程を修め、情報通信技術（ICT）および情報関連分野における以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けている。
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる。
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けている。
- (D) 情報技術の専門知識と応用展開能力を身につけ、社会の課題に対して実践的に対応できる。
- (E) 自ら積極的に学ぶ意欲および時代変化に継続的に対処する能力をもち、情報技術の融合によって課題解決できる。

■カリキュラム編成方針・教育方法（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。

社会と接点のある豊かな人間性と総合的な判断力、ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養

成します。社会の発展に貢献する情報技術について国際的視野にたった教育を実施し、教養と倫理観を備え時代の変化に対応できる幅広い能力をもった技術者を養成します。

2) 地球的視野と地域社会への関心を身につけた人材を養成する教育を実施します。

地域社会への関心を喚起するための教育を実施し、情報技術者として地域社会の課題についてグローバルな視点から意見を表現できる技術者を養成します。情報技術が地域社会に及ぼす影響や情報技術者としての社会的責任を理解できるように、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、地域社会の課題について多面的な視点から課題を解決できる素養を養成します。

3) 専門分野の基礎知識をもち、社会の発展に貢献できる人材を養成する教育を実施します。

自然科学の基礎知識と工学の基礎知識、そして情報技術の基礎知識を習得する科目を充実させ、自然科学の基本的な性質や現象を理解し、工学や情報技術の基礎的な知識を課題の解決に活用できる人材を養成します。

4) コミュニケーション能力と国際交流の素養を身に付けた人材を養成する教育を実施します。

グループワークを通して口頭発表力を養うための教育を実施し、質問の意図を理解し、自分の意見を明確に応答できる人材を養成します。情報技術の専門用語を含む英語など外国語について、文章の内容を理解し、文章を作成できる素養をもった人材を養成します。

5) 情報技術の専門知識と応用展開能力によって、実践的な対応ができる技術者を養成する教育を実施します。

ソフトウェアの基礎知識を養い、その制作力を養う教育を実施することで、ソフトウェア設計の概念を理解し、仕様に基づいてプログラムを制作できる技術者を養成します。シ

ステムの基礎知識を養い、その実習科目において応用力を養う教育を実施することで、システムの数理的な概念を、システム構築に応用できる技術者を養成します。情報ネットワークの基礎知識を養い、構築力を養う教育を実施することで、仕様に基づいてネットワークを構築できる技術者を養成します。

6) 積極性と継続力をもち、融合された情報技術によって課題を解決できる技術者を養成する教育を実施します。

自発的で継続的な学習意欲を養うための教育を実施し、計画的に課題を解決できる技術者を養成します。デザイン能力を養う教育を実施し、複数解が存在する課題に対し、具体的な解決法を立案できる技術者を養成します。

□カリキュラム編成方針

教育到達目標の実現のため、以下の方針でカリキュラムを編成しています。

- 1) 4年間一貫教育：導入転換科目から専門科目まで連携のとれた教育課程を編成し、教育到達目標 A を実現します。
- 2) 導入転換科目：大学教育に馴染ませ、工学への関心を喚起する科目を編成し、教育到達目標 A、E を実現します。
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群を構成し、教育到達目標 A、B、C を実現します。
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理、化学の科目群を構成し、教育到達目標 B を実現します。
- 5) 専門科目：専門基礎、メディア情報、ネットワーク・セキュリティ、応用情報、実験・実習・研修・研究などの科目群を構成し、教育到達目標 A、B、C、D、E を実現します。

□教育方法

教育到達目標の実現のため、以下の方法で教育を実施します。

- 1) 各科目群の履修単位を調和させ、きめ細かい履修指導を実施します。
- 2) 教育到達目標 D の実現のため、実験を重視した実践的な教育を実施します。
- 3) 教育到達目標 B、D、E の実現のため、講義と実習を併用した分かり易い教育を実施します。
- 4) 教育到達目標 B、C、E の実現のため、少人数で、理解度を深める教育を実施します。
- 5) 教育到達目標全体と関連した総合的教育の最終目標として、卒業研究を特に重視します。

システム情報工学科開講学年別授業科目表

(2019年度入学生用)

[illegible]

注1. 科目名称の後の○で囲まれた数字は必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2. この科目表には、特別専攻科目と進級要件、卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注3. 総合教養科目、工学基礎科目、専門科目については、それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（95ページの卒業要件、96・97ページのカリキュラムを参照のこと）。

システム情報工学科単位集計表

(2019年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	12	10	22	22	13	9	22	44	3	1	4	48	3	3	6	54
	選択	13	23	36	36	23	25	48	84	26	26	52	136	2	2	4	140
	計	25	33	58	58	36	34	70	128	29	27	56	184	5	5	10	194
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 35単位以上				修得単位数 70単位以上				修得単位数 110単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 25単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 35単位以上 ・ 情報工学基礎実験 Ⅰ および情報工学 基礎実験Ⅱの単位 を修得すること。				修得単位数 124単位以上 必修の修得単位数 54単位すべて ただし ・ 総合教養科目から必 修を含めて20単位 以上を修得するこ と。 ・ 工学基礎科目の物理 学実験、化学実験か ら2単位以上を修得 すること。 ・ 工学基礎科目（物理 学実験、化学実験を 除く）から必修を含 めて14単位以上を 修得すること。 ・ 専門科目から必修 を含めて70単位以 上を修得すること。 （科目区分は、96・ 97ページのカリキュ ラムを参照のこと）			

注1. この集計表には、特別専攻科目と進級要件、卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

システム情報工学科カリキュラム

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入転換 科 目	キャリアデザイン	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	1				
	工学への関心	情報基礎ゼミナール	②	情報工学概論	②				
		情報科学アラカルト	②						
総合教養 科 目	人 間 科 学	歴 史	2	経 済 学	2	心 理 学	2	哲 学	2
				地 域 学	2	日 本 文 学	2		
	国 際 コミュニケーション			日 本 語 表 現 法	2	実 践 日 本 語 表 現	2		
		現 代 英 語 I	②	現 代 英 語 II	②	英 語 コミュニケーション I	2	英 語 コミュニケーション II	2
	中 国 語 I	2	中 国 語 II	2	中 国 語 III	2			
	体 育 科 学	体 育 学	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
総 合 学 際			主題別ゼミナール I	2	主題別ゼミナール II	2	主題別ゼミナール III	2	
工学基礎 科 目	工 学 基 礎	微 分	②	積 分	②	線 形 代 数	②	確 率・統 計	2
		基 礎 物 理 学 I	2	基 礎 物 理 学 II	2	現 代 物 理 学 概 論	2	応 用 物 理 学 概 論	2
		基 礎 化 学 I	2	基 礎 化 学 II	2			生 命 科 学	2
		物 理 学 実 験	2	化 学 実 験	2				
専門科目	専 門 基 礎	基礎情報科学	②	離 散 数 学	2	情 報 数 理	②	シ ス テ ム 数 理	②
								計 測 情 報 工 学	2
						オペレーティングシステム	②	デ ー タ ベ ー ス	②
		プログラミング入門	②	プログラミング言語	②	データ構造とアルゴリズム	②	プ ロ グ ラ ム 設 計	②
	メディア情報					コンピュータシステム	②	論 理 回 路	②
		コンテンツ制作入門	2	ウェブデザイン	②	産 業 情 報 論	2	経 営 情 報 論	2
	ネットワーク・ セキュリティ					コンピュータグラフィックス	2	ビジュアル情報処理	2
						情報通信工学	②	情報ネットワーク入門	2
	応 用 情 報							情報セキュリティ入門	2
	実験・実習・ 研修・研 究・その他							電 気 工 学	2
	原 子 力 工 学								
		進級要件 総計25単位以上（必修10単位以上）				進級要件 総計60単位以上（必修25単位以上）			
		修得単位数				修得単位数			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。○は必修科目、その他は選択科目を意味する。

注2. この表には、特別専攻科目と進級要件、卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注3. 4年への進級要件（必修35単位以上）には、情報工学基礎実験Iおよび情報工学基礎実験IIの単位修得を含む。

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科目
職 業 倫 理 ②		日 本 国 憲 法	2					人 間 科 学	総合教養 科目
英 語 特 別 演 習	2			異文化コミュニケーション	2			国 際 コミュニケーション	
								体 育 科 学	
								総 合 学 際	
								工 学 基 礎	工学基礎 科目
グラフ理論入門	2							専 門 基 礎	専門科目
マルチメディア工学	2	パターン情報処理	2					メディア情報	
人間情報科学	2	情報文化論	2					ネットワーク・ セキュリティ	
		情報ネットワーク構築	2						
		情報セキュリティ	2						
情報システム論	2	ロボット工学	2					応 用 情 報	
制御工学	2	シミュレーション工学	2						
デジタル信号処理	2	知識工学	2						
言語とコンパイラ	2	数値解析	2						
		集積回路	2						
電子工学	2								
設計・製図	2								
機械工学概論	2							実験・実習・ 研修・研究・その他	
機械工作実習	1								
情報工学応用実験Ⅰ	①	情報工学応用実験Ⅱ	①	卒 業 研 究 ⑥					
情報工学特別講義	2	情報専門ゼミナール	2						
学 外 研 修	1								
		原子力体感研修	2			原子燃料サイクル・ 安全工学	2	原 子 力 工 学	
進級要件 総計100単位以上（必修35単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修54単位すべてを含む）					
修得単位数				修得単位数					

注 4. 卒業要件を以下に示す。

- ・総合教養科目から必修を含めて20単位以上を修得すること。
- ・工学基礎科目の物理学実験、化学実験から2単位以上を修得すること。
- ・工学基礎科目（物理学実験、化学実験を除く）から必修を含めて14単位以上を修得すること。
- ・専門科目から必修を含めて70単位以上を修得すること。

システム情報工学科コースごとの履修モデルケース（専門科目）

（2019年度入学生用）

区 分	分 野	授業科目	単位数		コース			摘 要
			必修	選択	メディア情報	ネットワーク・セキュリティ	応用情報	
専門科目	専門基礎	基礎情報科学	2		◎	◎	◎	左記の各コース履修科目において、◎は必修科目、○は選択科目を示す。必修科目を含み修得単位数が70単位以上になるように、他コースの選択科目も履修すること。
		離散数学		2	○	○	○	
		情報数理	2		◎	◎	◎	
		システム数理	2		◎	◎	◎	
		グラフ理論入門		2	○	○	○	
		計測情報工学		2	○	○	○	
		オペレーティングシステム	2		◎	◎	◎	
		データベース	2		◎	◎	◎	
		プログラミング入門	2		◎	◎	◎	
		プログラミング言語	2		◎	◎	◎	
		データ構造とアルゴリズム	2		◎	◎	◎	
		プログラム設計	2		◎	◎	◎	
		コンピュータシステム	2		◎	◎	◎	
		論理回路	2		◎	◎	◎	
		コンテンツ制作入門		2	○	○	○	
		ウェブデザイン	2		◎	◎	◎	
	メディア情報	産業情報論		2	○	○	○	
		経営情報論		2	○	○	○	
		コンピュータグラフィックス		2	○			
		ビジュアル情報処理		2	○			
		マルチメディア工学		2	○			
		人間情報科学		2	○			
	ネットワーク・セキュリティ	パターン情報処理		2	○			
		情報文化論		2	○			
		情報通信工学	2		◎	◎	◎	
		情報ネットワーク入門		2		○		
	応用情報	情報セキュリティ入門		2		○		
		情報ネットワーク構築		2		○		
		情報セキュリティ		2		○		
		情報システム論		2			○	
		制御工学		2			○	
		ディジタル信号処理		2			○	
		言語とコンパイラ		2			○	
		ロボット工学		2			○	
	実験・実習・研修・研究・その他	シミュレーション工学		2			○	
		知識工学		2			○	
		数値解析		2			○	
		集積回路		2			○	
		電気工学		2				
		電子工学		2				
		設計・製図		2				
		機械工学概論		2				
		機械工作実習		1				
		情報工学基礎実験Ⅰ	1		◎	◎	◎	
		情報工学基礎実験Ⅱ	1		◎	◎	◎	
	原子力工学	情報工学応用実験Ⅰ	1		◎	◎	◎	
		情報工学応用実験Ⅱ	1		◎	◎	◎	
		情報専門ゼミナール		2	○	○	○	
		情報工学特別講義		2	○	○	○	
		卒業研究	6		◎	◎	◎	
		学外研修		2				
		原子力エネルギー		2				
		放射線の利用		2				
		原子力体感研修		2				
		原子燃料サイクル・安全工学		2				

システム情報工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心		地 域 学 海 外 研 修		
②感動する心	* 情報基礎ゼミナール	海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 * 情報工学基礎実験Ⅰ	* システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ * 情報基礎ゼミナール 歴 史 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 化 学 実 験 特別専攻プロジェクトⅠ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 情報工学基礎実験Ⅰ	* システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
④人間環境理解力		経 済 学 地 域 学	心 理 学 海 外 文 学	哲 学 生 命 科 学
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ * 情報基礎ゼミナール 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 情報工学基礎実験Ⅰ	* システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ * 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 原 子 力 エ ネ ル ギ ー	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 産 業 情 報 論 放 射 線 の 利 用	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ
⑦日本語コミュニケーション・スキル	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 歴 史 * 現 代 英 語 Ⅰ 体 育 学	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 Ⅱ ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 原 子 力 エ ネ ル ギ ー	実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 産 業 情 報 論 放 射 線 の 利 用	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ
⑧外国語コミュニケーション・スキル	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト * 現 代 英 語 Ⅰ 中 国 語 Ⅰ	* 現 代 英 語 Ⅱ 中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅰ 中 国 語 Ⅲ	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン Ⅱ 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ
⑨チームワーク力	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 海 外 研 修 原 子 力 エ ネ ル ギ ー 特別専攻プロジェクトⅠ	ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 産 業 情 報 論 * 情報工学基礎実験Ⅰ 放 射 線 の 利 用	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ * システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑩リーダーシップ力	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ 原 子 力 エ ネ ル ギ ー 特別専攻プロジェクトⅠ	ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ 産 業 情 報 論 * 情報工学基礎実験Ⅰ 放 射 線 の 利 用	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ * システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	* 情報基礎ゼミナール 歴 史 中 国 語 Ⅰ * 微 分	経 済 学 地 域 学 中 国 語 Ⅱ * 積 分 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 中 国 語 Ⅲ * 線 形 代 数 * 情報工学基礎実験Ⅰ	確 率 ・ 統 計 生 命 科 学 * システム数理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
	日 本 国 憲 法			①寛容な心
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール	* 卒 業 研 究		②感動する心
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		③主体性
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ			
	日 本 国 憲 法			④人間環境理解力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール			
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		⑥倫理観・規律性
* 職業倫理 学 外 研 修	日 本 国 憲 法 情 報 文 化 論 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	原子燃料サイクル・安全工学		
英 語 特 別 演 習 学 外 研 修	情 報 文 化 論 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション	原子燃料サイクル・安全工学	⑦日本語コミュニケーション・スキル
英 語 特 別 演 習 学 外 研 修	情報専門ゼミナール	* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	情 報 文 化 論 * 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究	原子燃料サイクル・安全工学	⑨チームワーク力
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	情 報 文 化 論 * 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究	原子燃料サイクル・安全工学	⑩リーダーシップ力
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力

システム情報工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑫数量的スキル	* 情報基礎ゼミナール * 微分 基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験 * 基礎情報科学	経 済 学 * 積 分 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 解 析 Ⅰ	* 線 形 代 数 現代物理学概論 解 析 Ⅱ	確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 解 析 Ⅲ
⑬情報リテラシー力	* 情報基礎ゼミナール * 現 代 英 語 Ⅰ * 基 礎 情 報 科 学	* 現 代 英 語 Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ
⑭論理的思考力	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 歴 史 * 微 分 基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	日 本 語 表 現 法 * 積 分 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 実践日本語表現 * 線 形 代 数 現代物理学概論 * 情報工学基礎実験Ⅰ	哲 学 主題別ゼミナールⅢ 確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 * シ ス テ ム 数 理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑮問題解決力	* 情報基礎ゼミナール * 微 分 基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ	経 済 学 * 積 分 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 主題別ゼミナールⅡ * 線 形 代 数 * 情報工学基礎実験Ⅰ	主題別ゼミナールⅢ 確 率 ・ 統 計 * シ ス テ ム 数 理 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑯専門基礎原理の理解力	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト 基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験 * 基礎情報科学 * プログラミング入門 コンテンツ制作入門	* 情報工学概論 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験 離 散 数 学 * プログラミング言語 * ウェブデザイン	現代物理学概論 * 情 報 数 理 * オペレーティングシステム * データ構造とアルゴリズム * コンピュータシステム 産 業 情 報 論 コンピュータグラフィックス * 情 報 通 信 工 学 * 情報工学基礎実験Ⅰ	応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学 * シ ス テ ム 数 理 計 測 情 報 工 学 * デ ー タ ベ ー ス * プ ロ グ ラ ム 設 計 * 論 理 回 路 経 営 情 報 論 ビジュアル情報処理 情報ネットワーク入門 情報セキュリティ入門 電 気 工 学 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻ゼミナールⅠ
⑰専門基礎原理の高度応用展開力	* 情報基礎ゼミナール * 情報科学アラカルト * 基礎情報科学 * プログラミング入門 コンテンツ制作入門	* 情報工学概論 離 散 数 学 * プログラミング言語 * ウェブデザイン	現代物理学概論 * 情 報 数 理 * オペレーティングシステム * データ構造とアルゴリズム * コンピュータシステム 産 業 情 報 論 コンピュータグラフィックス * 情 報 通 信 工 学 * 情報工学基礎実験Ⅰ	応 用 物 理 学 概 論 * シ ス テ ム 数 理 計 測 情 報 工 学 * デ ー タ ベ ー ス * プ ロ グ ラ ム 設 計 * 論 理 回 路 経 営 情 報 論 ビジュアル情報処理 情報ネットワーク入門 情報セキュリティ入門 電 気 工 学 * 情報工学基礎実験Ⅱ 特別専攻ゼミナールⅠ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
設 計 ・ 製 図 機 械 工 学 概 論 機 械 工 作 実 習		* 卒 業 研 究		⑫数量的スキル
英 語 特 別 演 習 設 計 ・ 製 図 機 械 工 学 概 論 機 械 工 作 実 習		* 卒 業 研 究		⑬情報リテラシー力
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑭論理的思考力
情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修	日 本 国 憲 法 * 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑮問題解決力
グ ラ フ 理 論 入 門 マルチメディア工学 人 間 情 報 科 学 情 報 シ ス テ ム 論 制 御 工 学 デジタル信号処理 言 語 と コ ン バ イ ラ 電 子 工 学 設 計 ・ 製 図 機 械 工 学 概 論 機 械 工 作 実 習 * 情報工学応用実験Ⅰ 情報工学特別講義 特別専攻ゼミナールⅡ	パ タ ー ン 情 報 処 理 情報ネットワーク構築 情報セキュリティ ロ ボ ッ ト 工 学 シミュレーション工学 知 識 工 学 数 値 解 析 集 積 回 路 * 情報工学応用実験Ⅱ 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒 業 研 究		⑯専門基礎原理の理解力
グ ラ フ 理 論 入 門 マルチメディア工学 人 間 情 報 科 学 情 報 シ ス テ ム 論 制 御 工 学 デジタル信号処理 言 語 と コ ン バ イ ラ 電 子 工 学 設 計 ・ 製 図 機 械 工 学 概 論 機 械 工 作 実 習 * 情報工学応用実験Ⅰ 情報工学特別講義 特別専攻ゼミナールⅡ	パ タ ー ン 情 報 処 理 情報ネットワーク構築 情報セキュリティ ロ ボ ッ ト 工 学 シミュレーション工学 知 識 工 学 数 値 解 析 集 積 回 路 * 情報工学応用実験Ⅱ 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒 業 研 究		⑰専門基礎原理の高度 応用展開力

システム情報工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑯継続的学習経験	＊情報基礎ゼミナール ＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ ＊微分 基礎物理学Ⅰ 基礎化学Ⅰ 物理学実験	日本語表現法 ＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ 主題別ゼミナールⅠ ＊積分 基礎物理学Ⅱ 基礎化学Ⅱ 化学実験	海外文学 実践日本語表現 英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ 主題別ゼミナールⅡ ＊線形代数 ＊情報工学基礎実験Ⅰ	英語コミュニケーションⅡ 主題別ゼミナールⅢ 確率・統計 生命科学 ＊システム数理 ＊情報工学基礎実験Ⅱ
⑰市民としての社会的責任感	＊情報基礎ゼミナール ＊情報科学アラカルト 歴史 体育学	スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ 原子力エネルギー	スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ 産業情報論 放射線の利用	主題別ゼミナールⅢ
⑱異文化理解力	＊情報基礎ゼミナール ＊情報科学アラカルト ＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ 体育学	経済学 地域学 ＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ 海外研修 原子力エネルギー	日本文学 海外文学 英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ 産業情報論 放射線の利用	英語コミュニケーションⅡ 主題別ゼミナールⅢ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
英 語 特 別 演 習 情 報 シ ス テ ム 論 * 情報工学応用実験 I 学 外 研 修	* 情報工学応用実験 II 情報専門ゼミナール	* 卒 業 研 究		⑮継続的学習経験
* 職 業 倫 理 学 外 研 修	日 本 国 憲 法 情 報 文 化 論 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	* 卒 業 研 究 原子燃料サイクル・安全工学		⑯市民としての社会的 責任感
英 語 特 別 演 習 学 外 研 修	情 報 文 化 論 情報専門ゼミナール 原子力体感研修	* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション 原子燃料サイクル・安全工学		⑰異文化理解力

システム情報工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 A	A-1		主題別ゼミナールⅠ	心 理 学 産 業 情 報 論	哲 学
	A-2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ * 情報基礎ゼミナール 歴 史 体 育 学	経 済 学 地 域 学 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 特別専攻プロジェクトⅠ	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ 日 本 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学	主題別ゼミナールⅢ 特別専攻プロジェクトⅡ
	A-3	* 情報科学アラカルト	原 子 力 エ ネ ル ギ ー 特別専攻プロジェクトⅠ	海 外 文 学 主題別ゼミナールⅡ 放 射 線 の 利 用	特別専攻プロジェクトⅡ
目標 B	B-1	基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ 物 理 学 実 験	基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 化 学 実 験 解 析 Ⅰ	現 代 物 理 学 概 論 解 析 Ⅱ	応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学 解 析 Ⅲ
	B-2	* 微 分	* 積 分	* 線 形 代 数	確 率 ・ 統 計
	B-3	* 情報基礎ゼミナール * 基 礎 情 報 科 学			
目標 C	C-1	* 情報科学アラカルト	日 本 語 表 現 法	実 践 日 本 語 表 現	主題別ゼミナールⅢ
	C-2	* 情報基礎ゼミナール			主題別ゼミナールⅢ
	C-3	* 現 代 英 語 Ⅰ 中 国 語 Ⅰ	* 現 代 英 語 Ⅱ 中 国 語 Ⅱ 海 外 研 修	英語コミュニケーションⅠ 中 国 語 Ⅲ	英語コミュニケーションⅡ 主題別ゼミナールⅢ
目標 D	D-1		離 散 数 学	* 情 報 数 理	
	D-2	* 情報科学アラカルト * 基 礎 情 報 科 学 コンテンツ制作入門	* 情 報 工 学 概 論 * ウェブデザイン	* オペレーティングシステム * コンピュータシステム コンピュータグラフィックス	* デ ー タ ベ ー ス * 論 理 回 路 ビジュアル情報処理 情報セキュリティ入門 電 気 工 学
	D-3	* プログラミング入門	* プログラミング言語	* データ構造とアルゴリズム	* プ ロ グ ラ ム 設 計 * 情報工学基礎実験Ⅱ
	D-4			産 業 情 報 論 * 情報工学基礎実験Ⅰ	* シ ス テ ム 数 理 計 測 情 報 工 学 経 営 情 報 論
	D-5			* 情 報 通 信 工 学	情報ネットワーク入門

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
* 職業倫理	日本国憲法 情報文化論			A-1
キャリアデザインⅢ				A-2
学外研修	情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ			A-3
	原子力体感研修 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究	原子燃料サイクル・安全工学	
				B-1
設計・製図 機械工学概論 機械工作実習				B-2
		* 卒業研究		B-3
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		C-1
学外研修				C-2
学外研修	情報専門ゼミナール	* 卒業研究		C-3
英語特別演習		異文化コミュニケーション		
グラフ理論入門	数値解析			D-1
マルチメディア工学 人間情報科学 言語とコンパイラ 電子工学 情報工学特別講義	情報セキュリティ 知識工学 集積回路			D-2
	* 情報工学応用実験Ⅱ	* 卒業研究		D-3
情報システム論 制御工学 デジタル信号処理 * 情報工学応用実験Ⅰ	パターン情報処理 ロボット工学 シミュレーション工学	* 卒業研究		D-4
* 情報工学応用実験Ⅰ	情報ネットワーク構築	* 卒業研究		D-5

システム情報工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 E	E-1	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 特別専攻プロジェクト I		キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ＊情報工学基礎実験 I	＊情報工学基礎実験 II 特別専攻プロジェクト II 特別専攻ゼミナール I
	E-2	＊情報基礎ゼミナール	特別専攻プロジェクト I		特別専攻プロジェクト II
	E-3		特別専攻プロジェクト I		＊ シ ス テ ム 数 理 特別専攻プロジェクト II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		目 標 E
* 情報工学応用実験Ⅰ 学 外 研 修 特別専攻ゼミナールⅡ	* 情報工学応用実験Ⅱ 情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ 特別専攻ゼミナールⅢ			
	情報専門ゼミナール 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		
情 報 シ ス テ ム 論	* 情報工学応用実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		
				E-1
				E-2
				E-3

システム情報工学科カリキュラム・マップ

	修得因子																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
	修得因子、学習・到達目標との関連基準																			
◎ ：大きな関連がある ○ ：関連がある 空白：関連がない																				
授業科目名	開講学期	必修/選択																		
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○												
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○												
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○												
情報基礎ゼミナール	第1学年前期	必修		○	○		◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
情報科学アラカルト	第1学年前期	必修					◎	◎	◎	○	○			○		○	○		◎	◎
情報工学概論	第1学年後期	必修														◎	◎			
心理学	第2学年前期	選択				○	○				○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○								◎						
職業倫理	第3学年前期	必修					◎												◎	
日本文学	第2学年前期	選択		○							◎			○						◎
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○					○			○				○		◎
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○							○				◎	
歴史	第1学年前期	選択			○			○			○			◎					○	
経済学	第1学年後期	選択				○					◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○					◎									◎
日本語表現法	第1学年後期	選択						◎						○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択						◎						○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修						○	◎				○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修						○	◎				○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択						○	◎				○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択						○	◎				○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択						○	◎				○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択							◎			○						○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択							◎			○						○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択							◎			○						○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択						○	○											◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○	○		○	○							○	○
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○	○		○	○							○	○
スポーツ特別演習	第1学年後期	選択			○		○	○	○		○	○							○	○
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択						○	○		○	○						○	○	○
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択						○	○		○	○			○			○	○	○
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択						○	○		○	○		○	○			○	○	○
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○									◎
微分	第1学年前期	必修									○	◎		○	○			○		
積分	第1学年後期	必修									○	◎		○	○			○		
線形代数	第2学年前期	必修									○	◎		○	○			○		
確率・統計	第2学年後期	選択									○	◎		○	○			○		
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期	選択										○		○	○	◎		○		
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期	選択										○		○	○	◎		○		

[illegible]

システム情報工学科カリキュラム・マップ

修得因子、学習・到達目標との関連基準	修得因子																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
◎　：大きな関連がある ○　：関連がある 空白：関連がない																				
授業科目名	開講学期	必修/選択																		
現代物理学概論	第2学年前期	選択										○		○		◎	○			
応用物理学概論	第2学年後期	選択										○		○		◎	○			
基礎化学Ⅰ	第1学年前期	選択										○		○	○	◎		○		
基礎化学Ⅱ	第1学年後期	選択										○		○	○	◎		○		
生命科学	第2学年後期	選択				○					○					◎		○		
物理学実験	第1学年前期	選択										○		○		◎		○		
化学実験	第1学年後期	選択			○							○		○	○	◎		○		
基礎情報科学	第1学年前期	必修										◎	◎			○	○			
離散数学	第1学年後期	選択														◎	◎			
情報数理	第2学年前期	必修														◎	◎			
システム数理	第2学年後期	必修		○	○		○			○	○	○			○	○	◎	◎	○	
グラフ理論入門	第3学年前期	選択														◎	◎			
計測情報工学	第2学年後期	選択														◎	◎			
オペレーティングシステム	第2学年前期	必修														◎	◎			
データベース	第2学年後期	必修														◎	◎			
プログラミング入門	第1学年前期	必修														◎	◎			
プログラミング言語	第1学年後期	必修														◎	◎			
データ構造とアルゴリズム	第2学年前期	必修														◎	◎			
プログラム設計	第2学年後期	必修														◎	◎			
コンピュータシステム	第2学年前期	必修														◎	◎			
論理回路	第2学年後期	必修														◎	◎			
コンテンツ制作入門	第1学年前期	選択														◎	◎			
ウェブデザイン	第1学年後期	必修														◎	◎			
産業情報論	第2学年前期	選択				◎	○		○	○						◎	◎		◎	○
経営情報論	第2学年後期	選択														◎	◎			
コンピュータグラフィックス	第2学年前期	選択														◎	◎			
ビジュアル情報処理	第2学年後期	選択														◎	◎			
マルチメディア工学	第3学年前期	選択														◎	◎			
人間情報科学	第3学年前期	選択														◎	◎			
パターン情報処理	第3学年後期	選択														◎	◎			
情報文化論	第3学年後期	選択				◎	○		○	○									◎	○
情報通信工学	第2学年前期	必修														◎	◎			
情報ネットワーク入門	第2学年後期	選択														◎	◎			
情報セキュリティ入門	第2学年後期	選択														◎	◎			
情報ネットワーク構築	第3学年後期	選択														◎	◎			
情報セキュリティ	第3学年後期	選択														◎	◎			
情報システム論	第3学年前期	選択		○	○		○			○	○	○			○	○	◎	◎	○	
制御工学	第3学年前期	選択														◎	◎			
ディジタル信号処理	第3学年前期	選択														◎	◎			

[illegible]

システム情報工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
			寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
言語とコンパイラ	第3学年前期	選択																○	○			
ロボット工学	第3学年後期	選択																○	○			
シミュレーション工学	第3学年後期	選択																○	○			
知識工学	第3学年後期	選択																○	○			
数値解析	第3学年後期	選択																○	○			
集積回路	第3学年後期	選択																○	○			
電気工学	第2学年後期	選択																○	○			
電子工学	第3学年前期	選択																○	○			
設計・製図	第3学年前期	選択												○	○			○	○			
機械工学概論	第3学年前期	選択												○	○			○	○			
機械工作実習	第3学年前期	選択												○	○			○	○			
情報工学基礎実験Ⅰ	第2学年前期	必修		○	○		○				○	○	○				○	○	○	○	○	
情報工学基礎実験Ⅱ	第2学年後期	必修		○	○		○				○	○	○				○	○	○	○	○	
情報工学応用実験Ⅰ	第3学年前期	必修		○	○		○				○	○	○				○	○	○	○	○	
情報工学応用実験Ⅱ	第3学年後期	必修		○	○		○				○	○	○				○	○	○	○	○	
情報専門ゼミナール	第3学年後期	選択		○	○		○	○	○	○	○	○	○				○	○		○	○	○
情報工学特別講義	第3学年前期	選択																○	○			
卒業研究	第4学年通年	必修		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学外研修	第3学年前期	選択		○	○		○	○	○	○	○	○	○				○	○		○	○	○
原子力エネルギー	第1学年後期	選択						○	○		○	○									○	○
放射線の利用	第2学年前期	選択						○	○		○	○									○	○
原子力体感研修	第3学年後期	選択						○	○		○	○									○	○
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期	選択						○	○		○	○									○	○
解析Ⅰ	第1学年後期	選択												○								
解析Ⅱ	第2学年前期	選択												○								
解析Ⅲ	第2学年後期	選択												○								
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	○			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	○			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	○			

学習・到達目標																
目標 A			目標 B			目標 C			目標 D					目標 E		
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた人材			専門分野の基盤となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる人材			コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた人材			情報技術の専門知識と応用展開能力を身につけ、社会の課題に対して実践的に対応できる技術者					自ら積極的に学ぶ意欲および時代変化に継続的に対処する能力をもち、情報技術の融合によって課題解決できる技術者		
A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	E-1	E-2	E-3
に、倫理観…情報技術が社会や環境に及ぼす影響を理解すること 情報技術者としての社会的責任を理解していること	地域社会への関心・地域社会の課題についてグローバルな視点から捉えて、意見を表現できること	地球の視野・情報技術の社会への導入について、グローバルかつ多面的な視点からその効用と課題を理解していること	自然科学の基礎知識と応用力…物理あるいは化学の基本的な性質や現象を理解し、実験により確認できること	工学の基礎知識と応用力…情報技術に関連する数学の基礎知識(微分、積分、線形代数など)や工学の基礎知識を習得することともに、課題の解決に応用できること	情報技術の基礎知識と応用力…情報技術の基礎的な知識を習得し、課題解決に応用できること	文章表現力…習得した知識ならびに自分の意見を書き表すことができること	口頭発表力…習得した知識ならびに自分の意見を聴衆に対して明確に提示し、質問の内容や意図を理解して適切に回答できること	国際交流の素養…情報技術を含む工業英語について、文章を読んでも内容が理解でき、文章を作成できるとともに、対話できる素養をもっていること	情報数学の基礎知識と応用力…情報工学の習得に必要な数理的知識(離散数学、確率・統計、情報数理)を理解しているとともに、数理的な課題の解決に応用できること	情報技術の専門知識…情報分野の専門的な知識と技術を習得し、課題の解決に応用できること	ソフトウェア制作力…ソフトウェア設計の概念ならびにアルゴリズムの理論を理解するとともに、仕様に基づいてプログラムを作ることができること	システムの基礎知識と応用力…システムの数理的な概念を理解するとともに、システム構築に応用できること	ネットワーク構築力…情報ネットワーク設計の概念を理解し、仕様に基いてネットワークを構築できること	デザイン能力…複合的で複数の存在する課題に対して、創造力を駆使し、既存の原理や知識を組み合わせて、新しい概念を創り出す能力をもっており、問題解決に向けた具体的な方針を立てることができること	集約的・継続的な学習意欲…未解決の課題に対して、自ら情報を収集し内容を整理し、必要に応じて新たな知識を獲得し、計画的かつ継続的に課題を解決できること	計画の推進能力…期間や費用など、与えられた制約のもとで計画的に仕事を進め、まとめられること
										◎						
												◎ ◎				
									◎							
										◎						
										◎						
				◎ ◎ ◎										○ ○ ○		
												◎	◎	○ ○ ○		◎
	○						○			◎				◎ ◎	◎	
	◎				○	○	○				◎	◎	◎	○	○	○
		○														
		○														
		○														
		○														
			◎ ◎ ◎													
	○ ○ ○	○ ○ ○												◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎
														◎ ◎ ◎		

2.12.4 生命環境科学科の学習・教育到達目標と教育課程

■生命環境科学科の教育目的

今日、環境保全や食品衛生管理に従事する人材には、生物資源に関する高い知識が求められています。

生命環境科学科では、地域・社会の要求に応えるため、農林・水産・畜産等の生産現場から食品・化学製造業及び品質管理・分析技術者など、生命・食品及び環境分野で活躍する環境調和プロセス技術者の育成を教育目的としています。

この目標を達成するために、「生命・食品コース」と「環境化学コース」の2つのコースを設置し、生命科学を基礎として食品科学および環境科学へ発展的に展開し、環境負荷を抑えた化学工学プロセス技術に至る教育を実践します。学生諸君は、いずれかのコースを選択し、履修モデルを基本とした学習をすることになります。

また、どちらのコース履修学生も「海洋学副コース（海洋生態）」を選択可能であり、陸上のみならず海洋を含めた生命科学を学ぶことができます。

1. 生命・食品コースの教育目的

生命科学、食品科学を中心に学び、それを基礎として生物・食品・環境について科学的に理解し、バイオテクノロジー、自然環境保護、食品製造に必要な専門知識と応用展開能力を身に付けます。バイオテクノロジーを利用した医薬品や食品の創製、自然環境調査などで活躍できる理科系人材を目指します。

2. 環境化学コースの教育目的

環境化学、環境工学、化学工学を中心に学び、環境保全に関わる化学プロセスを科学的に理解し、環境分析や環境にやさしいものづくりに必要な専門知識と応用展開能力を身に付けます。

水域・大気・土壌の化学分析、環境浄化システムの開発などで活躍できる技術者を目指します。

■生命環境科学科の学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

生命環境科学科では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- 1 複数の視点から物事を観察し、人間活動と自然環境の関わりを理解できる能力を有する。
- 2 自然科学および工学の基礎知識を習得し、それらを応用できる能力を有する。
- 3 論理的な表現力・読解力・理解力を持ち、それを外国語でも実践できる能力を有する。
- 4 生命科学・食品科学・環境化学に関する基礎知識およびその高度応用展開能力を有する。
- 5 多分野の知識を活用し、能動的に環境調和型社会に応用できる能力を有する。
- 6 計画的に仕事を進め、自主的に学習する能力を有する。

生命環境科学科では次のような人材の育成を教育到達目標とします。

(A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心を持つとともに、地球的視野を身に付けた人材

(A-1) 社会、地球環境、生命科学など、複数の視点から多面的に物事を考える能力を身に付ける。

(A-2) 職業倫理を通して、社会人としての立場・役割を認識し、技術者として強い倫理観をもって行動できる能力を身につける。

(B) 専門分野の基礎となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献で

きる人材

- (B-1) 生物学・化学・物理学など自然科学の基礎となる知識とそれらを応用できる能力を身につける。
- (B-2) 数学・情報技術など工学の基礎となる知識とそれらを応用できる能力を身につける。
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた人材
 - (C-1) 日本語で論理的な記述や口頭による表現および討論ができる能力を身につける。
 - (C-2) 外国語による読解と表現の基礎的能力を習得し、社会人として必要なコミュニケーション能力を身につける。
- (D) 専門知識の着実な理解とその応用・展開能力を持ち、実務に対処し得る人材
 - (D-1) 環境調和型社会に必要とされる生命科学分野の基礎知識を身につける。
 - (D-2) 生命科学の専門知識を習得し、環境の保全や評価などに応用展開できる能力を身につける。
 - (D-3) 環境調和型社会に必要とされる食品科学分野の基礎知識を身につける。
 - (D-4) 食品科学の専門知識を習得し、一次産業や食品生産などに応用展開できる能力を身につける。
 - (D-5) 環境調和型社会に必要とされる環境化学分野の基礎知識を身につける。
 - (D-6) 環境化学の専門知識を習得し、物質生産や環境修復などに応用展開できる能力を身につける。
- (E) 生命、環境、化学の知識を融合して、環境調和型社会をデザインできる素養と能力を身につけた人材
- (F) 自ら考え、積極的に行動し、生涯自己学習能力を持つ人材
 - (F-1) 生涯にわたり、常に新しい知識の獲得を目指して自主的に学び、それを活用した課題解決能力および資格取得のための能力を身に

つける。

- (F-2) 実験、実習および卒業研究などを通して、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる能力を身につける。

■生命環境科学科のカリキュラム編成方針・教育方法（カリキュラム・ポリシー）

生命環境科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

教育課程の骨格

カリキュラムを、「導入転換科目」、「総合教養科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」で編成します。

総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、学科を問わないリベラルアーツを展開し多面的に物事を考える素養を養います。また導入転換科目においては、社会と接点のある教育を実施し、キャリアデザイン科目を充実させます。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成します。専門科目においても、演習、実習、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します。

学科の学問に必要な「工学基礎科目」を配置し、専門科目を理解するための自然科学の基礎を養います。さらに、専門科目の基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の実践的学習を取り入れた授業などを展開し、これにより、専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施します。

専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します。

応用展開力を養うために、生命科学・食品科学・環境化学の基礎科目および各専門科目を配置します。各分野の知識は演習および実験を通して理解力を深め、多分野の知識を応用展開する能力を養います。修得した複数分野の知識やスキルを統合し、決められた制約の下で応用展開すると共に論理的な思考力と表現力を育成するため、「生命環境科学セミナー」および「卒業研究」を必修とします。

人間社会と地球環境の関連を理解し発展させる力を養成する教育を実施します。

環境調和型社会の実現に向け、人間活動による環境への影響を理解できる教育を展開します。これにより、様々な知識・技術を活用し問題を解決する素養を養成します。

生命環境科学科のカリキュラム編成方針

1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、専門科目の4区分の科目により、総合的に調和のとれた4年間一貫教育を実施する。

→教育到達目標(A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現

2) 導入転換科目：将来の自己の確立を促す科目および高校教育から大学教育への円滑な誘導を促す科目。キャリアデザイン、工学への関心。

→教育到達目標(A)、(C)、(D)、(E)、(F)の実現

3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際分野の科目群。

→教育到達目標(A)、(C)、(F)の実現

4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、物理の科目群。

→教育到達目標(A)、(B)、(F)の実現

5) 専門科目：専門基礎、生命科学、食品工学、環境工学、実験・実習・演習、研修、海洋学、の科目群

→教育到達目標(A)、(B)、(D)、(E)、(F)の実現

生命環境科学科の学習・教育方法

1) 個別指導により、大学生活への円滑な移行を支援し、きめ細かい履修指導を行う。

→教育到達目標(F)の実現

2) 実験、実習、演習、研修など実践体験型学習を重視し、学問の理解、課題の発見、適切な対応を通して創造的な人間性を育成する教育。

→教育到達目標(B)、(D)の実現

3) IT社会において、実践的な人材として活躍できる、情報機器を活用した学習・教育。

→教育到達目標(B)の実現

4) 総合的な学習・教育の場としてセミナー、卒業研究を重視し、プレゼンテーション能力の育成を図る。

→教育到達目標(C)、(D)の実現

5) 経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に対応できる応用能力、デザイン能力、マネジメント能力の充実を目指す学習・教育。

→教育到達目標(A)、(E)の実現

6) 少人数教育の実施やオフィスアワーを設け学生諸君と教職員との絆を築くことにより、学生諸君が、自主的、継続的に学習する能力を身につける指導を行う。

→教育到達目標(F)の実現

7) 学生による「授業評価制度」を設け、授業内容など学習・教育に関する要望についての「授業評価アンケート」結果に基づき継続的な教育改善を実施していきます。なお、教育環境についても整備していきます。

生命環境科学科開講学年別授業科目表

(2019年度入学生用)

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	0 1	キャリアデザインⅢ	0 2	□異文化コミュニケーション	2
生命環境科学概論	②	■心 理 学	2	職 業 倫 理	②	★公 衆 衛 生 学	2
生命環境科学導入デザイン	②	■哲 学	2	■日 本 国 憲 法	2	生命環境科学セミナー	①
■歴 史	2	■日 本 文 学	2	□英 語 特 別 演 習	2	卒 業 研 究	⑥
■経 済 学	2	■海 外 文 学	2	化 学 工 学	②		
■地 域 学	2	□実 践 日 本 語 表 現	2	★遺 伝 子 工 学	2		
□日 本 語 表 現 法	2	□英 語 コミュニケーションⅠ	2	★環 境 生 物 学	2		
現 代 英 語 Ⅰ	②	□英 語 コミュニケーションⅡ	2	★酵 素 工 学	2		
現 代 英 語 Ⅱ	②	□中 国 語 Ⅲ	2	★生 理 学	2		
□中 国 語 Ⅰ	2	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	★生 物 有 機 化 学	2		
□中 国 語 Ⅱ	2	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2	★食 品 分 析 学	2		
◆体 育 学	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2	★食 品 製 造 学	2		
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	▲線 形 代 数	2	★食 品 工 学	2		
◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2	▲確 率 ・ 統 計	2	★食 品 衛 生 学	2		
◆海 外 研 修	1	▲現 代 物 理 学 概 論	2	★品 質 管 理	2		
微 分	②	▲応 用 物 理 学 概 論	2	★計 測 制 御 工 学	2		
積 分	②	▲環 境 と エ ネ ル ギ ー	2	★環 境 影 響 評 価 論	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	生 化 学	②	★環 境 汚 染 物 質 分 析 学	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	物 理 化 学	②	生命環境科学演習Ⅰ	②		
▲物 理 学 概 論	2	分 析 化 学	②	生命環境科学演習Ⅱ	②		
バイオテクノロジー	②	★有 機 化 学	2	生命環境科学実験Ⅰ	①		
★無 機 化 学	2	★環 境 材 料 学	2	生命環境科学実験Ⅱ	①		
基 礎 化 学 Ⅰ	②	環 境 化 学 量 論	②	生命環境プロセス実習Ⅱ	①		
★基 礎 化 学 Ⅱ	2	微 生 物 学	②	★インターンシップ	1		
★物 理 学 実 験	2	★微 生 物 工 学	2	★海 洋 生 態 学	2		
化 学 実 験	②	分 子 遺 伝 学	②	★リモートセンシング概論	1		
生 命 科 学	②	★食 品 化 学	2				
基 礎 情 報 科 学	②	★リサイクル工学	2				
グリーンケミストリー	②	★機 器 分 析	2				
★海洋学の基礎と未来	2	★地球環境システム科学	2				
		生命環境科学基礎演習Ⅰ	②				
		生命環境科学基礎演習Ⅱ	②				
		生命環境科学基礎実験	①				
		生命環境プロセス実習Ⅰ	①				
		★海 洋 生 物 学	2				
		★臨 海 実 習	2				

注1：○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2：この科目表には、特別専攻科目と進級要件、卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

生命環境科学科単位集計表

(2019年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	16	8	24	24	12	6	18	42	5	6	11	53	1	6	7	60
	選択	9	23	32	32	25	25	50	82	16	20	36	118	4	0	4	122
	計	25	31	56	56	37	31	68	124	21	26	47	171	5	6	11	182
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上							
進級 および 卒業要件		2年生への進級要件				3年生への進級要件				4年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 47単位以上 「生命環境科学基礎実験」、 「生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱ」を習得のこと				必修科目の全て 60単位 ■、□、◆印の科目の合計が14単位以上 ただし ■印の科目から 6単位以上 □印の科目から 4単位以上 ★印の科目から 30単位以上 上記の科目を含め 124単位以上			

- 注1. この集計表には、特別専攻科目と進級要件、卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。
 注2. 卒業要件の欄において、必修科目（60単位）、■、□、◆印（14単位）、★印（30単位）の合計は104単位である。
 卒業要件を満たすには、その他に20単位以上の科目を履修し、合計124単位以上とする必要がある。

生命環境科学科カリキュラム

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入・転換 科 目	キャリアデザイン	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	1			キ ャ リ ア デ ザ イ ン II	1		
	工学への関心	生命環境科学概論 ②		生命環境科学導入デザイン ②					
総合教養 科 目	人 間 科 学	歴 史 ②		経 済 学 2		心 理 学 2		哲 学 2	
				地 域 学 2		日 本 文 学 2			
	国 際 コミュニケーション			日 本 語 表 現 法 2		海 外 文 学 2			
						実践日本語表現 2			
	体 育 科 学	現 代 英 語 I ②		現 代 英 語 II ②		英語コミュニケーションⅠ 2		英語コミュニケーションⅡ 2	
		中 国 語 I 2		中 国 語 II 2		中 国 語 III 2			
	総 合 学 際	体 育 学 1		スポーツ特別演習 1		スポーツ健康学 1		主題別ゼミナールⅢ 2	
工学基礎 科 目	工 学 基 礎	微 分 ②		積 分 ②		●線形代数 2		●確率・統計 2	
		◎基礎物理学Ⅰ 2		基礎物理学Ⅱ 2		現代物理学概論 2		応用物理学概論 2	
		物 理 学 概 論 2						◎環境とエネルギー 2	
専門科目	専 門 基 礎	基礎情報科学 ②							
		バイオテクノロジー ②				生 化 学 ②			
		生 命 科 学 ②							
		基礎化学Ⅰ ②		◎基礎化学Ⅱ 2		分 析 化 学 ②			
		化 学 実 験 ②		●無機化学 2		◎有機化学 2			
	生 命 科 学					環 境 化 学 量 論 ②		●環境材料学 2	
				物 理 学 実 験 2		物 理 化 学 ②			
						微 生 物 学 ②		○微生物工学 2	
								分 子 遺 伝 学 ②	
								○食 品 化 学 2	
	食 品 科 学								
				グリーンケミストリー ②				●リサイクル工学 2	
								◎機 器 分 析 2	
	環 境 工 学					地球環境システム科学 2			
						生命環境科学基礎演習Ⅰ ②		生命環境科学基礎演習Ⅱ ②	
						生命環境科学基礎実験 ①			
	実 験 ・ 実 習					生命環境プロセス実習Ⅰ ①			
	研 修								
	海 洋 学			海洋学の基礎と未来 2		海 洋 生 物 学 2		臨 海 実 習 2	
		進級要件 総計25単位以上（必修12単位以上）				進級要件 総計60単位以上（必修30単位以上）			
		修得単位数				修得単位数			

注 1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。○は必修科目、その他は選択科目を意味する。

注 2. 総合教養科目から必修を含め20単位以上修得すること。ただし、人間科学分野から必修を含めて8単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて8単位以上を修得すること。

注 3. 専門科目から必修を含め70単位以上修得すること。

注 4. 3年生から4年生への進級要件の47単位には、生命環境科学基礎実験、生命環境科学実験Ⅰおよび生命環境科学実験Ⅱの単位を含むこと。

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分	
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位			
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	1							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科 目	
職 業 倫 理 ②		日 本 国 憲 法	2					人 間 科 学	総 合 教 養 科 目	
								国 際 コミュニケーション		
英 語 特 別 演 習	2			異文化コミュニケーション	2			体 育 科 学		
								総 合 学 際		
								工 学 基 礎	工学基礎 科 目	
								専 門 基 礎	専 門 科 目	
		化 学 工 学 ②						生 命 科 学		
		○酵 素 工 学	2							
○遺 伝 子 工 学	2	○生 理 学	2							
◎環 境 生 物 学	2									
○生物有機化学	2							食 品 科 学		
○食 品 工 学	2	○食 品 分 析 学	2							
●品 質 管 理	2	○食 品 製 造 学	2							
		○食 品 衛 生 学	2	○公 衆 衛 生 学	2			環 境 工 学		
●環境汚染物質分析学	2	●計測制御工学	2							
		◎環境影響評価論	2					実 験 ・ 実 習 ・ 演 習		
生命環境科学演習Ⅰ	②	生命環境科学演習Ⅱ	②							
生命環境科学実験Ⅰ	①	生命環境科学実験Ⅱ	①					研 修		
		生命環境プロセス実習Ⅱ	①							
		インターンシップ	1					卒 業 研 究 ⑥		
				生命環境科学セミナー	①					
海 洋 生 態 学	2							海 洋 学		
		リモートセンシング概論	1							
進級要件 総計100単位以上（必修47単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修60単位を含む）						
修得単位数				修得単位数						

◎は「生命・食品」および「環境化学」両コースの履修推奨科目

○は「生命・食品コース」の履修推奨科目

●は「環境化学」コースの履修推奨科目

■は必修科目。

■は食品衛生管理者資格の取得に必要な科目。

生命環境科学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心		地 域 学 海 外 研 修		
②感動する心		海 外 研 修 海洋学の基礎と未来	日 本 文 学 海 外 文 学	*生命環境科学基礎実験 臨 海 実 習
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 歴 史 体 育 学 * 化 学 実 験 * 基 礎 情 報 科 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 特別専攻プロジェクト I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 *生命環境プロセス実習 I 海 洋 生 物 学	*生命環境科学基礎実験 臨 海 実 習 特別専攻プロジェクト II
④人間環境理解力	* 生 命 科 学	経 済 学 地 域 学	心 理 学 海 外 文 学 * 微 生 物 学	哲 学 微 生 物 工 学 リ サ イ ク ル 工 学
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 *生命環境プロセス実習 I	
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ス ポ ー ツ 健 康 学 環 境 と エ ネ ル ギ ー	
⑦日本語コミュニケーション・スキル	歴 史 * 現 代 英 語 I	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 II	実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
⑧外国語コミュニケーション・スキル	* 現 代 英 語 I 中 国 語 I	* 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 II	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
⑨チームワーク力	体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 特別専攻プロジェクト I	ス ポ ー ツ 健 康 学 *生命環境プロセス実習 I	*生命環境科学基礎実験 特別専攻プロジェクト II
⑩リーダーシップ力		特別専攻プロジェクト I	*生命環境プロセス実習 I	*生命環境科学基礎実験 特別専攻プロジェクト II
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	* 生 命 環 境 科 学 概 論 歴 史 中 国 語 I * 微 分 * 生 命 科 学	*生命環境導入デザイン 経 済 学 地 域 学 中 国 語 II * 積 分 無 機 化 学 海 洋 学 の 基 礎 と 未 来 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 中 国 語 III 線 形 代 数 * 分 析 化 学 *生命環境科学基礎演習 I	確 率 ・ 統 計 環 境 材 料 学 *生命環境科学基礎演習 II 特別専攻プロジェクト II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
	日 本 国 憲 法 イ ン タ ー ン シ ッ プ	* 卒 業 研 究 *生命環境科学セミナー		①寛容な心
				②感動する心
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	イ ン タ ー ン シ ッ プ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究 *生命環境科学セミナー		③主体性
環 境 生 物 学 *生命環境科学演習Ⅰ	日 本 国 憲 法 食 品 衛 生 学			④人間環境理解力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究 *生命環境科学セミナー		⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ * 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法	* 卒 業 研 究		⑥倫理観・規律性
英 語 特 別 演 習		* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション *生命環境科学セミナー		⑦日本語コミュニケーション・スキル
英 語 特 別 演 習		* 卒 業 研 究 異文化コミュニケーション *生命環境科学セミナー		⑧外国語コミュニケーション・スキル
	*生命環境プロセス実習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑨チームワーク力
	*生命環境プロセス実習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑩リーダーシップ力
環 境 影 響 評 価 論 *生命環境科学実験Ⅰ	*生命環境科学実験Ⅱ *生命環境プロセス実習Ⅱ イ ン タ ー ン シ ッ プ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力

生命環境科学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑫数量的スキル	＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I 物 理 学 概 論 ＊ 基 礎 化 学 I ＊ 化 学 実 験	経 済 学 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 物 理 学 実 験 解 析 I	線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 ＊ 物 理 化 学 ＊ 分 析 化 学 ＊ 環 境 化 学 量 論 ＊ 生命環境科学基礎演習 I 解 析 II	確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 リ サ イ ク ル 工 学 ＊ 生命環境科学基礎演習 II 解 析 III
⑬情報リテラシー力	＊ 現 代 英 語 I ＊ 基 礎 情 報 科 学	＊ 現 代 英 語 II	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション II 機 器 分 析
⑭論理的思考力	＊ 生命環境科学概論 歴 史 ＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I 物 理 学 概 論 ＊ 基 礎 化 学 I ＊ 化 学 実 験	＊ 生命環境科学導入デザイン 日 本 語 表 現 法 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 物 理 学 実 験 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 環 境 と エ ネ ル ギ ー ＊ 物 理 化 学 ＊ 環 境 化 学 量 論 ＊ 微 生 物 学	哲 学 確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 微 生 物 工 学 リ サ イ ク ル 工 学 機 器 分 析 特別専攻プロジェクト II
⑮問題解決力	＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I ＊ 基 礎 化 学 I ＊ 化 学 実 験	経 済 学 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II 線 形 代 数 環 境 と エ ネ ル ギ ー ＊ 環 境 化 学 量 論	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 確 率 ・ 統 計 特別専攻プロジェクト II
⑯専門基礎原理の理解力	＊ 生命環境科学概論 基 礎 物 理 学 I 物 理 学 概 論 ＊ バイオテクノロジー ＊ 基 礎 化 学 I ＊ 化 学 実 験 ＊ 生 命 科 学 ＊ 基 礎 情 報 科 学	＊ 生命環境科学導入デザイン 基 礎 物 理 学 II 無 機 化 学 基 礎 化 学 II 物 理 学 実 験 海洋学の基礎と未来	現 代 物 理 学 概 論 環 境 と エ ネ ル ギ ー ＊ 物 理 化 学 ＊ 分 析 化 学 有 機 化 学 ＊ 微 生 物 学 地球環境システム科学 ＊ 生命環境科学基礎演習 I 海 洋 生 物 学	応 用 物 理 学 概 論 ＊ 生 化 学 環 境 材 料 学 微 生 物 工 学 ＊ 分 子 遺 伝 学 機 器 分 析 ＊ 生命環境科学基礎演習 II ＊ 生命環境科学基礎実験 特別専攻ゼミナール I
⑰専門基礎原理の高度 応用展開力	＊ 生命環境科学概論	＊ 生命環境科学導入デザイン ＊ グリーンケミストリー	現 代 物 理 学 概 論 有 機 化 学 ＊ 環 境 化 学 量 論 ＊ 微 生 物 学 地球環境システム科学 ＊ 生命環境科学基礎演習 I ＊ 生命環境プロセス実習 I 海 洋 生 物 学	応 用 物 理 学 概 論 環 境 材 料 学 微 生 物 工 学 ＊ 分 子 遺 伝 学 食 品 化 学 リ サ イ ク ル 工 学 ＊ 生命環境科学基礎演習 II 臨 海 実 習 特別専攻ゼミナール
⑱継続的学習経験	＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I ＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I 物 理 学 概 論 ＊ 基 礎 化 学 I ＊ 化 学 実 験 ＊ 生 命 科 学	日 本 語 表 現 法 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 物 理 学 実 験	海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 英語コミュニケーション I 中 国 語 III 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II 線 形 代 数	英語コミュニケーション II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 確 率 ・ 統 計

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
* 化学工学 食品工学	計測制御工学 * 生命環境科学演習Ⅱ リモートセンシング概論	* 卒業研究 公衆衛生学 * 生命環境科学セミナー		⑫数量的スキル
英語特別演習 * 生命環境科学演習Ⅰ		* 卒業研究 * 生命環境科学セミナー		⑬情報リテラシー力
* 化学工学 環境生物学 食品工学 品質管理 * 生命環境科学演習Ⅰ * 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学	食品衛生学 計測制御工学 * 生命環境科学実験Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究 * 生命環境科学セミナー		⑭論理的思考力
* 化学工学 環境影響評価論 * 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学	日本国憲法 リモートセンシング概論 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業研究 * 生命環境科学セミナー		⑮問題解決力
遺伝子工学 環境生物学 生物有機化学 食品品質管理 特別専攻ゼミナールⅡ	酵素工学 生理学 食品分析学 食品製造学 食品衛生学 * 生命環境科学演習Ⅱ * 生命環境科学実験Ⅱ リモートセンシング概論 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒業研究 公衆衛生学		⑯専門基礎原理の理解力
* 化学工学 遺伝子工学 生物有機化学 食品工学 環境汚染物質分析学 * 生命環境科学演習Ⅰ * 生命環境科学実験Ⅰ 海洋生態学 特別専攻ゼミナールⅡ	酵素工学 生理学 食品分析学 食品製造学 食品衛生学 計測制御工学 * 生命環境科学演習Ⅱ * 生命環境科学実験Ⅱ * 生命環境プロセス実習Ⅱ リモートセンシング概論 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒業研究 * 生命環境科学セミナー		⑰専門基礎原理の高度応用展開力
英語特別演習		* 卒業研究		⑱継続的学習経験

生命環境科学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑭市民としての社会的責任感	歴 史	無 機 化 学 ＊グリーンケミストリー		環 境 材 料 学
⑯異文化理解力	＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I 物 理 学 概 論	経 済 学 地 域 学 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 英語コミュニケーション I 中 国 語 III	英語コミュニケーション II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
* 職 業 倫 理 環 境 生 物 学 品 質 管 理 環 境 影 響 評 価 論 環 境 汚 染 物 質 分 析 学	日 本 国 憲 法 * 生命環境プロセス実習Ⅱ イ ン タ ー ン シ ッ プ	公 衆 衛 生 学		⑭市民としての社会的 責任感
英 語 特 別 演 習		異文化コミュニケーション		⑳異文化理解力

生命環境科学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 A	A-1	キャリアデザインⅠ ＊生命環境科学概論 歴史 ＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ 体育学 ＊化学実験	＊生命環境科学導入デザイン 経済学 地域学 ＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ 海外研修 ＊グリーンケミストリー 特別専攻プロジェクトⅠ	キャリアデザインⅡ 日本文学 海外文学 英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ 環境とエネルギー ＊分析化学 地球環境システム科学	英語コミュニケーションⅡ 主題別ゼミナールⅢ 特別専攻プロジェクトⅡ
	A-2	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ 心理学	哲学 環境材料学
目標 B	B-1	＊生命環境科学概論 ＊現代敬語Ⅰ 基礎物理学Ⅰ 物理学概論 ＊基礎化学Ⅰ ＊化学実験Ⅰ ＊生命科学	＊生命環境科学導入デザイン ＊現代英語Ⅱ 基礎物理学Ⅱ 無機化学 基礎化学Ⅱ 物理学実験 海洋学の基礎と未来	心理学 英語コミュニケーションⅠ 現代物理学概論 環境とエネルギー ＊物理化学 地球環境システム科学 海洋生物学	英語コミュニケーションⅡ 応用物理学概論 ＊分子遺伝学
	B-2	＊現代英語Ⅰ ＊微分 ＊基礎情報科学	＊現代英語Ⅱ ＊積分 解析Ⅰ	心理学 英語コミュニケーションⅠ 線形代数 環境とエネルギー ＊生命環境科学基礎演習Ⅰ 解析Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ 確率・統計 ＊生命環境科学基礎演習Ⅱ 解析Ⅲ
目標 C	C-1	＊生命環境科学概論 歴史 体育学	＊生命環境科学導入デザイン 日本語表現法 スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ	実践日本語表現 スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ	主題別ゼミナールⅢ
	C-2	＊現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ	＊現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ 海外研修	英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅰ	英語コミュニケーションⅡ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
キャリアデザインⅢ				A-1 A-2 目標 A
英語特別演習 環境影響評価論 *生命環境科学演習Ⅰ	日本国憲法 インターンシップ 特別専攻プロジェクトⅢ	異文化コミュニケーション 公衆衛生学		
キャリアデザインⅢ				B-1 B-2 目標 B
*職業倫理 *生命環境科学演習Ⅰ	日本国憲法 インターンシップ			
*職業倫理 英語特別演習 遺伝子工学 *生命環境科学実験Ⅰ		*卒業研究 公衆衛生学 *生命環境科学セミナー		C-1 C-2 目標 C
*職業倫理 英語特別演習	計測制御工学 *生命環境科学演習Ⅱ リモートセンシング概論	*卒業研究 異文化コミュニケーション *生命環境科学セミナー		
英語特別演習		*卒業研究 *生命環境科学セミナー		

生命環境科学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 D	D-1	＊生命環境科学概論 ＊バイオテクノロジー	＊生命環境科学導入デザイン	有機化学 ＊微生物学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅰ 海洋生物学	＊生化学 ＊分子遺伝学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅱ ＊生命環境科学基礎実験
	D-2		無機化学 ＊グリーンケミストリー	＊分析化学 有機化学 海洋生物学	環境材料学 ＊分子遺伝学 機器分析 臨海実習
	D-3	＊生命環境科学概論	＊生命環境科学導入デザイン	有機化学 ＊微生物学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅰ	微生物工学 食品化学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅱ ＊生命環境科学基礎実験
	D-4			＊生命環境プロセス実習Ⅰ	微生物工学
	D-5	＊生命環境科学概論	＊生命環境科学導入デザイン 海洋学の基礎と未来	有機化学 ＊環境化学量論 ＊微生物学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅰ ＊生命環境プロセス実習Ⅰ	環境材料学 リサイクル工学 機器分析 ＊生命環境科学基礎演習Ⅱ ＊生命環境科学基礎実験
	D-6			＊分析化学 有機化学 ＊環境化学量論 ＊生命環境プロセス実習Ⅰ	リサイクル工学
目 標 E	E-1	＊生命環境科学概論	＊生命環境科学導入デザイン 無機化学	＊分析化学 ＊環境化学量論 ＊微生物学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅰ	環境材料学 ＊生命環境科学基礎演習Ⅱ ＊生命環境科学基礎実験 臨海実習
目 標 F	F-1	キャリアデザインⅠ ＊生命環境科学概論	＊生命環境科学導入デザイン 特別専攻プロジェクトⅠ	キャリアデザインⅡ ＊分析化学 ＊微生物学	環境材料学 微生物工学 特別専攻プロジェクトⅡ 特別専攻ゼミナールⅠ
	F-2	＊基礎情報科学	＊生命環境科学導入デザイン 特別専攻プロジェクトⅠ	＊生命環境科学基礎演習Ⅰ ＊生命環境プロセス実習Ⅰ	＊生命環境科学基礎演習Ⅱ ＊生命環境科学基礎実験 臨海実習 特別専攻プロジェクトⅡ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
遺 伝 子 工 学 環 境 生 物 学 生 物 有 機 化 学 海 洋 生 態 学	酵 素 工 学	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-1	目 標 D
遺 伝 子 工 学 環 境 生 物 学 生 物 有 機 化 学 * 生命環境科学実験Ⅰ 海 洋 生 態 学	生 理 学 * 生命環境科学演習Ⅱ * 生命環境科学実験Ⅱ	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-2	
生 物 有 機 化 学	生 理 学 食 品 分 析 学 食 品 製 造 学 食 品 衛 生 学	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-3	
食 品 工 学 * 生命環境科学実験Ⅰ	食 品 分 析 学 食 品 製 造 学 食 品 衛 生 学 * 生命環境科学実験Ⅱ * 生命環境プロセス実習Ⅱ	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-4	
* 化 学 工 学 生 物 有 機 化 学 食 品 工 学 品 質 管 理 環 境 影 響 評 価 論 環 境 汚 染 物 質 分 析 学 * 生命環境科学演習Ⅰ	計 測 制 御 工 学	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-5	
* 化 学 工 学 生 物 有 機 化 学 品 質 管 理 環 境 影 響 評 価 論 * 生命環境科学実験Ⅰ	* 生命環境科学演習Ⅱ * 生命環境科学実験Ⅱ * 生命環境プロセス実習Ⅱ	* 卒 業 研 究 * 生命環境科学セミナー	D-6	
* 化 学 工 学 環 境 生 物 学 品 質 管 理 海 洋 生 態 学	* 生命環境科学演習Ⅱ	* 卒 業 研 究 公 衆 衛 生 学 * 生命環境科学セミナー	E-1	目 標 E
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究		目 標 F
環 境 影 響 評 価 論 * 生命環境科学演習Ⅰ 特別専攻ゼミナールⅡ	食 品 衛 生 学 * 生命環境科学演習Ⅱ * 生命環境科学実験Ⅱ イ ン タ ー シ ッ プ 特別専攻プロジェクトⅢ 特別専攻ゼミナールⅢ	* 生命環境科学セミナー	F-1	
* 生命環境科学実験Ⅰ	* 生命環境科学実験Ⅱ * 生命環境プロセス実習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究	F-2	

生命環境科学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○														
生命環境科学概論	第1学年前期	必修											◎			○		○	○			
生命環境科学導入デザイン	第1学年後期	必修											◎			○		○	○			
心理学	第2学年前期	選択				○	○						○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○										◎						
職業倫理	第3学年前期	必修						◎													◎	
日本文学	第2学年前期	選択		○									◎			○						◎
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○							○			○				○		◎
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○									○				◎	
歴史	第1学年前期	選択			○				○				○			◎					○	
経済学	第1学年後期	選択				○							◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○							◎									◎
日本語表現法	第1学年後期	選択							◎							○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択							◎							○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修							○	◎					○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択							○	◎					○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択							○	◎					○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択								◎			○							○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択							○	○												◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ特別演習	第1学年後期	選択			○		○	○			○											
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択																		○		
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択															○			○		
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択															○			○		
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○											◎
微分	第1学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
積分	第1学年後期	必修											○	◎		○	○			○		
線形代数	第2学年前期	選択											○	◎		○	○			○		
確率・統計	第2学年後期	選択											○	◎		○	○			○		
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		

生命環境科学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
現代物理学概論	第2学年前期	選択												○		○		◎	○			
応用物理学概論	第2学年後期	選択												○		○		◎	○			
物理学概論	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		○
環境とエネルギー	第2学年前期	選択						○								○	○	◎				
バイオテクノロジー	第1学年前期	必修																◎				
無機化学	第1学年後期	選択											○					◎			○	
生化学	第2学年後期	必修																◎				
物理化学	第2学年前期	必修												◎		◎		◎				
分析化学	第2学年前期	必修											○	○				◎				
有機化学	第2学年前期	選択																◎	○			
環境材料学	第2学年後期	選択										○						◎	○		○	
環境化学量論	第2学年前期	必修												◎		○	○		○			
化学工学	第3学年前期	必修												◎		○	○		○			
基礎化学Ⅰ	第1学年前期	必修												○		○	○	◎		○		
基礎化学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
物理学実験	第1学年後期	選択												○		○		◎		○		
化学実験	第1学年前期	必修			○									○		○	○	◎		○		
生命科学	第1学年前期	必修				○						○						◎		○		
基礎情報科学	第1学年前期	必修			○										◎			○				
微生物学	第2学年前期	必修				○										○		◎	◎			
微生物工学	第2学年後期	選択				○										○		◎	◎			
分子遺伝学	第2学年後期	必修																◎	○			
遺伝子工学	第3学年前期	選択																○	◎			
環境生物学	第3学年前期	選択				◎										○		○			○	
酵素工学	第3学年後期	選択																○	◎			
生理学	第3学年後期	選択																○	◎			
生物有機化学	第3学年前期	選択																○	◎			
食品分析学	第3学年後期	選択																○	◎			
食品製造学	第3学年後期	選択																○	◎			
食品工学	第3学年前期	選択												○		◎			◎			
食品化学	第2学年後期	選択																	◎			
食品衛生学	第3学年後期	選択				○										○		◎	◎			
公衆衛生学	第4学年前期	選択											○					◎			○	
品質管理	第3学年前期	選択														○		◎			○	
計測制御工学	第3学年後期	選択												◎		◎			◎			
リサイクル工学	第2学年後期	選択				○								○		◎			◎			
グリーンケミストリー	第1学年後期	必修																	◎		○	
環境影響評価論	第3学年前期	選択											◎				○				○	

生命環境科学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
機器分析	第2学年後期	選択													○	○		◎				
環境汚染物質分析学	第3学年前期	選択																◎		○		
地球環境システム科学	第2学年前期	選択																◎	○			
生命環境科学基礎演習Ⅰ	第2学年前期	必修											○	○				◎	○			
生命環境科学基礎演習Ⅱ	第2学年後期	必修											○	○				◎	○			
生命環境科学演習Ⅰ	第3学年前期	必修				○									○	◎			◎			
生命環境科学演習Ⅱ	第3学年後期	必修												○				◎	○			
生命環境科学基礎実験	第2学年後期	必修		○	○						○	○						◎				
生命環境科学実験Ⅰ	第3学年前期	必修											○			○	○		◎			
生命環境科学実験Ⅱ	第3学年後期	必修											○			◎		◎	◎			
生命環境プロセス実習Ⅰ	第2学年前期	必修			○		○				○	○							◎			
生命環境プロセス実習Ⅱ	第3学年後期	必修									○	○	◎						◎			
インターンシップ	第3学年後期	選択	○		○								○								◎	
生命環境科学セミナー	第4学年前期	必修	○		○		○		○	○				○	○	○	○		◎			
卒業研究	第4学年通年	必修	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○		
海洋学の基礎と未来	第1学年後期	選択		○									○					◎				
海洋生物学	第2学年前期	選択			○													○	◎			
臨海実習	第2学年後期	選択		○	○														◎			
海洋生態学	第3学年前期	選択														○	○		◎			
リモートセンシング概論	第3学年後期	選択												○			○	◎	◎			
解析Ⅰ	第1学年後期	選択												◎								
解析Ⅱ	第2学年前期	選択												◎								
解析Ⅲ	第2学年後期	選択												◎								
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	◎			

学習・到達目標														
目標A		目標B		目標C		目標D						目標E	目標F	
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心を持つとともに、地球的視野を身に付けた人材		専門分野の基礎となる基礎知識をもつとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる人材		コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた人材		専門知識の着実な理解とその応用・展開能力を持ち、実務に対処し得る人材						生命・環境、化学の知識を融合して、環境調和型社会をデザインできる素養と能力を身につけた人材	自ら考え、積極的に行動し、生涯自己学習能力を持つ人材	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6	E	F-1	F-2
社会、地球環境、生命科学など、複数の視点から多面的に物事を考える能力を身に付ける	職業倫理を通して、社会人としての立場・役割を認識し、技術者として強い倫理観をもつて行動できる能力を身につける	生物学・化学・物理学など自然科学の基礎となる知識とそれらを応用できる能力を身に付ける	数学・情報技術など工学の基礎となる知識とそれらを応用できる能力を身につける	日本語で論理的な記述や口頭による表現および討論ができる能力を身に付ける	外国語による読解と表現の基礎的能力を習得し、社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付ける	環境調和型社会に必要とされる生命科学分野の基礎知識を身につける	生命科学の専門知識を習得し、環境の保全や評価などに応用できる能力を身につける	環境調和型社会に必要とされる食品科学分野の基礎知識を身につける	食品科学の専門知識を習得し、一次産業や食品生産などに応用展開できる能力を身につける	環境調和型社会に必要とされる環境化学分野の基礎知識を身につける	環境化学の専門知識を習得し、物質生産や環境修復などに応用展開できる能力を身に付ける	自ら考え、積極的に行動し、生涯自己学習能力を持つ人材	生涯にわたり、常に新しい知識の獲得を目指して自主的に学び、それを活用した課題解決能力および資格取得のための能力を身につける	実験、実習および卒業研究などを通して、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる能力を身につける
							○			◎				
										◎				
○		◎												
			○			◎		◎		◎		○		○
○	○		○			◎		◎		◎		○	◎	○
			○				◎				◎	○	◎	
						○		○		○		○		◎
		◎					○		○		○			◎
							○		○		○		○	◎
									◎	○	○			◎
○	◎								◎		○		○	
		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎
		○				○	◎			◎				
							○					○		◎
							○					◎		
			◎											
			◎											
			◎											
			◎											
○													◎	◎
○													◎	◎
○													◎	◎
													◎	
													◎	
													◎	

2.12.5 土木建築工学科の学習・教育到達目標と教育課程

■土木建築工学科の教育目的

近年、社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題へ対応するため、土木・建築の双方の基礎領域を理解しうる技術者が必要となってきました。さらに、土木と建築の両分野がこれまでに専門分化し培ってきた概念や技術を融合し、都市・地域社会マネジメントの観点に基づく「安全で快適なまちづくり」を計画・実施していくため、分野間を超えて協調・協力していくことの重要性が指摘されています。

この社会的な要請にこたえるため、土木建築工学科 (Civil Engineering and Architecture) では、必要な科学と土木・建築工学に係る技術と知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力を有し、人間性豊かな総合判断力と応用展開能力、および生涯自己学習能力を身につけた技術者の養成を目的としています。

■土木建築工学科の学習・教育到達目標 (ディプロマ・ポリシー)

土木建築工学科では、所定の年限在学し、学科の教育理念や目的を達成するために開設した授業科目を履修して、卒業に必要な単位数を修得し、以下の学科の教育到達目標に示された資質・能力を身につけたと認められるものに学士 (工学) の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた技術者
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての

素養を身に付けた技術者

- (D) 基本的な専門知識と応用・展開・指導能力の素養を身につけ、実務に対処しうる技術者
- (E) 自ら積極的に学んで行動するとともに、将来の資格取得の能力を持った技術者
- (F) 北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者

これらの教育到達目標を実現するため、次のような目標 (A) - (F) をもって教育を実施します。これらの目標は、土木建築工学科で育成しようとする技術者像を表しています。また、学習・教育到達目標に併記されている小項目 (A-1) - (F-2) は、技術者としての細分化された能力や素養を示すものです。

- (A) 社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた技術者
 - (A-1) 総合教養的な知識や学力を修得し、技術者として歴史や風土・文化的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける【総合教養と多面的考察力】
 - (A-2) 技術者としての倫理観を備え、科学技術と自然環境・社会との関わりや社会への貢献を意識して行動できる素養を身につける【技術者倫理】
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者
 - (B-1) 科学と工学基礎に関する知識や学力を修得し、実社会で活用できる能力を身につける【科学技術の知識と応用能力】
 - (B-2) 情報技術に関する基本的な知識とスキルを修得し、実社会で活用できる能力を身につける【情報技術のスキルと応用能力】
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての

素養を身に付けた技術者

(C-1) 技術的・社会的に十分に通用する日本語コミュニケーション能力を身につける【日本語表現能力】

(C-2) 外国語によるコミュニケーション基礎能力を修得し、国際交流・協調に関する素養を身につける【国際コミュニケーション基礎能力】

(D) 基本的な専門知識と応用・展開の素養を身につけた技術者

(D-1) 構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの土木・建築工学共通の基本的な知識と学力を修得する【土木・建築専門基礎科目の基礎学力】

(D-2) 水工学、地盤工学、コンクリート工学などの土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、中堅技術者として応用・展開できる能力を身につける【土木専門基幹科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-3) 環境工学または土木計画・道路工学の基礎的な知識と学力を修得し、それを応用・展開できる素養を身につける【土木専門関連科目の基礎学力と応用展開能力】

(D-4) 建築の設計・製図・計画、建築環境と建築設備、建築構造、施工など建築に関する基礎的な知識と学力を修得し、応用・展開できる能力を身につける【建築専門科目の基礎学力】

(D-5) 建築に関する特定領域の高度な専門知識を修得し、応用・展開できる能力を身につける【建築専門科目の応用展開力】

(E) デザイン能力・チームワーク力を備え、自ら積極的に学んで行動し、実社会において実務に対処しうる技術者

(E-1) 課題に対する計画、遂行、分析・評価、解決などの総合的なデザイン能力を身につける【デザイン能力】

(E-2) 常に新しい技術に関心を持ち、実験・実

習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける【自主的・継続的学習能力と行動力】

(E-3) 専門知識や工学ツールを用いて与えられた条件の下で課題を解決しまとめる能力を身につける【プロジェクトマネジメント力】

(E-4) チームで仕事をする際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける【チームワーク力】

(F) 北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者

(F-1) 北東北地域の自然・社会特性とこれに係わる土木・建築技術に関する知識や素養を身につける【地域の土木・建築技術への関心】

(F-2) 国内外の土木・建築技術に関心をもち、技術的な課題を国際的な視点から考える素養を身につける【国内外の土木・建築技術事情への関心】

■土木建築工学科のカリキュラム編成方針・教育方法（カリキュラム・ポリシー）

土木建築工学科では、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる学科の学習・教育目標に適う人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

<教育課程編成の方針>

1) 4年間一貫教育：調和と連携のとれた教育を目指し、導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、リメディアル科目、そして専門基礎科目、土木専門科目、建築専門科目、専門応用科目の8区分の科目群で構成されています。

2) 導入転換科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに土木建築工学への興味を喚起するための

科目を配置します。

- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 の 4 分野にわたる教養科目を配置します。
- 4) 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、自然科学、情報、実験に係わる科目群を配置します。
- 5) 専門基礎科目：土木工学および建築工学を学ぶ上で必要となる、構造力学、測量学、計画学、製図、地盤工学などの共通の基礎科目を配置します。
- 6) 土木専門科目：土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、土木基礎、土木応用の各分野から構成される科目を配置します。
- 7) 建築専門科目：建築工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的として、建築設計、建築計画・環境・設備、建築構造・生産、建築応用、建築法規の各分野から構成される科目を配置します。
- 8) 専門応用科目：土木建築工学における応用・実用的な能力を深めることを目的として、インターンシップ、学外研修、総合デザインなどや卒業研究を配置した専門応用分野の科目群、さらに、海洋学の基礎、海洋土木などを配置した海洋学分野の科目群も配置します。
- 9) 特別専攻科目：少人数教育を通して土木建築工学における高度な応用・展開能力を修得することを目的として、解析、特別専攻プロジェクト、特別専攻ゼミナールの科目群も配置します。

＜教育実施の方針＞

- 1) 履修コースと指導：将来の進路や取得可能な資格の希望に応じた履修コースが設けられ、2 年進級時に履修コースを選択します。各履

修コースには、その人材育成像に応じた履修要件が設定されています。3 年進級前までは、コースの変更ができます。原則として 3 年進級以降はコース変更はできません。また、学年担任が学生ひとり一人に対して適切な履修計画の立案および学修の指導を行います。

- 2) 実験・実習などの実践的教育：講義で学んだ知識を実践して理解をさらに深め、かつ応用力を養うこと、また新たな学習課題を自ら発見することを目的としています。
- 3) 設計・演習教育：設計および演習教育を特に重視します。構造（建築）物を実際に設計し、かつ表現、建設できることは、土木・建築に対する理解を深めるとともに、デザイン能力や多様な実務を処理する能力の養成に役立ちます。
- 4) 視聴覚・情報機器の活用：本学科では、IT ルームや自習室を整備し、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習・利用を促進します。また、通常の授業においても視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。
- 5) 卒業研究：4 年間の学習・教育の総仕上げとして位置づけられています。本科目では、より総合的な学習や特定領域における研究活動を通じて、土木建築工学に関する応用展開能力を育成し、さらには学術・技術の発展に貢献することが求められます。

土木建築工学科開講学年別授業科目表（土木工学コース）

（2019年度入学生用）

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	■異文化コミュニケーション	2
土 木 工 学 概 論②		□心 理 学	2	□職 業 倫 理②		●機 械 工 学 概 論	2
建 築 概 論②		□哲 学	2	■日 本 国 憲 法	2	●電 気 電 子 工 学 概 論	2
□歴 史	2	□日 本 文 学	2	■英 語 特 別 演 習	2	●原 子 燃 料 サイクル・安全工学	2
□経 済 学	2	□海 外 文 学	2	▲応 用 数 学	2	卒 業 研 究	⑥
□地 域 学	2	■実 践 日 本 語 表 現	2	▲都 市 計 画	②		
■日 本 語 表 現 法	2	■英 語 コミュニケーションⅠ	2	上 下 水 道 工 学②			
現 代 英 語 Ⅰ②		■英 語 コミュニケーションⅡ	2	★水 処 理 工 学	2		
現 代 英 語 Ⅱ②		■中 国 語 Ⅲ	2	★河 川 工 学	2		
■中 国 語 Ⅰ	2	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	★海 岸・港 湾 工 学	2		
■中 国 語 Ⅱ	2	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2	★道 路・交 通 工 学	2		
◆体 育 学	1	◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2	地 盤 の 力 学②			
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	線 形 代 数②		コ ン ク リ ー ト 構 造 学②			
◆主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2	▲確 率・統 計	2	★維 持 管 理 工 学	2		
◆海 外 研 修 分	②	▲現 代 物 理 学 概 論	2	★施 工 技 術	2		
微 積 分②		▲応 用 物 理 学 概 論	2	土 木 工 学 実 験 Ⅱ②			
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	▲生 命 科 学	2	カ リ ア プ ラ ン ニ ン グ②			
▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	測 量 学②		水 工 学 設 計・演 習②			
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	測 量 実 習①		☆橋 工 学 設 計・演 習	2		
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	構 造 力 学 Ⅰ②		地 盤 工 学 設 計・演 習②			
▲物 理 学 概 論	2	●構 造 力 学 演 習 Ⅰ	1	コ ン ク リ ー ト 工 学 設 計・演 習②			
基 礎 情 報 科 学②		●構 造 力 学 演 習 Ⅱ	1	応 用 測 量 学 及 び 実 習②			
▼物 理 学 実 験	2	地 盤 構 造 工 学②		☆火 災 学	2		
▼化 学 実 験	2	材 料 の 力 学②		●建 築 設 計 Ⅲ	3		
基 礎 製 図②		情 報 処 理②		一 建 築 設 計 Ⅳ	3		
CAD 基 礎 演 習②		廃 棄 物 と 工 事 排 水②		●音・光 環 境	2		
地 球 環 境 論②		基 礎 水 理 学②		●音・光 環 境 演 習	1		
●デ ッ サ ン	2	流 れ の 力 学②		●建 築 設 備	2		
●原 子 力 エ ネ ル ギ ー	2	★計 画 数 理	2	●鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 構 造	2		
●海 洋 学 の 基 礎 と 未 来 解 析 Ⅰ	2	地 盤 の 科 学②		●鋼 構 造	2		
特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	2	コ ン ク リ ー ト 工 学②		●木 質 構 造	2		
		土 木 工 学 実 験 Ⅰ②		●構 造 設 計	2		
		●建 築 設 計 Ⅰ	3	●建 築 材 料 実 験	2		
		●建 築 設 計 Ⅱ	3	●建 築 法 規	2		
		●住 居 計 画	2	●雪 国 建 築	2		
		●建 築 計 画	2	●イ ン タ ー ン シ ッ プ	1		
		●建 築 史	2	総 合 デ ザ イ ン Ⅰ②			
		●イ ン テ リ ア デ ザ イ ン	2	総 合 デ ザ イ ン Ⅱ②			
		●熱・空 気 環 境	2	●応 用 構 造 力 学	2		
		●熱・空 気 環 境 演 習	2	●機 械 工 作 実 習	1		
		●建 築 材 料 学	2	●海 洋 土 木 実 習	1		
		●建 築 施 工	2	●リ モ ー ト セ ン シ ン グ 概 論	1		
		●応 用 電 子 計 算 機	2	特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	2		
		●色 彩 学	2	特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	2		
		●学 外 研 修	1	特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ	2		
		●情 報 処 理 応 用	2				
		●海 洋 土 木 Ⅰ	2				
		●海 洋 土 木 Ⅱ	2				
		解 析 Ⅲ	2				
		特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ	2				
		特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅰ	2				

注 1：○で囲まれた数字は土木建築工学科およびコース履修上の必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注 2：この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注 3：□、■、◆、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、★、☆、●は専門の選択科目である。

土木建築工学科開講学年別授業科目表（建築工学コース）

（2019年度入学生用）

第 1 学 年		第 2 学 年		第 3 学 年		第 4 学 年	
授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後	授 業 科 目	単位 前 後
キャリアデザインⅠ	1	キャリアデザインⅡ	1	キャリアデザインⅢ	2	■異文化コミュニケーション	2
土 木 工 学 概 論②		□心 理 学	2	□職 業 倫 理②		●機 械 工 学 概 論	2
建 築 概 論②		□哲 学	2	■日 本 国 憲 法	2	●電 気 電 子 工 学 概 論	2
□歴 史	2	□日 本 文 学	2	■英 語 特 別 演 習	2	●原子燃料サイクル・安全工学	2
□経 済 学	2	□海 外 文 学	2	▲応 用 数 学	2	卒 業 研 究	⑥
□地 域 学	2	■実践日本語表現	2	●都 市 計 画②			
■日 本 語 表 現 法	2	■英語コミュニケーションⅠ	2	●上 下 水 道 工 学	2		
現 代 英 語 Ⅰ②		■英語コミュニケーションⅡ	2	●水 処 理 工 学	2		
現 代 英 語 Ⅱ②		■中 国 語 Ⅲ	2	●河 川 工 学	2		
■中 国 語 Ⅰ	2	◆ス ポ ー ツ 健 康 学	1	●海 岸・港 湾 工 学	2		
■中 国 語 Ⅱ	2	◆主題別ゼミナールⅡ	2	●道 路・交 通 工 学	2		
◆体 育 学	1	◆主題別ゼミナールⅢ	2	●地 盤 の 力 学	2		
◆ス ポ ー ツ 特 別 演 習	1	線 形 代 数②		●コンクリート構造学	2		
◆主題別ゼミナールⅠ	2	▲確 率・統 計	2	●維 持 管 理 工 学	2		
◆海 外 研 修 分	②	▲現代物理学概論	2	●施 工 技 術	2		
微 積	②	▲応用物理学概論	2	- 土 木 工 学 実 験 Ⅱ			
▲基 礎 物 理 学 Ⅰ	2	▲生 命 科 学	2	キャリアプランニング	2		
▲基 礎 物 理 学 Ⅱ	2	測 量 学	②	- 水 工 学 設 計・演 習			
▲基 礎 化 学 Ⅰ	2	測 量 実 習①		- 橋 工 学 設 計・演 習			
▲基 礎 化 学 Ⅱ	2	構 造 力 学 Ⅰ②		- 地 盤 工 学 設 計・演 習			
▲物 理 学 概 論	2	●構 造 力 学 演 習 Ⅰ	1	- コンクリート工学設計・演習			
基 礎 情 報 科 学②		●構 造 力 学 演 習 Ⅱ	1	●応 用 測 量 学 及 び 実 習	2		
▼物 理 学 実 験	2	地 盤 構 造 工 学②		●火 災 学	2		
▼化 学 実 験	2	●材 料 の 力 学	2	建 築 設 計 Ⅲ③			
基 礎 製 図②		●情 報 処 理	2	★建 築 設 計 Ⅳ	3		
CAD基 礎 演 習	②	●廃棄物と工事排水	2	音・光環境②			
地 球 環 境 論	②	●基礎水理学	2	★音・光環境演習Ⅰ	1		
●デ ッ サ ン	2	●流 れ の 力 学	2	建 築 設 備	②		
●原子力エネルギー	2	●計 画 数 理	2	鉄筋コンクリート構造②			
●海洋学の基礎と未来	2	●地 盤 の 科 学	2	☆鋼 構 造	2		
解 析 Ⅰ	2	●コンクリート工学	2	☆木 質 構 造	2		
特別専攻プロジェクトⅠ	2	- 土 木 工 学 実 験 Ⅰ		☆構 造 設 計	2		
		建 築 設 計 Ⅰ③		☆建 築 材 料 実 験	2		
		建 築 設 計 Ⅱ③		建 築 法 規	②		
		住 居 計 画②		雪 国 建 築	②		
		建 築 計 画②		●インターンシップ	1		
		建 築 史②		総 合 デ ザ イ ン Ⅰ②			
		★インテリアデザイン	2	総 合 デ ザ イ ン Ⅱ②			
		熱・空気環境②		●応 用 構 造 力 学	2		
		★熱・空気環境演習	2	機 械 工 作 実 習	1		
		建 築 材 料 学②		- 海 洋 土 木 実 習			
		建 築 施 工②		- リモートセンシング概論			
		●応 用 電 子 計 算 機	2	特別専攻プロジェクトⅢ	2		
		●色 彩 学	2	特別専攻ゼミナールⅡ	2		
		●学 外 研 修	1	特別専攻ゼミナールⅢ	2		
		●情 報 処 理 応 用	2				
		- 海 洋 土 木 Ⅰ					
		- 海 洋 土 木 Ⅱ					
		解 析 Ⅲ	2				
		特別専攻プロジェクトⅡ	2				
		特別専攻ゼミナールⅠ	2				

注 1：○で囲まれた数字は土木建築工学科およびコース履修上の必修科目の単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注 2：この科目表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注 3：□、■、◆、◆は総合教養の選択科目、▲、▼は工学基礎の選択科目、★、☆、●は専門の選択科目である。

土木建築工学科単位集計表（土木工学コース）

（2019年度入学生用）

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	10	10	20	20	13	12	25	45	18	8	26	71	0	6	6	77
	選択	11	31	42	42	35	40	75	117	28	33	61	178	6	2	8	186
	計	21	41	62	62	48	52	100	162	46	41	87	249	6	8	14	263
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 20単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				必修科目の全て 77単位 □、■、◆印の導 入転換科目・総合 教養科目から26単 位以上 ただし、 □印の科目から8単位 以上、 ■印の科目から8単位 以上、 ・▲印の科目から16単 位以上、 ・▼印の科目から2単 位以上 上記の科目を含め、 124単位以上			

注1：この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2：開講単位数（必修・選択の単位数）は、コースの履修要件により算出したものである。

土木建築工学科単位集計表（建築工学コース）

（2019年度入学生用）

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	10	10	20	20	18	11	29	49	13	8	21	70	0	6	6	76
	選択	11	31	42	42	30	37	67	109	29	25	54	163	4	2	6	169
	計	21	41	62	62	48	48	96	158	42	33	75	233	4	8	12	245
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 35単位以上				修得単位数 75単位以上				修得単位数 115単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 25単位以上 必修の修得単位数 10単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 20単位以上				修得単位数 100単位以上 必修の修得単位数 30単位以上				必修科目の全て 76単位 □、■、◆印の導 入転換科目・総合 教養科目から26単 位以上 ただし、 □印の科目から8単位 以上、 ■印の科目から8単位 以上、 ・▲印の科目から16単 位以上、 ・▼印の科目から2単 位以上 上 記 の 科 目 を 含 め、 124単位以上			

注1：この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

注2：開講単位数（必修・選択の単位数）は、コースの履修要件により算出したものである。

土木建築工学科カリキュラム（土木工学コース）

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入転換科目	キャリアデザイン 工学への関心	キャリアデザインⅠ	1	土木工学概論②	2	キャリアデザインⅡ	1		
総合教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	心理学	2	哲学	2
				地域学	2	日本文学	2		
						海外文学	2		
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ②	2	日本語表現法	2	実践日本語表現	2		
		中国語Ⅰ②	2	現代英語Ⅱ②	2	英語コミュニケーションⅠ	2	英語コミュニケーションⅡ	2
工学基礎科目	体育科学	中国語Ⅱ②	2	中国語Ⅱ	2	中国語Ⅲ②	2		
	総合学際	体育学①	1	スポーツ特別演習	1	スポーツ健康学	1		
				主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2
				海外研修	1				
専門科目	数 学	微 分②	2	積 分②	2	線形代数②	2	確率・統計	2
	自然科学	基礎物理学Ⅰ②	2	基礎物理学Ⅱ②	2	現代物理学概論	2	応用物理学概論	2
		基礎化学Ⅰ②	2	基礎化学Ⅱ②	2			生命科学	2
	情報実験	基礎情報科学②	2	物理学概論	2				
土木専門科目	専門基礎	基礎製図②	2	CAD基礎演習②	2	測量学②	2		
		デッサン②	2	地球環境論②	2	測量実習①	1		
						構造力学Ⅰ②	2	構造力学Ⅱ②	2
						構造力学演習Ⅰ①	1	構造力学演習Ⅱ①	1
建築専門科目	土木基礎					地盤構造工学②	2		
						材料の力学②	2	地盤の科学②	2
						基礎水理学②	2	流れの力学②	2
								コンクリート工学②	2
建築専門科目	土木応用							計画数理②	2
								廃棄物と工事排水②	2
						情報処理②	2	土木工学実験Ⅰ②	2
建築専門科目	建築設計					建築設計Ⅰ③	3	建築設計Ⅱ③	3
	建築計画・環境・設備					住居計画②	2	建築計画②	2
						建築史②	2	熱・空気環境②	2
	建築構造・生産					インテリアデザイン②	2	熱・空気環境演習②	2
専門応用科目	建築法規					建築材料学②	2	建築施工②	2
	建築応用								
	専門応用			原子力エネルギー②	2			学外研修②	2
								情報処理応用②	2
特別専攻科目	海洋学			海洋学の基礎と未来②	2	海洋土木Ⅰ②	2	海洋土木Ⅱ②	2
	特別専攻			解析Ⅰ②	2	解析Ⅱ②	2	解析Ⅲ②	2
				特別専攻プロジェクトⅠ②	2			特別専攻プロジェクトⅡ②	2
		進級要件 総計25単位以上（必修10単位以上） 修得単位数				進級要件 総計60単位以上（必修20単位以上） 修得単位数			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。■は土木建築工学科およびコースの必修科目、その他は選択科目を示す。

注2. 導入転換科目から4単位取得すること。

注3. 総合教養を含み26単位以上修得すること。ただし、人間科学分野から必修を含め10単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて12単位以上を修得すること。

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分	
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位			
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科目	
職 業 倫 理 ②		日 本 国 憲 法	2					人 間 科 学	総 合 教 養 科 目	
								国 際 コミュニケーション		
英 語 特 別 演 習	2			異文化コミュニケーション	2			体 育 科 学		
								総 合 学 際		
応 用 数 学	2							数 学	工 学 基 礎 科 目	
								自 然 科 学		
								情 実 報 験		
都 市 計 画 ②								専 門 基 礎	専門科目	
地 盤 の 力 学 ②								土 木 基 礎	土 木 専 門 科 目	
河 川 工 学	2	海 岸 ・ 港 湾 工 学	2							
コンクリート構造学	2	維 持 管 理 工 学	2					土 木 応 用		
道路・交通工学	2									
上下水道工学	2	水 処 理 工 学	2							
		施 工 技 術	2							
土木工学実験Ⅱ	②									
キャリアプランニング	②									
水工学設計・演習	②	橋工学設計・演習	2							
		地盤工学設計・演習	②					建 築 設 計	建 築 専 門 科 目	
		コンクリート工学設計・演習	②							
		応用測量学及び実習	②					建 築 計 画 ・ 環 境 ・ 設 備		
		火 災 学	2							
建 築 設 計 Ⅲ	3	建 築 設 計 Ⅳ	3					建 築 構 造 ・ 生 産		
音・光環境	2	建 築 設 備	2					建 築 法 規		
音・光環境演習	1							建 築 応 用		
建築材料実験	2									
鉄筋コンクリート構造	2	構 造 設 計	2						専 門 応 用 科 目	
鋼 構 造	2									
木 質 構 造	2									
		建 築 法 規	2							
		雪 国 建 築	2						特 別 専 攻 科 目	
総合デザインⅠ	②	総合デザインⅡ	②	卒 業 要 件 研 究 ⑥						
インターンシップ	1			機 械 工 学 概 論	2	原子燃料サイクル・安全工学	2	専 門 応 用		
応用構造力学	2			電 気 電 子 工 学 概 論	2			海 洋 学		
機械工作実習	1								特 別 専 攻 科 目	
		海 洋 土 木 実 習	1							
		リモートセンシング概論	1							
		特別専攻プロジェクトⅢ	2							
特別専攻ゼミナールⅡ	2	特別専攻ゼミナールⅢ	2						特 別 専 攻 科 目	
進級要件 総計100単位以上（必修30単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修77単位を含む）						
修得単位数				修得単位数						

注4. 工学基礎科目から必修を含み22単位以上を修得すること。ただし、実験分野から2単位以上を修得すること。

注5. 専門科目から必修を含み72単位以上を修得すること。

注6. 〇は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科カリキュラム（建築工学コース）

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年			
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位
導入転換科目	キャリアデザイン 工学への関心	キャリアデザインⅠ 土木工学概論②	1 2	建築概論②	2	キャリアデザインⅡ	1		
総合教養科目	人間科学	歴史	2	経済学 地域学	2 2	心理学 日本文学 海外文学	2 2 2	哲学	2
	国際コミュニケーション	現代英語Ⅰ② 中国語Ⅰ②	2 2	日本語表現法 現代英語Ⅱ② 中国語Ⅱ②	2 2 2	実践日本語表現 英語コミュニケーションⅠ② 中国語Ⅲ②	2 2 2	英語コミュニケーションⅡ②	2
	体育科学	体育学	1	スポーツ特別演習 主題別ゼミナールⅠ②	1 2	スポーツ健康学 主題別ゼミナールⅡ②	1 2	主題別ゼミナールⅢ②	2
	総合学際			海外研修	1				
	工学基礎科目	数 学 自然科学 情報実験	微分② 基礎物理学Ⅰ② 基礎化学Ⅰ② 基礎情報科学② 物理学実験②	積分② 基礎物理学Ⅱ② 基礎化学Ⅱ② 物理学概論② 化学実験②	2 2 2 2 2	線形代数② 現代物理学概論②	2 2	確率・統計② 応用物理学概論② 生命科学②	2 2 2
専門科目	専門基礎	基礎製図② デッサン②	2 2	CAD基礎演習② 地球環境論②	2 2	測量学② 測量実習① 構造力学Ⅰ② 構造力学演習Ⅰ① 地盤構造工学②	2 1 2 1 2	構造力学Ⅱ② 構造力学演習Ⅱ①	2 1
	土木専門科目	土木基礎 土木応用				材料の力学② 基礎水理学② 情報処理②	2 2 2	地盤の科学② 流れの力学② コンクリート工学② 計画数理② 廃棄物と工事排水② 土木工学実験Ⅰ②	2 2 2 2 2 2
建築専門科目	建築設計					建築設計Ⅰ③ 住居計画② 建築史② インテリアデザイン② 建築材料学②	3 2 2 2 2	建築設計Ⅱ③ 建築計画② 熱・空気環境② 熱・空気環境演習② 建築施工②	3 2 2 2 2
	建築計画・環境・設備								
	建築構造・生産								
	建築法規 建築応用					応用電子計算機②	2	色彩学②	2
専門応用科目	専門応用			原子力エネルギー②	2			学外研修 情報処理応用②	2 2
	海洋学			海洋学の基礎と未来②	2	海洋土木Ⅰ②	2	海洋土木Ⅱ②	2
特別専攻科目	特別専攻			解析Ⅰ② 特別専攻プロジェクトⅠ②	2 2	解析Ⅱ②	2	解析Ⅲ② 特別専攻プロジェクトⅡ② 特別専攻ゼミナールⅠ②	2 2 2
		進級要件 総計25単位以上（必修10単位以上） 修得単位数				進級要件 総計60単位以上（必修20単位以上） 修得単位数			

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。■は土木建築工学科およびコースの必修科目、その他は選択科目を示す。

注2. 導入転換科目から4単位取得すること。

注3. 総合教養を含み26単位以上修得すること。ただし、人間科学分野から必修を含め10単位以上、国際コミュニケーション分野から必修を含めて12単位以上を修得すること。

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分
前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位		
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2							キャリアデザイン 工学への関心	導入転換 科目
職 業 倫 理 ②		日 本 国 憲 法	2					人 間 科 学	総 合 教 養 科 目
				異文化コミュニケーション	2			国 際 コミュニケーション	
英 語 特 別 演 習	2							体 育 科 学	
								総 合 学 際	工 学 基 礎 科 目
応 用 数 学	2							数 学	
								自 然 科 学	
								情 実 報 験	
都 市 計 画 ②								専 門 基 礎	専門科目
									土 木 専 門 科 目
地 盤 の 力 学	2							土 木 基 礎	
河 川 工 学	2	海 岸 ・ 港 湾 工 学	2						
コンクリート構造学	2	維 持 管 理 工 学	2						
道路・交通工学	2								
上下水道工学	2	水 処 理 工 学	2						
		施 工 技 術	2						
土木工学実験Ⅱ	2							土 木 応 用	
キャリアプランニング	2								
水工学設計・演習	2	橋工学設計・演習	2						
		地盤工学設計・演習	2						
		コンクリート工学設計・演習	2						
		応用測量学及び実習	2						
		火 薬 学	2						
建 築 設 計 Ⅲ	3	建 築 設 計 Ⅳ	3					建 築 設 計	建 築 専 門 科 目
音・光環境	2	建 築 設 備	2					建 築 計 画 ・ 環 境 ・ 設 備	
音・光環境演習	1								
鉄筋コンクリート構造	②	構 造 設 計	2					建 築 構 造 ・ 生 産	
鋼 構 造	2								
木 質 構 造	2								
建築材料実験	2								
		建 築 法 規	2					建 築 法 規 建 築 応 用	
		雪 国 建 築	2						
総合デザインⅠ ②		総合デザインⅡ ②		卒 業 研 究 ⑥				専 門 応 用	専 門 応 用 科 目
インターンシップ	1			機 械 工 学 概 論	2	原子燃料サイクル・安全工学	2		
応用構造力学	2			電 気 電 子 工 学 概 論	2				
機械工作実習	1								
		海 洋 土 木 実 習	1					海 洋 学	特 別 専 攻 科 目
		リモートセンシング概論	1						
		特別専攻プロジェクトⅢ	2					特 別 専 攻	
特別専攻ゼミナールⅡ	2	特別専攻ゼミナールⅢ	2						
進級要件 総計100単位以上（必修30単位以上） 修得単位数				卒業要件 総計124単位以上（必修77単位を含む） 修得単位数					

注4. 工学基礎科目から必修を含み22単位以上を修得すること。ただし、実験分野から2単位以上を修得すること。

注5. 専門科目から必修を含み72単位以上を修得すること。

注6. 〇は原則としてコースによって修得できない科目である。

土木建築工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心	* 土 木 工 学 概 論	* 建 築 概 論 地 域 学 海 外 研 修 原子力エネルギー	* 測 量 実 習	土 木 工 学 実 験 I
②感動する心		海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 建 築 設 計 I	土 木 工 学 実 験 I 建 築 設 計 II
③主体性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 歴 史 体 育 学 * 基 礎 製 図	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 化 学 実 験 * C A D 基 礎 演 習 特別専攻プロジェクト I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 測 量 実 習 構 造 力 学 演 習 I 建 築 設 計 I	構 造 力 学 演 習 II 土 木 工 学 実 験 I 建 築 設 計 II 熱・空気環境演習 学 外 研 修 特別専攻プロジェクト II
④人間環境理解力	デ ッ サ ン	経 済 学 地 域 学 海洋学の基礎と未来	心 理 学 海 外 文 学	哲 学 生 命 科 学
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I * 土 木 工 学 概 論 体 育 学 * 基 礎 製 図	* 検 知 器 概 論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 * C A D 基 礎 演 習 原子力エネルギー	心 理 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 * 測 量 実 習 構 造 力 学 演 習 I 建 築 設 計 I	構 造 力 学 演 習 II 土 木 工 学 実 験 I 建 築 設 計 II 熱・空気環境演習 学 外 研 修
⑥倫理観・規律性	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 体 育 学	ス ポ ー ツ 特 別 演 習 * 地 球 環 境 論	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II ス ポ ー ツ 健 康 学	
⑦日本語コミュニケーション・スキル	歴 史 * 現 代 英 語 I	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 II	実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I * 測 量 実 習	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II 土 木 工 学 実 験 I
⑧外国語コミュニケーション・スキル	* 現 代 英 語 I 中 国 語 I	* 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
⑨チームワーク力	* 土 木 工 学 概 論 体 育 学	* 建 築 概 論 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 海 外 研 修 原子力エネルギー 特別専攻プロジェクト I	ス ポ ー ツ 健 康 学 * 測 量 実 習	土 木 工 学 実 験 I 特別専攻プロジェクト II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
土木工学実験Ⅱ 建築材料実験 * 総合デザインⅠ 機械工作実習	日本国憲法 応用測量学及び実習 * 総合デザインⅡ	機械工学概論 電気電子工学概論	原子燃料サイクル・安全工学	①寛容な心
土木工学実験Ⅱ 建築設計Ⅲ 建築材料実験 * 総合デザインⅠ	建築設計Ⅳ * 総合デザインⅡ	* 卒業研究		②感動する心
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		③主体性
土木工学実験Ⅱ キャリアプランニング 水工学設計・演習 建築設計Ⅲ 音・光環境演習 建築材料実験 インターンシップ * 総合デザインⅠ	施工技術 橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習 応用測量学及び実習 火薬学 建築設計Ⅳ * 総合デザインⅡ 海洋土木実習 特別専攻プロジェクトⅢ			④人間環境理解力
応用数学	日本国憲法			⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
キャリアデザインⅢ		* 卒業研究		⑥倫理観・規律性
土木工学実験Ⅱ キャリアプランニング 水工学設計・演習 建築設計Ⅲ 音・光環境演習 建築材料実験 インターンシップ * 総合デザインⅠ 機械工作実習	施工技術 橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習 応用測量学及び実習 火薬学 建築設計Ⅳ * 総合デザインⅡ 海洋土木実習	機械工学概論 電気電子工学概論	原子燃料サイクル・安全工学	⑦日本語コミュニケーション・スキル
キャリアデザインⅢ				⑧外国語コミュニケーション・スキル
* 職業倫理	日本国憲法			⑨チームワーク力
英語特別演習 土木工学実験Ⅱ	橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習	* 卒業研究		
英語特別演習		異文化コミュニケーション		
土木工学実験Ⅱ 建築材料実験 * 総合デザインⅠ 機械工作実習	応用測量学及び実習 * 総合デザインⅡ 特別専攻プロジェクトⅢ	機械工学概論 電気電子工学概論	原子燃料サイクル・安全工学	

土木建築工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑩リーダーシップ力	＊ 土 木 工 学 概 論	＊ 建 築 概 論 原子力エネルギー 特別専攻プロジェクトⅠ	＊ 測 量 実 習	土 木 工 学 実 験 Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	歴 史 中 国 語 Ⅰ ＊ 微 分 ＊ 基 礎 製 図	経 済 学 地 域 学 中 国 語 Ⅱ ＊ 積 分 ＊ C A D 基 礎 演 習 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 中 国 語 Ⅲ ＊ 線 形 代 数 ＊ 測 量 実 習 構 造 力 学 演 習 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅰ	確 率 ・ 統 計 生 命 科 学 構 造 力 学 演 習 Ⅱ 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅱ 熱 ・ 空 気 環 境 演 習 学 外 研 修 特別専攻プロジェクトⅡ
⑫数量的スキル	＊ 微 分 基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ 物 理 学 概 論 物 理 学 実 験	経 済 学 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 化 学 実 験 海洋学の基礎と未来 解 析 Ⅰ	＊ 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 解 析 Ⅱ	確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 解 析 Ⅲ
⑬情報リテラシー力	＊ 現 代 英 語 Ⅰ ＊ 基 礎 情 報 科 学	＊ 現 代 英 語 Ⅱ ＊ C A D 基 礎 演 習	英語コミュニケーションⅠ 情 報 処 理 応 用 電 子 計 算 機	英語コミュニケーションⅡ 情 報 処 理 応 用
⑭論理的思考力	歴 史 ＊ 微 分 基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ 物 理 学 概 論 物 理 学 実 験	日 本 語 表 現 法 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 化 学 実 験 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 ＊ 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 建 築 設 計 Ⅰ	哲 学 確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑮問題解決力	＊ 微 分 基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ	経 済 学 ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 化 学 実 験 特別専攻プロジェクトⅠ	心 理 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ ＊ 線 形 代 数 建 築 設 計 Ⅰ	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ 確 率 ・ 統 計 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑯専門基礎原理の理解力	基 礎 物 理 学 Ⅰ 基 礎 化 学 Ⅰ 物 理 学 概 論 物 理 学 実 験 ＊ 基 礎 製 図	基 礎 物 理 学 Ⅱ 基 礎 化 学 Ⅱ 化 学 実 験 ＊ C A D 基 礎 演 習	現 代 物 理 学 概 論 ＊ 測 量 学 ＊ 測 量 実 習 ＊ 構 造 力 学 Ⅰ ＊ 地 盤 構 造 工 学 材 料 の 力 学 基 礎 水 理 学 建 築 設 計 Ⅰ 住 居 計 画 インテリアデザイン 建 築 材 料 学 海 洋 土 木 Ⅰ	応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学 ＊ 構 造 力 学 Ⅱ 廃 棄 物 と 工 事 排 水 流 れ の 力 学 計 画 数 理 地 盤 の 科 学 コンクリート工学 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 計 画 熱 ・ 空 気 環 境 建 築 施 工 色 彩 学 海 洋 土 木 Ⅱ 特別専攻ゼミナールⅠ

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
土 木 工 学 実 験 Ⅱ 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ 機 械 工 作 実 習	応 用 測 量 学 及 び 実 習 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	機 械 工 学 概 論 電 気 電 子 工 学 概 論	原子燃料サイクル・安全工学	⑩リーダーシップ力
土 木 工 学 実 験 Ⅱ キャリアプランニング 水 工 学 設 計 ・ 演 習 建 築 設 計 Ⅲ 音 ・ 光 環 境 演 習 建 築 材 料 実 験 インターンシップ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	施 工 技 術 橋 工 学 設 計 ・ 演 習 地 盤 工 学 設 計 ・ 演 習 コ ン ク リ ー ト 工 学 設 計 ・ 演 習 応 用 測 量 学 及 び 実 習 火 災 学 建 築 設 計 Ⅳ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 海 洋 土 木 実 習 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	* 卒 業 研 究		⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
応 用 数 学				⑫数量的スキル
英 語 特 別 演 習				⑬情報リテラシー力
土 木 工 学 実 験 Ⅱ 建 築 設 計 Ⅲ 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	建 築 設 計 Ⅳ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	* 卒 業 研 究		⑭論理的思考力
土 木 工 学 実 験 Ⅱ 建 築 設 計 Ⅲ 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	日 本 国 憲 法 建 築 設 計 Ⅳ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅲ	* 卒 業 研 究		⑮問題解決力
* 都 市 計 画 上 下 水 道 工 学 河 川 工 学 道 路 ・ 交 通 工 学 地 盤 の 力 学 コ ン ク リ ー ト 構 造 学 土 木 工 学 実 験 Ⅱ キャリアプランニング 水 工 学 設 計 ・ 演 習 音 ・ 光 環 境 木 質 構 造 応 用 構 造 力 学 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅱ	水 処 理 工 学 海 岸 ・ 港 湾 工 学 維 持 管 理 工 学 橋 工 学 設 計 ・ 演 習 地 盤 工 学 設 計 ・ 演 習 コ ン ク リ ー ト 工 学 設 計 ・ 演 習 建 築 設 備 建 築 法 規 リ モ ー ト セ ン シ ン グ 概 論 特 別 専 攻 ゼ ミ ナ ー ル Ⅲ			⑯専門基礎原理の理解力

土木建築工学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑪専門基礎原理の高度 応用展開力	＊ 基 礎 製 図	＊ C A D 基 礎 演 習	現代物理学概論 ＊ 測 量 学 ＊ 測 量 実 習 ＊ 構 造 力 学 I ＊ 地 盤 構 造 工 学 材 料 の 力 学 基 礎 水 理 学 建 築 設 計 I 建 築 史 建 築 材 料 学 海 洋 土 木 I	応用物理学概論 ＊ 構 造 力 学 II 廃棄物と工事排水 流 れ の 力 学 計 画 数 理 地 盤 の 科 学 コ ン ク リ ー ト 工 学 土 木 工 学 実 験 I 建 築 設 計 II 海 洋 土 木 II 特別専攻ゼミナール I
⑫継続的学習経験	＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I ＊ 微 分 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 物 理 学 概 論 物 理 学 実 験 ＊ 基 礎 製 図	日 本 語 表 現 法 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I ＊ 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 化 学 実 験 ＊ C A D 基 礎 演 習	海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II ＊ 線 形 代 数 ＊ 測 量 実 習 構 造 力 学 演 習 I 建 築 設 計 I	英語コミュニケーションII 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 確 率 ・ 統 計 生 命 科 学 構 造 力 学 演 習 II 土 木 工 学 実 験 I 建 築 設 計 II 熱 ・ 空 気 環 境 演 習 学 外 研 修
⑬市民としての社会的 責任感	歴 史	＊ 地 球 環 境 論		
⑭異文化理解力	＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I 物 理 学 概 論 デ ッ サ ン	経 済 学 地 域 学 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III	英語コミュニケーションII

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
* 都 市 計 画 上下水道工学 河 川 工 学 道路・交通工学 地 盤 の 力 学 コンクリート構造学 土 木 工 学 実 験 II キャリアプランニング 水工学設計・演習 建 築 設 計 III 鉄筋コンクリート構造 鋼 構 造 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン I 応 用 構 造 力 学 特別専攻ゼミナール II	水 処 理 工 学 海 岸 ・ 港 湾 工 学 維 持 管 理 工 学 橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習 建 築 設 計 IV 構 造 設 計 雪 国 建 築 * 総 合 デ ザ イ ン II リモートセンシング概論 特別専攻ゼミナール III	* 卒 業 研 究		⑰専門基礎原理の高度 応用展開力
英 語 特 別 演 習 土 木 工 学 実 験 II キャリアプランニング 水工学設計・演習 建 築 設 計 III 音 ・ 光 環 境 演 習 建 築 材 料 実 験 インターンシップ	施 工 技 術 橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習 応用測量学及び実習 火 薬 学 建 築 設 計 IV 海 洋 土 木 実 習	* 卒 業 研 究		⑱継続的学習経験
* 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法			⑲市民としての社会的 責任感
英 語 特 別 演 習		異文化コミュニケーション		⑳異文化理解力

土木建築工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 A	A-1	歴 史 体 育 学 デ ッ サ ン	経 済 学 地 域 学 ス ポ ー ツ 特 別 演 習 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II	哲 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II
	A-2		* 地 球 環 境 論		
目 標 B	B-1	* 微 分 基 礎 物 理 学 I 基 礎 化 学 I 物 理 学 概 論 物 理 学 実 験	* 積 分 基 礎 物 理 学 II 基 礎 化 学 II 化 学 実 験 海 洋 学 の 基 礎 と 未 来 解 析 I	* 線 形 代 数 現 代 物 理 学 概 論 解 析 II	確 率 ・ 統 計 応 用 物 理 学 概 論 生 命 科 学 解 析 III
	B-2	* 基 礎 情 報 科 学	* C A D 基 礎 演 習	情 報 処 理 応 用 電 子 計 算 機	情 報 処 理 応 用
目 標 C	C-1		日 本 語 表 現 法	実 践 日 本 語 表 現 * 測 量 実 習	土 木 工 学 実 験 I
	C-2	* 現 代 英 語 I 中 国 語 I	* 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
目 標 D	D-1	* 基 礎 製 図	* C A D 基 礎 演 習	* 測 量 学 * 測 量 実 習 * 構 造 力 学 I 建 築 材 料 学	* 構 造 力 学 II
	D-2			* 地 盤 構 造 工 学 材 料 の 力 学 基 礎 水 理 学 海 洋 土 木 I	流 れ の 力 学 地 盤 の 科 学 コ ン ク リ ー ト 工 学 土 木 工 学 実 験 I 海 洋 土 木 II
	D-3				廃 棄 物 と 工 事 排 水 計 画 数 理
	D-4			建 築 設 計 I 住 居 計 画 イ ン テ リ ア デ ザ イン	建 築 計 画 熱 ・ 空 気 環 境 建 築 施 工 色 彩 学
	D-5			建 築 史	

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
* 職業倫理	特別専攻プロジェクトⅢ			A-1 A-2 目標 A
応用数学				B-1 B-2 目標 B
土木工学実験Ⅱ	橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習	* 卒業研究		C-1 C-2 目標 C
英語特別演習	異文化コミュニケーション			
* 都市計画	リモートセンシング概論			D-1 D-2 D-3 D-4 D-5 目標 D
河川工学 地盤の力学 コンクリート構造学 土木工学実験Ⅱ キャリアプランニング 水工学設計・演習 応用構造力学	海岸・港湾工学 維持管理工学 橋工学設計・演習 地盤工学設計・演習 コンクリート工学設計・演習			
上下水道工学 河川工学 道路・交通工学 土木工学実験Ⅱ	水処理工学 海岸・港湾工学			
音・光環境 木質構造	建築設備 建築法規			
鉄筋コンクリート構造 鋼構造	構造設計 雪国建築			

土木建築工学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標		1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 E	E-1		特別専攻プロジェクトⅠ	建 築 設 計 Ⅰ	土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
	E-2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ * 基 礎 製 図	* C A D 基 礎 演 習	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ * 測 量 実 習 構 造 力 学 演 習 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅰ	構 造 力 学 演 習 Ⅱ 土 木 工 学 実 験 Ⅰ 建 築 設 計 Ⅱ 熱・空 気 環 境 演 習 学 外 研 修 特別専攻ゼミナールⅠ
	E-3		特別専攻プロジェクトⅠ		特別専攻プロジェクトⅡ
	E-4	* 土 木 工 学 概 論	* 建 築 概 論 原 子 力 エ ネ ル ギ ー 特別専攻プロジェクトⅠ	* 測 量 実 習	土 木 工 学 実 験 Ⅰ 特別専攻プロジェクトⅡ
目標 F	F-1	* 土 木 工 学 概 論	* 建 築 概 論		
	F-2	* 土 木 工 学 概 論	* 建 築 概 論		

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
土 木 工 学 実 験 Ⅱ 建 築 設 計 Ⅲ 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	建 築 設 計 Ⅳ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究	E-1	目 標 E
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 研 究	E-2	
土 木 工 学 実 験 Ⅱ キャリアプランニング 水 工 学 設 計・演 習 建 築 設 計 Ⅲ 音・光 環 境 演 習 建 築 材 料 実 験 インターンシップ 特別専攻ゼミナールⅡ	施 工 技 術 橋 工 学 設 計・演 習 地 盤 工 学 設 計・演 習 コンクリート工学設計・演習 応用測量学及び実習 火 薬 学 建 築 設 計 Ⅳ 海 洋 土 木 実 習 特別専攻ゼミナールⅢ		E-3	
建 築 設 計 Ⅲ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	建 築 設 計 Ⅳ * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒 業 研 究	E-4	
土 木 工 学 実 験 Ⅱ 建 築 材 料 実 験 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅰ	応用測量学及び実習 * 総 合 デ ザ イ ン Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅢ	機 械 工 学 概 論 電 気 電 子 工 学 概 論	原子燃料サイクル・安全工学	
		* 卒 業 研 究	F-1	目 標 F
		* 卒 業 研 究	F-2	

土木建築工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○														
土木工学概論	第1学年前期	必修	◎				○				◎	◎										
建築概論	第1学年後期	必修	◎				○				◎	◎										
心理学	第2学年前期	選択				○	○						○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○										◎						
職業倫理	第3学年前期	必修						◎												◎		
日本文学	第2学年前期	選択		○									◎			○					◎	
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○							○			○				○	◎	
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○									○			◎		
歴史	第1学年前期	選択			○				○				○			◎				○		
経済学	第1学年後期	選択				○							◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○							◎									◎
日本語表現法	第1学年後期	選択							◎							○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択							◎							○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修							○	◎					○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択							○	◎					○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択							○	◎					○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択								◎			○							○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択							○	○												◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ特別演習	第1学年後期	選択			○		○	○			○											
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択																		○		
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択															○			○		
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択															○			○		
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○											◎
微分	第1学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
積分	第1学年後期	必修											○	◎		○	○			○		
線形代数	第2学年前期	必修											○	◎		○	○			○		
確率・統計	第2学年後期	選択											○	◎		○	○			○		
応用数学	第3学年前期	選択				○								◎								

土木建築工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
基礎物理学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎物理学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
現代物理学概論	第2学年前期	選択												○		○		◎	○			
応用物理学概論	第2学年後期	選択												○		○		◎	○			
基礎化学Ⅰ	第1学年前期	選択												○		○	○	◎		○		
基礎化学Ⅱ	第1学年後期	選択												○		○	○	◎		○		
生命科学	第2学年後期	選択				○							○					◎		○		
物理学概論	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		○
基礎情報科学	第1学年前期	必修													◎							
物理学実験	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		
化学実験	第1学年後期	選択			○									○		○	○	◎		○		
基礎製図	第1学年前期	必修			◎		◎						○					◎	◎	◎		
CAD 基礎演習	第1学年後期	必修			◎		◎						○		◎			◎	◎	◎		
地球環境論	第1学年後期	必修						◎													○	
デッサン	第1学年前期	選択				◎															○	
測量学	第2学年前期	必修																◎	◎			
測量実習	第2学年前期	必修	◎		◎		◎		◎		◎	◎	○					◎	◎	◎		
都市計画	第3学年前期	必修																◎	◎			
構造力学Ⅰ	第2学年前期	必修																◎	◎			
構造力学演習Ⅰ	第2学年前期	選択			◎		◎						○					◎	◎		◎	
構造力学Ⅱ	第2学年後期	必修																◎	◎			
構造力学演習Ⅱ	第2学年後期	選択			◎		◎						○							◎		
地盤構造工学	第2学年前期	必修																◎	◎			
材料の力学	第2学年前期	選択																◎	◎			
情報処理	第2学年前期	選択													◎							
廃棄物と工事排水	第2学年後期	選択																◎	◎			
上下水道工学	第3学年前期	選択																◎	◎			
水処理工学	第3学年後期	選択																◎	◎			
基礎水理学	第2学年前期	選択																◎	◎			
流れの力学	第2学年後期	選択																◎	◎			
河川工学	第3学年前期	選択																◎	◎			
海岸・港湾工学	第3学年後期	選択																◎	◎			
計画数理	第2学年後期	選択																◎	◎			
道路・交通工学	第3学年前期	選択																◎	◎			
地盤の科学	第2学年後期	選択																◎	◎			
地盤の力学	第3学年前期	選択																◎	◎			
コンクリート工学	第2学年後期	選択																◎	◎			

土木建築工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある ○ : 関連がある 空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
コンクリート構造学	第3学年前期	選択																○	○			
維持管理工学	第3学年後期	選択																○	○			
施工技術	第3学年後期	選択			○		○						○							○		
土工学実験Ⅰ	第2学年後期	選択	○	○	○		○		○		○	○	○			○	○	○	○	○		
土工学実験Ⅱ	第3学年前期	選択	○	○	○		○		○		○	○	○			○	○	○	○	○		
キャリアプランニング	第3学年前期	選択			○		○						○					○	○	○		
水工学設計・演習	第3学年前期	選択			○		○						○					○	○	○		
橋工学設計・演習	第3学年後期	選択			○		○		○				○					○	○	○		
地盤工学設計・演習	第3学年後期	選択			○		○		○				○					○	○	○		
コンクリート工学設計・演習	第3学年後期	選択			○		○		○				○					○	○	○		
応用測量学及び実習	第3学年後期	選択	○		○		○				○	○	○							○		
火薬学	第3学年後期	選択			○		○						○							○		
建築設計Ⅰ	第2学年前期	選択		○	○		○						○			○	○	○	○	○		
建築設計Ⅱ	第2学年後期	選択		○	○		○						○			○	○		○	○		
建築設計Ⅲ	第3学年前期	選択		○	○		○						○			○	○		○	○		
建築設計Ⅳ	第3学年後期	選択		○	○		○						○			○	○		○	○		
住居計画	第2学年前期	選択																○				
建築計画	第2学年後期	選択																○				
建築史	第2学年前期	選択																	○			
インテリアデザイン	第2学年前期	選択																○				
熱・空気環境	第2学年後期	選択																○				
熱・空気環境演習	第2学年後期	選択			○		○						○							○		
音・光環境	第3学年前期	選択																○				
音・光環境演習	第3学年前期	選択			○		○						○							○		
建築設備	第3学年後期	選択																○				
鉄筋コンクリート構造	第3学年前期	選択																	○			
鋼構造	第3学年前期	選択																	○			
木質構造	第3学年前期	選択																○				
構造設計	第3学年後期	選択																	○			
建築材料学	第2学年前期	選択																○	○			
建築施工	第2学年後期	選択																○				
建築材料実験	第3学年前期	選択	○	○	○		○				○	○	○			○	○		○	○		
建築法規	第3学年後期	選択																○				
応用電子計算機	第2学年前期	選択													○							
色彩学	第2学年後期	選択																○				
雪国建築	第3学年後期	選択																	○			
インターンシップ	第3学年前期	選択			○		○						○							○		

学習・到達目標																
目標 A		目標 B		目標 C		目標 D					目標 E				目標 F	
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた技術者		専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者		コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた技術者		基本的な専門知識と応用・展開の素養を身に付けた技術者					デザイン能力・チームワーク力を備え、自ら積極的に学んで行動し、実社会において実務に対処しうる技術者				北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	E-1	E-2	E-3	E-4	F-1	F-2
総合教養的な知識や学力を修得し、技術者としての倫理観を備え、科学技術と自然環境・社会との関わりや社会への貢献を意識して行動できる素養を身につける	技術者としての倫理観を備え、科学技術と自然環境・社会との関わりや社会への貢献を意識して行動できる素養を身につける	科学と工学基礎に関する知識や学力を修得し、実社会で活用できる能力を身につける	情報技術に関する基本的な知識とスキルを修得し、実社会で活用できる能力を身につける	技術的・社会的に十分に通用する日本語コミュニケーション能力を身につける	外国語によるコミュニケーション基礎能力を修得し、国際交流・協調に関する素養を身につける	構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの土木・建築工学共通の基本的な知識と学力を修得する	水工学、地盤工学、コンクリート工学などの土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、中堅技術者として応用・展開できる能力を身につける	環境工学または土木計画・道路工学の基礎的な知識と学力を修得し、それを応用・展開できる素養を身につける	建築の設計・製図・計画、建築環境と建築設備、建築構造、施工など建築に関する基礎的な知識と学力を修得し、応用・展開できる能力を身につける	建築に関する特定領域の高度な専門知識を修得し、応用・展開できる能力を身につける	課題に対する計画、遂行、分析・評価、解決などの総合的なデザイン能力を身につける	常に新しい技術に関心を持ち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける	専門知識や工学ツールを用いて与えられた条件の下で課題を解決しまとめる能力を身につける	チームで仕事をする際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける	北東北地域の自然・社会特性とこれに係わる土木・建築技術に関する知識や素養を身につける	国内外の土木・建築技術に関心を持ち、技術的な課題を国際的な視点からも考える素養を身につける
							◎									
							◎									
				○			○				○	◎		○		
				○			○	○			○	◎		○		
							○					◎				
				○			○					◎				
				○			○					◎				
				○			○					◎			○	
									◎		○	◎				
											○	◎				
											◎	○	○			
									◎							

土木建築工学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1 寛容な心	2 感動する心	3 主体性	4 人間環境理解力	5 自己管理能力・ストレスコントロール力	6 倫理観・規律性	7 日本語コミュニケーション・スキル	8 外国語コミュニケーション・スキル	9 チームワーク力	10 リーダーシップ力	11 総合的学習経験・創造的思考力・創造力	12 数量的スキル	13 情報リテラシー力	14 論理的思考力	15 問題解決力	16 専門基礎原理の理解力	17 専門基礎原理の高度応用展開力	18 継続的学習力	19 市民としての社会的責任感	20 異文化理解力
修得因子、学習・到達目標との関連基準																						
◎ : 大きな関連がある																						
○ : 関連がある																						
空白 : 関連がない																						
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
学外研修	第2学年後期	選択			◎		◎						○							◎		
総合デザインⅠ	第3学年前期	必修	◎	○	○		○				◎	◎	◎			◎	◎		◎			
総合デザインⅡ	第3学年後期	必修	◎	○	○		○				◎	◎	◎			◎	◎		◎			
情報処理応用	第2学年後期	選択													◎							
応用構造力学	第3学年前期	選択																◎	◎			
機械工作実習	第3学年前期	選択	◎				○				◎	◎						◎	◎			
機械工学概論	第4学年前期	選択	◎				○				◎	◎										
電気電子工学概論	第4学年前期	選択	◎				○				◎	◎										
原子力エネルギー	第1学年後期	選択	◎				○				◎	◎										
原子燃料サイクル・安全工学	第4学年後期	選択	◎				○				◎	◎										
卒業研究	第4学年通年	必修		○	◎		◎		◎				◎			◎	◎		◎	◎		
海洋学の基礎と未来	第1学年後期	選択				○								◎								
海洋土木Ⅰ	第2学年前期	選択																◎	◎			
海洋土木Ⅱ	第2学年後期	選択																◎	◎			
海洋土木実習	第3学年後期	選択			◎		◎						○							◎		
リモートセンシング概論	第3学年後期	選択																◎	◎			
解析Ⅰ	第1学年後期	選択												◎								
解析Ⅱ	第2学年前期	選択												◎								
解析Ⅲ	第2学年後期	選択												◎								
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			◎						◎	○	○			○	◎					
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	◎			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	◎			

学習・到達目標																
目標A		目標B		目標C		目標D					目標E				目標F	
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心をもつとともに、地球的視野を身に付けた技術者		専門分野の基盤となる基礎知識を持つとともに、これらを活用して社会の発展に貢献できる技術者		コミュニケーション能力と国際人としての素養を身に付けた技術者		基本的な専門知識と応用・展開の素養を身につけた技術者					デザイン能力・チームワーク力を備え、自ら積極的に学んで行動し、実社会において実務に対処しうる技術者				北東北地域の土木・建築技術に関心を持つとともに、国際的視野も合わせ持った技術者	
A-1	A-2	B-1	B-2	C-1	C-2	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	E-1	E-2	E-3	E-4	F-1	F-2
総合教養的な知識や学力を修得し、技術者として歴史や風土・文化的な視点から多面的に物事を考える素養を身につける	技術者としての倫理観を備え、科学技術と自然環境・社会との関わりや社会への貢献を意識して行動できる素養を身につける	科学と工学基礎に関する知識や学力を修得し、実社会で活用できる能力を身につける	情報技術に関する基本的な知識とスキルを修得し、実社会で活用できる能力を身につける	技術的・社会的に十分に通用する日本語コミュニケーション能力を身につける	外国語によるコミュニケーション基礎能力を修得し、国際交流・協調に関する素養を身につける	構造工学、測量学、計画学、材料、製図などの土木・建築工学共通の基本的な知識と学力を修得する	水工学、地盤工学、コンクリート工学などの土木工学に関する基礎的な知識と学力を修得し、中堅技術者として応用・展開できる能力を身につける	環境工学または土木計画・道路工学の基礎的な知識と学力を修得し、それを応用・展開できる素養を身につける	建築の設計・製図・計画、建築環境と建築設備、建築構造、施工など建築に関する基礎的な知識と学力を修得し、応用・展開できる能力を身につける	建築に関する特定領域の高度な専門知識を修得し、応用・展開できる能力を身につける	課題に対する計画、遂行、分析・評価、解決などの総合的なデザイン能力を身につける	常に新しい技術に関心を持ち、実験・実習・演習などを通じて、自ら積極的に学び・行動する能力を身につける	専門知識や工学ツールを用いて与えられた条件の下で課題を解決しまとめる能力を身につける	チームで仕事をすると際に自分の役割や責任・仕事の目的を理解し、目的を達成するために適切な行動ができる能力を身につける	北東北地域の自然・社会特性とこれに係わる土木・建築技術に関する知識や素養を身につける	国内外の土木・建築技術に関心を持ち、技術的な課題を国際的な視点からも考える素養を身につける
												◎				
											○		○	◎		
			○				◎				◎		○	○		
														○		
														◎		
														◎		
				◎							○	○	◎		○	○
		◎					◎									
							◎									
		◎														
		◎														
		◎														
○											◎		◎	◎		
○											◎		◎	◎		
○											◎		◎	◎		
												◎				
												◎				
												◎				

2.13 感性デザイン学部教育目標・教育課程

■教育目標

教育理念にそった人材を育成するため、感性デザイン学部では以下の教育目標を掲げます。

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素質をもった人材を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材を育成する
- 3) デザインの諸原理の理解とそれらの応用・展開力をもった人材を育成する
- 4) 公共的問題や地域社会が抱える問題を自ら発見し、デザイン手法を用いて解決する力をもった人材を育成する
- 5) 多文化、異文化を理解し、グローバルな視点でモノを考えることができ、それを課題解決に活かす力をもった人材を育成する

■教育課程編成方針・教育実施基本方針

感性デザイン学部では、教育目標に掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを「導入転換科目」、「総合教養科目」、「専門科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2) 総合的な人間力を養成する教育を実施します

総合教養科目においては、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え、総合的な判断力を養うための科目と、コミュニケーションスキルを獲得するための科目を編成します。また、導入転換科目として、大学における学修計画や達成度評価、職業指導等を通じて将来のキャリア形成を支援するためのキャリアデザイン科目を配置します。専門科目には、PBL、アクティブ・ラーニングなどを取

り入れた科目を編成し、豊かな人間性と総合的な判断力、並びに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成します。

3) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育を実施します

感性デザイン学部の専門基礎原理を学ぶ科目を学期ごとに体系的に学べるように編成します。また、専門基礎理論科目と演習・実習科目を有機的に連動させ、専門基礎原理を演習・実習の場で確認し繰り返し学習できるように授業を展開します。これにより、専門分野の基礎原理を十分に理解・修得させる教育を実施します。

4) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力をもたせる教育を実施します

発想力、発表力、自ら問題を解決する力などの実践的な力を養成するため、初年次から演習・実習科目を重点的に編成します。演習・実習科目をそれぞれの学年に配置し、段階的に学びが深化するように配置します。また、コミュニケーションスキルを養成するために、授業にはグループワークや協働活動を取り入れ、他者の考えに耳を傾け、さまざまな情報や多様な立場を受容する力、プレゼンテーションを通して自ら考え纏めたことを発表、表現する力を養う授業を展開します。さらに修得した専門知識やスキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業制作・論文」を必修とします。

5) 地域社会との繋がりを重視した教育を実施します

公共的問題や地域社会が抱える課題を発見し、それを解決に導く力を養成するために、デザイン手法を学ぶ教育を実施します。また、地域と連携したPBLやアクティブ・ラーニング教育を実施します。これにより、社会の変化に対応できる柔軟な思考力、地域社会へ

の関心をもってデザイン活動に取り組む姿勢、具体的なデザイン実践の知を社会に還元できる能力を養成します。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育を実施します

グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成するために、総合教養科目、並びに学部の特設科目における複数の科目でグローバルな視点での授業を展開します。さらに、グローバルな視野をローカルな諸問題解決に活かす力、多様性を踏まえてデザイン活動を進める力を養成するための授業を複数の科目で展開します。

2.13.1 創生デザイン学科の学習・教育到達目標と教育課程

■創生デザイン学科の教育目的

近年、国家、地域の垣根を越え、政治、経済、文化など様々な側面においてグローバル化が加速しています。さらに少子高齢社会、高度情報化社会を迎えている今日、住みよい社会システムの構築、革新的なモノやサービスの提供、地域再生・地域活性化などの地域経済に貢献する仕組みの構築がいっそう求められています。

デザインとは、造形活動を通じた文化と文明の創造であり、人間と人間の関わりあい、人間と「もの」の共存、人間と自然の交流など、大きな問題について提案していく行為です。言い換えれば、精神・物質の両面で人間生活の秩序や向上を図っていく行為です。従って、デザインは、政治・経済から人間の心理にいたるまでの様々な社会現象を左右し、様々な課題の解決や状況の改善を図る大きな役割を担っています。

社会においては、このような役割を果たすことのできるデザイン能力を持った人材が求められています。

また近年、デザイン分野においては、ビジュアル、プロダクト、インテリアなどのデザイン対

象の完成をゴールとするだけではなく、ユーザーの意見を取り入れ、様々なコミュニケーションを通じて、適切で使いやすい商品やサービス、システムの提供を目指すなどの、プロセスを重視した、ユーザー中心デザイン、共創デザインが主要になってきており、それを展開できるスキルを持った人材も求められています。

さらに、環境に応じて建設的な人間関係を形成するコミュニケーション能力を身につけ、他者との関わりの中での共感を通して、新しい価値を創造できる実現力や実行力を備えた人材、企業や団体、あるいはさまざまな専門家と協働し、地域活性化を目指してコミュニティの課題の発見と解決に取り組み、状況に応じたデザイン手法を展開できる人材が求められています。

創生デザイン学科では、こうした社会の要請に応える人材を育成することを目的とし、「ビジュアルデザインコース」、「リビングデザインコース」、「地域づくりコース」の3コースを設置しています。

■創生デザイン学科の学習・教育到達目標（ディプロマ・ポリシー）

創生デザイン学科では、地域資源にさまざまな角度から光を当て、デザイン手法を活かして地域ブランド創生など地域を生き生きと輝かせるデザイン活動に携わる人材を育成することを教育理念としています。

本学科ではこの理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士（感性デザイン）の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識や倫理観、地域社会への関心および地球的視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とそれらを活用する力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての素養

- (D) 社会における課題を見出し、状況に応じたデザイン手法を展開できる能力
- (E) 社会における資源活用や課題解決を遂行するためのデザイン手法
- (F) デザイン活動に必要なデザイン基礎能力
- (G) 産業、文化、歴史、福祉健康、自然科学などの幅広い知識
- (H) ローカルとグローバルの二つの視点に立って、多様性を尊重しながら、他者とともにデザイン活動を遂行することができる能力
- (I) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力と、時代のニーズをとらえて新しい価値を創造できる実現力

■創生デザイン学科のカリキュラム編成方針・

教育方法（カリキュラム・ポリシー）

創生デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

- 1) 4年間一貫教育：導入転換科目、総合教養科目、専門科目からなる各科目群を適切に配置し、調和の取れた学習内容を提供します。
- 2) 導入転換科目：感性デザイン入門、キャリアデザインの2分野で編成し、高校教育から大学教育への円滑な移行を図るとともに、キャリア教育を通じて社会への関心を高め、将来の生活設計を行うことを支援します。
- 3) 総合教養科目：人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4 分野で編成し、人間と社会、健康についての理解およびコミュニケーション能力の向上を目指します。
- 4) 専門科目：創生デザイン基礎、ビジュアルデザイン、リビングデザイン、創生デザイン応用の各科目群で編成します。それぞれの概略は以下の通りです。

・創生デザイン基礎：ビジュアルデザイン、リ

ビングデザイン、地域づくりの3コースに共通した、専門基礎となる科目群で、デザイン分野の基礎原理や、現代社会に生きるデザイナーに必要な基礎力を育成します。

・ビジュアルデザイン：ビジュアルデザインコース関連の専門科目群で、ビジュアルデザインに関する専門基礎力、並びに実践力を育成します。

・リビングデザイン：リビングデザインコース関連の専門科目群で、インテリア、生活プロダクトデザインに関する専門基礎力、並びに実践力を育成します。

・地域づくりコースは、ビジュアルデザイン、リビングデザインの2つの科目群に配置された専門科目を組み合わせることで学習し、横断的な実践力を育成します。

・創生デザイン応用：より実践的なデザイン能力を育成し、応用展開するための科目群です。学内外での実習などを通じて、これまでに身につけたデザインに関する知識やスキルを応用するとともに、「卒業制作・論文」で総合力を高めます。

創生デザイン学科開講学年別授業科目表

(2019年度入学生用)

[illegible]

注1：○で囲まれた数字は必修単位数で、その他は選択科目の単位数である。

注2：この科目には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目は記載されていない。

注3：■は専転入換、総合教養の選択科目、▲は創生デザイン基礎の選択科目、★はビジュアルデザイン、リビングデザイン、創生デザイン応用の選択科目である。それぞれについて、卒業までに必要な修得単位数が定められている（次ページの卒業要件を参照のこと）。

創生デザイン学科単位集計表

(2019年度入学生用)

学 年		第 1 学 年				第 2 学 年				第 3 学 年				第 4 学 年			
開講 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修	10	6	16	16	2	0	2	18	2	0	2	20	0	6	6	26
	選択	19	32	51	51	31	27	58	109	29	22	51	160	4	0	4	164
	計	29	38	67	67	33	27	60	127	31	22	53	180	4	6	10	190
修得 単位 数	区分	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計	前	後	計	累計
	必修																
	選択																
	計																
標準修得 単 位 数		修得単位数 38単位以上				修得単位数 78単位以上				修得単位数 118単位以上							
進級 および 卒業要件		2 年生への進級要件				3 年生への進級要件				4 年生への進級要件				卒業要件			
		修得単位数 28単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 60単位以上 必修の修得単位数 12単位以上				修得単位数 98単位以上 必修の修得単位数 14単位以上				必修科目の全て 26単位 ■印の導入転換科目・総合教養科目から24単位以上 ▲印の創生デザイン基礎分野科目から24単位以上 ★印のビジュアルデザイン、リビングデザイン、創生デザイン応用分野科目から38単位以上 ・上記の科目を含め124単位以上を修得すること。			

注1. 卒業要件の欄において、必修科目（26単位）、■印（24単位）、▲印（24単位）、★印（38単位）の合計は108単位である。卒業要件を満たすにはその他に16単位以上の科目を修得し、合計124単位以上とする必要がある。

注2. この集計表には、進級要件・卒業要件に含まれない教職科目の単位数は含まれていない。

創生デザイン学科カリキュラム

区 分	分 野	第 1 学 年				第 2 学 年				
		前 期	単 位	後 期	単 位	前 期	単 位	後 期	単 位	
導入・転換科目	感性デザイン入門・キャリアデザイン	デザイン思考②								
		キャリアデザインⅠ	1			キャリアデザインⅡ	1			
総合教養科目	人間科学	歴史	2	経済学	2	心理学	2	哲学	2	
		自然科学概論	2	地域学	2	日本文学	2			
		数 学	2			海外文学	2			
	国際コミュニケーション			日本語表現法	2	実践日本語表現	2			
		現代英語Ⅰ②		現代英語Ⅱ②		英語コミュニケーションⅠ	2	英語コミュニケーションⅡ	2	
	中国語Ⅰ	2	中国語Ⅱ	2	中国語Ⅲ	2				
	体育科学	体育学	1			スポーツ健康学	1			
	総合学際			主題別ゼミナールⅠ	2	主題別ゼミナールⅡ	2	主題別ゼミナールⅢ	2	
			海外研修	1						
専門科目	創生デザイン基礎	コミュニケーション&アート演習	2	プレゼンテーション②		デザイン史	2	デザインマーケティング論	2	
		コンピュータ基礎演習②		色 彩 学②		ユニバーサルデザイン論②		デザイン文化論	2	
		デ ッ サ ン②		図 学	2	表 象 文 化 論	2	ビジュアルストーリーテリング論	2	
		地 域 文 化 論	2	道 具 学	2	CADデザイン演習	2	Web デ ザ イ ン	2	
		表 現 技 法②		インフォグラフィクス論	2			ビジュアルコンテンツ	2	
				ブランドマーケティング	2					
	ビジュアルデザイン	絵 画 Ⅰ	2	絵 画 Ⅱ	2	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2	ビジュアルデザイン演習Ⅱ	2	
		タイポグラフィー論	2	ビジュアルデザイン論	2					
	リビングデザイン	工 芸 学	2	工 芸 実 習	2	リビングウェアデザイン演習Ⅰ	2	リビングウェアデザイン演習Ⅱ	2	
				インテリアデザインⅠ	2	インテリアデザインⅡ	2	製 品 CAD 演 習	2	
				プロトタイピング演習	2	彫 刻	2			
						立 体 造 形 演 習	2			
	創生デザイン応用									
	特別専攻科目	特 別 専 攻			特別専攻プロジェクトⅠ	2			特別専攻プロジェクトⅡ	2
									特別専攻プロジェクトⅠ	2
		進級要件 総計28単位以上（必修12単位以上）				進級要件 総計60単位以上（必修12単位以上）				
		修得単位数				修得単位数				

注1. 科目名称の後の数字は単位数を示す。○は必修科目、その他は選択科目を意味する。

注2. 導入・転換科目、総合教養科目から必修を含めて32単位以上修得すること。

注3. 専門科目創生デザイン基礎分野から必修を含めて36単位以上修得すること。

注4. 専門科目ビジュアルデザイン分野、リビングデザイン分野、創生デザイン応用分野から必修を含めて44単位以上修得すること。

(2019年度入学生用)

第 3 学 年				第 4 学 年				分 野	区 分	
前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位			
								感性デザイン 入門・キャリア デ ザ イ ン	導入転換 科 目	
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2									
職 業 倫 理 ②		日 本 国 憲 法	2	知 的 財 産 論	2					
								人 間 科 学	総合教養 科 目	
英 語 特 別 演 習	2			異文化コミュニケーション	2			国 際 コミュニケーション		
								体 育 科 学		
								総 合 学 際		
認 知 心 理 学	2	比 較 文 化 論	2							専門科目
情報メディア論	2									
キュレイトイング論	2							創生デザイン 基 礎		
ビジュアルデザイン演習Ⅲ	2	ビジュアルデザイン演習Ⅳ	2							
広 告 論	2									
映像メディア論	2							ビ ジ ュ ア ル デ ザ イ ン		
美 術 史	2	芸 術 批 評	2							
イラストレーションⅠ	2	イラストレーションⅡ	2							
リビングウェアデザイン演習Ⅲ	2	リビングウェアデザイン演習Ⅳ	2							
住 環 境 学	2							リ ビ ン グ デ ザ イ ン		
ブランディングデザイン演習	4	キュレイトイング演習	4	卒 業 制 作 ・ 論 文 ⑥				創生デザイン 応 用		
インターンシップ	1									
		特別専攻プロジェクトⅢ	2							
特別専攻プロジェクトⅡ	2	特別専攻プロジェクトⅢ	2					特 別 専 攻	特別専攻 科 目	
進級要件 総計98単位以上（必修14単位以上）				卒業要件 総計124単位以上（必修26単位を含む）						
修得単位数				修得単位数						

は必修科目

創生デザイン学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「*」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
①寛容な心	コミュニケーション&アート演習 地域文化論	地域学 海外研修		
②感動する心	地域文化論 絵画Ⅰ タイポグラフィ論 工芸学	海外研修 絵画Ⅱ ビジュアルデザイン論	日本文学 海外文学 ビジュアルデザイン演習Ⅰ	
③主体性	キャリアデザインⅠ *デザイン思考 歴史 数学 体育学 *表現技法 絵画Ⅰ 工芸学	海外研修 *プレゼンテーション 図学 絵画Ⅱ 工芸演習 特別専攻プロジェクトⅠ	キャリアデザインⅡ 海外文学 スポーツ健康学 リビングウェアデザイン演習Ⅰ	ビジュアルデザイン演習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
④人間環境理解力		経済学 地域学 図学 道具学	心理学 海外文学 *ユニバーサルデザイン論	哲学 デザインマーケティング論 リビングウェアデザイン演習Ⅱ
⑤自己管理能力・ストレスコントロール力	キャリアデザインⅠ 体育学	海外研修 *プレゼンテーション	キャリアデザインⅡ 心理学 スポーツ健康学 リビングウェアデザイン演習Ⅰ	
⑥倫理観・規律性	キャリアデザインⅠ 体育学	キャリアデザインⅡ スポーツ健康学		
⑦日本語コミュニケーション・スキル	歴史 *現代英語Ⅰ コミュニケーション&アート演習 *コンピュータ基礎演習	日本語表現法 *現代英語Ⅱ *プレゼンテーション	実践日本語表現 英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅡ ビジュアルストーリーテリング論
⑧外国語コミュニケーション・スキル	*現代英語Ⅰ 中国語Ⅰ コミュニケーション&アート演習	*現代英語Ⅱ 中国語Ⅱ 海外研修	英語コミュニケーションⅠ 中国語Ⅲ	英語コミュニケーションⅢ ビジュアルストーリーテリング論
⑨チームワーク力	体育学 *表現技法 タイポグラフィ論	海外研修 ビジュアルデザイン論 特別専攻プロジェクトⅠ	スポーツ健康学	ビジュアルデザイン演習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑩リーダーシップ力	*表現技法 タイポグラフィ論	ビジュアルデザイン論 特別専攻プロジェクトⅠ		ビジュアルデザイン演習Ⅱ 特別専攻プロジェクトⅡ
⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力	*デザイン思考 歴史 中国語Ⅰ *デッサン 地域文化論	経済学 地域学 中国語Ⅱ *色彩学 ブランドマーケティング 工芸実習 特別専攻プロジェクトⅠ	心理学 日本文学 海外文学 中国語Ⅲ デザイン史 *ユニバーサルデザイン論 表象文化論	デザインマーケティング論 デザイン文化論 特別専攻プロジェクトⅡ
⑫数量的スキル	自然科学概論	経済学	CADデザイン演習	製品CAD演習

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
	日 本 国 憲 法			①寛容な心
				②感動する心
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ				③主体性
プランディングデザイン演習	ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイティング演習 特別専攻プロジェクトⅢ			
認 知 心 理 学	日 本 国 憲 法 比 較 文 化 論			④人間環境理解力
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		知 的 財 産 論		⑤自己管理能力・ストレスコントロール力
認 知 心 理 学 情 報 メ デ ィ ア 論 イ ン タ ー ン シ ッ プ				
キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		知 的 財 産 権		⑥倫理観・規律性
* 職 業 倫 理	日 本 国 憲 法			
英 語 特 別 演 習 イ ン タ ー ン シ ッ プ		異文化コミュニケーション		⑦日本語コミュニケーション・スキル
英 語 特 別 演 習 映 像 文 化 論 イ ン タ ー ン シ ッ プ	比 較 文 化 論	異文化コミュニケーション		⑧外国語コミュニケーション・スキル
ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ	特別専攻プロジェクトⅢ			⑨チームワーク力
ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ	特別専攻プロジェクトⅢ			⑩リーダーシップ力
映 像 文 化 論 美 術 史 プランディングデザイン演習	比 較 文 化 論 キュレイティング演習 特別専攻プロジェクトⅢ			⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力
				⑫数量のスキル

創生デザイン学科カリキュラム・ツリー1（修得因子と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

修得因子	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
⑬情報リテラシー力	数 学 ＊ 現 代 英 語 I コミュニケーション&アート演習 ＊コンピュータ基礎演習	＊ 現 代 英 語 II ＊プレゼンテーション インフォグラフィクス論 インテリアデザイン I	英語コミュニケーション I デ ザ イ ン 史 C A D デザイン 演 習 彫 刻 インテリアデザイン II	英語コミュニケーション II W e b デ ザ イ ン ビジュアルコンテンツ 製 品 C A D 演 習
⑭論理的思考力	＊ デ ザ イ ン 史 歴 史 自 然 科 学 概 論	日 本 語 表 現 法 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現	哲 学 特別専攻プロジェクト II
⑮問題解決力	タイポグラフィー論	経 済 学 ビジュアルデザイン論 インテリアデザイン I プロトタイピング演習 特別専攻プロジェクト I	心 理 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II ＊ユニバーサルデザイン論 ビジュアルデザイン演習 I 彫 刻 インテリアデザイン II 立 体 造 形 演 習 リビングウェアデザイン演習 I	主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III デザインマーケティング論 W e b デ ザ イ ン ビジュアルデザイン演習 II リビングウェアデザイン演習 II 特別専攻プロジェクト II
⑯専門基礎原理の理解力	＊ デ ザ イ ン 思 考 自 然 科 学 概 論 数 学 ＊ デ ッ サ ン ＊ 表 現 技 法 絵 画 I タイポグラフィー論 工 芸 学	＊ 色 彩 学 図 学 道 具 学 インフォグラフィクス論 ブランドマーケティング 絵 画 II ビジュアルデザイン論 工 芸 実 習 インテリアデザイン I プロトタイピング演習	デ ザ イ ン 史 ＊ユニバーサルデザイン論 表 象 文 化 論 C A D デザイン 演 習 彫 刻 インテリアデザイン II 立 体 造 形 演 習	デザインマーケティング論 デ ザ イ ン 文 化 論 ビジュアルストーリーテリング論 ビジュアルコンテンツ 製 品 C A D 演 習 特別専攻ゼミナール I
⑰専門基礎原理の高度 応用展開力			ビジュアルデザイン演習 I リビングウェアデザイン演習 I	W e b デ ザ イ ン ビジュアルデザイン演習 II リビングウェアデザイン演習 II 特別専攻ゼミナール I
⑱継続的学習経験	自 然 科 学 概 論 ＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I ＊ 表 現 技 法	日 本 語 表 現 法 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I 工 芸 実 習	海 外 文 学 実 践 日 本 語 表 現 英語コミュニケーション I 中 国 語 III 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II C A D デザイン 演 習	英語コミュニケーション II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III W e b デ ザ イ ン 製 品 C A D 演 習
⑲市民としての社会的 責任感	歴 史			
⑳異文化理解力	自 然 科 学 概 論 ＊ 現 代 英 語 I 中 国 語 I 地 域 文 化 論	経 済 学 地 域 学 ＊ 現 代 英 語 II 中 国 語 II 海 外 研 修	日 本 文 学 海 外 文 学 英語コミュニケーション I 中 国 語 III デ ザ イ ン 史 ビジュアルデザイン演習 I	英語コミュニケーション II リビングウェアデザイン演習 II

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	修得因子
英語特別演習 情報メディア論 キュレイトイング論 広告論 美術史				⑬情報リテラシー力
	芸術批評 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業制作・論文		⑭論理的思考力
広告論 イラストレーションⅠ ビジュアルデザイン演習Ⅲ 住環境学 リビングウェアデザイン演習Ⅱ ブランディングデザイン演習	日本国憲法 イラストレーションⅡ ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイトイング演習 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業制作・論文 知的財産論		⑮問題解決力
認知心理学 情報メディア論 キュレイトイング論 広告論 イラストレーションⅠ 美術史 住環境学 特別専攻ゼミナールⅡ	イラストレーションⅡ 芸術批評 特別専攻ゼミナールⅢ			⑯専門基礎原理の理解力
広告論 イラストレーションⅠ ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ インターンシップ ブランディングデザイン演習 特別専攻ゼミナールⅡ	イラストレーションⅡ ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイトイング演習 特別専攻ゼミナールⅢ	* 卒業制作・論文		⑰専門基礎原理の高度 応用展開力
英語特別演習 イラストレーションⅠ	イラストレーションⅡ	* 卒業制作・論文		⑱継続的学習経験
* 職業倫理 情報メディア論	日本国憲法 ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ			⑲市民としての社会的 責任感
英語特別演習 映像文化論 美術史	比較文化論 芸術批評	異文化コミュニケーション		⑳異文化理解力

創生デザイン学科カリキュラム・ツリー2 (学習・到達目標と科目)

「*」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目標 A	歴 史 * 現 代 英 語 I 中 国 語 I 体 育 学	経 済 学 地 域 学 * 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I 海 外 研 修 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	心 理 学 日 本 文 学 海 外 文 学 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II	哲 学 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II
目標 B	自 然 科 学 概 論 数 学 * 現 代 英 語 I	* 現 代 英 語 II	心 理 学 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II
目標 C	歴 史 * 現 代 英 語 I 中 国 語 I 体 育 学	日 本 語 表 現 法 * 現 代 英 語 II 中 国 語 II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル I 海 外 研 修	実 践 日 本 語 表 現 英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I 中 国 語 III ス ポ ー ツ 健 康 学 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル II	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II 主 題 別 ゼ ミ ナ ー ル III
目標 D		ブ ラ ン ド マ ー ケ テ ィ ン グ 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	* ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 論 C A D デ ザ イ ン 演 習 ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 演 習 I リ ビ ン グ ウ ェ ア デ ザ イ ン 演 習 I	デ ザ イ ン マ ー ケ テ ィ ン グ 論 W e b デ ザ イ ン ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 演 習 II 製 品 C A D 演 習 リ ビ ン グ ウ ェ ア デ ザ イ ン 演 習 II 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II
目標 E	* デ ザ イ ン 思 考 タ イ プ グ ラ フ ィ ー 論	イ ン フ ォ グ ラ フ ィ ッ ク ス 論 ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 論 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト I	ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 演 習 I リ ビ ン グ ウ ェ ア デ ザ イ ン 演 習 I	ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 演 習 II リ ビ ン グ ウ ェ ア デ ザ イ ン 演 習 II 特 別 専 攻 プ ロ ジ ェ ク ト II
目標 F	* デ ザ イ ン 思 考 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン & ア ー ト 演 習 * コ ン プ ュ ー タ 基 礎 演 習 * デ ッ サ ン * 表 現 技 法 絵 画 I タ イ プ グ ラ フ ィ ー 論 工 芸 学	* 色 彩 学 図 学 道 具 学 イ ン フ ォ グ ラ フ ィ ッ ク ス 論 ブ ラ ン ド マ ー ケ テ ィ ン グ 絵 画 II ビ ジ ュ アル デ ザ イ ン 論 工 芸 実 習 イ ン テ リ ア デ ザ イ ン I プ ロ ト タイ ピ ン グ 演 習	デ ザ イ ン 史 * ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 論 C A D デ ザ イ ン 演 習 彫 刻 イ ン テ リ ア デ ザ イ ン II 立 体 造 形 演 習	デ ザ イ ン マ ー ケ テ ィ ン グ 論 ビ ジ ュ アル ス ト ー リ ー テ ィ ン グ 論 W e b デ ザ イ ン ビ ジ ュ アル コ ン テ ン ツ 製 品 C A D 演 習
目標 G	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I 数 学 地 域 文 化 論	道 具 学	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II デ ザ イ ン 史 * ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン 論 表 象 文 化 論	デ ザ イ ン 文 化 論

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
* 職業倫理 英語特別演習	日本国憲法 特別専攻プロジェクトⅢ	知的財産論 異文化コミュニケーション		目標 A
* 職業倫理 英語特別演習				目標 B
英語特別演習		異文化コミュニケーション		目標 C
広告論 ビジュアルデザイン演習Ⅲ 住環境学 リビングウェアデザイン演習Ⅲ インターンシップ ブランディングデザイン演習	ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイトイング演習 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業制作・論文		目標 D
ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ インターンシップ ブランディングデザイン演習	ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイトイング演習 特別専攻プロジェクトⅢ	* 卒業制作・論文		目標 E
キュレイトイング論 広告論 イラストレーションⅠ 美術史 住環境学	イラストレーションⅡ 芸術批評			目標 F
キャリアデザインⅢ		知的財産論		目標 G
認知心理学 情報メディア論 映像文化論 美術史 インターンシップ	比較文化論 芸術批評			

創生デザイン学科カリキュラム・ツリー2（学習・到達目標と科目）

「＊」印は必修科目を表わす。

学習・到達目標	1 学年前期	1 学年後期	2 学年前期	2 学年後期
目 標 H	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II		
	コミュニケーション&アート演習 地 域 文 化 論	＊プレゼンテーション	ビジュアルデザイン演習 I リビングウェアデザイン演習 I	ビジュアルストーリーテリング論 ビジュアルデザイン演習 II リビングウェアデザイン演習 II
目 標 I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン I	キ ャ リ ア デ ザ イ ン II		
	＊プレゼンテーション 特別専攻プロジェクト I	ビジュアルデザイン演習 I リビングウェアデザイン演習 I	デザインマーケティング論 ビジュアルデザイン演習 II リビングウェアデザイン演習 II 特別専攻プロジェクト II 特別専攻ゼミナール I	

3 学年前期	3 学年後期	4 学年前期	4 学年後期	学習・到達目標
--------	--------	--------	--------	---------

キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 制 作 ・ 論 文	目 標 H
認 知 心 理 学 情 報 メ デ ィ ア 論 映 像 文 化 論 ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ ブランディングデザイン演習	比 較 文 化 論 ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイティング演習		

キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ		* 卒 業 制 作 ・ 論 文	目 標 I
ビジュアルデザイン演習Ⅲ リビングウェアデザイン演習Ⅲ イン タ ー ン シ ッ プ ブランディングデザイン演習 特別専攻ゼミナールⅡ	ビジュアルデザイン演習Ⅳ リビングウェアデザイン演習Ⅳ キュレイティング演習 特別専攻プロジェクトⅢ 特別専攻ゼミナールⅢ		

創生デザイン学科カリキュラム・マップ

修得因子、学習・到達目標との関連基準			修得因子																			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
			寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
デザイン思考	第1学年前期	必修			◎								○			○		◎				
キャリアデザインⅠ	第1学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅡ	第2学年通年	選択			◎		○	○														
キャリアデザインⅢ	第3学年通年	選択			◎		○	○														
心理学	第2学年前期	選択				○	○						○			◎	○					
哲学	第2学年後期	選択				○										◎						
職業倫理	第3学年前期	必修						◎													◎	
日本文学	第2学年前期	選択		○									◎			○						◎
海外文学	第2学年前期	選択		◎	○	○							○			○				○		◎
日本国憲法	第3学年後期	選択	○			○		○									○				◎	
歴史	第1学年前期	選択			○				○				○			◎					○	
経済学	第1学年後期	選択				○							◎	○			○					○
地域学	第1学年後期	選択	○			○							◎									◎
知的財産論	第4学年前期	選択					◎	○									◎					
自然科学概論	第1学年前期	選択												○		○		◎		○		○
数学	第1学年前期	選択			◎										○			◎				
日本語表現法	第1学年後期	選択							◎							○				○		
実践日本語表現	第2学年前期	選択							◎							○				○		
現代英語Ⅰ	第1学年前期	必修							○	◎					○					○		○
現代英語Ⅱ	第1学年後期	必修							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅠ	第2学年前期	選択							○	◎					○					○		○
英語コミュニケーションⅡ	第2学年後期	選択							○	◎					○					○		○
英語特別演習	第3学年前期	選択							○	◎					○					○		○
中国語Ⅰ	第1学年前期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅱ	第1学年後期	選択								◎			○							○		◎
中国語Ⅲ	第2学年前期	選択								◎			○							○		◎
異文化コミュニケーション	第4学年前期	選択							○	○												◎
体育学	第1学年前期	選択			○		○	○			○											
スポーツ健康学	第2学年前期	選択			○		○	○			○											
主題別ゼミナールⅠ	第1学年後期	選択																		○		
主題別ゼミナールⅡ	第2学年前期	選択															○			○		
主題別ゼミナールⅢ	第2学年後期	選択															○			○		
海外研修	第1学年後期	選択	○	○	○		○			◎	○											◎
コミュニケーション&アート演習	第1学年前期	選択	○						◎	○					◎							
コンピュータ基礎演習	第1学年前期	必修							○						◎							
プレゼンテーション	第1学年後期	必修			◎		○		◎						○							
デッサン	第1学年前期	必修											◎					◎				
色彩学	第1学年後期	必修											◎					◎				
デザイン史	第2学年前期	選択											◎		○			◎			○	
ユニバーサルデザイン論	第2学年前期	必修				○							◎				○	◎				
デザインマーケティング論	第2学年後期	選択				○							◎				○	◎				
地域文化論	第1学年前期	選択	○	○									◎									◎
表象文化論	第2学年前期	選択											◎					◎				
デザイン文化論	第2学年後期	選択											◎					◎				
ビジュアルストーリーテリング論	第2学年後期	選択							○	○								◎				
認知心理学	第3学年前期	選択				◎	○											◎				
情報メディア論	第3学年前期	選択				◎									○			◎			○	
比較文化論	第3学年後期	選択				○				○			◎					◎				◎
表現技法	第1学年前期	必修			○						○	○						◎		◎		

[illegible]

創生デザイン学科カリキュラム・マップ

			修得因子																			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
修得因子、学習・到達目標との関連基準			寛容な心	感動する心	主体性	人間環境理解力	自己管理能力・ストレスコントロール力	倫理観・規律性	日本語コミュニケーション・スキル	外国語コミュニケーション・スキル	チームワーク力	リーダーシップ力	総合的学習経験・創造的思考力・創造力	数量的スキル	情報リテラシー力	論理的思考力	問題解決力	専門基礎原理の理解力	専門基礎原理の高度応用展開力	継続的学習力	市民としての社会的責任感	異文化理解力
授業科目名	開講学期	必修/選択																				
図学	第1学年後期	選択			○	○												○				
道具学	第1学年後期	選択				○												○				
インフォグラフィクス論	第1学年後期	選択													○			○				
ブランドマーケティング	第1学年後期	選択											○					○				
CAD デザイン演習	第2学年前期	選択												○	○			○		○		
Web デザイン	第2学年後期	選択													○	○		○	○	○		
ビジュアルコンテンツ	第2学年後期	選択													○	○		○				
キュレイティング論	第3学年前期	選択													○			○				
絵画Ⅰ	第1学年前期	選択		○	○													○				
絵画Ⅱ	第1学年後期	選択		○	○													○				
タイポグラフィ論	第1学年前期	選択		○							○	○					○	○				
ビジュアルデザイン論	第1学年後期	選択		○							○	○					○	○				
広告論	第3学年前期	選択													○		○	○	○			
映像文化論	第3学年前期	選択								○			○					○	○			○
イラストレーションⅠ	第3学年前期	選択															○	○	○	○		
イラストレーションⅡ	第3学年後期	選択															○	○	○	○		
美術史	第3学年前期	選択											○		○			○				○
芸術批評	第3学年後期	選択														○		○				○
ビジュアルデザイン演習Ⅰ	第2学年前期	選択		○													○		○			○
ビジュアルデザイン演習Ⅱ	第2学年後期	選択			○						○	○					○		○			
ビジュアルデザイン演習Ⅲ	第3学年前期	選択									○	○					○		○			
ビジュアルデザイン演習Ⅳ	第3学年後期	選択			○												○		○		○	
工芸学	第1学年前期	選択		○	○													○				
工芸実習	第1学年後期	選択			○								○					○		○		
彫刻	第2学年前期	選択													○		○	○				
インテリアデザインⅠ	第1学年後期	選択													○		○	○				
インテリアデザインⅡ	第2学年前期	選択													○		○	○				
プロトタイピング演習	第1学年後期	選択															○	○				
立体造形演習	第2学年前期	選択															○	○				
製品 CAD 演習	第2学年後期	選択												○	○			○		○		
住環境学	第3学年前期	選択															○	○				
リビングウェアデザイン演習Ⅰ	第2学年前期	選択			○	○											○		○			
リビングウェアデザイン演習Ⅱ	第2学年後期	選択				○											○		○		○	
リビングウェアデザイン演習Ⅲ	第3学年前期	選択									○	○					○		○			
リビングウェアデザイン演習Ⅳ	第3学年後期	選択			○												○		○		○	
インターンシップ	第3学年前期	選択					○		○	○									○			
ブランディングデザイン演習	第3学年前期	選択			○								○				○		○			
キュレイティング演習	第3学年後期	選択			○								○				○		○			
卒業制作・論文	第4学年通年	必修														○	○		○	○		
特別専攻プロジェクトⅠ	第1学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻プロジェクトⅡ	第2学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻プロジェクトⅢ	第3学年後期	選択			○						○	○	○				○	○				
特別専攻ゼミナールⅠ	第2学年後期	選択																○	○			
特別専攻ゼミナールⅡ	第3学年前期	選択																○	○			
特別専攻ゼミナールⅢ	第3学年後期	選択																○	○			

学習・到達目標								
目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G	目標H	目標I
社会人としての良識と倫理観を備え、地域社会への関心、地球的視野を身につけた人材	専門分野の基礎知識をもつとともに、これを活用して社会の発展に貢献できる人材	コミュニケーション能力と国際人としての素養を身につけた人材	社会における課題を見出し、状況に応じたデザイン手法を展開できる能力を身につけた人材	社会における資源活用や課題解決を遂行するためのデザイン手法を身につけた人材	デザイン活動に必要なデザイン基礎能力を身につけた人材	産業、文化、歴史、福祉健康、自然科学などの幅広い知識を身につけた人材	ローカルとグローバルの二つの視点に立って、多様性を尊重しながら、他者とともにデザイン活動を遂行することができる能力を身につけた人材	社会の変化に対応できる柔軟な思考力と、時代のニーズをとらえて新しい価値を創造できる実現力を身につけた人材
					○			
					○	○		
				○	○			
			○		○			
			○		○			
					○			
					○			
					○			
				○	○			
			○		○			
					○	○	○	
					○			
					○	○		
			○	○			○	○
			○	○			○	○
			○	○			○	○
			○	○			○	○
					○			
					○			
					○			
					○			
					○			
					○			
			○		○			
			○		○			
			○	○			○	○
			○	○			○	○
			○	○			○	○
			○	○			○	○
			○	○		○		○
			○	○			○	○
			○	○			○	○
○			○	○				○
○			○	○				○
○			○	○				○
								○
								○
								○

第3章

学生生活について

3. 1	健康管理	192
3. 2	学生保険	192
3. 3	学生相談室・学修支援室・学生支援センター	193
3. 4	通学	193
3. 5	学生旅客運賃割引証（学割）	194
3. 6	奨学制度	194
3. 7	アルバイト	194
3. 8	下宿	194
3. 9	学友会	195
3. 10	課外活動	195

3.1 健康管理

■日常の健康

生活で大切なことの一つに、健康の維持・増進があります。大学生になると不規則な食生活、運動不足、睡眠不足になりがちです。バランスの良い食事を心がけ、適度な運動と十分な睡眠をとり規則正しい生活に努めてください。掃除、洗濯をまめに行い清潔な環境を保ちましょう。

また、飲酒・喫煙の機会があると思いますが、できるだけ節制し健康に留意するとともに周囲に迷惑をかけない学生生活に努めましょう。

■定期健康診断

毎年4月～5月に学校保健安全法に定められている健康診断（内科健診、眼科健診、耳鼻咽喉科健診、胸部X線検査、尿検査）を実施しています。

また、次年度卒業見込み学生を対象に就職活動のための健康診断を行っています。健康診断書が必要な学生は必ず受診してください。実施日に受診しなければ医療機関にて自己負担で受診することになります。

健康診断の日程については、学内掲示板やユニバーサルパスポートで周知しますので必ず受診してください。

■保健室

保健室では、けがや体調不良の場合の応急処置や健康相談に応じることができます。病気にかからないよう各自予防に努める事が大切ですが、気兼ねなく学生課を訪ねてください。

■緊急呼出電話・ボタンについて

緊急呼出電話は、教養棟旧館2階廊下、教養棟2階廊下に設置しています。受話器を取ると受付と学生課に繋がりますのでお話しください。

緊急呼出ボタンは、教養棟2階身体障害者用トイレ内と創生デザイン専門棟女子トイレ内、メディアセンター多目的トイレ内に設置しています。ボタンを押すと所定箇所に通知され、速や

かに職員が駆けつけますので体調不良等の非常時にご利用ください。

■健康保険証・遠隔地被保険者証

病院で診察を受ける際に、保険証の提示が必要ですので常に携帯してください。



■学校医

内 科 於本 章（於本病院）

八戸市大工町10番地

TEL 0178-43-4647

眼 科 久保 勝文（吹上眼科）

八戸市吹上二丁目10-5

TEL 0178-72-3372

耳鼻咽喉科 西村 哲也（西村耳鼻咽喉科医院）

八戸市南類家二丁目17-28

TEL 0178-24-3381

3.2 学生保険

■学生教育研究災害傷害保険

この保険は、講義や学校行事中あるいは課外活動中に不慮の事故により災害を被った時の救済制度であり、本学では大学負担で全員加入しています。その概要は、入学時に渡された「学生教育研究災害傷害保険のしおり」に記載されておりしますのでよく読んでください。

■学研災付帯賠償責任保険

この保険は、講義中・学校行事中・課外活動中あるいは教育実習やインターンシップ中に相手にけがをさせた、他人の物を破損したなどの賠償するための保険で任意加入となります。加入希望者は学生課で手続きをしてください。

また、教育実習やインターンシップに行く学

生は必ず加入しなければなりませんので教務課や就職課の指示に従ってください。

■青森県交通災害共済保険

交通事故による災害を受けた方々の救済を図るための制度で、本学では通学中の配慮として大学負担で全員加入しています。24時間日本国内において自転車を含む車両が絡む事故に適用されます。

■事故によりけが等を被った場合は速やかに学生課まで申出てください。

また、不明な点等については学生課まで問い合わせてください。

3.3 学生相談室・学修支援室・学生支援センター

■本学では単に勉学のみにとどまらず、広く学生生活全体にわたって皆さんの「よろず相談」の窓口として学生相談室・学修支援室を開設しています。

相談員は本学の教職員とカウンセラーで構成されており、皆さんと一緒に考えながら、誰にもある悩み等の解決にあたります。また、必要に応じて弁護士への相談も行います。

また、様々な理由で学習や研究、人間関係などにおいて困難を感じている学生に対してサポートを行う学生支援センターも開設しています。困りごとがあったら相談してください。

■さらに各学科・学年毎に担任を配置し教務課、学生課等と連携を保ち、あらゆる相談に応じていますので、困ったことがある場合は気軽に相談してください。そして、学生生活を不安なく、有意義に過ごしてください。

3.4 通学

本学周辺には下宿、アパートが多くあり徒歩での通学が可能です。これらに居住する学生はできるだけ徒歩により通学してください。交通

事情により、やむを得ず車両により通学する場合は、許可を受けてください。

■交通機関を利用して通学する場合

- ◆通学定期乗車券で通学する場合は、通学証明書が必要となります。通学証明書は学生課に申し込み交付を受けてください。
- ・JRについては、乗降車駅で通学証明書を提出し購入します。
- ・バスについては、各営業所等の窓口に着付の申し込み用紙に必要事項を記入し、学生証を提示することで購入できます。
- ◆通学証明書の有効期限は、各交通機関により異なるので注意してください。

■車両を利用して通学する場合

- ◆車両（自動二輪車、四輪車）で通学を希望する学生は、許可を受ける必要があります。
- ・四輪車での通学を希望する学生は、必要書類（第7章7.15八戸工業大学車両通学に関する規程を参照）を整えて学生課で許可を受けてください。
- 許可を受けた学生には、ステッカーを交付します。学内駐車場に駐車するときは、ステッカーを、四輪車ではリアウインドウ助手席側の表から貼付しなければなりません。
- ・自動二輪車についても同様に許可を受け、二輪車専用駐輪場に駐車してください。
- ◆車両通学の許可を受けた場合に限り、車両での通学および学内への乗り入れを許可しています。
- ◆二輪車専用駐輪場、四輪車指定駐車場以外に駐車すると、緊急車両等の通行の妨げとなったり、交通事故発生の原因や大学周辺住民に迷惑をかけることにもなりますので、絶対に駐車場以外には駐車しないでください。
- また、学内の制限速度は20キロ以下ですので、制限速度を守ってください。

なお、交通事故が発生した場合は必ず学生課に届け出てください。

3.5 学生旅客運賃割引証（学割）

JR を利用して旅行する場合は、学割を利用できます。学割を必要とする際は、証明書自動発行機を利用してください。

学割は、旅客鉄道株式会社（JR各社）の営業キロで100キロメートルを超える区間を乗車する際に利用できる制度です。

発行にあたっては、帰省、正課及び正課外の教育活動、就職のための受験等の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限り発行することができます。

有効期限は発行日から3か月です。学割の使用にあたっては、学割裏面の使用上の注意をよく読んで、規則を厳守し、使用してください。

フェリーを利用する場合は、乗船券を購入する際に学生証を提示してください。

3.6 奨学制度

本学の学生が受けられる奨学生制度には次のようなものがあります。

■八戸工業大学特待生・奨学生制度

本学には特待生と奨学生の2種類あります。選考は、学業、スポーツ活動等の成績が優秀な者の中から特待生は入学時、奨学生は2、3学年終了時に選考委員会により決定されます。

但し、特待生は2学年終了時の適格審査により継続の可否が決定されますので、日頃から自己研鑽に励んでください。

また、奨学生は単年度ごとに決定されます。

■日本学生支援機構奨学生

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて実施するものです。

申込資格は、人物、学業ともに優秀で、学資

の支弁が困難であると認められる学生です。

奨学金の種別は、第一種奨学金（無利子）、第二種奨学金（有利子）があります。

募集の際には、申込の資格、書類等についての説明会を開き詳しく説明します。

募集、説明会案内等は掲示しますので希望する学生は、掲示板・ユニバーサルパスポートをよく見るようにしてください。

■その他の奨学生

上記のほかに地方公共団体、各種団体の奨学生があります。

地方公共団体、各種団体から本学に募集案内があったときは掲示し、本学で選考の上適格者を推薦します。

また、地方公共団体では各自が要項を取り寄せて直接申請するものもあります。大学の記入事項、あるいは推薦書の必要がある場合には、要項を添えて学生課に申し出てください。

3.7 アルバイト

大学の性格上、講義のほか実験実習等も多く、アルバイトは勉学に支障となる場合がありますので慎重に考えてから行ってください。学生課では勉学に影響のない程度のものについては掲示で紹介しています。

学生課の紹介以外でアルバイトをする場合においても、風紀上・衛生上好ましくないもの、危険度の高いアルバイトはしないようにしてください。

3.8 下宿

学生課では親元を離れて勉学する学生のために、下宿の紹介を行っています。下宿での生活は周囲の人達へ迷惑をかけないことが大切です。大学生らしい良識のある生活をしましょう。必要なときは紹介を受けてください。部屋はい

ずれも個室となっており、下宿料は地域や部屋の新旧、設備等によって異なりますが、概ね次のとおりです。ただし、光熱費は別です。

部屋の広さ	下宿料（2食付）
6畳以上	43,000～50,000円

ゴミの出し方には居住する地区によりルールがあります。

- 階上町 収集日、場所が決まっている。
不燃物、可燃物を分類して出す。
透明な袋を使用する。等々
- 八戸市 収集日、場所が決まっている。
不燃物、可燃物を分類して出す。
決められたゴミ袋（有料）を使用する。等々

地域住民に迷惑をかけないようルールを守ってゴミを出すようにしてください。

3.9 学友会

学生は入学と同時に本学の学友会の会員となります。学友会とは、学生相互の親睦を深め、自主的サークル活動を行うなど人間性を高め、有意義な学生生活を送るうえでの母体となっているものです。

学友会は本学学生（正会員）と本学教職員（特別会員）で組織されており、学友会委員会の下部機構に体育会と文化会があります。

学友会が中心になって自主的に行われる活動には、体育祭、彩才祭、学園祭があります。



3.10 課外活動

大学教育の中で正課授業とともに重要な教育的な意義をもつのが課外活動です。この活動を通じて、協調性、忍耐力などを養成し、また、たくさんの友人をつくり、より楽しい学生生活が送れるものと思います。

学生が中心になって自主的に行われる課外活動には、体育会所属の体育スポーツ系、文化会所属の文化芸術系あわせて約60団体あり、学内外において活発に活動しています。

■学友会団体への入部、入会

本学の課外活動への入部、入会に関しては、入学式後のガイダンス時に行われるクラブ紹介と掲示等による勧誘が行われますので、自分の適性や趣味、希望等をよく考え、加入してください。

■団体の結成、継続、廃部など

新しい団体の結成を希望する学生は、団体結成願の用紙に必要事項を記入のうえ、学生課へ申し出てください。また、各団体は毎年度始めに団体継続届を提出しないと廃部、廃会となりますので注意してください。解散する場合は団体解散届を学生課へ提出してください。

■サークルの紹介（2019年3月現在）

体育会（27団体）

団 体 名	顧 問	監 督	コ ー チ	部員数	主な活動
ソフトテニス部	大黒 正敏	寺井 孝男	茨島 涼	10	2016全日本大学選手権出場 2017南・北リアス対抗ソフトテニス交流大会ミックスダブルス優勝 2017NOHE カップソフトテニス大会シングルス優勝 2018第86回北日本ソフトテニス大会ペア個人優勝
男子バスケットボール部	野田 英彦	皆川 俊平	赤坂友貴奈 大山 和弘	26	2017県内外大会出場、東北学生連盟主催大会出場 2018東北大学バスケットボールリーグ出場 2018第42回東北大学バスケットボール新人大会出場
レスリング部	太田 勝	水戸 芳広			2016東北地区大学レスリング選手権大会74kg準優勝、86kg優勝 2017東北地区大学レスリング選手権大会65kg優勝、74kg優勝
少林寺拳法部	武山 泰	千葉 誠			
アイススケート部	竹内 貴弘	佐々木 宏 本間 貴士	田島 尚幸 工藤 孝宏 関川 康宏	13	2003-05、08-14、16-17インカレ出場（ホッケー部門） 2013インカレベスト8（ホッケー部門） 2012、14-15全日本選手権出場（フィギュア部門） 2018第91回日本学生氷上競技選手権大会出場
ボクシング部	高橋 晋	大塚 哲			
硬式野球部	福士 憲一 大室 康平	寺下 弘 笹田 公烈	神 広丈 小林 純樹 阿部 誠二	32	2015秋季 1 部復帰 2016北東北大学野球春季 1 部リーグ戦 5 位 2016北東北大学野球秋季 1 部リーグ戦 5 位 2016大館トーナメント大会ベスト 4 2017北東北大学野球春季 1 部リーグ戦 6 位 2018北東北大学野球秋季 1 部リーグ戦 4 位
サッカー部	金子 賢治	迫井 裕樹	風張 洋佑	22	2016青森県大学・高専サッカーリーグ出場 2017-2018東北地区大学サッカーリーグ 2 部出場
男子硬式庭球部	野田 英彦	三上 晃	大山 翔	18	2017八戸市B、C級ダブルス・シングルスオープンテニス大会シングルス 優勝 2017八戸市シングルス選手権大会シングルス優勝 2018八戸市テニス団体交流戦Bクラス優勝
ソフトボール部	小藤 一樹	坂本 勝男	小嶋 高良	16	2017北海道・東北地区大学ソフトボール大会出場 2018北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会出場
バドミントン部	宮腰 直幸	宮腰 直幸		18	
卓球部	野田 英彦	蛭名 昭人	夏坂 光男 中村 優孝 塩入 彬允	17	2003-07、09-17インカレ出場 2004-06、09-17全日本大学選手権出場 2017東北学生卓球連盟春季リーグ戦準優勝 2017NHK 杯青森県卓球選手権大会優勝 2018第88回全日本大学総合卓球選手権大会団体の部出場 2018第85回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部出場
バレーボール部	関 秀廣	竹本 成喜	小西 孝則 黒滝 泰世	21	2002-06、08-10、13、15、17インカレ出場 2016東北大学 1 部秋季リーグ戦 5 位 2016青森県一般男女 6 人制春季・秋季バレーボール選手権大会優勝 2016青森県大学バレーボール選手権大会優勝 2017東北大学 1 部秋季リーグ戦 4 位 2017青森県一般男女 6 人制春季・秋季バレーボール選手権大会優勝 2017青森県大学バレーボール選手権大会優勝 2018天皇杯皇后杯全日本バレーボール選手権大会県大会優勝
柔道部	佐藤 手織	佐藤 手織		4	
ラグビー部		島田 典彰		8	
陸上競技部	金子 賢治			8	2017南部陸上競技選手権大会男子100m 3 位、200m 3 位 2018第47回東北学生陸上競技選手権大会個人100m 3 位
スキー部	佐々木幹夫	佐々木幹夫			2009全日本学生スキー選手権大会 4 部個人 3 種目優勝 2012札幌国際スキーマラソン大会男子50km優勝
空手道部	山本 忠	山本 忠	吉田 和孝	4	2016県内外大会出場、東北学生連盟主催大会出場 2017県内大会出場
サンボ部	太田 勝	水戸 芳広			2016東日本サンボ選手権大会74kg 3 位、82kg 3 位 2017回青森県サンボ選手権オープントーナメント55kg優勝、74kg 2 位

団 体 名	顧 問	監 督	コーチ	部員数	主な活動
アーチェリー部	鈴木 寛	畑中 広明	桂山 清美	5	2012-14、17全日本学生選手権出場 2013-14全日本学生室内選手権出場 2016東北学生アーチェリー新人選手権大会個人2位 2017東北学生アーチェリー個人選手権大会個人優勝 2017東北学生アーチェリー新人選手権大会個人優勝 2018第29回全日本学生アーチェリー東日本大会個人戦出場 2018第50回東北学生アーチェリー王座決定戦団体2位
女子硬式庭球部	川守田礼子	三上 晃			
剣道部	阿波 稔	阿波 稔		3	
山岳部	鮎川 恵理	夏坂 光男		16	登山（階上岳・早池峰山・八甲田山・岩手山・鳥海山・那須岳・磐梯山・赤沼・蔦沼・兜明神嶽）、キャンプ
女子バスケットボール部	野田 英彦	赤坂友貴奈	五十嵐七果	3	
軟式野球部	武藤 一夫	武藤 一夫		18	2018第2回東北地区大学軟式野球選手権大会第3位 2018北関東・東北・奥羽選抜大学軟式野球大会2名選抜出場 2018第39回東日本大学軟式野球選手権大会出場ベスト16
弓道部	清水 能理	清水 能理	加藤 正和	20	2016東北地区大学体育大会決勝進出、県内外大会出場 2017県内外大会出場
ビリヤード部	鈴木 寛	鈴木 寛		21	

文化会（13団体）

団 体 名	顧 問	副顧問	部員数	主な活動
美術研究部	坂本 禎智	川本菜穂子	8	工大祭・彩才祭参加
吹奏楽部	安部 信行		14	2017体育祭校歌等演奏、さくら幼稚園運動会演奏、なかよし祭演奏、学園祭「課外活動展示部門」学長賞受賞
映像研究部	宮腰 直幸		37	工大祭・彩才祭参加 南部町サブカルフェスタ2018参加動画 RE:member ハチノヘタロウをYouTube、八戸花火大会等で公開 2018このへCM コンテスト、優秀賞受賞（8/28～9/18）
音楽研究部	佐藤 学	濱田 信吾	20	2018学内ライブ 2018ミュージックレビュー八戸本大会出場 2018BAND WARD（1st 2st ステージを通過しファイナルステージ進出）
情報科学研究部	小玉 成人			2017東北 TECH 道場参加
アーツテック研究部	横溝 賢		37	工大祭・彩才祭参加
動力研究部	工藤 祐嗣	黒滝 稔	12	2010-11.15電気自動車エコラン競技大会 inSUGO 大学部門優勝 2011-13.15-17手作り自動車省燃費競技大会大学部門優勝 2017電気自動車エコラン競技大会 inSUGO 大学部門3位 2017Honda エコマイレージチャレンジ2017（1台完走） 2018Honda エコマイレージチャレンジ2018全国大会18位 2018第13回科学であそぼう in ラビア参加
自動車部	工藤 祐嗣	浅川 拓克		2016自動車技術独創アイデアコンテスト優秀賞受賞
ゲーム研究部	伊藤 智也	齊藤 克治	15	工大祭・彩才祭参加
電創部	山口 広行		7	工大祭・彩才祭参加
将棋部	田中 義幸		11	2017職域愛好団体将棋大会 C クラス準優勝 2018階上場所将棋大会参加決勝トーナメント進出
ADL（建築デザイン研究会）	小藤 一樹		33	2011東日本大震災に関する研究成果発表 2012社会人基礎力育成グランプリ北海道・東北地区奨励賞 2013ソロブチミスト「学生ボランティア賞」受賞 2017八戸市まちづくり助成市長賞受賞 2017学生チャレンジプロジェクト学長賞受賞 2018木匠塾に参加ゴルフ場内にベンチ4脚作成
合唱部	小林 正樹	岩崎真梨子	5	2017八戸市民合唱祭参加、青森県合唱祭参加、白山台公民館学校ウィンターコンサート参加 2018白山台公民館学校ウィンターコンサート出演

愛好会・研究会（30団体）

団 体 名	顧 問	副顧問	コーチ	部員数	主な活動
サイエンス愛好会	川本 清	川本菜穂子			
フットサル研究同好会	小玉 成人	伊藤 智也		17	工大祭参加
ダーツ愛好会	松浦 勉				
NU v i v a r c e (ストリートダンス愛好会)	安部 信行			11	2017「KING OF COLLEGE 2017」大学ブレイクダンス日本一決定戦チーム3位 2017「Eastern Groove vol.2」フリースタイルダンスバトル Crew Battle 部門チーム優勝 2017「Let's ハロバ! Halloween party!」in 下田ジャスコ出演 2018ストリートダンスライブ in イオンモール下田
文芸愛好会	岩崎真梨子			5	工大祭・彩才祭参加
茶道愛好会（茶々・SASA）	川守田礼子				工大祭・彩才祭参加
SKATE BOARD愛好会	鈴木 拓也				
プラモデル研究会	花田 一磨			13	工大祭・彩才祭参加
メカトロニクス研究会	日影 学		篠塚 智	9	
サバイバルゲーム同好会	鈴木 拓也	玉川 邦夫		22	
食品研究会				16	2013八戸市主催「第3回学生まちづくりコンペティション」市長賞受賞 2015青森県未来の起業家（大学生）育成事業採択
TCG愛好会（トレーディングカードゲーム）	小林 正樹			14	彩才祭参加
キックボクシング愛好会	安部 信行			10	工大祭参加
アウトドア愛好会	小玉 成人				
B e C ゲーム制作愛好会	藤岡 与周				
合気道愛好会	大室 康平				
サイクリング同好会	武藤 一夫			7	2017種差海岸日帰りライド 2017東北ロングライド
ボウリング愛好会	佐々木崇徳				
English 研究会（E研）	畠山 研	高橋 史朗			
漫画研究会	今出 俊彦			5	工大祭参加
ライトフィッシング同好会	竹内 貴弘	中田 光弘		26	工大祭参加
宇宙工学同好会	佐々木崇徳				工大祭参加
遊戯研究会	今出 俊彦			13	工大祭参加
ハンドメイド愛好会		東方 悠平			工大祭参加
自転車競技愛好会	坂本 禎智	福岡 直			
ドローン研究会	小久保 温	伊藤 智也	菅原 努	5	2017ドローンビジネスセミナー参加
競技射撃愛好会	皆川 俊平			4	2017国民体育大会ライフル射撃競技会出場
ファッション研究会	皆川 俊平			14	
3次元愛好会	宮腰 直幸	齋藤 克治		12	
鉄道研究会	信山 克義			5	



第4章

進路・資格について

4. 1	就職	200
4. 2	進学	200
4. 3	資格	200
4. 3. 1	工学部	201
4. 3. 2	感性デザイン学部	201
4. 4	同窓会	216

将来の進路として、一般企業、公務員あるいは教員などの就職と、大学院への進学があります。就職の決定にあたっては、各学科の担任、就職担当教員そして就職課が相談に応じますので、気軽に相談してください。進学については、教務課が窓口になっています。資料がありますので利用してください。

4.1 就職

就職については、各学科の担当教員と就職課が中心となって求人の開拓、紹介、斡旋を行っています。本学では、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を単位化して各種の就職支援を行っていますので、自己のキャリア形成のため必ず出席するように注意してください。

採用試験においては、成績と人物が大きく評価されています。学業については、多くの場合採用試験時に確認される成績は3学年までのものとなるため、不断の努力を怠りなく行うことが大切です。また、課外活動などに参加すること、資格を取っておくことなども有利な評価の対象となっているようです。

公務員には国の機関で働く国家公務員と市役所や県庁などに勤める地方公務員があります。これらをめざす学生は、公務員試験に合格しなければなりません。学内にて公務員対策講座・模擬試験を開催していますので、就職課へお問い合わせください。

また、本学が開催する「学生と企業との就職懇談会」には、本学の学生を採用したい企業等が多数参加します。これがきっかけとなり多くの学生が採用に繋がっていますので積極的に参加してください。

就職に関する相談は各学科の就職担当の教員および就職課で行っています。また、就職資料コーナーには、企業ファイル、試験内容報告書、就職情報誌、参考図書などがある他、1・2学年は希望者、3学年からは全員が就職情報検索

システムを利用して求人情報をタイムリーに見ることができますので、大いに活用してください。

就職情報検索システム

<https://job.hi-tech.ac.jp/index.php>

4.2 進学

ここまでの知識をさらに深めるために、大学院への進学を考えている人も多いと思います。本学の大学院は、機械・生物化学工学専攻、電子電気・情報工学専攻および社会基盤工学専攻の3専攻からなっています。この大学院の3専攻と工学部の5学科の関係は、機械・生物化学工学専攻は機械工学科および生命環境科学科、電子電気・情報工学専攻は電気電子工学科、システム情報工学科および生命環境科学科、社会基盤工学専攻は土木建築工学科と関連性が強く、どの学科に在籍しても本学大学院への進学の道が開かれています。また、他の大学の大学院へ進学する場合があります。

大学院進学では専門科目と語学に関する入学試験がありますので、入学試験科目に合わせた履修計画を立て十分学力を養っておく必要があります。本学の大学院においては、大学院入学試験に関する説明会などを適時行っておりますので、大学院進学を考えている人は出席して入学試験の概要を把握しておくことが必要です。

4.3 資格

ここで示す卒業後に取得できる資格には、①卒業と同時に取得できるもの、②卒業後に所定期間の実務経験後取得できるもの、③卒業後実務経験を経て受験資格が生まれ試験合格後取得できるものなど、さまざまな取得手続き様式があるので注意してください。各自で申請することを原則としています。不明な点があるときは担任に相談してください。

4.3.1 工学部

■教育職員免許状

教育課程内に定めた単位を修得し本学を卒業すると、機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科、土木建築工学科において中学校教諭一種免許状（技術）および高等学校教諭一種免許状（工業）を、またシステム情報工学科においては高等学校教諭一種免許状（情報）、生命環境科学科においては高等学校教諭一種免許状（理科）が取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

4.3.2 感性デザイン学部

■教育職員免許状

教育課程内に定めた単位を修得し本学を卒業すると、創生デザイン学科において中学校教諭一種免許状（美術）および高等学校教諭一種免許状（美術）および（工芸）を取得することができます。詳しくは第7章「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」を参照してください。

■機械工学科

機械工学科を卒業後に得られる資格は数多くありますが、ここにはその一部を紹介します。

大 分 類	資 格 名
在学中の取得を支援する 主な資格	技能士（3級、2級、機械保全、機械加工） 機械設計技術者（3級）
所定の単位を取得し、 卒業と同時に得られる資格	高等学校教諭一種免許状（工業） 中学校教諭一種免許状（技術） 技術士補（機械工学コース修了者）
所定の単位を取得して卒業後、 実務経験を経て受験資格を得られる資格	ボイラー・タービン主任技術者 管工事施工管理技士 特級ボイラー技士
特定の教科の単位を取得することによって、 試験の一部が免除される資格	自動車整備士（二級ガソリン）（自動車工学コース修了者）

■電気電子工学科

(1) 電気主任技術者

本学電気電子工学科において、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、表2の実務経験により電気主任技術者の免状交付申請資格が得られる。指定された科目は表1に示す通りである。

表1 関係学科の区分別学科目一覧表

※表中の「◎科目」の単位は、すべて修得すること（卒業要件とは異なる）。■は本学科の必修科目を意味する

区 分		学 科 目		単位	区 分		学 科 目		単位
1. 電気電子理論 ※◎科目の他に ○科目は 可能な限り 修得すること	◎科目	電 磁 気 学 I	②	3. 電気利用等 ※◎科目の他に ○科目から 2 単位以上 修得すること	◎科目	電 気 機 器 工 学	2		
		電 磁 気 学 II	②			制 御 工 学 I	2		
		電 磁 気 学 演 習 I	②			制 御 工 学 II	2		
		電 磁 気 学 演 習 II	②			パ ワーエレクトロニクス	2		
		電 気 回 路 I	②			電 気 利 用 工 学	2		
		電 気 回 路 II	②			○科目	セ ン サ ー 応 用 工 学	2	
		電 気 回 路 演 習 I	②				情 報 メ デ ィ ア 工 学	2	
		電 気 回 路 演 習 II	②				情 報 通 信 工 学 I	2	
		電 気 電 子 計 測	②				通 信 ネットワーク工学	2	
	○科目	電 磁 波 工 学	2	4. 実験・実習	◎科目	創 造 工 学 実 験	②		
		情 報 通 信 工 学 II	2			電 気 電 子 基 礎 実 験	②		
		電 子 回 路 I	②			電 子 情 報 シ ス テ ム 実 験	2		
2. 電力発生輸送 ※◎科目の他に ○科目から 2 単位以上 修得すること	◎科目	電 子 回 路 II	2	5. 電気設計製図	◎科目	電 気 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 実 験	2		
		半 導 体 工 学	2			電 気 電 子 設 計 製 図	2		
		電 力 発 生 工 学	2						
		電 力 輸 送 工 学	2						
	◎科目	電 気 電 子 材 料 工 学	2						
		電 気 法 規 と 電 気 施 設 管 理	2						
		○科目	高 電 界 工 学	2					
			原 子 燃 料 サ イ ク ル ・ 安 全 工 学	2					

（備考）以下の内容は、卒業後免状交付申請を円滑に進めるために重要な内容となっているので、必ず熟読すること。

なお、免除交付を行うにあたり、実務経験が必要となる。

- ① 「電気電子材料工学」は「高電界工学」で振り替えることができる。
- ② 卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充でき、卒業後3年以内に修得した単位のみ認められる。ただし、単位不足を補充できる科目は、表1の区分1.～5.ごとに1科目である。
- ③ 不足している科目に相当する電気主任技術者試験に合格することにより不足単位を補うことができる。

表2 実務経験年数

免 状 の 種 類	実 務 の 経 験	
	実 務 の 内 容	経 験 年 数
第1種電気主任技術者	電圧5万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が5年以上
第2種電気主任技術者	電圧1万ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が3年以上
第3種電気主任技術者	電圧500ボルト以上の電気工作物の工事、維持または運用	卒業前の経験年数の2分の1と卒業後の経験年数の和が1年以上

(最終改正平成5年12月)

電気主任技術者について

電気保安の確保の観点から、電気事業法により、事業用電気工作物（電気事業用及び自家用電気工作物）の設置者（所有者）には、電気工作物の工事、維持及び運用に関する保安の監督をさせるために、電気主任技術者を選任しなくてはならないことが義務付けられている。

電気主任技術者は、国家資格の中でも評価が高く、有資格者がまだ少ない状況のため、電気主任技術者資格を持てば職場でも責任ある地位が与えられる。また、電気主任技術者に対して資格手当を与える企業が数多くある。

電気主任技術者の資格には、免状の種類により第一種、第二種及び第三種電気主任技術者の3種類があり、電気工作物の電圧によって必要な資格が定められている。

まずは、第三種電気主任技術者試験から挑戦してほしい。

事業用電気工作物

電圧が17万ボルト以上の電気工作物	電圧が5万ボルト以上17万ボルト未満の電気工作物	電圧が5万ボルト未満の電気工作物（出力5キロワット以上の発電所を除く。）
例） 上記電圧の発電所、変電所、送配電線路や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備		例） 上記電圧の5キロワット未満の発電所や電気事業者から上記電圧で受電する工場、ビル等の需要設備
		第三種電気主任技術者
第二種電気主任技術者		
第一種電気主任技術者		

第三種電気主任技術者試験について

第三種電気主任技術者試験（通称：電験三種）は筆記試験のみである。

「理論」、「電力」、「機械」及び「法規」の4科目があり、各科目の解答方式はマークシートに記入する五肢択一方式により行う。科目合格制なので、有効期限の3年間を使って勉強する方法もとれる。

試験は年1回9月上旬に実施され、試験会場は東北地区では仙台市、山形市、滝沢市となる。

本学科では電験三種の資格支援講座を設けるとともに、学生の経済的負担を軽減するために、最寄りの試験会場までの直行バスも運行している。従って、在学中に積極的に受験することを勧める。

受験についての詳細は、(財)電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

(財)電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

電気主任技術者の免状交付申請資格を得るための履修の流れ

(2019年度入学生用)

区分	分野	2 年		3 年		4 年		免状交付申請資格を得る条件	区分
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	専門基礎	電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ 電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ 電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ					左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論
	電気エネルギーシステム系		電力発生工学	電力輸送工学	電気機器工学	電気法規・電気施設管理 電気利用工学 パワーエレクトロニクス		左の科目すべてを修得	◎科目 2.電力発生輸送 ◎科目 3.電気利用等
	原子力工学			高電界工学		原子燃料サイクル・安全工学		左から2単位以上修得	○科目 2.電力発生輸送
	情報・通信・メディア系				情報通信工学Ⅱ	電磁波工学		左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論
専門科目	電子デバイス・システム制御系		電気電子計測 電子回路Ⅰ	情報メディア工学 情報通信工学Ⅰ	通信ネットワーク工学			左から2単位以上修得	○科目 3.電気利用等
					センサー応用工学			左の科目すべてを修得	◎科目 1.電気電子理論 ○科目
			電子回路Ⅱ	電子回路Ⅱ	半導体工学			左の科目すべてを修得	◎科目 2.電力発生輸送
			電気電子材料工学	制御工学Ⅰ	制御工学Ⅱ			左の科目すべてを修得	◎科目 3.電気利用等
専門科目	実験・製図・研究	創造工学実験	電気電子基礎実験	電子情報システム実験	電気エネルギーシステム実験			左の科目すべてを修得	◎科目 4.実験・実習
						電気電子設計製図		左の科目すべてを修得	◎科目 5.電気設計製図

注1： 学科の必修科目 免状交付資格を得るための必修科目 免状交付資格を得るための選択必修科目 選択科目

注2：「電気電子材料工学」は「高電界工学」で振り替えることができる。

(2) 第二種電気工事士

本学電気電子工学科において、指定された科目の単位を修得して卒業した者は、第二種電気工事士試験の筆記試験が免除となる。指定された科目は下表3に示すとおりである。

なお、電気主任技術者免状を有している者においても筆記試験が免除となる。

表3 区分別学科目一覧表

※表中の単位は、すべて修得すること（卒業要件とは異なる）。■は本学科の必修科目を意味する。

区 分	学 科 目	単位	区 分	学 科 目	単位
1. 電気理論	電磁気学Ⅰ	②	3. 電気機器	電気機器工学	2
	電磁気学Ⅱ	②	4. 電気材料	電気電子材料工学	2
	電磁気学演習Ⅰ	②	5. 送配電	電力輸送工学	2
	電磁気学演習Ⅱ	②	6. 製図	電気電子設計製図	2
	電気回路Ⅰ	②	7. 電気法規	電気法規と電気施設管理	2
	電気回路Ⅱ	②			
	電気回路演習Ⅰ	②			
	電気回路演習Ⅱ	②			
2. 電気計測	電気電子計測	②			

（備考）卒業後に、科目等履修制度によって不足単位を補充できる。

電気工事士試験について

電気工事士として、第一種と第二種の2種類の資格がある。第二種の資格では一般住宅や店舗などの600ボルト以下で受電する設備の、第一種の資格では第二種の範囲と500キロワット未満の需要設備の、それぞれの工事が出来る。

試験は、四肢択一方式でマークシートに記入する筆記試験と、実技による技能試験との2段階で行われる。筆記試験の合格者はその年と次の年の2回、技能試験に挑戦する権利（次の年は、筆記試験免除者として技能試験を受験する。）がある。

試験は、第一種が地域毎に1ヶ所以上（東北地区だと仙台市または新潟市）、第二種が都道府県毎に1ヶ所以上（青森県だと青森市）の試験会場で実施される。

第二種電気工事士の場合、筆記試験は毎年、上期は6月上旬頃、下期は10月上旬ごろに実施される。また、技能試験は上期は7月下旬頃、下期は12月上旬頃に実施される。

第二種電気工事士試験は、電気系国家資格の中でも比較的取得しやすい資格であり、高校生でも数多く取得している。したがって、在学中に積極的に受験することを勧める。

第一種電気工事士の場合、筆記試験は毎年10月上旬頃に、また、技能試験は12月上旬頃に実施される。

第一種電気工事士試験は、学校卒業による筆記試験の免除はないが、電気主任技術者免状を有している者は筆記試験が免除となる。第二種電気工事士免状を有している者は、在学中に積極的に受験することを勧める。

受験についての詳細は、（財）電気技術者試験センターのホームページを参照してほしい。

（財）電気技術者試験センター <http://www.shiken.or.jp/>

第二種電気工事士試験の筆記試験免除を得るための履修の流れ

区 分		2 年		3 年		4 年		区 分	筆記試験免除となる条件
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
専 門 基 礎 電 気 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 系 電 子 デ バ イ ス ・ シ ス テ ム 制 御 系 実 験 ・ 製 図 ・ 研 究	専 門 基 礎	電 磁 気 学 Ⅰ	電 磁 気 学 Ⅱ					1. 電気理論	左の科目すべてを修得
		電 磁 気 学 演 習 Ⅰ	電 磁 気 学 演 習 Ⅱ						
		電 気 回 路 Ⅰ	電 気 回 路 Ⅱ						
		電 気 回 路 演 習 Ⅰ	電 気 回 路 演 習 Ⅱ						
	電 気 エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 系				電 気 機 器 工 学			3. 電気機器	
				電 力 輸 送 工 学				5. 送配電	
	電 子 デ バ イ ス ・ シ ス テ ム 制 御 系					電 気 法 規 と 電 気 施 設 管 理		7. 電気法規	
			電 気 電 子 計 測					2. 電気計測	
				電 気 電 子 材 料 工 学				4. 電気材料	
							電 気 電 子 設 計 製 図	6. 製図	

注：■ 学科の必修科目 □ 筆記試験免除となるための必修科目

電気通信主任技術者

本学電気電子工学科において指定された科目の単位を修得した者は、電気通信主任技術者資格試験のうち、試験科目「電気通信システム」の試験が免除される。指定された科目は表4に示すとおりである。

表4 電気通信主任技術者試験の一部科目免除となるための指定科目一覧

(平成30年度以降の入学生に適用)

科 目		必要時間数	科 目	授業時間数 時間／単位	科目免除の対象 となる条件
基礎専門 教育科目	数 学	60	○ 微 分 ○ 積 分 ○ 線 形 代 数 ○ 電 気 回 路 入 門 ○ 電 気 電 子 数 学 I	30／2 30／2 30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	物 理 学	60	○ 基 礎 物 理 学 I 基 礎 物 理 学 II	30／2 30／2	左の科目を修得
	電 磁 気 学	60	○ 電 磁 気 学 I ○ 電 磁 気 学 II ○ 電 磁 気 学 演 習 I ○ 電 磁 気 学 演 習 II	30／2 30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	電 気 回 路	60	○ 電 気 回 路 I ○ 電 気 回 路 II ○ 電 気 回 路 演 習 I ○ 電 気 回 路 演 習 II	30／2 30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	電 子 回 路	60	○ 電 子 回 路 I 電 子 回 路 II 半 導 体 工 学	30／2 30／2 30／2	左から2科目以上を修得
	ディジタル回路	30	デ ィ ジ タ ル 回 路	30／2	左の科目を修得
	情 報 工 学	30	コンピュータプログラミング	30／2	左の科目を修得
	電 気 計 測	60	○ 電 気 電 子 計 測 セ ン サ ー 応 用 工 学	30／2 30／2	左の科目を修得
専門教育科目	伝 送 線 路 工 学	—	情 報 通 信 工 学 II	30／2	左の科目を修得
	交 換 工 学	—	情 報 通 信 工 学 I	30／2	左の科目を修得
	電気通信システム	—	通 信 ネ ッ ト ワ ー ク 工 学	30／2	左の科目を修得

注：卒業後科目履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要な単位を修得すること。

○印の科目は本学電気電子工学科の必修科目である。

電気通信主任技術者試験の試験科目「電気通信システム」の試験免除を得るための履修の流れ

(2019年度入学生用)

区分	分野	1 年		2 年		3 年		科目免除の対象となる条件	科目
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
工学基礎科目	数学	微分	積分 線形代数 電気回路入門	確率・統計学 電気電子数学Ⅰ				左から2科目以上を修得	数学
	物理学・化学		基礎物理学Ⅰ	基礎物理学Ⅱ				左の科目を修得	物理学
専門基礎	専門基礎			電磁気学Ⅰ 電磁気学演習Ⅰ	電磁気学Ⅱ 電磁気学演習Ⅱ			左から2科目以上を修得	電磁気学
				電気回路Ⅰ 電気回路演習Ⅰ	電気回路Ⅱ 電気回路演習Ⅱ			左から2科目以上を修得	電気回路
					電気電子計測	電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	センサー応用工学	左の科目を修得	電気計測
							半導体工学	左から2科目以上を修得	電子回路
専門科目	電子デバイス・システム制御系				コンピュータプログラミング			左の科目を修得	情報工学
					デジタル回路			左の科目を修得	デジタル回路
	情報・通信・メディア系					情報通信工学Ⅰ	情報通信工学Ⅱ	左の科目を修得	交換工学
							通信ネットワーク工学	左の科目を修得	伝送線路工学 電気通信システム

注：  学科の必修科目  科目免除を受けるための必修科目  科目免除を受けるための選択必修科目  選択科目

(4) 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士

本学電気電子工学科において指定された科目の単位をすべて修得したものは、卒業後の総務省・東北総合通信局への申請により「第一級陸上特殊無線技士」および「第二級海上特殊無線技士」の資格が与えられる。なお、2つの資格の申請はおのこの個別に行う必要がある。指定された科目は表5に示すとおりである。

表5 第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の取得のための指定科目一覧

科目内容	授業科目名	資格取得の条件
無線機器学その他無線機器に関する科目	電 磁 波 工 学	左の科目を修得
	情 報 通 信 工 学 I	左の科目を修得
	○ 電 子 情 報 シ ス テ ム 実 験	左の科目を修得
電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目	電 磁 波 工 学	左の科目を修得
	情 報 通 信 工 学 II	左の科目を修得
	○ 電 子 情 報 シ ス テ ム 実 験	左の科目を修得
電 子 計 測 そ の 他 無 線 測 定 に 関 す る 科 目	○ 電 気 電 子 計 測	左の科目を修得
	○ 電 子 情 報 シ ス テ ム 実 験	左の科目を修得
電 波 法 規 そ の 他 電 波 法 令 に 関 す る 科 目	情 報 通 信 法 規	左の科目を修得

注：卒業後科目履修生として修得した単位は認めない。必ず在学中に必要な単位を修得すること。

○印の科目は本学電気電子工学科の必修科目（但し、電子情報システム実験は選択必修科目）である。

第一級陸上特殊無線技士および第二級海上特殊無線技士の資格を取得するまでの履修の流れ

(2019年度入学生用)

区 分	分 野	2 年		3 年		4 年	
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
専 門 科 目	無線機器学その他無線機器に関する科目			情報通信工学 I	電子情報システム実験	電 磁 波 工 学	
	電磁波工学その他空中線系及び電波伝送に関する科目			電 磁 波 工 学	情報通信工学 II 電子情報システム実験		
	電子計測その他無線測定に関する科目	電気電子計測			電子情報システム実験		
	電波法規その他電波法令に関する科目					情報通信法規	

上記科目をすべて修得のこと。

注：  は本学科の必修科目（但し、電子情報システム実験は選択必修科目）

第一級陸上特殊無線技士における無線設備の操作範囲

多重無線設備を使用した固定局等の無線設備、陸上と移動する形態の無線局、VSAT 局等の衛星通信無線設備、陸上レーダ無線、MCA、携帯電話の基地局等の無線設備の技術操作

■システム情報工学科

システム情報工学科に関わる資格は多数ありますが、ここには一部を紹介します。

1. 所定科目を修得すれば取得できる資格

資格名称	概要・特典など
中学校教諭一種免許状 (技術)	中学校で技術の教科を教えることができます。
高等学校教諭一種免許状 (工業)	工業高校で教えることができます。
高等学校教諭一種免許状 (情報)	情報関係の教科を教えることができます。普通高校への就職も可能です。

2. 受験のための指導体制を整備している資格

資格名称	概要・特典など
シスコ技術者認定 (CCENT、CCNA)	シスコシステムズという会社が行っている技術者向けの認定試験です。この会社は、ネットワーク間の接続機器（ルータ等）では世界トップシェアを誇っています。 本学科では試験に備えて、ネットワーク実習用の機器を導入し、特別の訓練を経て指導者として認定された教員が学生の指導に当たっています。さらに、学生の負担を減らすため、学科内でも受験できる体制を整えています。 【対象科目】 3年：情報ネットワーク構築
基本情報技術者	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能を持ち、実践的な活用能力を身に付けた者を対象としている国家資格です。 以下の講義の単位を修得し、学科内で行われる修了試験に合格すれば基本情報技術者試験の午前試験が1年間免除されます。 【対象科目】(10科目) 1年：情報工学概論 2年：コンピュータシステム、情報通信工学、データ構造とアルゴリズム、プログラム設計、データベース、産業情報論、経営情報論、オペレーティングシステム、情報セキュリティ入門 3年：(情報工学特別講義 ※修了試験)

資格名称	概要・特典など
CG-ARTS 検定	CG や Web ページなどのコンテンツ制作技術や知識を評価する文部科学省後援の資格です。 本学科は、CG-ARTS 検定を主催している CG-ARTS 協会（財団法人画像情報教育振興会）から認定された「認定教育校」です。この資格は学科内で受験できるため学生に人気です。 ● CG クリエイター検定 ● CG エンジニア検定 ● 画像処理エンジニア検定 ● マルチメディア検定 ● Web デザイナー検定 【対象科目】 1 年：ウェブデザイン、コンテンツ制作入門 2 年：コンピュータグラフィックス、ビジュアル情報処理 3 年：マルチメディア工学

3. 資格取得のための支援を行っている資格

資格名称	概要・特典など
応用情報技術者	高度 IT 人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度 IT 人材としての方向性を確立した者を対象とした国家資格です。
情報セキュリティマネジメント ネットワークスペシャリスト エンベデッドシステムスペシャリスト データベーススペシャリスト 情報処理安全確保支援士	IT パスポート、基本情報技術者、応用情報技術者の次の段階として、情報ネットワーク、組込みシステム、データベース、情報セキュリティのスペシャリストを対象とした国家資格です。

■生命環境科学科

「高等学校教諭一種（理科）」の他、本学科に関連する資格として以下がある。

（1）食品衛生管理者および食品衛生監視員資格（任用資格）

食品衛生管理者は厚生労働省が認定する国家資格である。食肉製品、乳製品、食用油脂などを製造・加工する施設の営業者は、この資格を有する者を置く事が義務づけられている（食品衛生法第48条）。そして、この資格取得者は食の安全確保のための知識や技術を有する者として社会において高く評価されている。

食品衛生監視員は厚生労働省が認定する国家資格である。保健所などの公的機関に所属する食品衛生監視員は、食品販売業者や外食産業など食品を取り扱っている業者の衛生状況の監視、あるいは輸入食品の監視業務や試験検査などの業務を行う。本資格は、公務員として食品衛生に関する業務を行う者には必要な資格である。

生命環境科学科は食品衛生管理者および食品衛生監視員の養成施設として国の認可を得ており、別表に指定する科目（食品衛生指定科目という）の所定の単位を修得し、本学を卒業することにより、食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を取得することができる。

なお、いずれのコースを学生が選択しても、食品衛生指定科目を修得することによって本資格を取得できる。

対象学生は平成30年度以降の入学者である。

○履修方法

生命環境科学科（平成30年度以降入学生対象）で、「食品衛生監視員」「食品衛生管理者」の資格取得可能者は、別表に定める所定の食品衛生指定科目と、卒業に必要な単位を修得することが取得要件である。

資格取得に必要な食品衛生指定科目は、必修26単位と選択14単位である。

別表 食品衛生指定科目

必修科目	単 位
分析化学	2
有機化学	2
無機化学	2
生化学	2
食品化学	2
生理学	2
食品分析学	2
微生物学	2
食品製造学	2
公衆衛生学	2
食品衛生学	2
分子遺伝学	2
生命環境科学実験Ⅰ	1
生命環境科学実験Ⅱ	1
合 計	26

選択科目	単 位
環境生物学	2
微生物工学	2
酵素工学	2
生物有機化学	2
食品工学	2
機器分析	2
環境汚染物質分析学	2
品質管理	2
合 計	16

上記選択科目から14単位以上を修得する必要がある。

(2) 公害防止管理者

受験資格は問われない。大気関係第1種～第4種、水質関係第1種～第4種、騒音関係、特定粉じん関係、一般粉じん関係、振動関係、公害防止主任管理者の13種類の試験がある。想定される学力は、主任管理者は大卒程度で実務経験5年以上、他の試験は短大卒または高卒程度で、いずれも実務経験3年以上。

試験科目と授業の関連（水質関係の場合）

試験科目	本学開講科目
公害総論	グリーンケミストリー（1年）、環境とエネルギー（2年）、L演習I（3年）
水質概論	環境汚染物質分析学（3年）、L演習I（3年）
污水处理特論	物理化学（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）、リサイクル工学（2年）、微生物工学（2年）、環境影響評価論（3年）、L演習I（3年）
水質有害物質特論	物理化学（2年）、分析化学（2年）、有機化学（2年）、機器分析（2年）、微生物工学（2年）、計測制御工学（3年）、環境汚染物質分析学（3年）、環境影響評価論（3年）、L演習I（3年）
大規模水質特論	微生物学（2年）、微生物工学（2年）、環境汚染物質分析学（3年）、環境影響評価論（3年）、L演習I（3年）

「L」は「生命環境科学」を表す。

(3) バイオ技術者認定資格

（上級バイオ技術者認定試験）：

バイオ技術の進歩に対応して「生命工学技術の中で生物利用技術を中心に遺伝情報利用技術、増殖能利用技術および安全管理技術、並びにそれらに関する知識を持ち、指導的立場でそれを実際にバイオテクノロジーに応用し得る資質を高めた高度な技術者」を認定するものである。受験資格は3年修了見込み。

（中級バイオ技術者認定試験）：

バイオ技術の進歩に対応して、「遺伝子組換え技術、細胞融合技術、増殖能利用技術並びに生物及び生物由来材料利用技術、そしてこれらを行うための安全管理に関する知識をもち、適切な指導者の元で実際にバイオテクノロジーに適応しうる資質」を認定するものである。受験資格は2年修了見込み。

試験科目と授業の関連

出題科目／中級試験	出題科目／上級試験	本学開講科目
バイオテクノロジー総論 （機器・バイオ英語・環境安全）	安全管理・バイオ機器	物理化学（2年）、分析化学（2年）、機器分析（2年）、L基礎演習II（2年）
生化学	核酸・タンパク質・酵素	生化学（2年）
微生物学	微生物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー（1年）、微生物学（2年）、微生物工学（2年）
分子生物学		生命科学（1年）、分子遺伝学（2年）、遺伝子工学（3年）
遺伝子工学		分子遺伝学（2年）、遺伝子工学（3年）
	微生物バイオテクノロジー 動物バイオテクノロジー 植物バイオテクノロジー	バイオテクノロジー（1年）、微生物工学（2年）

「L」は「生命環境科学」を表す。

(4) 環境計量士（濃度関係）

受験資格は問われない。（物質濃度の）計量に関する専門の知識・技能を有する者に対して一定の資格を与え、適正な計量の実施の確保を推進するための制度。化学工業、食品プラント、廃棄物処理等

の企業から研究施設まで広く要求される資格である。

試験科目と授業の関連

区分	出題科目	本学開講科目
専門科目	環境計量に関する基礎知識 環境関係法規および化学に関する基礎知識	基礎化学Ⅰ（１年）、基礎化学Ⅱ（１年）、グリーンケミストリー（１年）、無機化学（１年）、物理化学（２年）、分析化学（２年）、有機化学（２年）、環境化学量論（２年）、Ⅰ基礎演習Ⅰ・Ⅱ（２年）、Ⅰ演習Ⅰ・Ⅱ（３年）
	化学分析概論および濃度の計量	環境化学量論（２年）、分析化学（２年）、機器分析（２年）
共通科目	計量関係法規	環境計量士勉強会（３年、４年）
	計量管理概論	確率・統計（２年）、品質管理（３年）、計測制御工学（３年）

「Ⅰ」は「生命環境科学」を表す。

(5) 環境測定分析士

環境測定分析作業に必要な技術・技能に関する知識を（一社）日本環境測定分析協会が認定する。受験資格は次の通り。

（３級）：受験資格は問われない。

（２級）：環境測定分析業務の実務経験が通算して３年以上並びに環境測定分析士３級試験に合格し登録証の交付を受けている者（登録証がない場合、環境計量士（濃度関係）有資格者はそれを以って代えることが可能）。

（１級）：環境測定分析業務の実務経験が通算で５年以上並びに環境測定分析士２級試験に合格し登録証の交付を受けている者。

試験科目と授業の関連

出題科目	本学開講科目
環境測定分析一般	無機化学（１年）、有機化学（２年）、分析化学（２年）、機器分析（２年）、計測制御工学（３年）、環境汚染物質分析学（３年）
環境法規	グリーンケミストリー（１年）、リサイクル工学（２年）

(6) 危険物取扱者乙種第四類

受験資格は問われない。危険物の取扱い、取扱いの立会および保安監督などを行うには、消防法で一定の資格を必要としている。危険物取扱者は、危険物の取扱いに関して、消防法令上強い権限が付与されていると共に、大きな責務を有している。

(7) ガス主任技術者

甲種、乙種、丙種の３種類があり、受験資格は問われない。資格試験に合格することにより、資格の取得ができる。

注：任用資格とは、その資格を取得するに十分な教育・訓練を受けた人員がいる企業などの事業所において、必要に応じて当該事務局に資格申請することでその人が資格所有者となるものです。個人で自由に取得することはできません。

■土木建築工学科（土木工学コース・建築工学コース）

在学中の取得を支援する主な資格	●商業施設士補 ●商業施設士
卒業後申請により得られる資格	●測量士補（土木工学コース） ●技術士補（土木工学コース）
卒業後、実務経験を経て自動的に得られる資格	●測量士（土木工学コース） ●ダム水路主任技術者 ●ダム管理主任技術者
特定の教科の単位を取得することによって、卒業と同時に受験資格が得られる資格	●二級建築士 ●木造建築士
特定の教科の単位を取得することによって、卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	●一級建築士
卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	●土木施工管理技士 ●建築施工管理技士 ●管工事施工管理技士 ●造園施工管理技士 ●建設機械施工管理技士 ●電気工事施工管理技士 ●土地区画整理士 ●コンクリート診断士 ●コンクリート主任技士 ●地質調査技士
特定の教科の単位を取得することによって、試験の一部が免除される資格	●火薬類取扱保安責任者
所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	●中学校教諭一種免許状（技術） ●高等学校教諭一種免許状（工業）
その他、科目設定により取得を支援している資格	●土地家屋調査士 ●宅地建物取引主任者 ●福祉住環境コーディネーター ●インテリアプランナー ●インテリアコーディネーター 他

■創生デザイン学科

(1) 所定の単位を修得し、卒業と同時に得られる資格

●高等学校教諭一種免許状（工芸）	
●高等学校教諭一種免許状（美術）	
●中学校教諭一種免許状（美術）	
●商業施設士補	注：本学で開催される講習会への参加が必要となります

(2) 在学中に取得を支援する主な資格

資格名称	取得支援を実施する主な科目
● CAD 利用技術者	図学／CAD デザイン演習
● Illustrator クリエイター能力認定	コンピュータ基礎演習／ビジュアルデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
● Photoshop クリエイター能力認定	コンピュータ基礎演習／ビジュアルデザイン演習Ⅰ・Ⅱ
● Web デザイン検定	Web デザイン
● インテリアコーディネーター	インテリアデザインⅠ・Ⅱ／リビングウェアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ／住環境学
● 色彩検定	色彩学／ビジュアルデザイン演習Ⅰ／インテリアデザインⅠ・Ⅱ
● カラーコーディネーター	
● 福祉住環境コーディネーター	ユニバーサルデザイン論
● リビングスタイリスト	インテリアデザインⅠ／ユニバーサルデザイン論

4.4 同窓会

本学には、卒業生相互の親睦を図ることを目的に同窓会が組織されています。

同窓会は、卒業生（正会員）、在学生（準会員）、そして教職員（特別会員）で構成されています。

在学生のみなさんは、卒業すると同時に正会員になります。

同窓会は大学内に本部を、また仙台市、札幌市、秋田市、東京都に支部を置いています。

同窓会の活動内容は、会報の発行、総会（集う会）の開催や母校の発展に寄与するための活動など多岐にわたっております。



第18回 八戸工業大学同窓生の集う会

平成30年10月6日 於 八戸グランドホテル

第5章

施設の利用について

5. 1	図書館	218
5. 2	メディアセンター	219
5. 3	スポーツ施設	220

5.1 図書館

図書館は、大学で行う教育研究活動に必要な図書や雑誌を中心とする資料を通して情報を提供する機関です。図書資料としては図書、雑誌および視聴覚資料などがあります。レポートの作成のための資料調査あるいは研究活動のための文献調査に、図書館を利用してください。

図書館は多くの利用者のための施設です。利用にあたっては、利用規則を守り互いに迷惑をかけないように利用してください。利用に関する不明な点は、図書館員に気軽に相談してください。

■開館時間

月～金曜日 8:40～20:30

土曜日 10:00～17:00

日曜日（試験期間）10:00～17:00

（春季、夏季、冬季の各休業日の一部期間は17:00まで）

ただし、試験期間を除く日曜日、国民の祝日および年末年始は休館とします。また、整理作業等のため臨時に休館することがあります。

■学生証

図書資料の館外貸出、書庫1、2および4層の利用などの際には学生証が必要です。

■図書資料と利用方法

1. 学生閲覧室

事典、辞書、百科辞典、ハンドブック、新刊雑誌、視聴覚資料のほか、図書館検索システムとして、OPACがあります。また、無線LANアクセスポイントを設置していますので、個人のノートパソコンを持ち込んでインターネットに接続できます。館内には自由に利用できるデスクトップパソコン8台があり、マイクロソフトオフィスを使用できます。CD、DVD、マルチメディアコーナーを利用する際は閲覧カウンターで手続きをして下さい。自由に館内で閲覧できるほか、館外への貸出も行っております。

2. 書庫

書庫は4層になっています。学生閲覧室につながっている階は3層です。3層の図書は自由に館内で閲覧できます。館外へ帯出したいときは学生証を持参し、閲覧カウンターで手続きをしてください。1、2および4層の図書を見たいあるいは借りたいときは、学生証を持参し閲覧カウンターで手続きしてください。

3. 新聞閲覧室



新聞11紙と小冊子が閲覧できます。

4. 雑誌閲覧室

雑誌のバックナンバーを所蔵しています。所蔵されている雑誌のリストは雑誌閲覧室および閲覧カウンターにあります。学生証を持参の上、閲覧カウンターで手続きをして利用できます。貸出はできません。

5. 多目的ホール

パソコンやビデオ・DVDを接続可能な液晶プロジェクターを備えた多目的ホールは、講義や講演会・シンポジウムあるいはサークル活動などの発表の場として活用できます。利用したいときは、図書館へ申し込んで下さい。

■守ってほしいこと

- ・館内では飲食、談話はできません。ただし、指定された場所での飲物（フタをすることができる容器に入ったものに限る）の摂取は可とします。
- ・館内での携帯電話での通話、資料の撮影はお控えください。
- ・図書などの資料は大切に扱い、書き込みや破損のないようにしてください。
- ・紛失あるいは著しく汚したり損傷させたときは、同一の図書あるいは相当の代金をもって弁償してもらうことがあります。
- ・返却期間を守らないなど、ルールを守らなかったり係員の指示に従わないときは、利用を停止することがあります。

■その他

学生閲覧室にはコピー機があり有料で利用できます。ただし、図書館の資料をコピーする場合には限ります。

5.2 メディアセンター

メディアセンターは、多目的なホール、会議室等で構成されています。

また、ネットワーク環境が整備されています。

普段は学習室として利用されているホールには、大型スクリーンや液晶プロジェクター、HDDレコーダー等のOA・AV機器も設備されており、学術講演やサークルの発表、演奏会の場などにも利用できます。

利用の際は、教職員を通じて申し込んで下さい。

■開館時間

月～金曜日 8:30～19:30

※土日、祝日、年末年始、その他大学行事のある日は原則として利用できませんが、行事の内容によっては開館する場合もあります。

■窓口

利用に関する申し込み、問い合わせ、質問等は、学事課までお気軽に相談して下さい。



5.3 スポーツ施設

スポーツ施設として体育館、テニスコート、プール、運動公園などが利用できます。施設の借用及び、用具の借用方法等についてはそれぞれの問い合わせ先に相談してください。

施 設 と 設 備	問い合わせ先
体育館（体育室、レスリング場、ボクシング場、トレーニング室、男女更衣室など） 陸上競技場（400mトラック、ラグビー場） 野球場、サッカー場、ソフトボール場 尚志館、室内練習場 テニスコート 3 面（人工芝）テニスコート 2 面（クレー）	施設借用：学生課 （本館 1F） 用具借用：体育教員
運動公園（50m プール、テニスコート 3 面（オムニコート）、キャンプ場） 合宿所（30名宿泊可能） 2 棟	法人事務局総務課 （本館 3F）



第6章

願い・届け・証明書の手続き

6. 1	休学願	222
6. 2	復学願	222
6. 3	退学願	222
6. 4	転学願	222
6. 5	転学科願	222
6. 6	欠席届	223
6. 7	忌引届	223
6. 8	特別欠席願	223
6. 9	変更届	223
6. 10	学生残留・出校届	223

これまで述べてきたように、学籍の変更、履修手続き、証明書の交付などの願い、届け、各種証明書交付手続きをまとめると別表のようになります。特に注意すべき手続きについて説明しますが、不明な点は手続きの提出先あるいは担任に相談してください。証明書の作成に時間を要するものもありますから、余裕をもって手続きしてください。

また、手続きの際は必ず**学生証**と**印鑑**を持参してください。

6.1 休学願

- ①病気その他の理由で引続き3ヵ月以上修学できない場合は、所定の休学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得て休学することができます。（無断欠席は不利な取り扱いを受けることになります。）
- ②病気、けがによる休学の際は診断書を添付しなければなりません。
- ③休学期間は1年以内とし、2年度にわたる場合は年度ごとに休学願を提出することになります。
- ④許可された休学期間が満了したときは、復学となります。その際は、**復学届**を教務課に提出してください。
- ⑤休学している者が、許可された休学期間を過ぎても復学できないときは、再休学願を教務課に提出し、学長の許可を得て再休学することができます。ただし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。

6.2 復学願

- ①許可された休学期間の途中で休学理由がなくなり復学したいときは、所定の復学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に

提出し、学長の許可を得て復学することができます。

- ②復学の手続きには復学願、病気・けがで休学していたときは診断書、復学する学期の学費が必要です。

6.3 退学願

- ①病気その他の理由で退学しようとする場合は、所定の退学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②退学願には学生証を添付しなければなりません。

6.4 転学願

- ①他の大学に転学を志望する場合は、所定の転学願に理由を明記し、保証人連署のうえ教務課に提出し、学長の許可を得なければなりません。
- ②転学願には学生証を添付し、所属学科長の承認が必要です。

6.5 転学科願

転学科を志望する者があるときは、選考のうえ許可することがあります。

- ①出願の時期および手続き
 - (a)出願の時期は、原則として1年次または2年次の3月1日から3月10日までです。
 - (b)願書は、学生の所属学科長が受け付けます。
- ②許可の条件等について
 - (a)やむを得ないと認められる理由があること。
 - (b)原則として、出願学生の入学試験成績が希望する学科の成績の最下位以上で、かつ入

学後の成績が所属学科の中位以上であること。

(c)出願学生の所属学科の運営および教育に支障がないと認められること。

(d)希望受入れ学科の運営および教育に支障がないと認められること。

(e)転学科を認められた者は、再び転学科の出願をすることはできません。

6.6 欠席届

引続き3日以上欠席する場合は、必ずその理由を明記し保証人連署のうえ欠席届を教務課に提出しなければなりません。また、病欠などで7日以上欠席する場合は必ず診断書などの証明書を添付しなければなりません。

欠席届出の日数が3ヵ月を超える場合は休学願を提出することになります。

6.7 忌引届

忌引をするときは、所定の忌引届に保証人連署のうえ教務課に提出しなければなりません。

6.8 特別欠席願

学友会活動や、クラブ活動の対外試合など課外活動で授業を欠席するときは、特別欠席願を提出することによって出席について考慮されることがあります。願い出は、団体毎に一括して学生課で承認を受けて、担当教員へ提出してください。

6.9 変更届

次の項目について変更があったときは、すみやかに学生課へ変更届を提出しなければなりません。この提出がないために連絡ができないばかりか不利益を被ることがあります。

- ・本人氏名 ・現住所 ・本籍
- ・連絡先（携帯電話番号、メールアドレス）
- ・保証人氏名 ・保証人住所

6.10 学生残留・出校届

卒業研究、製図、実験、課外活動などで放課後も学内に残留するときや、休業日に出校するときは学生残留・出校届を提出しなければなりません。届出用紙は各学科事務室や学生課に置いてありますので、必要事項を記入の上担当教職員の承認を受け、課外活動団体は学生課へ、その他の団体・個人は学事課へ提出してください。

①授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに提出してください。但し、学友会館に限り20時までの使用は提出の必要はありません。

②休業日に出校するときは、前日の16時50分までに提出してください。

届出は、いずれの場合も休業日を除く平日に提出してください。詳しくは残留・出校者心得(7.14)ならびに学友会館使用規程(7.12)をよく読んで、事故のないように注意してください。

願い出・証明書等の手続き

種 別	取扱窓口	備 考
休学願 再休学願 復学願 復学届 退学願 転学願 転学科願	教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課	事由が発生した時（病気による場合は診断書を添付） 休学期間を延長する時 休学期間途中で復学する時 休学期間が満了した時 事由が発生した時（学生証を返却） 事由が発生した時 1年次または2年次の所定の期間
履修届 他学部・他学科科目（講義科目）履修願	教務課 教務課	学年始め 学期始め
欠席届 忌引届 特別欠席願	教務課 教務課 学生課	事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
在学証明書 成績証明書 卒業証明書 卒業見込証明書 単位修得証明書 修得学科目証明書 教員免許状取得見込証明書 健康診断証明書 学生証再交付願 学生旅客運賃学割証（学割） 通学証明書	教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 教務課 学生課 学生課 学生課 学生課	手数料 200円 即日交付 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 即日交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 申請日より3日後交付 手数料 200円 即日交付 手数料 1,500円 申請日より2日後交付 無料 即日交付 無料 申請日より2日後交付
駐車場使用許可願	学生課	事由が発生した時
宿所変更届 氏名変更届 本籍変更届 保証人変更届 保証人氏名変更届 保証人住所変更届	学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課	事由が発生した時 事由が発生した時（戸籍抄本を添付） 事由が発生した時（戸籍抄本を添付） 事由が発生した時 事由が発生した時 事由が発生した時
学費延納願	財務課	学費納入期限日までに
就職模試 公務員模試	就職課 就職課	受験料 1,000円 即日交付 受験料 3,000円 即日交付
学生残留・出校届	学事課	

学友会・課外活動関係

種 別	取扱窓口	備 考
団体結成願 団体継続届 団体解散届 学外団体加盟願 学外課外活動参加願 学外課外活動参加結果報告書 学外者の学内活動参加願 学生残留・出校届 部室借用願（新規・継続） 部室返納届	学生課	「学生の諸活動に関する規程参照のこと」
集会許可願 学内掲示等許可願 印刷物発行・配布・回覧願 施設・設備・備品等使用願 放送願		

第7章

諸規程

7. 1	八戸工業大学学則（抄）	226
	別表第1 教育課程表、教職課程表	
	別表第2 学費、入学検定料	
7. 2	八戸工業大学学位規程	250
7. 3	八戸工業大学学費納入規程	255
7. 4	八戸工業大学学生心得	256
7. 5	八戸工業大学履修規程	258
7. 6	八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程	269
7. 7	編入学者および転入学者の履修等に関する規程	280
7. 8	八戸工業大学G P A取り扱い要項	281
7. 9	八戸工業大学図書館利用規程	283
7. 10	八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程	285
7. 11	学生の諸活動に関する規程	286
7. 12	学友会館使用規程	288
7. 13	施設・設備・備品等管理規程	289
7. 14	残留・出校者心得	290
7. 15	八戸工業大学車両通学に関する規程	290
7. 16	八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程	292
7. 17	学友会会則	293
7. 18	学友会の選挙に関する規程	295
7. 19	学友会会費規程	296

7.1 八戸工業大学学則（抄）

制 定 昭和47年4月1日

改 正 平成31年4月1日

第1章 目的および自己点検・評価

- 第1条 本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造ならびに地域社会の発展に寄与することを目的とする。
- 2 前項の目的を達成するため、教育研究等の目標を次のように定める。
- 一 学生の教育を最優先し、学生の満足度を高め、総合的な成長を確実に達成する大学となること
 - 二 教育と研究の成果をもって、北東北を主とした地域社会の発展に寄与し、地域とともにある地域のための大学となること
- 第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するとともに、公的機関による認証評価を受けるものとする。
- 2 本学は、教育研究の内容等の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。
- 3 前二項の点検および評価等についての必要な事項は、八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱を準用する。

第2章 学部構成および教育研究上の目的

- 第3条 本学に、次の学部および学科を置く。

工学部

機械工学科

電気電子工学科

システム情報工学科

生命環境科学科

土木建築工学科

感性デザイン学部

創生デザイン学科

- 2 工学部および感性デザイン学部の教育研究上の目的は、次の通りとする。

一 工学部

豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、および地域社会への関心とともにグローバルな視野をもった人材を育成するとともに、機械、電気・電子、土木・建築、情報、生命・環境、原子力および海洋などの工学・科学に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

二 感性デザイン学部

豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、デザインの諸原理の理解とそれらの応用・展開力をもった人材、現代社会が抱える問題を発見し、その解決ができる人材、および地域社会への関心とグローバルな視野を有し、豊かな生活と幸福な社会づくりに貢献できる人材を育成するとともに、人々の生活の視点に立ったデザイン、地域の資源や資産を活かしたデザインを探究し、これらの成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

3 各学科における教育研究上の目的は、次の通りとする。

工学部

一 機械工学科

多様化した社会ニーズに応えるため、必要な科学と機械工学の知識、幅広い教養と倫理観および問題解決・応用展開能力をもった機械技術者を養成するとともに、材料力学および機械力学、熱力学および流体力学、情報および制御工学、材料および設計・加工学、自動車工学などに関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

二 電気電子工学科

未来の産業創造と社会変革に対応するため、電気電子工学の深い知識と幅広い教養、俯瞰的視野ならびに倫理観を有し、豊かな人間性と総合的な判断力、問題解決・応用展開能力、構想力、自己表現力、協働性を備え、地域社会への関心と国際的視野をもった技術者を育成するとともに、電気エネルギーシステム、電子デバイス・システム制御、情報・通信・メディアに関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

三 システム情報工学科

情報通信技術の分野で地域産業の活性化と発展をはかるため、必要となる科学と工学の基礎知識、情報技術の専門知識ならびに国際的視野に立った幅広い教養と倫理観を備え、時代の変化に対応できる能力をもった技術者を養成するとともに、マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システムなどの情報分野および情報関連分野に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

四 生命環境科学科

生命、食品、環境分野における多様なニーズに応えるため、幅広い教養と倫理観および環境保全や食の安全、生物資源に関する専門知識を備え、問題解決・応用展開能力をもった環境調和プロセス技術者を養成するとともに、生命科学、食品科学、環境科学、化学工学および海洋学に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

五 土木建築工学科

社会基盤と居住空間の整備、自然環境と調和した地域社会の発展、地域・文化・時代により変化する建設分野への要請および諸課題へ対応するため、必要な科学と土木・建築工学技術の知識、幅広い教養と倫理観、コミュニケーション能力、生涯自己学習能力および問題解決・応用展開能力をもった技術者を養成するとともに、土木工学および建築工学に関する研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

感性デザイン学部

創生デザイン学科

社会構造の変化、価値観の多様化などの地政学的・文化的・史的背景を理解し、対象の価値を再構成したり転換したりできる力、複眼的な視点で価値を具体的な形に表現する力、地域の多様なあるべき姿を構想する力を有し、社会の発展と文化の振興、地域社会における資源と資産の価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成するとともに、デザイン学およびその関連分野に関わる教育研究活動を実施し、これらの成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること

第3章 修業年限および収容定員

第4条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。

第5条 本学の入学定員および収容定員は、次の通りとする。

		入学定員	収容定員
一	工学部 機械工学科	80名	320名
二	工学部 電気電子工学科	60名	240名

三	工学部	システム情報工学科	70名	280名
四	工学部	生命環境科学科	60名	240名
五	工学部	土木建築工学科	70名	280名
六	感性デザイン学部	創生デザイン学科	60名	240名

第4章 開学記念日、学年、学期および休業日

第6条 開学記念日は、1月29日とする。

2 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7条 学年を分けて、次の2学期とする。

一 前期（4月1日より9月15日まで）

二 後期（9月16日より翌年3月31日まで）

第8条 学年中の休業日は、次の通りとする。

一 土曜日および日曜日

二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

三 春季休業

四 夏季休業

五 冬季休業

2 前項の第3号から第5号の休業日については、毎年度定める。

3 必要がある場合、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

4 必要がある場合、第1項の休業日に授業等を行うことがある。

第5章 入学、再入学、転入学、編入学、復籍、転学部、転学科および保証人

第9条 入学、転入学および編入学の時期は、学年の初めから30日以内とする。

2 再入学の時期は、学期の初めとする。

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

一 高等学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

三 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者

七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

八 相当の年齢に達し、本学において、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

第11条 入学を志願する者に対しては、入学試験の上、入学を許可する。

第12条 本学を退学した者または第22条第五号の規定により除籍となった者が、再入学を志願するときは、選考の上、許可することがある。

2 第22条第二号、第三号および第四号の規定により除籍された者の復籍については、認めない。

3 第22条第五号の規定により除籍された者の復籍については、別に定める。

第13条 次の各号の一に該当する者は、人員に余裕のある場合に限り、選考の上、転入学又は編入学を許可することがある。

- 一 他の大学に在学する者で、その学長または学部長の許可を得て転入学を志願する者
- 二 大学、短期大学、高等専門学校を卒業した者並びに文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）で、本学に編入学を志願する者

第14条 転学部あるいは転学科を志願する者があるときは、選考の上、許可することがある。

第15条 再入学、転入学、編入学、転学部または転学科を許可された者の、すでに修得した授業科目とその単位数および修業年数は、審査の上、その一部または全部を認めることがある。

第16条 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）について、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。ただし、この認定に関連して修業年限の短縮は行わない。

- 2 前項による単位の認定は、合計30単位を超えない範囲で行うものとする。

第17条 入学、再入学、転入学または編入学を許可された者は、保証人連署の誓約書を指定期日までに提出し、その他本学所定の入学手続きを完了しなければならない。

- 2 正当の理由なく前項の手続きをしないときは、入学、再入学、転入学または編入学の許可はその効力を失う。

第18条 保証人は父母または独立生計を営む成年の者とする。

- 2 保証人は、入学、再入学、転入学または編入学を許可された者の誓約に関し、連帯責任を負うものとする。

- 3 保証人の変更、転居、改印、改氏名等は、そのつど届け出なければならない。

第6章 休学、転学、退学および除籍

第19条 病気その他の事由により、引続き3月以上修学することができない場合は、願い出て許可を受けて休学することができる。

- 2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により期間の延長を許可することがある。
- 3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 4 休学期間中に事由がなくなったときは、許可を受けて復学することができる。
- 5 休学期間は、修業期間に算入しない。

第20条 他の大学に転学を志願する者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。

第21条 退学しようとする者は、事由を具して、その許可を願い出なければならない。

第22条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

- 一 死亡の届け出のあった者
- 二 病気その他やむを得ない事情により修学の見込みのない者
- 三 第4条の在学年数を経て、なお所定の課程を修了できない者
- 四 第19条第3項の休学期間に達しても、なお修学できない者
- 五 授業料等の滞納期間が2月を超える者

第7章 教育課程および履修の方法

第23条 本学の開設する授業科目、単位数、授業時間数およびその配置等は、別表第1による。

- 2 学生が所属する学部学科以外の学科の講義科目を履修することを認めることがある。
- 3 学部または学科に、必要に応じて履修上のコースを設けることができる。

第24条 各授業科目に対する単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義および演習については、毎週1時間15週または毎週2時間15週の授業をもって1単位とする

- 二 実験、実習および実技については、実験室または実習場等で行われるものであることを考慮し、毎週2時間15週または毎週3時間15週の実験、実習または実技をもって1単位とする

- 2 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準をもって1単位とする。

第25条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第26条 学生は、毎学期の初めに、履修しようとする授業科目を、所定の手続きにより届け出なければならない。

- 2 学生は、届け出た科目に限り、単位修得の認定を受けることができる。

第27条 授業科目の単位修得の認定は、試験による。ただし、平常の成績を加味することがある。

- 2 実験、実習、演習および実技は、平常の成績をもって試験にかえることがある。

第28条 試験は原則として、学期末に行う。

- 2 各授業科目の成績評価は、S、A、B、CおよびDによるものとし、S、A、B、Cは合格Dは不合格とする。

- 3 病気その他やむを得ない事故で定期の試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。

- 4 その他試験の施行に関しては、別に定める。

第29条 各学年において、修得単位数が、別に定める基準に満たない場合には、その学年に留年とする。

第30条 卒業に必要な修得単位数は、別表第1に定める単位を含め、124単位以上とする。

第31条 卒業研究あるいは卒業制作・論文の題目および研究計画は、卒業しようとする年度の初めに、所定の手続きにより、届け出なければならない。

第32条 学長は、学生が他の大学の授業科目を履修することまたは、これに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議のうえ、履修することまたは修学することを認めることができる。

- 2 学長は、学生が外国の大学またはこれに相当する教育機関等において修学することが教育上有益であると認めるときは、教授会の議を経て当該大学等と協議の上、留学することを認めることができる。

- 3 留学の期間は、修業期間に算入する。

- 4 学長は、第1項の規定により修得した成果および、第2項の規定により留学して得た修学の成果について、教授会の議を経て本学において修得したものとして認定するものとする。

- 5 前項の規定により修得したものとみなす単位数は、第16条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第8章 卒業および学位授与

第33条 本学において4年以上修業し、所定の授業科目を履修し所定の単位を修得した者は卒業とし、工学部にあっては学士（工学）、感性デザイン学部にあつては学士（感性デザイン）の学位を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず文部科学大臣の定めるところにより、本学に3年以上在学した者で、卒業の要件として本学が定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合は、卒業を認めるものとする。

- 3 学位の授与についての必要な事項は、八戸工業大学学位規程に定める。

第9章 教育職員免許状

第34条 教育職員免許状を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法および同法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。この修得すべき授業科目ならびに単位数は別表第1に掲げる。

- 2 前項の所要条件を満たした者に対しては、次に掲げる教育職員免許状取得の資格を与える。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
中学校教諭 一種免許状	技 術	工学部 機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 システム情報工学科 (技術・工業コース) 土 木 建 築 工 学 科
	美 術	感性デザイン学部 創 生 デ ザ イ ン 学 科
高等学校教諭 一種免許状	工 業	工学部 機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 システム情報工学科 (技術・工業コース) 土 木 建 築 工 学 科
	情 報	工学部 システム情報工学科 (情報コース)
	理 科	工学部 生 命 環 境 科 学 科
	美 術	感性デザイン学部 創 生 デ ザ イ ン 学 科
	工 芸	

第10章 学費および入学検定料

第35条 本学に納付すべき学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第36条 納入方法その他の取扱いについては、別に定める。ただし、休学期間中の授業料は、原則としてこれを免除する。

第11章 科目等履修生

第37条 本学の授業科目のうち、1科目または数科目を選んで履修を志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

第38条 科目等履修生の入学の時期は、学年または学期の初めとする。

第39条 科目等履修生はその履修科目を学修するのに十分な学力がなければならない。

第40条 科目等履修生の在学期間は1年以内とする。ただし、願い出によって期間を延長することがある。

第41条 科目等履修生は、その履修科目の試験を受けることができる。

2 試験に合格した者には、大学の定めるところにより、単位修得の認定をする。

第42条 科目等履修生の学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第43条 科目等履修生には、本章の規定のほか、第4章（学年、学期および休業日）、第17条（入学手続）、第18条（保証人）、第6章（休学、転学、退学および除籍）、第7章（教育課程および履修の方法）、第9章（教育職員免許状）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

第12章 特別聴講学生

第44条 本学と他の大学または、これに相当する教育機関等との協議に基づき、本学の学生が当該他大学等で開設する授業科目の履修および単位の修得を希望するとき、若しくは当該他大学等の学生が本学で開設する授業科目の履修および単位の修得を希望するときは、特別聴講学生として扱い、その履修および単位の修得を認めることができる。

2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

第45条 受入れ特別聴講学生には、本章の規定のほか第4章（学年、学期および休業日）、第7章（教育課程および履修の方法）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

第13章 研究生

第46条 本学において特定の事項について研究することを願い出た者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

第47条 研究生の入学の時期は、学年または学期の初めとする。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

第48条 研究生を志願できるものは、次の各号の一に該当する者とする。

一 大学を卒業した者

二 短期大学、高等専門学校またはこれと同等以上の学校を卒業した者で、関係学科を履修した者

三 本学において前二号と同等以上の学力があると認めた者

第49条 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし引き続き在学を願い出たときは、在学期間の延長を許可することがある。

第50条 研究生が研究事項について証明を願い出たときは、研究証明書を交付することがある。

第51条 研究生がその研究に関係のある授業科目の履修を願い出たときは、許可することがある。

第52条 研究生の学費および入学検定料は、別表第2の通りとする。

第53条 研究生には、本章の規定のほか第4章（学年、学期および休業日）、第17条（入学手続）、第18条（保証人）、第6章（休学、転学、退学および除籍）、第7章（教育課程および履修の方法）および第15章（賞罰）の規定を準用する。

2 研究生が授業科目を履修する場合は、その履修科目について、第11章（科目等履修生）の規定を準用する。

第14章 外国人特別留学生

第54条 外国人で特別留学生として入学を希望する者があるときは、第10条の規定によらず、特別に選抜の上入学を許可することがある。

第55条 外国人特別留学生の取り扱いについては、別に定める規程による外はすべて本学学生に関する規定を準用する。

第15章 賞 罰

第56条 顕著な善行があった者は表彰することがある。

2 卒業に際して、人物、学業ともに優秀で他の学生の模範とするに足る者は表彰することがある。

第57条 本学の規則、命令に違反し、または学生の本分に反する行為のあった者は、懲戒する。

2 懲戒の種類は、訓告、停学および退学とする。

3 停学3月以上にわたるときは、その期間は修業期間に算入しない。

4 懲戒処分の基準およびその手続については、別に定める。

第58条 前条の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

一 性行不良で改善の見込みがないと認められた者

- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
- 三 正当の理由がなく出席常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第16章 職員組織および教授会

(省略)

第17章 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所

第63条 本学に基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所を置く。

- 2 基礎教育研究センター、図書館、工作技術センターおよび研究所の運営等に関する事項は、別に定める。

第18章 大学院

第64条 本学に大学院を置く。

- 2 大学院に関する事項は、別に定める。

第19章 公開講座

第65条 本学に公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座の運営等に関する事項は、別に定める。

第20章 学則の改廃

第66条 この学則の改廃は、教授会の議を経て、理事会が行う。

附 則 (平成30年12月26日 八工大総第58号)

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 第23条に規定する別表第1については、平成29年度以前に入学した学生に対しては従前の規定を適用する。
- 3 第34条に規定する別表第1については、平成30年度以前に入学した学生に対しては従前の規定を適用する。

機械工学科課程表

別表第 1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要	
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1								
		キャリアデザインⅡ		1			1	1						
		キャリアデザインⅢ		2					2	2				
	工学への関心	エンジン解剖実習	1		3									
機械工学通論		2			2									
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2						左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み24単位以上を修得すること
		哲学		2				2						
		職業倫理	2						2					
		日本文学		2			2							
		海外文学		2			2							
		日本国憲法		2						2				
		歴史		2	2									
		経済学		2		2								
		地域学		2		2								
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2							左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	
		実践日本語表現		2			2							
		現代英語Ⅰ	2		2									
		現代英語Ⅱ	2			2								
		英語コミュニケーションⅠ		2			2							
		英語コミュニケーションⅡ		2				2						
		英語特別演習		2					2					
		中国語Ⅰ		2	2									
		中国語Ⅱ		2		2								
		中国語Ⅲ		2			2							
		異文化コミュニケーション		2							2			
	体育科学	体育学		1	2									
		スポーツ健康学		1			2							
		スポーツ特別演習		1		2								
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2								
		主題別ゼミナールⅡ		2			2							
		主題別ゼミナールⅢ		2				2						
		海外研修		1		2								
工学基礎科目	工学基礎	微分	2		2								左記の科目から必修を含み14単位以上を修得すること	
		積分	2			2								
		線形代数	2				2							
		確率・統計		2				2						
		物理学概論		2	2									
		基礎物理学Ⅰ		2	2									
		基礎物理学Ⅱ		2		2								
		現代物理学概論		2			2							
		応用物理学概論		2				2						
		物理学実験		2		4								
		基礎化学Ⅰ		2	2									
		基礎化学Ⅱ		2		2								
		化学実験		2	4									
		生命科学		2				2						
		基礎情報科学		2	2									

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目	材料力学・機械力学	材料力学	2				2						専門科目から必修を含み70単位以上を修得すること
		材料力学 A		2			2						
		機械力学	2					2					
		機械力学 A		2					2				
	熱・流体	熱力学	2				2						
		熱力学 A		2			2						
		流れ学	2					2					
		流れ学 A		2					2				
		伝熱工学	2					2					
	情報・制御	基礎機械情報工学	2			2							
		応用機械情報工学		2			2						
		計測工学	2				2						
		メカトロニクス基礎		2				2					
		電気電子工学通論		2			2						
		制御工学		2					2				
	材料・設計・加工	機械材料工学	2						2				
		工作学	2			2							
		機械加工学		2			2						
		機械工作実習	1					3					
		基礎設計工学	2				2						
		応用設計工学		2			2						
		基礎設計製図	2				6						
		CAD 設計製図	2					6					
		機械設計技法	2								6		
	自動車工学	基礎自動車工学		2				2					
		潤滑工学		2					2				
		自動車エンジン		2						2			
		自動車測定検査概論		2						2			
		自動車構造Ⅰ		2							2		
		自動車構造Ⅱ		2								2	
		自動車法規		2								2	
		自動車工学		2								2	
		電気電子工学概論		2			2						
		電子回路工学		2				2					
		カーエレクトロニクス		2							2		
		自動車検査		2							2		
		自動車整備実習		6							9	9	
	総合工学	機械工学実験Ⅰ	1						3				
		機械工学実験Ⅱ	1							3			
		機械工学演習Ⅰ	2					2					
		機械工学演習Ⅱ	2							2			
		技術マネジメント概論		2								2	
		プロジェクトⅠ	2					2					
		プロジェクトⅡ	2							2			
		プロジェクトⅢ	2								2		
		機械工学統合演習		2						2			
		プロジェクト実習	1							3			
		学外研修		1					1				
		卒業研究	6								9	9	
	原子力工学	原子力エネルギー		2		2							
		放射線の利用		2			2						
		原子力体感研修		2						2			
		原子燃料サイクル・安全工学		2								2	
特別専攻科目	特別専攻	解析Ⅰ		2		2							
		解析Ⅱ		2			2						
		解析Ⅲ		2				2					
		特別専攻プロジェクトⅠ		2		2							
		特別専攻プロジェクトⅡ		2				2					
		特別専攻プロジェクトⅢ		2						2			
		特別専攻ゼミナールⅠ		2				2					
		特別専攻ゼミナールⅡ		2					2				
		特別専攻ゼミナールⅢ		2						2			
機械工学科総計			61	153	26	39	45	41	27	32	34	28	

電気電子工学科課程表

別表第1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要		
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1									
		キャリアデザインⅡ		1			1	1							
		キャリアデザインⅢ		2					2	2					
	工学への関心	電気電子工学入門	2		2										
		電気電子工学概論	2			2									
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2						左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み20単位以上を修得すること	
		哲学		2				2							
		職業倫理	2						2						
		日本文学		2			2								
		海外文学		2			2								
		日本国憲法		2						2					
		歴史		2	2										
		経済学		2		2									
		地域学		2		2									
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2							左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること		
		実践日本語表現		2			2								
		現代英語Ⅰ	2		2										
		現代英語Ⅱ	2			2									
		英語コミュニケーションⅠ		2			2								
		英語コミュニケーションⅡ		2				2							
		英語特別演習		2					2						
		中国語Ⅰ		2	2										
		中国語Ⅱ		2		2									
		中国語Ⅲ		2			2								
		異文化コミュニケーション		2							2				
	体育科学	体育学		1	2										
		スポーツ健康学		1			2								
		スポーツ特別演習		1		2									
		総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2								
	主題別ゼミナールⅡ			2			2								
	主題別ゼミナールⅢ			2				2							
	海外研修			1		2									
	工学基礎科目	工学基礎	微分	2		2									物理学実験と化学実験から2単位以上を修得すること
			積分	2			2								
			線形代数	2				2							
確率・統計				2				2							
物理学概論				2	2										
基礎物理学Ⅰ			2		2										
基礎物理学Ⅱ			2			2									
現代物理学概論				2			2								
応用物理学概論				2				2							
基礎化学Ⅰ				2	2										
基礎化学Ⅱ				2		2									
環境とエネルギー			2				2								
生命科学				2				2							
物理学実験				2	4										
化学実験				2		4									

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要	
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	専門基礎	基礎情報科学	2		2									左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること
		電気回路入門	2			2								
		電気電子数学Ⅰ	2				2							
		電気電子数学Ⅱ		2				2						
		電磁気学Ⅰ	2				2							
		電磁気学Ⅱ	2					2						
		電磁気学演習Ⅰ	2				2							
		電磁気学演習Ⅱ	2					2						
		電気回路Ⅰ	2				2							
		電気回路Ⅱ	2					2						
		電気回路演習Ⅰ	2				2							
		電気回路演習Ⅱ	2					2						
		電気電子工学総論Ⅰ		1				2						
		電気電子工学総論Ⅱ		1					2					
	電気エネルギーシステム系	電力発生工学		2				2						
		電力輸送工学		2					2					
		電気機器工学		2						2				
		電気利用工学		2							2			
		高電界工学		2					2					
		パワーエレクトロニクス		2						2				
		機械工学概論		2								2		
		電気法規と電気施設管理		2								2		
	電子デバイス・システム制御系	電子回路Ⅰ	2					2						
		電子回路Ⅱ		2					2					
		電気電子計測	2					2						
		センサー応用工学		2						2				
		電気電子材料工学		2					2					
		半導体工学		2						2				
		制御工学Ⅰ		2					2					
		制御工学Ⅱ		2						2				
	情報・通信・メディア系	コンピュータプログラミング		2				2						
		情報メディア工学		2					2					
		デジタル回路		2				2						
		情報通信工学Ⅰ		2					2					
		情報通信工学Ⅱ		2						2				
		通信ネットワーク工学		2						2				
		電磁波工学		2								2		
		情報通信法規		2								2		
		リモートセンシング概論		1						1				
	実験・製図・研修・研究	創造工学実験	2				6							
		電気電子基礎実験	2					6						
		電気エネルギーシステム実験		2					6				電気エネルギーシステム実験、電子情報システム実験のいずれかを修得すること	
		電子情報システム実験		2						6				
電気電子設計製図			2							4				
機械工作実習			1					3						
インターンシップ			1							2		インターンシップ、学外研修のいずれかを修得すること		
学外研修			1							2				
先端技術工学		1							1					
卒業研究		6									9		9	
原子力工学		原子力エネルギー		2		2								
	放射線の利用		2			2								
	原子力体感研修		2						2					
	原子燃料サイクル・安全工学		2								2			
特別専攻科目	特別専攻	解析Ⅰ		2		2								
		解析Ⅱ		2			2							
		解析Ⅲ		2				2						
		特別専攻プロジェクトⅠ		2		2								
		特別専攻プロジェクトⅡ		2				2						
		特別専攻プロジェクトⅢ		2						2				
		特別専攻ゼミナールⅠ		2					2					
		特別専攻ゼミナールⅡ		2						2				
		特別専攻ゼミナールⅢ		2							2			
電気電子工学科総計			59	150	25	37	43	47	33	36	25	11		

システム情報工学科課程表

別表第 1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要			
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年					
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1										
		キャリアデザインⅡ		1			1	1								
		キャリアデザインⅢ		2					2	2						
	工学への関心	情報基礎ゼミナール	2		2											
		情報科学アラカルト	2		2											
情報工学概論		2			2											
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2							左記の科目から必修を含み20単位以上を修得すること		
		哲学		2				2								
		職業倫理	2						2							
		日本文学		2			2									
		海外文学		2			2									
		日本国憲法		2						2						
		歴史		2	2											
		経済学		2		2										
		地域学		2		2										
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2										
		実践日本語表現		2			2									
		現代英語Ⅰ	2		2											
		現代英語Ⅱ	2			2										
		英語コミュニケーションⅠ		2			2									
		英語コミュニケーションⅡ		2				2								
		英語特別演習		2					2							
		中国語Ⅰ		2	2											
		中国語Ⅱ		2		2										
		中国語Ⅲ		2			2									
		異文化コミュニケーション		2								2				
	体育科学	体育学		1	2											
		スポーツ健康学		1			2									
		スポーツ特別演習		1		2										
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2										
		主題別ゼミナールⅡ		2			2									
		主題別ゼミナールⅢ		2				2								
		海外研修		1		2										
	工学基礎科目	工学基礎	微分	2		2										左記の科目から必修を含み14単位を以上を修得すること
			積分	2			2									
			線形代数	2				2								
確率・統計				2				2								
基礎物理学Ⅰ				2	2											
基礎物理学Ⅱ				2		2										
現代物理学概論				2			2									
応用物理学概論				2				2								
基礎化学Ⅰ				2	2											
基礎化学Ⅱ				2		2										
生命科学				2				2								
物理学実験				2	4									左記の科目から2単位以上を修得すること		
化学実験				2		4										

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目	専門基礎	基礎情報科学	2		2								左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること
		離散数学		2		2							
		情報数理	2				2						
		システム数理	2					2					
		グラフ理論入門		2					2				
		計測情報工学		2				2					
		オペレーティングシステム	2				2						
		データベース	2					2					
		プログラミング入門	2		2								
		プログラミング言語	2			2							
		データ構造とアルゴリズム	2				2						
		プログラム設計	2					2					
		コンピュータシステム	2				2						
		論理回路	2					2					
		コンテンツ制作入門		2	2								
		ウェブデザイン	2			2							
		産業情報論		2			2						
		経営情報論		2				2					
	メディア情報	コンピュータグラフィックス		2			2						
		ビジュアル情報処理		2				2					
		マルチメディア工学		2					2				
		人間情報科学		2					2				
		パターン情報処理		2						2			
		情報文化論		2						2			
	ネットワーク・セキュリティ	情報通信工学	2				2						
		情報ネットワーク入門		2				2					
		情報セキュリティ入門		2				2					
		情報ネットワーク構築		2						2			
		情報セキュリティ		2						2			
	応用情報	情報システム論		2					2				
		制御工学		2					2				
		ディジタル信号処理		2					2				
		言語とコンパイラ		2					2				
		ロボット工学		2						2			
		シミュレーション工学		2						2			
		知識工学		2						2			
		数値解析		2						2			
		集積回路		2						2			
	実験・実習・研修・研究・その他	電気工学		2				2					
		電子工学		2					2				
		設計・製図		2					4				
		機械工学概論		2					2				
		機械工作実習		1					3				
		情報工学基礎実験Ⅰ	1				4						
		情報工学基礎実験Ⅱ	1					4					
		情報工学応用実験Ⅰ	1						4				
情報工学応用実験Ⅱ		1							4				
情報専門ゼミナール			2						2				
情報工学特別講義			2					2					
卒業研究		6								9	9		
学外研修			1					2					
原子力工学		原子力エネルギー		2		2							
	放射線の利用		2			2							
	原子力体感研修		2						2				
	原子燃料サイクル・安全工学		2								2		
特別専攻科目	特別専攻	解析Ⅰ		2		2							
		解析Ⅱ		2			2						
		解析Ⅲ		2				2					
		特別専攻プロジェクトⅠ		2		2							
		特別専攻プロジェクトⅡ		2			2						
		特別専攻プロジェクトⅢ		2					2				
		特別専攻ゼミナールⅠ		2				2					
		特別専攻ゼミナールⅡ		2					2				
		特別専攻ゼミナールⅢ		2						2			
システム情報工学科総計			54	158	29	41	43	43	41	34	11	11	

生命環境科学科課程表

別表第1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要		
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1									
		キャリアデザインⅡ		1			1	1							
		キャリアデザインⅢ		2					2	2					
	工学への関心	生命環境科学概論	2		2										
		生命環境科学導入デザイン	2			2									
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2						左記の科目から必修を含み8単位以上修得すること	左記の科目から必修を含み20単位以上修得すること	
		哲学		2				2							
		職業倫理	2						2						
		日本文学		2			2								
		海外文学		2			2								
		日本国憲法		2						2					
		歴史		2	2										
		経済学		2		2									
		地域学		2		2									
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2							左記の科目から必修を含み8単位以上修得すること		
		実践日本語表現		2			2								
		現代英語Ⅰ	2		2										
		現代英語Ⅱ	2			2									
		英語コミュニケーションⅠ		2			2								
		英語コミュニケーションⅡ		2				2							
		英語特別演習		2					2						
		中国語Ⅰ		2	2										
		中国語Ⅱ		2		2									
		中国語Ⅲ		2			2								
	異文化コミュニケーション		2							2					
	体育科学	体育学		1	2										
		スポーツ健康学		1			2								
		スポーツ特別演習		1		2									
		総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2								
			主題別ゼミナールⅡ		2			2							
	主題別ゼミナールⅢ			2				2							
	海外研修			1		2									
	工学基礎科目	工学基礎	微分	2		2									
			積分	2			2								
			線形代数		2			2							
確率・統計				2				2							
基礎物理学Ⅰ				2	2										
基礎物理学Ⅱ				2		2									
現代物理学概論				2			2								
応用物理学概論				2				2							
物理学概論				2	2										
環境とエネルギー				2			2								

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要		
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	専門基礎	バイオテクノロジー	2		2										
		無機化学		2		2									
		生化学	2					2							
		物理化学	2				2								
		分析化学	2				2								
		有機化学		2			2								
		環境材料科学		2				2							
		環境化学量論	2				2								
		化学工学	2						2						
		基礎化学Ⅰ	2		2										
		基礎化学Ⅱ		2		2									
		物理学実験		2		4									
		化学実験	2		4										
		生命科学	2		2										
		基礎情報科学	2		2										
	生命科学	微生物学	2				2								
		微生物工学		2				2							
		分子遺伝学	2					2							
		遺伝子工学		2					2						
		環境生物学		2					2						
		酵素工学		2						2					
		生理学		2						2					
	食品科学	生物有機化学		2					2						
		食品分析学		2						2					
		食品製造学		2						2					
		食品工学		2					2						
		食品化学		2				2							
		食品衛生学		2						2					
		公衆衛生学		2							2				
	環境工学	計測制御工学		2						2					
		リサイクル工学		2				2							
		グリーンケミストリー	2			2									
		環境影響評価論		2					2						
		機器分析		2				2							
		環境汚染物質分析学		2					2						
		地球環境システム科学		2			2								
	実験・実習・演習	生命環境科学基礎演習Ⅰ	2				2								
		生命環境科学基礎演習Ⅱ	2					2							
		生命環境科学演習Ⅰ	2						2						
		生命環境科学演習Ⅱ	2							2					
		生命環境科学基礎実験	1					3							
		生命環境科学実験Ⅰ	1						3						
		生命環境科学実験Ⅱ	1							3					
		生命環境プロセス実習Ⅰ	1				2								
		生命環境プロセス実習Ⅱ	1							2					
	研修	インターンシップ		1						2					
		生命環境科学セミナー	1									2			
卒業研究		6									9	9			
海洋学	海洋学の基礎と未来		2		2										
	海洋生物学		2			2									
	臨海実習		2				2								
	海洋生態学		2					2							
	リモートセンシング概論		1							1					
特別専攻科目	特別専攻	解析Ⅰ		2		2									
		解析Ⅱ		2			2								
		解析Ⅲ		2				2							
		特別専攻プロジェクトⅠ		2		2									
		特別専攻プロジェクトⅡ		2				2							
		特別専攻プロジェクトⅢ		2						2					
		特別専攻ゼミナールⅠ		2				2							
		特別専攻ゼミナールⅡ		2					2						
		特別専攻ゼミナールⅢ		2						2					
		生命環境科学科総計		60	140	29	39	43	38	31	30	15	9		

土木建築工学科課程表

別表第 1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要		
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入転換科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		1	1	1									
		キャリアデザインⅡ		1			1	1							
		キャリアデザインⅢ		2					2	2					
	工学への関心	土木工学概論	2		2										
		建築概論	2			2									
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2						左記の科目から必修を含み10単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み26単位以上を修得すること	
		哲学		2				2							
		職業倫理	2						2						
		日本文学		2			2								
		海外文学		2			2								
		日本国憲法		2						2					
		歴史		2	2										
		経済学		2		2									
		地域学		2		2									
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2							左記の科目から必修を含み12単位以上を修得すること		
		実践日本語表現		2			2								
		現代英語Ⅰ	2		2										
		現代英語Ⅱ	2			2									
		英語コミュニケーションⅠ		2			2								
		英語コミュニケーションⅡ		2				2							
		英語特別演習		2					2						
		中国語Ⅰ		2	2										
		中国語Ⅱ		2		2									
		中国語Ⅲ		2			2								
	異文化コミュニケーション		2							2					
	体育科学	体育学		1	2										
		スポーツ健康学		1			2								
		スポーツ特別演習		1		2									
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2									
		主題別ゼミナールⅡ		2			2								
		主題別ゼミナールⅢ		2				2							
		海外研修		1		2									
工学基礎科目	数学	微分	2		2								左記の科目から必修を含み20単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み22単位以上を修得すること	
		積分	2			2									
		線形代数	2				2								
		確率・統計		2				2							
		応用数学		2					2						
	自然科学	基礎物理学Ⅰ		2	2										
		基礎物理学Ⅱ		2		2									
		現代物理学概論		2			2								
		応用物理学概論		2				2							
		基礎化学Ⅰ		2	2										
		基礎化学Ⅱ		2		2									
		生命科学		2				2							
		物理学概論		2	2										
	情報	基礎情報科学	2		2										左記の科目から2単位以上を修得すること
	実験	物理学実験		2	4										
		化学実験		2		4									

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要	
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	専門基礎	基礎製図	2		4								左記の科目から必修を含み72単位以上を修得すること	
		CAD 基礎演習	2			4								
		地球環境論	2			2								
		デッサン		2	4									
		測量学	2				2							
		測量実習	1				3							
		都市計画	2					2						
		構造力学Ⅰ	2				2							
		構造力学演習Ⅰ		1			2							
		構造力学Ⅱ	2					2						
		構造力学演習Ⅱ		1				2						
		地盤構造工学	2				2							
土木専門科目	土木基礎	材料の力学		2			2							
		情報処理		2			2							
		廃棄物と工事排水		2				2						
		上下水道工学		2					2					
		水処理工学		2						2				
		基礎水理学		2			2							
		流れの力学		2				2						
		河川工学		2					2					
		海岸・港湾工学		2						2				
		計画数理		2				2						
		道路・交通工学		2					2					
		地盤の科学		2				2						
		地盤の力学		2					2					
		コンクリート工学		2				2						
		コンクリート構造学		2					2					
		維持管理工学		2						2				
		施工技術		2						2				
	土木応用	土木工学実験Ⅰ		2				6						
		土木工学実験Ⅱ		2					3					
		キャリアプランニング		2					2					
		水工学設計・演習		2					4					
		橋工学設計・演習		2						4				
		地盤工学設計・演習		2						4				
		コンクリート工学設計・演習		2						4				
		応用測量学及び実習		2						3				
		火薬学		2						2				
	建築設計	建築設計Ⅰ		3			6							
		建築設計Ⅱ		3				6						
		建築設計Ⅲ		3					6					
		建築設計Ⅳ		3						6				
	建築計画・環境・設備	住居計画		2			2							
		建築計画		2				2						
		建築史		2			2							
		インテリアデザイン		2			2							
		熱・空気環境		2				2						
		熱・空気環境演習		1				2						
		音・光環境		2					2					
		音・光環境演習		1					2					
	建築構造・生産	建築設備		2						2				
		鉄筋コンクリート構造		2					2					
		鋼構造		2					2					
		木質構造		2					2					
		構造設計		2						2				
		建築材料科学		2			2							
		建築施工		2				2						
	建築法規	建築材料実験		2					4					
		建築法規		2						2				
	建築応用	応用電子計算機		2			2							
		色彩学		2				2						
		雪国建築		2						2				
専門応用科目	専門応用	インターンシップ		1					2				左記の科目から必修を含み72単位以上を修得すること	
		学外研修		1				2						
		総合デザインⅠ	2						4					
		総合デザインⅡ	2							4				
		情報処理応用		2				2						
		応用構造力学		2					2					
		機械工作実習		1					3					
		機械工学概論		2							2			
		電気電子工学概論		2							2			
		原子力エネルギー		2		2								
		原子燃料サイクル・安全工学		2								2		
		卒業研究	6								9	9		
	海洋学	海洋学の基礎と未来		2		2								
		海洋土木Ⅰ		2			2							
		海洋土木Ⅱ		2				2						
		海洋土木実習		1						2				
		リモートセンシング概論		1						1				
特別専攻科目	特別専攻	解析Ⅰ		2		2							左記の科目から必修を含み72単位以上を修得すること	
		解析Ⅱ		2			2							
		解析Ⅲ		2				2						
		特別専攻プロジェクトⅠ		2		2								
		特別専攻プロジェクトⅡ		2				2						
		特別専攻プロジェクトⅢ		2						2				
		特別専攻ゼミナールⅠ		2				2						
		特別専攻ゼミナールⅡ		2					2					
		特別専攻ゼミナールⅢ		2						2				
		土木建築工学科総計	45	219	33	43	58	61	62	54	15	11		

創生デザイン学科課程表

別表第1

平成30年度入学生より適用

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
導入転換科目	感性デザイン入門・キャリアデザイン	デザイン思考	2		2								左記の科目から必修を含み32単位以上を修得すること
		キャリアデザインⅠ		1	1	1							
		キャリアデザインⅡ		1			1	1					
		キャリアデザインⅢ		2					2	2			
総合教養科目	人間科学	心理学		2			2						
		哲学		2				2					
		職業倫理	2						2				
		日本文学		2			2						
		海外文学		2			2						
		日本国憲法		2						2			
		歴史		2	2								
		経済学		2		2							
		地域学		2		2							
		知的財産論		2							2		
		自然科学概論		2	2								
		数学		2	2								
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2		2							
		実践日本語表現		2			2						
		現代英語Ⅰ	2		2								
		現代英語Ⅱ	2			2							
		英語コミュニケーションⅠ		2			2						
		英語コミュニケーションⅡ		2				2					
		英語特別演習		2					2				
		中国語Ⅰ		2	2								
		中国語Ⅱ		2		2							
		中国語Ⅲ		2			2						
		異文化コミュニケーション		2							2		
	体育科学	体育学		1	2								
		スポーツ健康学		1			2						
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2		2							
		主題別ゼミナールⅡ		2			2						
		主題別ゼミナールⅢ		2				2					
		海外研修		1		2							

区 分	分 野	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要		
			必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	創生デザイン基礎	コミュニケーション＆アート演習		2	2									左記の科目から必修を含め36単位以上を修得すること	
		コンピュータ基礎演習	2		2										
		プレゼンテーション	2			2									
		デッサン	2		4										
		色彩学	2			2									
		デザイン史		2			2								
		ユニバーサルデザイン論	2				2								
		デザインマーケティング論		2				2							
		地域文化論		2	2										
		表象文化論		2			2								
		デザイン文化論		2				2							
		ビジュアルストーリーテリング論		2				2							
		認知心理学		2					2						
		情報メディア論		2					2						
		比較文化論		2						2					
		表現技法	2		2										
		図学		2		2									
		道具学		2		2									
		インフォグラフィクス論		2		2									
		ブランドマーケティング		2		2									
		CAD デザイン演習		2				4							
		Web デザイン		2					4						
		ビジュアルコンテンツ		2					2						
		キュレイティング論		2						2					
	ビジュアルデザイン	絵画Ⅰ		2	4									左記の科目から必修を含め44単位以上を修得すること	
		絵画Ⅱ		2		4									
		タイポグラフィー論		2	2										
		ビジュアルデザイン論		2		2									
		広告論		2					2						
		映像文化論		2					2						
		イラストレーションⅠ		2					4						
		イラストレーションⅡ		2						4					
		美術史		2					2						
		芸術批評		2						2					
		ビジュアルデザイン演習Ⅰ		2			4								
		ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2				4							
		ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2					4						
		ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2						4					
	リビングデザイン	工芸学		2	2										
		工芸実習		2		4									
		彫刻		2			4								
		インテリアデザインⅠ		2		2									
		インテリアデザインⅡ		2			2								
		プロトタイピング演習		2		2									
		立体造形演習		2			2								
		製品 CAD 演習		2				4							
		住環境学		2					2						
リビングウェアデザイン演習Ⅰ			2			4									
リビングウェアデザイン演習Ⅱ			2				4								
リビングウェアデザイン演習Ⅲ			2					4							
リビングウェアデザイン演習Ⅳ		2						4							
創生デザイン応用	インターンシップ		1					2							
	ブランディングデザイン演習		4					4							
	キュレイティング演習		4						4						
	卒業制作・論文	6								9	9				
特別専攻科目	特別専攻	特別専攻プロジェクトⅠ		2		2									
		特別専攻プロジェクトⅡ		2				2							
		特別専攻プロジェクトⅢ		2						2					
		特別専攻ゼミナールⅠ		2				2							
		特別専攻ゼミナールⅡ		2					2						
		特別専攻ゼミナールⅢ		2						2					
創生デザイン学科総計			26	164	35	43	43	35	40	28	13	9			

教職課程表

別表第 1

平成31年度入学生より適用

免許状の 種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要
		必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
中 1 種技術	教職総論	2		2								機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、システム情報工学科（情報コース）、生命環境科学科、土木建築工学科、創生デザイン学科に必修
中 1 種美術	教育基礎論	2		2								
高 1 種工業	教育の制度	2				2						
高 1 種情報	認知と人格の発達	2				2						
高 1 種理科	特別支援教育総論	1				2						
高 1 種美術	教育課程論	2				2						
高 1 種工芸	総合的な学習の時間の指導法	2			2							
	特別活動	2			2							
	教育学	2						2				
	生徒指導・進路指導	2						2				
	教育相談	2				2						
	教職実践演習（中・高）	2									2	
	事前・事後指導	1								2		
	教育実習Ⅰ	2								4		
	日本国憲法	2						2				
	体育学	1		2								
	スポーツ健康学	1				2						
中 1 種技術	道徳教育	2			2							機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、土木建築工学科、創生デザイン学科に必修
中 1 種美術	教育実践論	2						2				
	教育実習Ⅱ	2								4		
中 1 種技術	技術科指導法Ⅰ	4						2	2			機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、土木建築工学科に必修
	技術科指導法Ⅱ	2								2		
	技術科指導法Ⅲ	2									2	
	木材加工	2							2			機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、土木建築工学科に必修
	栽培	2						2				
	基礎情報科学	2		2								機械工学科に必修
	電気電子工学通論	2				2						
	制御工学	2							2			電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、土木建築工学科に必修
	工作学	2			2							
	機械工作実習	1						3				電気電子工学科に必修
	デジタル回路	2					2					
	電気機器工学	2							2			
	機械工学概論	2								2		
	電気電子設計製図	2								4		
	コンピュータプログラミング	2					2					
	機械工学概論	2						2				システム情報工学科（技術・工業コース）に必修
	ロボット工学	2							2			
	電子工学	2						2				
	電気工学	2					2					
	デジタル信号処理	2						2				
	設計・製図	2						4				
	制御工学	2						2				
	グラフ理論入門	2						2				
	機械加工学	2				2						土木建築工学科に必修
	材料の力学	2				2						
	銅構造	2						2				
	機械工学概論	2								2		
	原子力エネルギー	2			2							
	原子燃料サイクル・安全工学	2									2	
	電気電子工学概論	2								2		
	情報処理応用		2				2					
	応用電子計算機		2			2						

免許状の 種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要	
		必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
中 1 種美術	美術科指導法Ⅰ	4						2	2			創生デザイン学科に必修	
	美術科指導法Ⅱ	2								2			
	美術科指導法Ⅲ	2									2		
	コンピュータ基礎演習	2		2								創生デザイン学科に必修 ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか1科目選択必修	
	絵画Ⅰ	2		4									
	絵画Ⅱ	2			4								
	彫刻	2				4							
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4							
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2					4					
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2						4				
	イラストレーションⅠ	2						4					
	Webデザイン	2					4						
	CADデザイン演習	2				2							
	工芸実習	2			4								
	美術史	2					2						
デザイン史	2				2								
芸術批評	2							2					
ビジュアルデザイン論	2			2									
高 1 種工業	工業科指導法	4						2	2			機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科（技術・工業コース）、土木建築工学科に必修	
	職業指導	4								2	2		
	電気電子工学通論	2				2						機械工学科に必修	
	制御工学	2							2				
	機械工学概論	2								2		電気電子工学科に必修	
	ロボット工学	2							2			システム情報工学科（技術・工業コース）に必修	
	デジタル信号処理	2							2				
	集積回路	2								2			
	電子工学	2							2				
	電気工学	2					2						
	機械工学概論	2							2				
	設計・製図	2							4				
	制御工学	2							2				
	グラフ理論入門	2							2				
	数値解析	2								2			
	情報専門ゼミナール	2								2			
	建築材料学	2				2							土木建築工学科に必修
	機械工学概論	2								2			
	電気電子工学概論	2									2		
	材料の力学		2			2						土木建築工学科 左記の科目より18単位以上選択必修	
	応用測量学及び実習		2						3				
	廃棄物と工事排水		2				2						
	上下水道工学		2						2				
	基礎水理学		2			2							
	流れの力学		2				2						
	地盤の科学		2				2						
	地盤の力学		2						2				
	地盤構造工学		2			2							
	建築設計Ⅰ		3				6						
建築設計Ⅱ		3					6						
住居計画		2			2								
建築計画		2				2							
熱・空気環境		2				2							
建築施工		2				2							
建築法規		2							2				
建築材料実験		2						4					
情報処理応用		2				2					土木建築工学科いずれか1科目選択必修		
応用電子計算機		2			2								

免許状の 種類別	授業科目	単位数		年次および週時間数								摘 要
		必修	選択	1 年		2 年		3 年		4 年		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
高 1 種情報	情報科指導法	4						2	2			システム情報工学科（情報コース）に必修
	計測情報工学	2					2					
	情報ネットワーク入門	2					2					
	シミュレーション工学	2							2			
	産業情報論	2				2						
	マルチメディア工学	2						2				
	情報文化論	2							2			
	情報システム論	2						2				
離散数学	2			2								
高 1 種理科	理科指導法Ⅰ	2						2				生命環境科学科に必修
	理科指導法Ⅱ	2							2			
	基礎物理学Ⅰ	2		2								
	基礎物理学Ⅱ	2			2							
	応用物理学概論	2					2					
	現代物理学概論	2				2						
	基礎化学Ⅱ	2			2							
	有機化学	2				2						
	無機化学	2			2							
	地球環境システム科学	2				2						
	物理学実験	2			4							
高 1 種美術	美術科指導法Ⅰ	4						2	2			創生デザイン学科に必修
	美術科指導法Ⅱ		2							2		創生デザイン学科に選択
	美術科指導法Ⅲ		2								2	
	絵画Ⅰ	2		4								創生デザイン学科に必修 ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか 1 科目選択必修
	絵画Ⅱ	2			4							
	彫刻	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2				4					
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2					4				
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2						4			
	イラストレーションⅠ	2						4				
	イラストレーションⅡ	2							4			
	Webデザイン	2					4					
	CADデザイン演習	2				2						
	製品CAD演習	2					4					
	美術史	2						2				
	デザイン史	2				2						
芸術批評	2							2				
タイポグラフィー論	2		2									
ビジュアルデザイン論	2			2								
高 1 種工芸	工芸科指導法	4						2	2			創生デザイン学科に必修 ビジュアルデザイン演習Ⅱ、ビジュアルデザイン演習Ⅲ、 ビジュアルデザイン演習Ⅳのいずれか 1 科目選択必修
	図学	2			2							
	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2				4						
	ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2				4					
	ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2					4				
	ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2						4			
	イラストレーションⅠ	2						4				
	イラストレーションⅡ	2							4			
	Webデザイン	2					4					
	CADデザイン演習	2				2						
	製品CAD演習	2					4					
	工芸実習	2			4							
	工芸学	2		2								
	美術史	2						2				
	デザイン史	2				2						
	芸術批評	2							2			
	タイポグラフィー論	2		2								
	ビジュアルデザイン論	2			2							

学費、入学検定料

別表第2

工学部学費

学費種別	学部学生	科目等履修生	研究生
入 学 金 (入学時)	250,000円	27,500円	66,000円
授 業 料	年額 942,000円	1 単位につき 講義科目 22,000円 実験実習科目 41,000円	月額 24,000円
施設設備費 (年 額)	300,000円		
実験実習費 (年 額)	1 年次 30,000円 2 年次以降 65,000円		実費徴収

感性デザイン学部学費

学費種別	学部学生	科目等履修生	研究生
入 学 金 (入学時)	250,000円	27,500円	66,000円
授 業 料	年額 650,000円	1 単位につき 講義科目 22,000円 演習実習科目 41,000円	月額 24,000円
施設設備費 (年 額)	170,000円		
演習実習費 (年 額)	1 年次 30,000円 2 年次以降 65,000円		実費徴収

入学検定料は、工学部、感性デザイン学部ともに次の通りとする。

学部学生 30,000円
(ただし、「センター入学試験」で志願する者は、15,000円とする。)

科目等履修生 20,000円

研究生 20,000円

7.2 八戸工業大学学位規程

制定 平成7年1月13日 理事会

改正 平成25年9月19日 工学研究科委員会

平成25年9月19日 教授会

(趣旨)

第1条 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条の規定により、八戸工業大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、八戸工業大学学則及び八戸工業大学大学院学則に定めるほか、この規程に定めるところによる。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士（工学）、学士（感性デザイン）、修士（工学）及び博士（工学）とする。

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院の博士前期課程を修了した者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、本学大学院の博士後期課程を修了した者に授与する。

- 2 前項に定める者のほか、博士の学位は、本学大学院学則第34条第2項の定めるところにより、博士論文の審査に合格し、かつ、博士後期課程の修了者と同等以上の学力を有すると確認された者に授与する。

(研究成果等の審査)

第6条 第4条の規定により学位の申請をする者については、工学研究科委員会（以下「委員会」という）が課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究成果の審査または博士論文研究基礎力審査をもって論文の審査に代えることができる。

(論文の提出)

第7条 修士及び博士の学位の授与を受けようとする者は、定められた期日までに修士論文又は博士論文、論文の要旨を指導教員を通じて、学長に提出するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文、論文の要旨及び別表に定める論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。

- 3 提出した学位論文及び納付した論文審査手数料は、いかなる事由があっても返付しない。

(論文審査等の付託)

第8条 学長は、学位論文を受理したときは、その審査及び最終試験又は審査及び学力確認を委員会に付託するものとする。

(審査委員会)

第9条 委員会は、前条の規定による審査の付託があったときは、本学大学院担当の複数の教員で組織する審査委員会を設ける。

- 2 主査には指導教員が当たる。

- 3 審査委員会は、審査にあたって必要があるときは、委員会の議を経て、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

(最終試験)

第10条 最終試験は、学位論文を中心とした専攻分野に関する研究能力及び学識について、口答又は筆答により行うものとする。

(学力確認の方法)

第11条 第5条第2項の規定による学力の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目及び外国語について、口答又は筆答により行うものとする。

(審査後の省略)

第12条 審査委員会は学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験及び学力確認を行わないものとする。

(審査期間)

第13条 学位論文の審査及び最終試験は、在学期間中に終了するものとする。

- 2 第5条第2項の規定により博士論文が提出されたときは、その提出日から1年以内に博士論文の審査及び学力の確認を終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは委員会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査結果の報告)

第14条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験又は学位論文の審査及び学力確認が終了したときは、その結果を文書により委員会に報告するものとする。

(学位授与の審議)

第15条 委員会は、修得単位並びに前条の報告に基づいて審議し、学位授与の可否について議決する。

(学位の授与)

第16条 学長は、委員会の議を経て、学位を授与できると認める者に所定の学位記を授与し、学位を授与できない者には、その旨を通知するものとする。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。

この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

- 3 博士の学位を授与された者が行う第1項および第2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。
- 4 第1項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文（博士）」、第2項の規定により公表する場合は「八戸工業大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(審査要旨等の公表)

第18条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位授与の報告)

第19条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の名称)

第20条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、八戸工業大学の文字を付記するものとする。

(学位の取消)

第21条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、委員会の議に基づいて、その授与された学位を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 一 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき
- 二 名誉を汚す行為があったとき

(学位記の様式)

第22条 学位記の様式は、別記のとおりとする。

(学位記の再交付)

第23条 学位記の再交付を受けようとする者は、その理由を記載した申請書に所定の手数料を添えて、学長に願出するものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

別 表 論文審査手数料

規程第7条第2項による博士論文
130,000円

- ・ 本学大学院の博士後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けて退学後3年以内の者の論文審査手数料は免除する。

別 記 学位記の様式

1. 学士

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	本学工学部 業したことを認め学士（工学）の学位を授与する	学位記	氏名	年 月 日生
八戸工業大学長 氏名印					

第3条の規定により授与する学位記の様式

第 号	年 月 日	本学感性デザイン学部 本学を卒業したことを認め学士（感性デザイン）の学位を授与する	学位記	氏名	年 月 日生
八戸工業大学長 氏名印					

2. 修士

第4条の規定により授与する学位記の様式

修 第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏名 印	大学印	学位記
			氏名	年 月 日生

本学大学院工学研究科 専攻の博士前期課程
において所定の単位を修得し学位論文の審査および最終
試験に合格したので修士（工学）の学位を授与する

3. 博士

第5条第1項の規定により授与する学位記

博 第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏名 印	大学印	学位記
			氏名	年 月 日生

本学大学院工学研究科 専攻の博士後期課程
において学位論文の審査および最終試験に合格したので
博士（工学）の学位を授与する

第5条第2項の規定により授与する学位記

第 号	年 月 日	八戸工業大学長 氏名 印	大学印	学位記
			氏名	年 月 日生

本学に博士論文を提出し所定の審査および試験に合格
したので博士（工学）の学位を授与する

7.3 八戸工業大学学費納入規程

制定 平成5年1月21日 理事会

改正 平成27年9月24日 理事会

(目 的)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第36条の規定に基づき、学費の納入方法その他の取扱いについて定める。

(学 費)

第2条 学費とは、入学金並びに授業料、施設設備費、実験実習費、演習実習費（以下「授業料等」という。）をいう。

2 授業料等はこれを二分割し、半額をⅠ期授業料等、他の半額をⅡ期授業料等という。

(納入期限)

第3条 Ⅰ期授業料等は5月10日までに、Ⅱ期授業料等は10月10日までに納入しなければならない。ただし、納入期限が金融機関の休業日に当たる場合は、翌営業日を納入期限とする。

(入学時の納入期限)

第4条 前条の規定にかかわらず、入学の許可を得ようとする者の学費は、所定の入学手続締切日までに納入しなければならない。

(納入方法)

第5条 学費の納入方法は、原則として銀行振込みとする。

2 各期授業料等は、原則として各々一括して納入しなければならない。延納を許可されたときにおいても同様とする。

(延納許可)

第6条 授業料等の延納を希望する者があるときは、次の各号の一に該当する者に限り許可することがある。

- 一 授業料等支弁者が、死亡または不慮の災害等により支払いが困難であると認められる者
- 二 その他やむを得ない事由があると認められる者

(延納の手続き)

第7条 授業料等の延納を希望するときは、原則として第3条に定める納入期限までに、所定の「授業料等延納願い」により願い出なければならない。

2 前項により願い出るとき、延納の事由を明らかにする証明書等の提出を求めることがある。

(延納納入期限)

第8条 授業料等の延納納入日は、原則として、Ⅰ期授業料等においては7月20日、Ⅱ期授業料等においては翌年1月10日を超えることができない。

(延納許可の取消)

第9条 授業料等の延納を許可された者の願い出が虚偽であることが明らかになったときは、延納の許可を取り消す。

(滞納の起算日)

第10条 学則第22条第5号に定める授業料等滞納期間の起算日は、Ⅰ期・Ⅱ期授業料等の各納入期限の翌日、延納が許可されたときは第8条に定める各延納納入期限の翌日、休学者が復学するときは復学する日を起算日とする。

(除 籍 者)

第11条 学則第22条第5号に基づき除籍する者の氏名は、学内掲示場に掲示する。

2 除籍された者は、学生としての全ての資格を失う。

(復 籍)

第12条 前条により除籍された者が復籍を願い出たときは、これを許可することがある。

- 2 復籍願い出の期限は、原則として除籍後15日以内とする。
- 3 復籍を願い出るときは、復籍願いを提出し、所定の授業料等を納入しなければならない。

(休学者の学費)

- 第13条 休学を許可された者の授業料等は、学年の始めから終りまでの期間に対する休学期間の割合に応じて案分し、休学期間に相当する授業料等は、これを免除する。
- 2 授業料等の延納を許可された者が休学を申し出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。
 - 3 休学者が復学するとき、所定の授業料等を納入しなければならない。
 - 4 第1項の規定にかかわらず、入学手続時に納入した学費については、これを免除しない。

(年度途中卒業者等)

- 第14条 年度途中で卒業、退学または転学する者は、Ⅰ期授業料等またはⅡ期授業料等を完納していなければならない。
- 2 授業料等の延納を許可された者が退学または転学を申し出るときは、所定の授業料等を納入しなければならない。

(既納の学費)

- 第15条 既に納入した学費は、別に定めるときを除いて、事情の如何にかかわらず返戻しない。

(在学3年を超える大学院博士後期課程の授業料)

- 第16条 3年間の授業料等を納入した博士後期課程学生が、特別研究活動を継続している場合、授業料等の1割を納入することで在学できる。ただし、在学期間は6年を超えることはできない。

(事務の取扱い)

- 第17条 この規程に基づく事務処理は、財務課が行う。
- 2 前項に定めるほか、この規程に基づく事務処理に関し必要な事項は、理事長が定める。

(改 廃)

- 第18条 この規程の改廃は、理事会の議を経て行う。

附則の一部を省略している。

- 附 則 この規程は、平成27年10月1日から施行する。

7.4 八戸工業大学学生心得

本学の目的および使命を達成するためには、学生および関係教職員が一体となって協力し、各々の本分を遺憾なく発揮すべく努力しなければならない。

学生は、学則はもとより、その他の本学で定める規則等を遵守し、学生の本分を守るとともに相互の敬愛と協力によって、学園としてふさわしい環境を維持するように努めなければならない。

(目 的)

- 第1条 この学生心得は、本学学生の遵守すべき事項を定めることを目的とする。

(誓約書)

- 第2条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに本学所定の様式に従って、学則および諸規則・規程を遵守し学生としての本分を守る旨の誓約をしなければならない。

(在学保証書)

- 第3条 本学に入学を許可された者は、入学の際、学則に従って保証人を定め、速やかに在学保証書を学長に届け出なければならない。

(身上調書)

- 第4条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに本学所定の様式に従って、写真貼付の身上調書を学生課に提出しなければならない。

(住 民 票)

第5条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに住民票を教務課に提出しなければならない。

2 外国籍者は外国人登録済証明書の前項に準じて提出しなければならない。

(高等学校卒業証明書)

第6条 本学に入学を許可された者は、入学の際、速やかに高等学校卒業証明書を教務課に提出しなければならない。

(学 生 証)

第7条 学生は入学の際、学生証の交付を受けて常時これを携帯しなければならない。

2 学生証の有効期間は発行日から原則4年間とする。

3 学生証を持たないで、教室、研究室および図書館等に入ることができない。携帯しないときは退場を命ずることがある。

4 学生証は、本学教員その他しかるべき者の要請があったときは、いつでもこれを提示しなければならない。

第8条 学生証を汚損または紛失したときは、ただちに本学所定の様式により学生課に届け出て、再交付を受けなければならない。この場合の有効期間は再発行の日から通常の修業年限終了までとする。

第9条 学生証は、卒業、転学、転学科、退学、除籍により学籍を離れたとき、または有効期間を経過したときは、ただちに学生課に返却しなければならない。なお、有効期間を超えて在籍するときは、更新の手続きを行わなければならない。

(欠席・忌引および遅刻早退の届出)

第10条 3日以上欠席するときは本学所定の様式により、必ずその理由を明記し保証人と連署して教務課に届け出なければならない。

ただし、7日以上欠席するときは必ず証明書を添付することを要する。

2 学友会活動、課外活動等による特別欠席の場合は、所定用紙に記入し、代表学生および顧問の署名押印のうえ、その活動の3日前までに学生課に提出し、学務部長の許可を受けなければならない。

3 忌引の場合は前項に準じて本学所定の忌引届を教務課に提出しなければならない。

4 遅刻・早退は必ず教科担任へ口頭もしくは書面で届け出るものとする。

(諸変更届)

第11条 氏名、本籍および宿所（住所）を変更したときは、そのつど本学所定の様式により遅滞なく学生課に届け出なければならない。

第12条 保証人の変更および保証人が氏名または住所を変更した場合は、そのつど速やかに本学所定の様式により学生課に届け出なければならない。

(諸 願)

第13条 休学、再休学、復学、退学、転学、または転学科を希望する場合は、本学所定の様式により保証人連署のうえ願い出て学長の許可を受けなければならない。

(受 講)

第14条 学生は教場においては静粛を旨とし雑談、喫煙、その他粗暴の挙動があってはならない。

2 授業中に退席することはできない。

やむを得ない事由があつて退席するときは、教員の許可を受けなければならない。

(服装、校舎への出入、喫煙等)

第15条 服装は良識により、清潔端正で品位を保ち異様なものはまとわないこと。

2 下駄・サンダル類を用いないこと。

3 校舎への出入りは所定の出入口を利用すること。

4 構地内および学内の危険立入禁止場所には立ち入らないこと。

5 指定の場所以外で喫煙しないこと。

6 満20才未満の者の飲酒、喫煙は法により禁じられている。

(定期健康診断)

第16条 学生は学校保健安全法（昭和33年法律第56号）により、毎年本学で行う健康診断を必ず受けなければならない。

2 疾病その他正当の理由により前項の健康診断を受けることができないときは、その事由を付して学生課に届け出なければならない。

(学園の秩序維持)

第17条 学生は学園にふさわしい環境を整えることに協力し、学園の秩序を乱すような行動をしてはならない。

(事故発生時)

第18条 火災、盗難には特に注意し、事故発生の際は事務部に急報するとともに消火、防止に努めること。

附則の一部を省略している。

附 則 この心得は、平成30年4月1日より施行する。

7.5 八戸工業大学履修規程

制定 平成14年2月21日 教授会

改正 平成30年12月20日 教授会

(趣旨)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則に規定するものの他、授業科目の履修について必要な事項を定める。

(履修年次等)

第2条 授業科目（以下「科目」という。）の履修年次等は、学則別表第1に定めるとおりとする。

2 次のとおり履修上のコースを定める。各コースの履修科目等は別表3に定めるとおりとする。

学部	学科	コース
工学部	機械工学科	機械工学コース 機械工学総合コース 自動車工学コース
工学部	土木建築工学科	土木工学コース 建築工学コース
工学部	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 生命環境科学科 土木建築工学科	原子力工学副コース
工学部	生命環境科学科	海洋学（海洋生態）副コース
工学部	土木建築工学科	海洋学（海洋土木）副コース
工学部	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 生命環境科学科 土木建築工学科	特別養成コース スーパーエンジニア養成コース
感性デザイン学部	創生デザイン学科	特別養成コース 地域活性化リーダー養成コース

(履修登録と履修)

第3条 科目の履修にあたっては、当該年度に履修しようとする全科目について履修登録を行わなければならない。

- 2 履修登録の時期は、学年の初めとし、所定の期間をすぎでの履修登録は原則として認めない。
- 3 履修登録しない科目は、受講しても単位は与えない。
- 4 上位学年次に配置される科目は、履修登録することはできない。ただし、科目担当教員の判断により、留年した学生に限り履修登録を認める場合がある。
- 5 第8条第4項の受講免除科目を除き、同一時限に行われる科目を2科目以上重複して履修登録することはできない。
- 6 履修登録の有効期限は、当該年度限りとする。
- 7 欠席した授業については、学生自身が自学自習によって補うことを原則とする。ただし、科目担当教員の判断により、課題・補習等を課す場合がある。

（履修登録の修正）

第4条 履修登録科目の修正は、各学期の所定の期間において行うことができる。

（履修登録単位数の上限）

第5条 当該年度において履修登録することができる単位数の上限は、前期開講科目24単位以内、後期開講科目24単位以内、かつ年間合計40単位までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
 - 一 前学年の年度 GPA が2.8以上の学生は、前期開講科目28単位以内、後期開講科目28単位以内、かつ年間合計44単位まで履修登録できる。
 - 二 学科長が特に必要と認める学生にあっては、履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
- 3 通年開講科目の履修登録単位数は、その2分の1をそれぞれ各学期の履修単位に算入するものとする。
- 4 次の各号の科目の単位は、履修登録することができる単位数の上限には含まれない。
 - 一 キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ
 - 二 集中講義科目
 - 三 進級要件・卒業要件に算入されない科目（教職関連科目、リメディアル科目等）
 - 四 学則別表第1に定める特別専攻科目
 - 五 受講免除科目
 - 六 認定科目

（履修の制限）

第6条 授業内容、施設等の状況、習熟度によって、履修を制限することがある。

- 2 第2条第2項に定める履修上のコースによっては、コース対象学科以外の学生の履修を制限することがある。

（成績の評価と単位の修得）

第7条 成績の評価は科目担当教員が行い、評価は次のとおりとする。

評価	評価の点数	合否
S	90点以上～100点	合 格
A	80点以上～ 90点未満	
B	70点以上～ 80点未満	
C	60点以上～ 70点未満	
D	60点未満	不合格

- 2 単位の修得は、上表の合格の場合に認定される。ただし、学費等の未納期間の単位は認定されない。

（再履修登録）

第8条 単位が認定されなかった科目（以下「再履修科目」という。）は次の年度以降に履修することができる。

- 2 必修科目を指定の年次に修得できなかったときは、その科目を他に優先して履修しなければならない。
- 3 単位が認定された科目は、再び履修登録することができない。
- 4 再履修科目の履修登録にあたり、科目担当教員が認めた場合は、受講を免除することがある。

(他学部・他学科科目の履修)

第9条 所属学科以外の科目（講義科目）を履修したいときは、所定の手続きを経て20単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。

(単位互換科目の履修)

第10条 単位互換協定を締結した他大学において開講される科目を履修したいときは、所定の手続きを経て30単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。ただし、1学年の履修は認めない。

(成績の通知)

第11条 成績は、所定の学業成績通知書をもって本人および保護者に通知する。

- 2 学業成績通知書には、評価をS、A、B、C、Dで記載し、あわせてGPA（Grade Point Average）を記載する。
- 3 GPAの取り扱いについては別に定める。

(定期試験)

第12条 定期試験は年2回各学期末の一定期間に行う。

- 2 試験の時間割は試験実施の2週間前に公表する。
- 3 試験は原則として筆答によるが、平常の成績のほか、レポート、口答および実技をもって試験に代えることができる。

(追試験)

第13条 学生に病気、その他やむを得ぬ事情が生じて、定期試験を受けられないときは追試験の機会を与える。

- 2 追試験受験の可否の判定は学生の願い出（医師の診断書、保証人の証明書など添付）にもとづき科目担当教員が行う。
- 3 追試験を受けようとする者は、追試験時まで追試験受験手続きを行わなければならない。追試験料は別表2のとおりとする。

(再試験)

第14条 定期試験、追試験に合格できなかった者に対して、再試験の機会を与えることがある。

- 2 再試験の受験資格は、科目担当教員の認定による。
- 3 再試験を受けようとする者は、再試験時まで再試験受験手続きを行わなければならない。再試験料は別表2のとおりとする。
- 4 再試験の成績は、定期試験と同等またはそれ以上の基準で評価する。

(受験資格)

第15条 定期試験の受験資格は次の要件を満たした者に与える。

- 一 当該科目の履修登録をしていること。
- 二 原則として、出席時数が授業時数の3分の2以上であること。ただし、実験、実習、演習および実技科目については、これ以上の出席時数を必要とする場合がある。
- 三 教授会において特に失格条件がないことを認められていること。ただし、二の号に関して考慮すべき事情のある学生は科目担当教員に届け出て、科目担当教員が受験資格の有無を判定する。

(進級要件)

第16条 各学年において上位の学年に進級するためには、別表1の要件を満たしていなければならない。

(受験の心得)

第17条 学生は学生証を持参し、指示する座席につき厳正に受験しなければならない。なお、学生証を携帯していない場合は、受験票（学生証不携帯）の交付を受けて受験しなければならない。

受験票（学生証不携帯）の交付手数料は別表2のとおりとする。

- 2 原則として、試験開始20分後の入場を認めない。また、試験開始後30分以上経過するまで退場を認めない。
- 3 試験は監督教員の指示で行われる。試験に際し、不正行為を行った学生には学則第57条により懲戒を行う。かつ、その学期に受験した科目はすべて零点とする。
- 4 実験、実習、製図および実技科目については、開講学年において単位を修得することを原則とし、修得できない場合は以後の履修科目を制限することがある。

（規程の改廃）

第18条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附則の一部を省略している。

附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成30年度以降入学生に適用する。

別表1 進級要件

平成30年度入学生より適用

学部	学 科	学年	修得 単位数	必修 単位数	その他要件
工学部	機械工学科	1 学年	25	7	
		2 学年	60	22	
		3 学年	95	40	
	電気電子工学科	1 学年	28	12	
		2 学年	60	34	
		3 学年	97	50	・ 電気電子工学入門と電気電子工学概論を修得のこと ・ 物理学実験と化学実験のいずれかを修得のこと ・ 基幹科目16単位中12単位以上修得のこと
					<table><tr><td>基幹科目</td></tr><tr><td>電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ</td></tr></table>
	基幹科目				
	電磁気学Ⅰ、Ⅱ 電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ 電気回路Ⅰ、Ⅱ 電気回路演習Ⅰ、Ⅱ				
	システム情報工学科	1 学年	25	10	
		2 学年	60	25	
		3 学年	100	35	・ 情報工学基礎実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと
	生命環境科学科	1 学年	25	12	
		2 学年	60	30	
		3 学年	100	47	・ 生命環境科学基礎実験、生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと
土木建築工学科	1 学年	25	10		
	2 学年	60	20		
	3 学年	100	30		
感性デザイン学部	創生デザイン学科	1 学年	28	12	
		2 学年	60	12	
		3 学年	98	14	

注1：上表の所属している学科・学年に定める「修得単位数」および「必修単位数」以上を修得し、かつ「その他要件」科目を修得すること。

別表2 試験料および受験票（学生証不携帯）交付手数料

追 試 験	1 科目につき	500円
再 試 験	1 科目につき	1,500円
受験票（学生証不携帯）	当日限り	300円

別表 3

機械工学科 コース別履修表（導入転換科目・総合教養科目・工学基礎科目）

平成30年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース			卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数										
			必修	選択	機械工学 コース	機械工学総合 コース	自動車工学 コース		1年		2年		3年		4年				
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入 転換 科目	キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	○	○	○		1	1									
		キャリアデザインⅡ		1	○	○	○				1	1							
		キャリアデザインⅢ		2	○	○	○						2	2					
	工学への関心	エンジン解剖実習	1		○	○	○		3										
		機械工学通論	2		○	○	○			2									
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2	2				左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み8単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み24単位以上を修得すること	2			2				
		哲学		2											2				
		職業倫理			○		○									2			
		日本文学		2										2					
		海外文学		2										2					
		日本国憲法		2												2			
		歴史		2															
		経済学		2											2				
		地域学		2	○										2				
	国際コミュニケーション	日本語表現法		2								2							
		実践日本語表現		2	○							2							
		現代英語Ⅰ	2		○	○	○		2										
		現代英語Ⅱ	2		○	○	○			2									
		英語コミュニケーションⅠ		2	○						2								
		英語コミュニケーションⅡ		2	○							2							
		英語特別演習		2									2						
		中国語Ⅰ		2															
		中国語Ⅱ		2								2							
	中国語Ⅲ		2																
	異文化コミュニケーション		2												2				
体育科学	体育学		1						2										
	スポーツ健康学		1								2								
	スポーツ特別演習		1							2									
総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2							2									
	主題別ゼミナールⅡ		2								2								
	主題別ゼミナールⅢ		2									2							
	海外研修		1							2									
工学 基礎 科目	工学基礎	微分	2		○	○	○	左記の科目から必修を含み14単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み14単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み14単位以上を修得すること	左記の科目から必修を含み14単位以上を修得すること	2							
		積分	2		○	○	○						2						
		線形代数	2		○	○	○							2					
		確率・統計		2	○										2				
		物理学概論		2									2						
		基礎物理学Ⅰ		2	○								2						
		基礎物理学Ⅱ		2	○									2					
		現代物理学概論		2											2				
		応用物理学概論		2												2			
		物理学実験		2	○								4						
		基礎化学Ⅰ		2										2					
		基礎化学Ⅱ		2											2				
		化学実験		2										4					
		生命科学		2												2			
		基礎情報科学		2	○									2					
小計			15	172					26	29	21	13	6	4	2	0			

「○」印はコース履修上の必修科目

「-」印は原則としてコースによって修得できない科目

「*」印は進級要件・卒業要件の単位数には含まれない科目

機械工学科 コース別履修表（専門科目・特別専攻科目）

平成30年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース			卒業に必要な修得単位数	年次および週時間数									
			必修	選択	機械工学コース	機械工学総合コース	自動車工学コース		1年		2年		3年		4年			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	材料力学・機械力学	材料力学	2		○	○	○	左記の科目から必修を含み70単位以上を修得すること			2							
		材料力学 A	2		○	○				2								
		機械力学	2		○	○						2						
		機械力学 A	2		○								2					
	熱・流体	熱力学	2		○	○	○					2						
		熱力学 A	2		○	○	○					2						
		流れ学	2		○	○	○						2					
		流れ学 A	2		○	○	○							2				
	情報・制御	伝熱工学	2		○	○	○							2				
		基礎機械情報工学	2		○	○	○				2							
		応用機械情報工学	2		○	○					2							
		計測工学	2		○	○	○						2					
	材料・設計・加工	メカトロニクス基礎	2		○									2				
		電気電子工学通論	2		○						2							
		制御工学	2		○										2			
		機械材料工学	2		○	○	○						2					
		工作学	2		○	○	○				2							
		機械加工学	1	2	○	○	○					2			3			
		機械工作実習	2		○	○	○					2						
		基礎設計工学	2		○	○	○					2						
	自動車工学	応用設計工学	2		○	○	○						2					
		基礎設計製図	2		○	○	○					6						
		CAD 設計製図	2		○	○	○						6					
		機械設計技法	2		○	○	○										6	
		基礎自動車工学		2	—	—	—		○				2					
		潤滑工学		2	—	—	—		○					2				
		自動車エンジン		2	—	—	—		○						2			
		自動車測定検査概論		2	—	—	—		○							2		
		自動車構造Ⅰ		2	—	—	—		○								2	
		自動車構造Ⅱ		2	—	—	—		○									2
		自動車法規		2	—	—	—		○									2
		自動車工学		2	—	—	—		○									2
		電気電子工学概論		2	—	—	—		○		2							
		電子回路工学		2	—	—	—		○			2						
	カーエレクトロニクス		2	—	—	—	○									2		
	総合工学	自動車検査		2	—	—	—		○								2	
		自動車整備実習		6	—	—	—		○	*							2	9
機械工学実験Ⅰ		1		○	○	○	○						3					
機械工学実験Ⅱ		1		○	○	○	○							3				
機械工学演習Ⅰ		2		○	○	○	○				2				2			
機械工学演習Ⅱ		2		○	○	○	○									2		
技術マネジメント概論			2		○	○	○											
プロジェクトⅠ		2		○	○	○	○					2						
プロジェクトⅡ		2		○	○	○	○								2			
プロジェクトⅢ		2		○	○	○	○									2		
機械工学統合演習			2		○	○	○							2				
プロジェクト実習		1		○	○	○	○							2	3			
原子力工学		2																
特別専攻科目	学外研修		1															
	卒業研究	6		○	○	○	○								9	9		
	原子力エネルギー		2							2								
	放射線の利用		2								2							
	原子力体感研修		2											2				
	原子燃料サイクル・安全工学		2													2		
	解析Ⅰ		2							2								
	解析Ⅱ		2								2							
	解析Ⅲ		2									2						
	特別専攻プロジェクトⅠ		2						2									
特別専攻プロジェクトⅡ		2								2								
特別専攻プロジェクトⅢ		2											2					
特別専攻ゼミナールⅠ		2																
特別専攻ゼミナールⅡ		2											2					
特別専攻ゼミナールⅢ		2												2				
小計			46	81					0	10	24	28	21	28	32	28		
総計			61	153					26	39	45	41	27	32	34	28		

「○」印はコース履修上の必修科目

「—」印は原則としてコースによって修得できない科目

「*」印は進級要件・卒業要件の単位数には含まれない科目

別表 3

土木建築工学科 コース別履修表（導入転換科目・総合教養科目・工学基礎科目）

平成30年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース		卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数										
			必修	選択	土木工学 コース	建築工学 コース		1年		2年		3年		4年				
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
導入 転換 科目	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ		1 1 2				1 1 1		1 1			2 2					
	工学への関心	土木工学概論 建築概論	2 2					2 2										
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2	2	左記科目から 必修を含み10 単位以上を修 得すること	左記科目から 必修を含み10 単位以上を修 得すること	左記科目から 必修を含み26 単位以上を修 得すること	2		2	2	2	2					
		哲学		2														
		職業倫理																
		日本文学		2														
		海外文学		2														
		日本国憲法		2													2	
		歴史		2														
		経済学		2														
	地域学	2																
	国際コミュニ ケーション	日本語表現法	2 2	2	左記科目から 必修を含み12 単位以上を修 得すること	左記科目から 必修を含み12 単位以上を修 得すること		2	2	2								
		実践日本語表現		2					2									
		現代英語Ⅰ						2										
		現代英語Ⅱ						2										
		英語コミュニケーションⅠ		2					2									
		英語コミュニケーションⅡ		2						2								
		英語特別演習		2							2							
		中国語Ⅰ		2														
		中国語Ⅱ		2														
	中国語Ⅲ	2										2						
異文化コミュニケーション		2																
	体育科学	体育学		1			2											
	スポーツ健康学		1				2											
スポーツ特別演習		1					2											
総合学際	主題別ゼミナールⅠ		2					2										
	主題別ゼミナールⅡ		2						2									
	主題別ゼミナールⅢ		2							2								
	海外研修		1					2										
工学 基 礎 科目	数学	微分	2 2 2	左記科目から 必修を含み20 単位以上を修 得すること	左記科目から 必修を含み20 単位以上を修 得すること	分野を問わず 必修を含み22 単位以上を修 得すること	2											
		積分					2											
		線形代数																
		確率・統計						2				2						
		応用数学						2					2					
	自然科学	基礎物理学Ⅰ					2			2								
		基礎物理学Ⅱ					2				2							
		現代物理学概論					2					2						
		応用物理学概論					2						2					
		基礎化学Ⅰ					2											
基礎化学Ⅱ		2						2										
生命科学		2							2									
物理学概論		2					2											
情報	基礎情報科学	2					2											
実験	物理学実験		2	左記科目から2 単位以上を修得 すること	左記科目から2 単位以上を修得 すること	4												
	化学実験		2				4											
小 計			18	72				25	29	21	13	8	4	2	0			

土木建築工学科 コース別履修表（専門基礎科目・土木専門科目・建築専門科目）

平成30年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース		卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数								
			必修	選択	土木工学 コース	建築工学 コース		1年		2年		3年		4年		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	専門基礎	基礎製図	2		○		○			4						
		CAD 基礎演習	2		○		○				4					
		地球環境論	2		○		○			2						
		デッサン		2			○									
		測量学	2		○		○					2				
		測量実習	1		○		○				3					
		都市計画	2		○		○						2			
		構造力学Ⅰ	2		○		○				2					
		構造力学演習Ⅰ		1							2					
		構造力学Ⅱ	2		○		○					2				
土木専門科目	土木基礎	構造力学演習Ⅱ		1			○				2					
		地盤構造工学	2		○		○			2						
		材料の力学		2	○	左記の科目 から必修を 含み45単位 以上を修得 すること				2						
		情報処理		2	○					2						
		廃棄物と工事排水		2	○						2					
		上下水道工学		2	○							2				
		水処理工学		2										2		
		基礎水理学		2	○						2					
		流れの力学		2	○							2				
		河川工学		2									2			
		海岸・港湾工学		2										2		
		計画数理		2								2				
		道路・交通工学		2									2			
		地盤の科学		2	○							2				
		地盤の力学		2	○							2				
		コンクリート工学		2	○							2				
		コンクリート構造学		2	○								2			
		維持管理工学		2										2		
	施工技術		2										2			
	土木応用	土木工学実験Ⅰ		2	○		—		分野を問わず必修を含み72単位以上を修得すること			6				
		土木工学実験Ⅱ		2	○		—						3			
		キャリアプランニング		2	○								2			
		水工学設計・演習		2	○		—						4			
		橋工学設計・演習		2			—							4		
		地盤工学設計・演習		2	○		—							4		
		コンクリート工学設計・演習		2	○		—							4		
応用測量学及び実習			2	○									3			
建築専門科目	建築設計	建築設計Ⅰ		3			○	左記の科目から必修を含み45単位以上を修得すること			6					
		建築設計Ⅱ		3			○					6				
		建築設計Ⅲ		3			○						6			
		建築設計Ⅳ		3	—								6			
	建築計画・環境・設備	住居計画		2			○					2				
		建築計画		2			○						2			
		建築史		2			○									
		インテリアデザイン		2			○									
		熱・空気環境		2									2			
		熱・空気環境演習		1									2			
		音・光環境		2			○							2		
		音・光環境演習		1										2		
	建築構造・生産	建築設備		2			○							2		
		鉄筋コンクリート構造		2			○						2			
		鋼構造		2									2			
		木質構造		2									2			
		構造設計		2										2		
		建築材料学		2			○					2				
建築法規	建築施工		2			○										
	建築材料実験		2								4					
建築応用	建築法規		2			○						2				
	応用電子計算機		2							2						
	色彩学		2								2					
	雪国建築		2			○						2				

※次のページへ続く

「○」印はコース履修上の必修科目

「—」印は原則としてコースによって修得できない科目

土木建築工学科 コース別履修表（専門応用科目・特別専攻科目）

平成30年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数		履修コース		卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数							
			必修	選択	土木工学 コース	建築工学 コース		1年		2年		3年		4年	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門 応用 科目	専門応用	インターンシップ		1								2			
		学外研修		1							2				
		総合デザインⅠ	2		○	○						4			
		総合デザインⅡ	2		○	○							4		
		情報処理応用		2							2				
		応用構造力学		2								2			
		機械工作実習		1								3			
		機械工学概論		2										2	
		電気電子工学概論		2										2	
		原子力エネルギー		2					2						
	原子燃料サイクル・安全工学		2											2	
	卒業研究	6		○	○								9	9	
海洋学	海洋学の基礎と未来		2					2							
	海洋土木Ⅰ		2			—			2						
	海洋土木Ⅱ		2			—				2					
	海洋土木実習		1			—						2			
	リモートセンシング概論		1			—						1			
特別 専攻 科目	特別専攻	解析Ⅰ		2					2						
		解析Ⅱ		2						2					
		解析Ⅲ		2							2				
		特別専攻プロジェクトⅠ		2					2						
		特別専攻プロジェクトⅡ		2							2				
		特別専攻プロジェクトⅢ		2									2		
		特別専攻ゼミナールⅠ		2								2			
		特別専攻ゼミナールⅡ		2									2		
		特別専攻ゼミナールⅢ		2									2		
		小計	27	147					8	14	37	48	54	50	13
総計	45	219					33	43	58	61	62	54	15	11	

「○」印はコース履修上の必修科目

「—」印は原則としてコースによって修得できない科目

別表3 原子力工学副コース履修表（工学部）

平成30年度入学生より適用

授業科目	単位数		コース名・学科					摘要
	必修	選択	原子力工学副コース					
			機械工学科	電気電子工学科	システム情報工学科	生命環境科学科	土木建築工学科	
原子力エネルギー		2	○	○	○	○	○	左記の科目すべて 8 単位を修得すること
放射線の利用		2	○	○	○	○	○	
原子力体感研修		2	○	○	○	○	○	
原子燃料サイクル・安全工学		2	○	○	○	○	○	

注1：「○」印の科目すべてを修得し、これを含めて各学科の卒業要件を満たすこと。

注2：「○」印の科目が所属している学科で開講されていない場合は、他学科履修手続きを行うこと。

注3：上表に定める学科以外に所属する学生が要件を満たした場合でもコース修了は認めない。

別表3 海洋学副コース履修表（生命環境科学科・土木建築工学科）

平成30年度入学生より適用

授業科目	単位数		コース名・学科		摘要
	必修	選択	海洋学（海洋生態）副コース	海洋学（海洋土木）副コース	
			生命環境科学科	土木建築工学科 土木工学コース	
海洋学の基礎と未来		2	○		左記の生命環境科学科指定科目8単位を修得すること
海洋生物学		2	○		
臨海実習		2	○		
海洋生態学		2	○		
リモートセンシング概論		1	△		
海洋学の基礎と未来		2		○	左記の土木建築工学科指定科目7単位を修得すること
海洋土木Ⅰ		2		○	
海洋土木Ⅱ		2		○	
海洋土木実習		1		○	
リモートセンシング概論		1		△	

注1：「○」印の所属する学科指定科目すべてを修得し、これを含めて各学科の卒業要件を満たすこと。

注2：上表に定める学科以外に所属する学生が要件を満たした場合でもコース修了は認めない。

注3：「△」印の科目は、コース選択科目を表す。

別表3 特別養成コース履修表（工学部・感性デザイン学部）

平成30年度入学生より適用

授業科目	単位数		コース名・学科					
	必修	選択	工学部：スーパーエンジニア養成コース 機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科、生命環境科学科、土木建築工学科 感性デザイン学部：地域活性化リーダー養成コース 創生デザイン学科					
			機械工学科	電気電子工学科	システム情報工学科	生命環境科学科	土木建築工学科	創生デザイン学科
現代英語Ⅰ	2		○	○	○	○	○	○
現代英語Ⅱ	2		○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーションⅠ	2		○	○	○	○	○	○
英語コミュニケーションⅡ	2		○	○	○	○	○	○
海外研修	1		△	△	△	△	△	△
解析Ⅰ	2		◎	◎	◎	◎	◎	
解析Ⅱ	2		◎	◎	◎	◎	◎	
解析Ⅲ	2		◎	◎	◎	◎	◎	
特別専攻プロジェクトⅠ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
特別専攻プロジェクトⅡ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
特別専攻プロジェクトⅢ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
特別専攻ゼミナールⅠ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
特別専攻ゼミナールⅡ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
特別専攻ゼミナールⅢ	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎
現代物理学概論	2		○	○	○		○	
応用物理学概論	2		○	○	○		○	
有機化学	2					○		
微生物工学	2					○		
インターンシップ	1			○		○	○	○
学外研修	1		○		○			
表象文化論	2							○
デザイン文化論	2							○
卒業研究	6		○	○	○	○	○	
卒業制作・論文	6							○

注1：「◎」および「○」印の科目すべてを修得し、これを含めて各学科の卒業要件を満たすこと。

注2：「◎」印の科目は、特別養成コース学生以外の学生は履修できない。

注3：「△」印の科目は、コース選択科目を表す。

7.6 八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程

制定 平成13年 3 月15日 (教授会)

改正 平成31年 3 月 6 日 (教授会)

(目 的)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則第34条の規定に基づき、教職課程の履修等について定める。

(免許状の取得要件)

第2条 教育職員免許状を取得するためには次の要件をすべて満たしていなければならない。

- 一 卒業要件を満足すること
- 二 第4条に規定する教職課程を履修し、所定の単位を修得していること
- 三 中学校教諭一種免許状（技術）および（美術）取得のためには、第5条に規定する介護等体験を終了していること

(免許状の種類)

第3条 前条の取得要件を満たした者には、次の教育職員免許状の取得資格が与えられる。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
中学校教諭 一種免許状	技 術	工学部 機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 システム情報工学科 (技術・工業コース) 土 木 建 築 工 学 科
	美 術	感性デザイン学部 創 生 デ ザ イ ン 学 科
高等学校教諭 一種免許状	工 業	工学部 機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 システム情報工学科 (技術・工業コース) 土 木 建 築 工 学 科
	情 報	工学部 システム情報工学科 (情報コース)
	理 科	工学部 生 命 環 境 科 学 科
	美 術	感性デザイン学部 創 生 デ ザ イ ン 学 科
	工 芸	

(教職課程の履修)

第4条 前条の取得資格を得るためには、別表1の所要資格を満たすように、免許状と免許教科の種類に応じて別表2、別表3および別表4に定める教職課程表の授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

(介護等体験)

第5条 中学校教諭一種免許状（技術）および（美術）を取得するためには、所定の手続きを経て社会福祉施設および特別支援学校における7日間の介護等体験を終了しなければならない。なお、介護等体験の実施時期は原則3学年とする。

- 2 介護等体験を受講するためには所定の健康診断を受診するとともに、麻疹の抗体を有することについて医師の証明を必要とする。

(教育実習)

第6条 教育実習を受講するためには、次に掲げる要件をすべて満たしていなければならない。ただし、特別の事情があり、かつ、教育実習を受講するのに支障がない場合は、この限りではない。

- 一 当該年度に卒業の見込みがあること
- 二 3学年までに開講されている当該免許に関わる教職科目をすべて修得していること
- 三 3学年までに導入転換科目（ただし、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を除く）をすべて修得していること
- 四 「日本国憲法」2単位を修得していること
- 五 3学年までに開講されている必修の実験・実習・製図の全科目、別表2に定める体育区分の2単位、および「基礎情報科学」(工学部) または「コンピュータ基礎演習」(感性デザイン学部) 2単位を修得していること
- 六 中学校教諭一種免許状を取得する者は介護等体験を終了していること
- 七 前条第2項に定める健康診断受診と麻疹抗体検査に係る要件を満たしていること
- 2 前項に規定する教育実習の受講は、教職課程の学修過程などをもとに、受講するのに相応しくないと判断されたときは、制限することがある。

附則の一部を省略している。

附 則

1. この規程は、平成31年4月1日から施行する。
2. 平成31年3月31日に在学する者に係る教職課程は、入学時の教職課程表による。

別表1 教育職員免許法に定められている所要資格および最低修得単位数（抜粋）

免許状の種類	所要資格	基礎資格	最低修得単位数				
			教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること		28	10	10	7	4
高等学校教諭1種免許状	学士の学位を有すること		24	10	8	5	12

※「大学が独自に設定する科目」の単位数には、「大学が独自に設定する科目」に設定している科目の単位数に加え「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の法定単位を超えて修得した単位数を含めることが出来る。

別表2 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	法定単位数	本学の開設授業科目		備 考	
		授業科目	単位数		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 土木建築工学科 生命環境科学科 創生デザイン学科	左記の学科に必修
体育	2	体育学	1		
		スポーツ健康学	1		
外国語コミュニケーション	2	現代英語Ⅰ	2		
		現代英語Ⅱ	2	機械工学科 電気電子工学科 システム情報工学科 土木建築工学科 生命環境科学科 創生デザイン学科	左記の学科に必修
情報機器の操作	2	基礎情報科学	2		
		コンピュータ基礎演習	2		

別表3 「教育の基礎的理解に関する科目」・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」・「教育実践に関する科目」
平成31年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学の開設授業科目		高一種免許得科目	中一種免許得科目	備 考
		授 業 科 目	単位数 必修 選択			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育基礎論	2	○	○	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	教職総論	2	○	○	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育の制度	2	○	○	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	認知と人格の発達	2	○	○	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育総論	1	○	○	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	○	○	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育	2		○	中1種免のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2	○	○	
	特別活動の指導法	特別活動	2	○	○	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育実践論 教育学	2 2	○ ○	○ ○	中1種免のみ
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	○	○	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	○	○	
教育実践に関する科目	教育実習	事前・事後指導	1	○	○	中1種免のみ必修
		教育実習Ⅰ	2	○	○	
		教育実習Ⅱ	2		○	
	学校体験活動	—	—	—	—	—
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	○	○	

別表4 教科及び教科の指導法に関する科目・大学が独自に設定する科目
機械工学科 中一種（技術）

平成31年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分等		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工 基礎設計製図 CAD 設計製図 機械設計技法	2 2 2 2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学 機械加工学	2	2	
	機械（実習を含む）	機械工学通論 材料力学 機械力学 熱力学 伝熱工学 流れ学 機械材料工学 基礎設計工学 機械工作実習	2 2 2 2 2 2 2 2 1		
	電気（実習を含む）	計測工学 電気電子工学通論 制御工学	2 2 2		
	栽培（実習を含む）	栽培	2		
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	基礎機械情報工学 応用機械情報工学	2	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	技術科指導法Ⅰ 技術科指導法Ⅱ 技術科指導法Ⅲ	4 2 2		
	計		45	4	

機械工学科 高一種（工業）

平成31年度入学生より適用

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	材料力学 機械力学 熱力学 伝熱工学 流れ学 基礎機械情報工学 応用機械情報工学 計測工学 電気電子工学通論 制御工学 機械材料工学 基礎設計工学 工作学 機械加工学 基礎設計製図 CAD 設計製図 機械設計技法 機械工作実習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	2	
		職業指導	4		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	工業科指導法	4		
	計		39	4	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工	2		
		電気電子設計製図	2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学	2		
		機械加工学		2	
	機械（実習を含む）	電気機器工学	2		
		機械工学概論	2		
		機械工作実習	1		
	電気（実習を含む）	電気電子工学概論	2		
		電気電子数学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅱ	2		
教科に関する専門的事項		電磁気学演習Ⅰ	2		
		電磁気学演習Ⅱ	2		
		電気回路Ⅰ	2		
		電気回路Ⅱ	2		
		電気回路演習Ⅰ	2		
		電気回路演習Ⅱ	2		
		電気電子計測	2		
		電子回路Ⅰ	2		
		創造工学実験	2		
		電気電子基礎実験	2		
		電子情報システム実験		2	
		電気エネルギーシステム実験		2	
教科に関する専門的事項	栽培（実習を含む）	栽培	2		
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	ディジタル回路	2		
教科に関する専門的事項		コンピュータプログラミング	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		技術科指導法Ⅰ	4		
		技術科指導法Ⅱ	2		
		技術科指導法Ⅲ	2		
計			53	6	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	電気電子工学概論	2		
		電気電子数学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅰ	2		
		電磁気学Ⅱ	2		
		電磁気学演習Ⅰ	2		
		電磁気学演習Ⅱ	2		
		電気回路Ⅰ	2		
		電気回路Ⅱ	2		
		電気回路演習Ⅰ	2		
		電気回路演習Ⅱ	2		
		電気電子計測	2		
		電子回路Ⅰ	2		
		ディジタル回路		2	
		コンピュータプログラミング		2	
		電気機器工学		2	
		機械工学概論	2		
		創造工学実験	2		
		電気電子基礎実験	2		
		電子情報システム実験		2	
		電気エネルギーシステム実験		2	
		電気電子設計製図		2	
教科に関する専門的事項	職業指導	職業指導	4		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		工業科指導法	4		
計			38	12	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工 設計・製図	2 2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学 機械加工学	2	2	
	機械（実習を含む）	機械工学概論 ロボット工学 機械工作実習	2 2 1		
	電気（実習を含む）	グラフ理論入門 電子工学 電気工学 制御工学 論理回路 集積回路 情報工学基礎実験Ⅰ 情報工学応用実験Ⅰ	2 2 2 2 2 1 1	2	
	栽培（実習を含む）	栽培	2		
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	プログラミング入門 デジタル信号処理	2 2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	技術科指導法Ⅰ 技術科指導法Ⅱ 技術科指導法Ⅲ	4 2 2		
	計		37	4	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	情報社会及び情報倫理	情報文化論	2		
	コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	情報工学概論 離散数学 情報数理 計測情報工学 プログラミング言語 コンピュータシステム オペレーティングシステム プログラム設計 データ構造とアルゴリズム 言語とコンパイラ 知識工学 情報工学基礎実験Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	2	
	情報システム（実習を含む。）	システム数理 データベース 情報システム論 情報基礎ゼミナール	2 2 2 2		
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	情報通信工学 情報ネットワーク入門 情報ネットワーク構築 シミュレーション工学 パターン情報処理 ウェブデザイン	2 2 2 2 2	2	
	マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）	マルチメディア工学 コンテンツ制作入門 コンピュータグラフィックス	2 2 2		
	情報と職業	産業情報論	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	情報科指導法	4		
	計		43	14	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	グラフ理論入門	2		
		電子工学	2		
		電気工学	2		
		機械工学概論	2		
		制御工学	2		
		ロボット工学	2		
		プログラミング入門	2		
		デジタル信号処理	2		
		論理回路	2		
		数値解析	2		
		集積回路	2		
		ビジュアル情報処理		2	
		人間情報科学		2	
		情報工学基礎実験Ⅰ	1		
		情報工学応用実験Ⅰ	1		
		設計・製図	2		
		情報専門ゼミナール	2		
	職業指導	職業指導	4		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—	—
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		工業科指導法	4		
計			36	4	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	物理学	基礎物理学Ⅰ	2		
		基礎物理学Ⅱ	2		
		応用物理学概論	2		
		現代物理学概論	2		
	化学	基礎化学Ⅰ	2		
		基礎化学Ⅱ	2		
		分析化学	2		
		有機化学	2		
		無機化学	2		
	生物学	生命科学	2		
		バイオテクノロジー	2		
		生化学	2		
		微生物学	2		
		環境生物学		2	
		生理学		2	
		分子遺伝学	2		
	地学	地球環境システム科学	2		
		地盤の科学		2	
	「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	物理学実験	2		
		化学実験	2		
		生命環境科学基礎実験	1		
		生命環境科学実験Ⅱ	1		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		－	－	－	－
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		理科指導法Ⅰ	2		
		理科指導法Ⅱ	2		
大学が独自に設定する科目		グリーンケミストリー	2		
		環境とエネルギー		2	
		環境汚染物質分析学		2	
合計			42	10	

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	木材加工（製図及び実習を含む。）	木材加工 基礎製図	2 2		
	金属加工（製図および実習を含む）	工作学 機械加工学 CAD 基礎演習	2 2 2		
	機械（実習を含む）	材料の力学 構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 銅構造 機械工学概論 機械工作実習 原子力エネルギー 原子燃料サイクル・安全工学	2 2 2 2 2 1 2 2		
	電気（実習を含む）	電気電子工学概論	2		
	栽培（実習を含む）	栽培	2		
	情報とコンピュータ（実習を含む。）	情報処理応用 応用電子計算機		2 2	いずれか1科目選択必修
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	技術科指導法Ⅰ 技術科指導法Ⅱ 技術科指導法Ⅲ	4 2 2		
	計		39	2	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	工業の関係科目	建築概論	2		
		土木工学概論	2		
		基礎製図	2		
		CAD 基礎演習	2		
		地球環境論	2		
		測量学	2		
		測量実習	1		
		都市計画	2		
		構造力学Ⅰ	2		
		構造力学Ⅱ	2		
		建築材料学	2		
		材料の力学		2	左記科目から 18単位選択必修
		応用測量学及び実習		2	
		廃棄物と工事排水		2	
		上下水道工学		2	
		基礎水理学		2	
		流れの力学		2	
		地盤の科学		2	
		地盤の力学		2	
		地盤構造工学		2	
		建築設計Ⅰ		3	
		建築設計Ⅱ		3	
		住居計画		2	
		建築計画		2	
		熱・空気環境		2	
		建築施工		2	
		建築法規		2	
		建築材料実験		2	
	職業指導	情報処理応用		2	いずれか1科目選択必修
		応用電子計算機		2	
		機械工学概論	2		
		電気電子工学概論	2		
		原子力エネルギー		2	
		原子燃料サイクル・安全工学		2	
	職業指導	職業指導	4		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—	—
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		工業科指導法	4		
計			53	24	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	絵画Ⅰ 絵画Ⅱ デッサン	2 2 2		
	彫刻	彫刻	2		
	デザイン（映像メディア表現を含む。）	ビジュアルデザイン演習Ⅰ ビジュアルデザイン演習Ⅱ ビジュアルデザイン演習Ⅲ ビジュアルデザイン演習Ⅳ イラストレーションⅠ イラストレーションⅡ Web デザイン CAD デザイン演習 製品 CAD 演習	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	} いずれか1科目選択必修
	工芸	工芸実習	2		
	美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史 デザイン史 芸術批評 表現技法 色彩学 タイポグラフィー論 ビジュアルデザイン論	2 2 2 2 2 2	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	美術科指導法Ⅰ 美術科指導法Ⅱ 美術科指導法Ⅲ	4 2 2		
	計		40	10	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	絵画（映像メディア表現を含む。）	絵画Ⅰ 絵画Ⅱ デッサン	2 2 2		
	彫刻	彫刻	2		
	デザイン（映像メディア表現を含む。）	ビジュアルデザイン演習Ⅰ ビジュアルデザイン演習Ⅱ ビジュアルデザイン演習Ⅲ ビジュアルデザイン演習Ⅳ イラストレーションⅠ イラストレーションⅡ Web デザイン CAD デザイン演習 製品 CAD 演習	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	} いずれか1科目選択必修
	美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	美術史 デザイン史 芸術批評 表現技法 色彩学 タイポグラフィー論 ビジュアルデザイン論	2 2 2 2 2 2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	—	—	—	—
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	美術科指導法Ⅰ 美術科指導法Ⅱ 美術科指導法Ⅲ	4 2 2		
	計		40	8	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

免許法施行規則に定める科目区分		授 業 科 目	単位数		備 考
			必修	選択	
教科に関する専門的事項	図法及び製図	図学	2		
		デッサン	2		
	デザイン	ビジュアルデザイン演習Ⅰ	2		} いずれか1科目選択必修
		ビジュアルデザイン演習Ⅱ		2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅲ		2	
		ビジュアルデザイン演習Ⅳ		2	
		イラストレーションⅠ	2		
		イラストレーションⅡ	2		
		Web デザイン	2		
		CAD デザイン演習	2		
		製品 CAD 演習	2		
	工芸制作（プロダクト制作を含む。）	工芸実習	2		
	工芸理論、デザイン理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）	工芸学	2		
		美術史	2		
		デザイン史	2		
		芸術批評	2		
		表現技法	2		
		色彩学	2		
		タイポグラフィー論	2		
		ビジュアルデザイン論	2		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		—	—	—	—
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		工芸科指導法	4		
計			40	4	

※必修単位数は、選択必修科目の単位数を含む。

7.7 編入学者および転入学者の履修等に関する規程

制定 昭和63年2月18日 教授会

改正 平成23年1月20日 教授会

第1条 本学学則第13条により編入学または転入学を許可された者の履修等については、許可された入学年次に適用される学則および履修規程によるほか、本規程によるものとする。

第2条 編入学者および転入学者の既修得単位の認定は、次のとおりとする。

- (1) 単位認定に当たっては、出身学校の成績証明書および講義要目その他の資料を参考にし、当該学科等と協議の上既修得単位として認定する。
- (2) 総合教養科目に関しては、大学を卒業した者に対しては、必修単位の全てを含め、当該学科の卒業要件を上限とする単位数を、また、短期大学または高等専門学校を卒業した者に対しては、必修2単位を含め当該学科の卒業要件の2分の1を上限とする単位数を既修得単位として認定することができる。

第3条 編入学者および転入学者の進級については、編入年次または転入年次に進級するための要件は充足しているものとし、編入年次または転入年次後に修得した単位数を既修得単位として認定した単位数に加算した単位数をもって進級を判定することを原則とする。

第4条 外国人編入学者の既修得単位の認定ならびに進級については、原則として大学卒業者または短大・高専卒業者に準じて取り扱うものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

7.8 八戸工業大学 GPA 取り扱い要項

制定 平成23年 1 月 6 日（教務委員会）

改正 平成26年 2 月25日（教務委員会）

（目的）

第1条 この要項は、八戸工業大学（以下「本学」という。）履修規程第9条および同大学院履修規程第7条（以下「履修規程」という。）に規定する GPA（Grade Point Average）の取り扱いについて必要な事項を定める。

（定義）

第2条 GPA とは、履修した科目の成績を GP（Grade Point）により点数化し、1 単位あたりの平均値を求めたものをいう。

2 GPA 算出の対象とする科目は、次の各号を除く科目とする。

一 教職関連科目等で、卒業または修了要件に算入しない科目

二 編入学・転入学等により入学した学生の既修得科目について単位認定した科目

三 卒業または修了要件に算入される科目のうち別表1に定める科目

（GP）

第3条 履修規程第5条に規定する成績評価と GP との対応は次のとおりとする。

評価（Grade）	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

（GPA の種類および計算方法）

第4条 GPA は、当該期間に履修した第2条2項に定める GPA 対象科目について、「学期 GPA」、「年度 GPA」、「累積 GPA」に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点第3位以下を切り捨てて表記する。

GPAの計算式

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{当該学期における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該学期における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{年度GPA} = \frac{\text{当該年度における（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{当該年度における評価を受けた科目の単位数の計}}$$

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{入学以降に（修得した科目の単位数} \times \text{GP）の計}}{\text{入学以降に評価を受けた科目の単位数の計}}$$

(GPA 計算期日)

第5条 GPA の計算は、学期ごとに所定の期日までに確定した成績に基づいて行う。

- 2 GPA 計算の期日は、原則として前期 9 月25日、後期 3 月25日とする。ただし、必要に応じて期日前に GPA を仮算出する場合がある。

(GPA の通知)

第6条 前条で計算した GPA は学業成績通知書に記載し、その計算方法、意義および推奨値とともに学生と保護者に通知する。

(成績証明書への記載)

第7条 成績証明書には GPA の記載は行わない。

- 2 前項にかかわらず、申請者から GPA を記載した成績証明書の発行請求があった場合には「累積 GPA」を成績証明書に記載する。なお、この場合においては GPA 算出の根拠となる不合格科目も併せて記載する。

(GPA の利用)

第8条 GPA は次の各号に示す事項の指標・基準等に使用することがある。

- 一 クラス分け、研究室配属など授業運営に係る指標
- 二 学業成績優秀者への顕彰などの選考基準
- 三 特待生・奨学生などの選考基準
- 四 履修指導・学修指導の指標
- 五 進級・卒業に係わる指標
- 六 就職試験等の推薦者選考基準
- 七 各種統計・調査
- 八 その他、本学の教育研究および活動に必要な事項

(その他)

第9条 この要項に定めのない、GPA 制度運用に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第10条 この要項の改廃については、教務委員会および学務委員会が行う。

附 則 この要項は、平成23年度入学生から適用する。

別表1 卒業または修了要件に算入される科目のうち、GPA 算出の対象としない科目

平成23年度入学生～	八戸学院大学（旧八戸大学）との単位互換科目
------------	-----------------------

7.9 八戸工業大学図書館利用規程

制定 平成7年2月28日（図書委員会）

改正 平成31年1月21日（情報メディア委員会）

（趣旨）

第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、八戸工業大学図書館（以下「図書館」という。）の利用について、必要な事項を定める。

（資料）

第2条 図書館の管理する資料（以下「図書類」という。）を次のとおりとする。

- (1) 図書
- (2) 逐次刊行物
- (3) 地図
- (4) 視聴覚資料
- (5) その他の資料

（利用者）

第3条 図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学教職員、名誉学長、名誉教授、非常勤講師および研究員（以下「第1種利用者」という。）
- (2) 本学学部学生、大学院学生、研究生、および科目等履修生（以下「第2種利用者」という。）
- (3) その他一般利用者（以下第3種利用者」という。）

（休館日）

第4条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日、国民の祝日
 - (2) 春季、夏季、冬季の各休業日の土曜日
 - (3) 12月28日から1月4日まで
- 2 前項によらず、図書館長（以下「館長」という。）が必要と認めたときは、臨時に休館、開館することがある。

（開館時間）

第5条 開館時間は、次のとおりとする。

月曜日から金曜日は、午前8時40分から午後8時30分まで
ただし、春季、夏季、冬季の各休業日の一部期間の開館時間は午後5時まで
開館日の土曜日は、午前10時から午後5時まで

- 2 前項に定めるほか、館長が必要と認めたときは、臨時に開館時間を変更することがある。

（利用手続き）

第6条 資料の貸出を受けようとする場合は、八戸工業大学図書館利用券（以下「利用券」という。）を必要とする。

- 2 館長は希望者の求めに応じて利用券を交付する。
- 3 第1種、第2種利用者については、学生証、身分証明書またはこれに代わるものをもって利用券とすることができる。
- 4 第3種利用者は、所定の様式に必要事項を記入の上、身分証明書またはこれに代わるものを提示して、交付申請を行う。
- 5 利用券の交付を受けた者は、利用券を他人に譲渡または転貸してはならない。また、それによって生じた事故の責めは、本人が負わなければならない。
- 6 利用券を紛失した者は、速やかにその旨を館長に届け出なければならない。
- 7 前項の届出のあった者に対しては、願い出により、利用券の再発行を行うことができる。
- 8 利用資格を失った者は、速やかに利用券を返却しなければならない。

（身分証明書等の提示）

第7条 図書館・情報事務室の職員（以下「職員」という。）などから利用券の提示を求められた場合は、これに応じなければならない。

（遵守事項）

第8条 図書館内においては次の事項を守らなければならない。

- (1) 静粛を保つこと
- (2) 喫煙、飲食および談話などをしないこと。ただし、指定された場所での飲料物の摂取は可とする

- (3) 図書類、備品および施設を丁重に扱うこと
- (4) 他人の迷惑となる行為をしないこと

(閲覧)

第9条 館内の図書類は、閉架図書類を除き自由閲覧とする。ただし、閲覧が終了したときは、所定の位置に返却するものとする。

(閉架図書の館内閲覧)

第10条 利用者は、あらかじめ所定の手続きを行って閉架図書、および視聴覚資料の館内閲覧ができる。ただし、一度に閲覧できるのは各々3冊(本)以内とし、閲覧した図書は閉館時までに所定の位置へ、視聴覚資料は閲覧カウンターへ返却しなければならない。

(館外貸出)

第11条 貸出できる図書、視聴覚資料の冊数および期間は次のとおりとする。

1. 図書

- (1) 第1種利用者は20冊まで、30日以内
- (2) 第2種利用者のうち、大学院学生および研究生は10冊まで、30日以内。学部4学年生は5冊まで、30日以内。それ以外の学部学生は5冊まで、14日以内。また、休業期間にわたる貸出は、休業期間終了まで延長できる
- (3) 第3種利用者は3冊まで、7日以内

2. 視聴覚資料

- (1) 貸出対象者は、本学教職員、研究員、本学学部学生、大学院学生、研究生とこれに準ずる者とする
- (2) 貸出本数は3本まで、7日以内

(貸出期間の更新)

第12条 第11条で規定する貸出期間を超えて引き続き貸出を希望する者は、所定の手続きにより1回に限り、貸出期間を更新することができる。

(貸出予約)

第13条 貸出希望図書、視聴覚資料が貸出中のときは、予約することができる。

(転貸の禁止)

第14条 館外貸出図書、視聴覚資料は、一切他に転貸してはならない。

(特別帯出許可の必要な図書類)

第15条 次の図書類を帯出するときは、館長の許可を得なければならない。

- (1) 貴重図書
- (2) 参考図書(事典、辞典、便覧および地図等)
- (3) 視聴覚資料
- (4) 新聞
- (5) 逐次刊行物
- (6) その他、館長の定めたもの

(貸出図書の返却)

第16条 貸出図書、視聴覚資料は、期間が終了したときは、直ちに返却しなければならない。

- 2 前項に定めるほか、教職員は、留学、休職、退職等の際、学生にあっては、卒業、修了、休学、退学、転学等の際に、それぞれ直ちに返却しなければならない。

第17条 館長は必要に応じ、貸出期間中であっても臨時に返却させることができる。

(貸出の停止)

第18条 貸出図書、視聴覚資料を特別な理由がなく貸出期間内に返却しなかった者については、返却するまで貸出を停止する。

(紛失・破損・汚損)

第19条 図書類を紛失、または著しく破損、汚損した者は、直ちに届け出なければならない。また、館長は、同一の図書または相当の代金をもって弁償させることがある。

(複写)

第20条 本館所蔵の図書類を複写しようとするときは、著作権法に従い、複写することができる。

- 2 前項に違反した場合は、利用者が一切の責任を負うものとする。

(相互協力)

第21条 第1種、第2種利用者が教育、研究または学習のために必要とするときは、所定の手続きによ

- り、他の機関の利用または資料の複写、借り受け等の斡旋を図書館に依頼することができる。
- 2 館長は、他の機関から、図書館の利用、または資料の複写ならびに借り受け等の申込があった場合、支障のない範囲で、これに応ずることができる。
- 3 前2項にて発生した経費については、依頼者が負担するものとする。
- (分置)
- 第22条 研究図書類（第1種利用者が本学研究費で購入した図書類）は、所定の手続きにより、学内に分置することができる。
- 第23条 研究図書類以外の図書類は、館長が必要と認めるものに限り、相応の場所に分置することができる。
- 第24条 分置された図書類には保管責任者を置き、図書類の管理について一切の責任を負うものとする。
- 第25条 職員は分置された図書類の点検を行うことができる。
- 第26条 退職などにより分置を変更する場合は、図書館に届け出なければならない。
- (多目的ホールの利用)
- 第27条 多目的ホールの利用については別に定める。
- (罰則)
- 第28条 本規程に違反する者に対しては、館長は利用の制限、退館、または一定期間入館を禁止することができる。
- (その他)
- 第29条 この規程に定めるもののほか、図書館の利用について必要な事項については、館長がこれを定める。
- (改廃)
- 第30条 この規程の改廃は、情報メディア委員会の議を経て行うものとする。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

7.10 八戸工業大学情報ネットワーク施設利用規程

制定 平成15年3月13日（教授会）

改正 平成28年10月20日（教授会）

- (目的)
- 第1条 この規程は、八戸工業大学図書館規程第7条に基づき、情報ネットワーク施設の利用について定める。
- (定義)
- 第2条 情報ネットワーク施設とは、本学LAN、本学の計算機施設および本学LANを経由して接続する学外のネットワークをいう。
- (利用資格)
- 第3条 情報ネットワーク施設を利用できるものは、次のとおりとする。
- (1) 本学の教職員および学生
 - (2) 情報メディア委員長が認めた者
- (利用手続き)
- 第4条 情報ネットワーク施設への接続を希望する者は、ネットワーク接続申請書を図書館・情報事務室に提出し、インターネットアドレス（IPアドレス）を取得するものとする。
- 2 情報ネットワーク施設を利用する場合は、所定の手続きを行うものとする。
- (利用の制限)
- 第5条 情報ネットワーク施設の利用者は、本規程および学術情報ネットワーク等の学外のネットワークの運用上の規程を遵守しなければならない。
- 2 ネットワークを利用する情報に関しては、営利行為や公序良俗に反する行為および著しく情報倫理を欠いた場合は、利用の制限を行うことがある。
 - 3 ネットワークを利用する情報の内容に関しては、発信者が責任を負うものとする。
- (雑則)
- 第6条 本規程に定めるもののほか、情報ネットワーク施設に関する必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第7条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

7.11 学生の諸活動に関する規程

制定 昭和47年4月1日

学生の諸活動に関する規程を次のとおり定める。

第1章 総 則

第1条 学生の諸活動は、正課の学習以外において各人の才能と趣味に応じた自主的活動により、人格の陶冶、情操豊かな人間性の涵養、自律心の鍛錬等専ら社会人として必要な基本を錬成することにある。

第2条 学生は個人・団体を問わず、学内外の秩序を乱しまたは良識に反する行為をすることなく、正しく健全な諸活動を行うよう努めなければならない。

2 前項に違反する行為が行われ、または行われようとしている場合は、学生は本学および学生の名譽を守るため、その行為を制止する等最善の措置を講じなければならない。

第2章 団体の結成

第3条 本学学生を会員とする団体（研究会、愛好会等を含む。以下同じ）を結成しようとするときは、責任者は遅滞なく本学所定の団体結成願に、団体の名称、結成年月日、目的、顧問（教職員）、役員および会員の氏名を記入して、責任代表者が3名以上署名押印し、明文の規約（会則）を添えて、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 前項の団体規約（会則）またはその他届出事項を変更するときも前項に準ずる。

3 学生団体は毎年年度始め4月20日までに団体構成役員名簿および構成員名簿を添え、本学所定の団体継続届を前項に準じて学務部長を経て学長に届け出なければならない。届け出ない団体は、解散したものとみなす。

4 前項の団体の構成員は本学の学生または本学関係者でなければならない。

第4条 学生団体が学外団体に加盟しようとするときは、本学所定の学外団体加盟願に学外団体の規約を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 学生が団体的に学外団体に加盟しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。

3 学生団体が学外団体の行事・集会等に参加しようとするときは、本学所定の学外団体参加願に参加者名簿を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

4 学生が団体的に学外団体の行事・集会等に参加しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。

第5条 前条の学外団体への加盟または参加が本学の目的にそわないと認めた場合は、学長は許可を取り消すことがある。

第6条 学生団体の予算および決算に関する一切の収支は、会計年度ごとに学務部長を経て学長に報告しなければならない。

第7条 第3条により許可された学生団体において、その行為が国法や本学の規則等に違反したり、その他本学の機能を害しまたは秩序を乱しまたはそのおそれがあると認められるときは、その活動を禁止し、またはその団体の解散を命ずることがある。

第3章 集 会

第8条 学生または団体が学内外において、集会、対外試合、合宿練習、遊説、集団行進、示威運動、署名運動、世論調査、投票、宣伝等を行おうとするときは、責任者はその期日3日前までに本学所定のそれぞれの許可願に必要事項を記入して責任代表者が3名以上署名押印し、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。

2 前項の集会において、本学施設、設備等（建物、体育施設、通路、広場等）を使用するときは、同時にその借用を所管の部局長に願い出て許可を受けなければならない。

ただし、学生団体が事業のため平常借用している場所で、借用の目的の範囲内で集会しようとするときは、この限りではない。

- 第9条 同窓会、学会、講演会等で特定の人を対象とする場合、または映画会、音楽会、演劇等で単に映写、演出のみを行う場合を除き、学外者の参加を許さない。
ただし、特別な場合で学長が必要と認めるときは審議の結果許可することがある。
- 第10条 学生または団体が学外者を対象として金銭の収支を伴う行為をするときは、学務部長を経て学長の許可を受けなければならない。
- 第11条 集会が本学の本来の目的にそわないと認めた場合、また学内の秩序を乱すおそれがあると認められるときは、禁止または解散を命ずることがある。

第4章 掲 示

- 第12条 学生または団体が学内外に掲示しようとするときは、責任者は本学所定の掲示許可願に掲示物を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。許可された掲示物には大学の認印を押す。
- 2 掲示物には必ず団体名、責任者を明記しなければならない。
 - 3 掲示用紙は、日本規格B3判（新聞1ページ大）以内を原則とする。
 - 4 掲示期間は、最長1週間とする。
 - 5 学内における掲示は本学が指定した学生掲示板において行わなければならない。
- 第13条 講演会、集会等の通知のため学内に立て看板による掲示をしようとするときは、前条に準じて許可を受けなければならない。ただし、立て看板は、管理部局備え付けのものに限り、かつ掲示期間は3日以内とする。
- 第14条 掲示の内容が政治的目的を有するもの、虚偽の記述または名誉の毀損にわたるもの、もしくは学内の秩序を乱すものは許可しない。
- 第15条 団体または団体が前3条に反して掲示を行ったときは、その責任者または団体が共同して責を負うものとする。
- 第16条 掲示期間を経過したものは、責任者においてただちに撤去しなければならない。
- 第17条 第12条、第13条、第14条および第16条に違反する掲示物は、管理者においてただちに撤去させ、または撤去する。

第5章 印刷物の発行・配布・回覧等

- 第18条 学内外を問わず、印刷物（雑誌、小冊子、新聞、ビラ、その他これに類する一切のもの）を発行し、または配布、回覧しようとするときは、事前に本学所定の印刷物発行・配布・回覧願にその印刷物の原稿またはこれに替わるものを添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 2 その他物品等を配布しようとするときは、その物品等を添え前項に準じて許可を受けなければならない。
- 第19条 学生または団体が寄付を募集しようとするときも、前項に準じて許可を受けなければならない。
- 第20条 前2条の行為が、本学の本来の目的にそわないと認めた場合は、学長は許可を取り消すことがある。

第6章 放 送

- 第21条 学内において放送しようとするときは、本学所定の放送願に放送要旨を添え、学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 第22条 放送は特別の場合を除き授業時間中に行うことができない。
- 2 授業時間外に行う場合であっても、学内における他の業務の支障を来さないように充分注意を払わなければならない。
 - 3 前条および前2項に反する行為があった場合はただちに中止させるものとする。

第7章 政治活動・布教活動の禁止

- 第23条 学生または学生団体は、学内において政治活動および布教活動を行ってはならない。

第8章 暴力行為等の禁止

- 第24条 学生または学生団体は、次の各号の行為をしてはならない。
- (1) 学内に火薬、爆薬、劇薬、その他類似の危険物を持ち込み、所持、携行する行為

- (2) 学内において、棍棒、石塊等暴力行使を意図する一切の物件を所持し携行する行為
- (3) 暴行し、またはこれによって人に傷害を与えるような行為
- (4) 暴力を用いて他の学生の就学を妨害する行為
- (5) 団体もしくは多数が共同して暴行、脅迫にわたる行為
- (6) 暴力を用いての学内の施設、設備、備品などを破壊する行為
- (7) 暴力行使の協議、または各種危険物、その他暴力行使に用いる物件の集積等一切の準備行為
- (8) その他暴力による一切の不法行為

第9章 その他

第25条 学生または学生団体は学内において次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 学生は氏名を偽り、または覆面等の行為をしてその身分をかくさないこと
- (2) みだりに放歌、高吟その他喧騒にわたる行為を慎むこと
- (3) 学生または学生団体相互間は礼儀正しく、いやしくも暴力・傷害・物品毀棄等の行為をしないこと
- (4) 許可なく大学の備品等を持ち出さないこと
- (5) 許可なく学内に宿泊しないこと
- (6) 指定された場所以外で火気を使用しないこと
- (7) 許可なく学外者を学内に入れないこと

第26条 本規程によりがたい特別の諸活動をしようとするときは、学務部長を経て学長に願い出て指導および許可を受けなければならない。

第27条 本規程に反する行為をした者（同未遂行為を含む）または規程に反した行為に対する教職員の制止に応じない者は学則第57条を適用する。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.12 学友会館使用規程

制定 平成12年2月5日（学生委員会）

改正 平成30年2月8日（学生委員会）

学友会館（以下「会館」という。）は、学生の課外活動を盛んにし、その運営を円滑にするための施設である。会館は、学友会室、体育会室、文化会室、部室および会議室からなっており、その使用にあたっては、それぞれの会に所属する団体（以下「団体」という。）が課外活動の場として常に秩序と規律を保つとともに共同の責任において特に整備、保全および火災予防に努めなければならない。

会館の使用については、この規程に従わなければならない。

なお、会館以外を部室として使用する団体にあっても、部室の使用にあたっては、この規程を適用する。

第1条 会館の使用時間は、平日の午前8時30分から午後8時までとする。

2 時間外に会館を使用する場合は、学生残留・出校届を学生課に提出し許可を受けなければならない。この場合における終了時刻は午後9時30分とする。提出は、午後4時50分までとする。

3 前項の規定にかかわらず、学園祭等の行事があるときは、特別に取り扱うことがある。

第2条 部室は、部活動を行う目的で大学から許可された団体に対し、指導育成上必要とみとめられた場合に限り、その使用を許可するものとする。

第3条 部室の使用は、部本来の活動のためにのみ限るものとする。

第4条 部室の使用を希望する団体は、所定の部室借用願を学生課に提出しなければならない。

第5条 部室の使用許可期間はその年度限りとし、継続使用を希望する場合は、前条に準じて部室借用願を毎年3月31日までに学生課に提出しなければならない。

第6条 期日までに部室借用願を提出しない団体は、部室不用とみなす。

第7条 部の解散その他により部室の使用目的が消滅したときは、速やかに学生課に届け出て部室を

- 現状に復し空け渡さなければならない。
- 2 解散によるときは、大学等からの補助により購入した備品を返却しなければならない。
- 第8条 会議室の使用は、会議室Aにあっては学友会、会議室Bにあっては学生課の許可を受けなければならない。
- 第9条 その他会館の使用にあたっては大学の指示に従うこと。
- 第10条 会館の使用を許可された団体は、次の各号を遵守しなければならない。
- (1) 会館内の清掃は各団体が協力して行い、常に清潔を保つとともに整理・整頓に努めること
 - (2) 火災の防止に万全を期すること
 - (3) 会館内での暖房器具および火気は許可を受けた団体以外は使用しないこと
 - (4) 会館内において飲酒しないこと
 - (5) 会館内に学外団体の支部または事務所を設けないこと
 - (6) 会館内への泊り込みは認めない
 - (7) 部室の使用にあたっては、部員以外の部室使用は認めない
 - (8) 各部は部責任者を定めて学生課に届け出ること
 - (9) 各部室入口に部および部責任者を表示すること
 - (10) 他の団体の迷惑にならぬよう騒音等には十分気をつけること
 - (11) 室内の施設、設備等を無断で移動、改廃、新設しないこと
 - (12) 室内への掲示その他これに類するものは、部に直接関係のあるもののみとし、みだりに行わないこと
 - (13) 一室を部室として共用する場合は、お互いに協力して使用すること
 - (14) シャワーの使用にあたっては、注意事項を確認し節水にも努めること
- 第11条 会館を使用するときは、そのつど受付から鍵を借用し、使用後はただちに受付に返却すること。
- 第12条 大学の管理上の必要から行う係員の室内立入りまたは指示を拒否してはならない。
- 第13条 会館内の施設、設備等を汚損したり滅失または破損したときは、学生課に文書をもって届け出て、その損害を弁償しなければならない。
- 第14条 事故、盗難等の防止には各自が心掛け、事故等があったときは速やかに学生課に届け出ること。
- 第15条 この規程に違反した場合は、その部室の使用許可を取り消すことがある。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成30年4月1日より施行する。

7.13 施設・設備・備品等管理規程

制定 昭和47年4月1日

施設・設備・備品等の使用に関する規程を次のとおり定める。

- 第1条 学生は本学の施設・設備・備品等を使用するときは、常に良好な状態を維持するように留意し、かつ本来の用法に従って使用しなければならない。
- 第2条 学生が故意または過失によって施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、その損害を弁償しなければならない。
- 2 数人（学生団体を含む）が共同して施設・設備・備品等を破損、汚損または滅失し、本学に損害を与えたときは、連帯してその損害を弁償しなければならない。
- なお共同行為を行った者の一部より判明しない場合は、その判明者が全損害の弁償義務を負うものとする。
- 第3条 授業外において本学の施設・設備・備品等を使用しようとするときは、本学所定の施設・設備・備品等使用願を学務部長を経て学長に願い出て許可を受けなければならない。
- 第4条 施設・設備・備品等の使用後は原形に復し、または元の設置場所に返還しなければならない。
- 第5条 本規程に反する行為をした者は学則第57条を適用する。
- 第6条 この規程に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成3年4月4日より施行する。

附 則 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.14 残留・出校者心得

学生残留・出校届の提出は、防火・防犯その他の事故防止、緊急時の連絡等を目的とする。

学生は、正規の授業終了時刻以降学内に残留するとき、又は休業日（土曜日、日曜日、祝日、夏季休業期間等）に出校するときは、次の事項を遵守し、別に定める場合を除いて学生残留・出校届を提出しなければならない。課外活動団体は学務部学生課へ、その他の団体・個人は事務部学事課に提出すること。

- 1 授業のある日で19時以降学内に残留するときは、当日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。休業日に出校するときは、前日の16時50分までに学生残留・出校届を提出すること。提出はいずれの場合も、平日とすること。但し、学友会館に限り20時までの使用は学生残留・出校届の提出は必要ない。
- 2 残留・出校は22時までとするが、これ以降は担当教職員の同時残留を原則とする。
- 3 残留・出校者の人数に変更なく、残留および出校日数が10日以内で継続する場合の学生残留・出校届は、日付順に一枚にまとめて提出すること。なお、10日目以降については、改めて提出すること。
- 4 2名以上の残留・出校の場合は、代表者および全員の氏名等を明記すること。
- 5 学生の残留・出校は、担当教職員の承認を必要とする。
- 6 借用した鍵の管理、戸締り・貴重品等の管理に注意すること。
- 7 受付にて使用施設の鍵の貸出しを受け、連続して残留するときは、受付にある「鍵貸出簿」に日毎更新手続きをすること。
- 8 学外者の立入りは、特に許可を得た場合を除いてこれを認めない。
- 9 飲酒は禁止する。
- 10 本学設置電話による私用の通話は禁止する。
- 11 暖房用電気・ガスストーブの使用は禁止する。
- 12 車両通学に関する規程による駐車場以外の駐車は禁止する。
- 13 各出入口については、施錠後の解錠を禁止する。施錠後は本館受付前の出入口を利用すること。なお、22時以降翌朝6時15分までの外出は禁止する。
- 14 下校時は警備員（受付）にその旨を連絡して帰ること。ただし、22時以降翌朝6時15分の間に帰る場合（教職員と同時残留の場合）は、受付前に備付けの「帰宅時間記入簿」に必要な事項を記入して帰ること。
- 15 石油ストーブ、タバコ等の火気に注意し、事故のないように物品の管理、整頓と光熱水の節約を心掛けること。下校時は、火気のあと始末、鍵の確認をすること。
- 16 その他の事項については、学生要覧に記載の諸規程を準用する。

7.15 八戸工業大学車両通学に関する規程

制定 平成14年2月14日（学生委員会）

平成14年2月13日（学務委員会）

改正 平成18年12月4日（学生委員会）

平成18年12月7日（学務委員会）

（目的）

第1条 この規程は、本学の学部生、大学院生および研究生（以下「学生」という。）の車両通学に関し、必要な事項を定めることにより、交通事故の防止と学内交通道德の涵養を目的とする。

(定義)

第2条 前条の車両通学とは、四輪車、自動二輪車、原動機付自転車および自転車を用いて通学することをいう。

(車両通学許可)

第3条 車両による通学を希望する学生は、「車両通学許可願」を本学に提出し許可を受けなければならない。

(許可手続)

第4条 車両通学許可を願い出る場合は、次の各号に定める書類を提示又は提出しなければならない。

- 一 車両通学許可願
- 二 車検証(写し)
- 三 その他本学が必要とする書類
- 2 車両通学許可手続に際しては、手続に係る費用を手数料として徴収する。
- 3 車両通学許可に関する事務は、学生課が行う。

(許可)

第5条 本学は、願書と諸書類により審査し、適当と認められた場合に車両通学を許可する。

- 2 許可車両に対しては、ステッカーを交付する。
- 3 許可車両を変更した場合は、改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。
- 4 ステッカーは、他の者に譲渡又は貸与してはならない。

(許可制限)

第6条 第4条第1項による書類が不備な場合、又は駐車場に空きがない場合は、車両による通学を許可しないことがある。

(講習会)

第7条 車両通学を許可された学生および許可を受けようとする学生は、本学が指定する交通安全に関する講習会を受講しなければならない。

(許可期間)

第8条 車両通学許可は、許可した年度に限り有効とする。したがって、翌年度以降も車両通学を希望する場合は、毎年度初めに改めて車両通学許可の手続きを行わなければならない。

(駐車場の使用)

第9条 車両通学を許可された学生が学内に駐車する場合は、本学が所有する駐車場を使用しなければならない。

- 2 学内の駐車場に駐車する場合は、四輪車にあつては、リアウインドー助手席側の表から、(四輪車以外の車両にあつては、)ステッカーを(後輪カバーの)確認し易い位置に貼付しなければならない。
- 3 駐車場は、本学の都合により臨時にその使用を制限する場合がある。

(遵守事項)

第10条 車両通学生は、常に法令による安全上の諸規則および学内交通道德を守り安全運転に心がけ、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- 一 学内・学外を問わず走行中は道路標識に従って走行し、特に、大学構内においては常に徐行に徹すること
- 二 積雪時においては、冬用タイヤ又はチェーンを装着すること
- 三 大学構内において学生車両の立ち入りが禁止されている場所には、絶対に車両を乗り入れないこと
- 四 車両は指定された駐車・駐輪場に止め、通路には絶対に止めないこと
- 五 走行時、駐車時地域住民に迷惑を掛けないこと
- 六 路上走行中および駐車・駐輪場において、みだりに警笛を鳴らしたり、空ふかしや急ブレーキおよびタイヤ摩擦音等の騒音を発する運転はしないこと
- 七 自動二輪車、原動機付自転車による通学生は、ヘルメットを着用し、昼夜を問わず前照灯を点灯するとともに、身体の露出が少なくなるような服装をし、下駄やサンダルによ

る運転をしてはならない

(責任)

第11条 交通事故に関しては、学内・学外を問わず本学は一切の責任を負わない。又車両の破損、盗難等についても同様とする。

(駐車料金)

第12条 駐車場を使用する場合、本学は駐車場の維持管理費の一部として、駐車料金を徴収することがある。

(罰則)

第13条 本規程および交通法令に違反した場合は、学部学生にあっては八戸工業大学学則、大学院学生にあっては八戸工業大学大学院学則に基づき懲戒処分するとともに、車両通学許可を取り消すことがある。

附 則

1. この規程は、平成14年4月1日より施行する。
2. この規程施行の日から、従前の「駐車場使用規程」、「車両通学生心得」、「八戸工業大学大学院駐車場使用規程」および「八戸工業大学大学院車両通学生心得」は廃止する。

附 則 この規程は、平成18年4月1日より施行する。

7.16 八戸工業大学学部各種証明書等交付に関する規程

第1条 本学学生で交付を受けることができる諸証明書等および手数料は、別表のとおりとする。

第2条 学生の願い出により別表に掲げる以外の証明書等を交付することができる。この場合の手数料はそのつど定める。

附則の一部を省略している。

附 則 この規程は、平成13年4月1日より施行する。

別 表

証 明 書	手 数 料
在学証明書	200円
在学証明書 (英文)	1,000円
卒業証明書	200円
卒業証明書 (英文)	1,000円
卒業見込証明書	200円
卒業見込証明書 (英文)	1,000円
成績証明書	200円
成績証明書 (英文)	1,000円
単位取得証明書	200円
教員免許状取得見込証明書	200円
大学院調査書	200円
科目等履修生・研究生在学証明書	200円
健康診断証明書	200円
学生証 (再交付)	1,500円
学生旅客運賃割引証	無 料
通学証明書	無 料
就職模試受験票	1,000円
公務員模試受験票	3,000円

7.17 学友会会則

制定 昭和47年4月1日

第1章 総 則

- 第1条 本会は、八戸工業大学学友会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会の本部は、八戸市大字妙字大開88番地1 八戸工業大学内におく。
- 第3条 本会は、会員の自主的精神に基づき、課外活動を通じて会員相互の親睦と人間性の陶冶を図るとともに、健全な学風の培養と高揚に努め以て学園の発展を図ることを目的とする。
- 第4条 本会は、八戸工業大学の学生（以下「正会員」という。）並びに教職員（以下「特別会員」という。）をもって組織する。
- 第5条 本会は、第3条の目的を達成するための次の事業を行う。
- (1) 会員の文化活動に関すること
 - (2) 会員の体育活動に関すること
 - (3) 会員の親睦をはかること
 - (4) その他必要と認めること

第2章 役員および正会員

- 第6条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会 長 1 名
 - (2) 副 会 長 1 名
 - (3) 顧 問 若干名
 - (4) 委 員 長 1 名
 - (5) 副委員長 2 名
 - (6) 委 員 (書記係、会計係、各2名を含む)
正 会 員 工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名、各部1名
特別会員 工学部並びに感性デザイン学部の各学科1名、事務局2名
 - (7) 会計監査委員 正会員4名、特別会員1名
 - (8) 選挙管理委員 工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名
- 第7条 会長は、本学の学長がこれにあたる。
- 2 会長は、本学を代表し、且つ本会を総理する。
- 第8条 会長の職務権限は次のとおりである。
- (1) 総会を招集する
 - (2) 第10条、第11条、第12条の告示を承認する
 - (3) 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員を承認する
 - (4) 委員会および選挙管理委員会の招集を承認する
 - (5) 部の降格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して委員会を諮問することができる
 - (6) 部および愛好会等の顧問を委嘱する
 - (7) 本会副会長および本会の顧問を委嘱する
 - (8) その他、会長が必要と認める事項を措置し、又は措置を命ずる
 - (9) 会則の改正を承認する
 - (10) 総会における決議事項を承認する
- 第9条 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその任務を代行する。
- 2 顧問は会長に意見を具申する等、会長の相談役を勤める。
- 第10条 委員は正会員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名（以下「学生委員」という）を投票により選出すると共に各部から責任者1名（以下「部委員」という）を出す。又特別委員にあっては、工学部並びに感性デザイン学部の各学科1名、事務局2名をそれぞれ選出する。
- 2 委員は、委員長、副委員長と共に委員会を構成し、本会事業運営に参画する。
- 第11条 委員長および副委員長は正会員の投票によって選出される。

- 2 委員長は委員会の議事の進行および審議事項の決議を掌る他、報告連絡、答申等の責任を負う。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長事故あるときはこれを代行する。
- 第12条 会計監査委員は、正会員の投票により正会員の中から4名選出し、特別会員にあっては、1名互選する。
- 2 会計監査委員は、会計監査委員を構成し、会計監査を行う。
- 第13条 第10条、第11条、第12条の選挙については別に定める。
- 第14条 書記係並びに会計係は委員相互の互選により各2名を選出する。
- 2 書記係は総会および委員会において書記の任にあたる。
- 3 会計係は本会の会計事務を行う。
- 第15条 選挙管理委員は、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名を選出し、選挙管理委員会を構成して、選挙に関する事務を行う。
- 第16条 委員長、副委員長、委員（書記係、会計係を含む）会計監査委員および選挙管理委員の任期は4月1日から翌年3月31日までの1ヵ年とする。ただし、再選は妨げない。
- 2 委員長、副委員長、委員、会計監査委員および選挙管理委員に欠員が生じた場合は直ちに選出する。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 新年度1年生の学生委員、選挙管理委員は、会長が指名する。

第3章 機 関

- 第17条 本会に次の機関をおく。
 - (1) 総 会
 - (2) 委 員 会
 - (3) 会計監査委員会
 - (4) 選挙管理委員会
- 第18条 総会は正会員をもって構成し、毎年1回開催する。
- 第19条 総会は本会の最高決議機関であり、次の事項を決議する。
 - (1) 本会の運営方針
 - (2) 本会の予算および決算
 - (3) 会則の改正
 - (4) その他の重要事項
- 第20条 総会は委員会の決定に基づき、あるいは会員の3分の1以上の要請があったとき、会長がこれを招集する。
 - 2 総会の招集および議題は、少なくとも7日前まで公示することを原則とする。
 - 3 総会は正会員の30分の1以上の出席を以て成立し、議事は出席者の過半数を以て決定する。但し、可否同数の場合は議長の決するところによる。
 - 4 総会には、委任状の提出は認めない。
- 第21条 総会における議長および副議長は出席者の中から選出する。
- 第22条 委員会は委員長、副委員長および委員によって構成する。
- 第23条 委員会は、本会運営に必要な次の事項を処理する。
 - (1) 本会の運営方針案の審議作成と総会への提案
 - (2) 予算の編成と予算案の総会への提案
 - (3) 決算報告書の会計監査委員会への提出と総会への決算報告
 - (4) 部の昇格および廃止、或いは愛好会等の昇格に関して会長への答申
 - (5) 委員会および総会の決議事項並びに会長の決定事項の執行あるいはこれに基づく会務の処理
 - (6) 本学大学祭（体育祭、文化祭）の執行と管理
 - (7) その他、本会運営に必要な事項の処理
- 第24条 委員会は委員長が会長の承認を得て招集する。
 - 2 委員会は全委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決定する。
- 第25条 委員会の議長には委員長があたる。
- 第26条 会計監査委員会は、会計監査委員で構成し、本会の会計監査委員機関である。

- 第27条 会計監査委員会は、第17条の各機関および各部の会計監査を行い、これを定期総会に報告する。
- 第28条 選挙を公明且つ円滑に行うため本会に選挙管理委員会をおく。
- 2 選挙管理委員会は選挙管理委員より構成され、委員長、副委員長、学生委員、学生の会計監査委員の選挙に関する事務を行う。
- 第29条 選挙管理委員会に、委員の互選による正副委員長を各1名をおく。

第4章 会 計

- 第30条 本会の会計は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。
- 第31条 本会の収支保管の事務は、会長の委嘱を受けた本学の事務職員がこれにあたる。
- 第32条 本会の会員は一定の会費を定められた期日までに納入しなければならない。既納の会費は返却しない。
- 2 会員の会費は別に定める。
- 第33条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 体育会・文化会

- 第34条 学友会委員会の下部機構として体育会、文化会を置く。
- 第35条 体育会、文化会にはそれぞれ委員会をもうける。
- 第36条 体育会、文化会の委員会は、それぞれの役員および各部の代表をもってあてる。
- 第37条 体育会、文化会の役員選出はそれぞれの委員会で行う。
- 第38条 体育会、文化会の委員会は、それぞれ内規を定めることができる。

第6章 部

- 第39条 第5条の事業を行い第3条の目的を達成するために部を設置することができる。
- 第40条 各部にはそれぞれ部顧問をおくものとする。各部顧問は特別会員の中から部員の依頼により会長がこれを委嘱する。
- 第41条 部はその部顧問の指導助言の下に一致協力して本会の目的達成に努めるものとする。
- 第42条 部の設立は、愛好会等の結成後6ヵ月を経ることを要し、その部員数および活動状況等を記し、設立責任者3名の連署をもって委員会に願い出、会長の承認を受けるものとする。
- 2 部には正副責任者各1名、会計責任者1名をおき、会計監査委員会の監査を受けなければならない。
- 3 部は毎年3月31日までにその年度の決算を委員会に提出し、会長の承認を受けなければならない。
- 第43条 愛好会等は予算請求ができない。
- 第44条 部への入退部は正会員の自由とする。
- 第45条 部の活動が第3条の目的に反すると認められたときは、会長がその活動を一時停止させ、その処理を決定することができる。又部員のいないときの廃止もこれに準ずる。この際、会長は委員会に諮問することができる。
- 第46条 部には必要と認められた場合に限り部室の使用を許可する。
- 2 部室使用に際しての規程は別に定める。
- 附 則 この会則は、昭和47年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、昭和60年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、平成8年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は、平成21年4月1日より施行する。

7.18 学友会の選挙に関する規程

会則第13条により、選挙に関する規程を次のとおり定める。

- 第1条 選挙管理委員会は、委員長、副委員長、学生委員および学生の会計監査委員の選挙を行わなければならない。
- 2 選挙の告示は選挙管理委員長が会長の承認を得て行うものとする。

- 3 選挙は告示後15日以内に行うものとする。
- 第2条 委員長1名、副委員長2名および学生の会計監査委員4名は、正会員の自由立候補あるいは推薦立候補者について正会員の投票により選出する。
- 2 各部で互選された部委員を除く学生委員は、工学部並びに感性デザイン学部の各学年各学科1名を前項に準じて選出する。
- 第3条 立候補者は告示後定められた期日までに氏名および責任者の氏名を選挙管理委員会に届け出なければならない。
- 第4条 次の各号に掲げる者は立候補することはできない。
- 1 学則第57条により懲戒を受けた者
- 2 休学中の者
- 第5条 選挙管理委員会は立候補者の意見を会員に周知させるため、投票の前日まで立会演説会を開催することができる。
- 第6条 投票は無記名とし、委員長については単記、副委員長、会計監査委員および学生委員については2名連記とする。
- 第7条 開票は投票終了後、各立候補者の責任者立会のもとに選挙管理委員会が行うものとする。
- 2 選挙は正会員の30分の1以上の投票によって成立する。
- 3 選挙管理委員長は開票結果を発表し、投票数の上位から定員数までの者に当選の通知をしなければならない。
- 4 対立立候補者がいないときは信任投票を行うものとし、正会員の30分の1以上の投票によって過半数の信任票を得た者を信任とする。
- 第8条 選挙管理委員会が不正を発見した場合は、当核選挙について立候補を取消し、または当選を無効とすることができる。
- 第9条 当選した者が、選挙の期日後において、第4条の事由が発生したときは、当選を失う。
- 2 前項の場合および欠員が生じた場合、選挙管理委員会は直ちに補欠選挙を行わなければならない。
- 第10条 選挙管理委員会は有権者の3分の1以上のリコールの署名があれば信任投票を行わなければならない。
- 第11条 選挙管理委員は立候補すること、責任者および推薦者となることはできない。
- 第12条 その他、選挙に必要な細則は、その都度選挙管理委員会で定めることができる。
- 附則の一部を省略している。
- 附 則 この規程は、平成8年5月1日より施行する。
- この規程は、平成21年4月1日より施行する。

7.19 学友会会費規程

学友会会則第32条2項により学友会費につき次のとおり定める。

- 第1条 学友会の会員は毎年次の会費を本学会計に納入しなければならない。
- (1) 正会員 8,000円
- (2) 特別会員 教員および課長以上 8,000円
- その他の職員 4,000円
- 第2条 正会員の会費は毎年1期学費納入期日までに学費とともに納入しなければならない。
- 附 則 この規程は、昭和47年4月1日より施行する。
- この規程は、昭和56年4月1日より施行する。

索引

- あ アルバイト…………… 194
- お オリエンテーション…………… 16
- か 課外活動…………… 195
 - ガイダンス…………… 12
 - 学修支援室…………… 193
 - 学生保険…………… 192
 - 学生心得…………… 256
 - 学生残留・出校届…………… 223、290
 - 学生証…………… 14
 - 学生相談室…………… 193
 - 学務部…………… 13
 - 学生要覧…………… 12
 - 学生旅客運賃割引証（学割）…………… 194
 - 学籍番号…………… 15
 - 学則…………… 226
 - 学費…………… 16、255
 - 学友会…………… 195
 - 学友会館使用規程…………… 288
- き 忌引届…………… 223
 - キャンパス案内図…………… 18
 - 休学…………… 16、222
 - 教育目標・教育課程…………… 43、170
 - 教科書…………… 17
 - 教材…………… 17
- け 掲示…………… 13
 - 欠席・欠席届…………… 38、223
 - 健康管理…………… 192
 - 下宿…………… 194
- こ 校舎…………… 17
 - 交通事故…………… 15
- さ 再試験…………… 38、260
 - 再履修…………… 37
- し G P A…………… 41、281
 - 資格…………… 200
 - 試験…………… 38、260
 - 施設・設備・備品等管理規程…………… 289
 - 車両通学…………… 15、193、290
- 就職…………… 200
- 出席…………… 38
- 奨学制度…………… 194
- 証明書…………… 224、292
- 進学…………… 200
- 進級…………… 39、260
- 授業時間…………… 37
- す スポーツ施設…………… 220
- せ 成績発表…………… 38
- そ 組織…………… 12
 - 卒業…………… 40
- た 退学…………… 16、222
 - 他学科履修講義科目…………… 37、260
 - 単位互換科目…………… 37、260
 - 単位・単位数…………… 36
 - 大学施設…………… 15、217
 - 多目的ホール…………… 218
 - 担任…………… 14
- ち 駐車場…………… 291
- つ 追試験…………… 38、260
 - 通学…………… 15、193、290
- て 手続き…………… 14、37、221
 - 転学…………… 222
 - 転学科…………… 222
 - 転入学…………… 280
 - 電話…………… 14
- と 特別欠席願…………… 223
 - 図書館…………… 218、283
 - 同窓会…………… 216
- に 入試部…………… 13
- ひ 標準修得単位数…………… 39
- ふ 復学…………… 222
- へ 変更届…………… 223
 - 編入学…………… 280
- め メディアセンター…………… 219
- ゆ 郵便…………… 14
- り 履修…………… 37、258

2019年度 学 生 要 覧

発 行 日 2019年 4 月 1 日

編集・発行 八戸工業大学 学務部

〒031-8501

青森県八戸市大字妙字大開88番地 1

T E L 0178 (25) 3111

インターネットホームページ

<http://www.hi-tech.ac.jp>



Hachinohe Institute of Technology

学 番	籍 号		氏 名	
--------	--------	--	-----	--